

別冊資料

(資料 1 ~ 資料 28)



Ⅲ. 研究の内容と実践

1. 4歳児

実践事例 1

『T男の姿をおって』

—日々の保育の記録から—

(1) 対象児

2年保育 4歳児 22名(男児10名、女児12名)

(2) T男の実態

① 家庭環境

T男の家族は父母、小学校4年生の兄、小学校2年生の姉、3歳の妹、祖母、曾祖母、叔父の10名という大家族である。祖父母は酪農を営んでおり、園から徒歩10分程の距離にある広い敷地内に住んでいる。その敷地内には、牛やにわとりや犬、猫等多くの動物がいる。またプラタナスの木やツツジ、ライラック、薔薇の花が咲き、自然に恵まれた環境の中で暮らしている。

T男は生き物がとても好きで、園から帰ると祖父と一緒に、にわとりに餌をくれたり、牛の餌を子ども用の一輪車で運んだりの生活である。父親は消防署に勤めており日中休みのこともあり、送り迎えを行ったりT男と一緒に遊んだりする時間が多くとれる。また母親はとても教育熱心であり、入園前には年子の妹と一緒に、近所の公園へ毎日のように出掛けて行って、固定遊具や砂場で遊ばせ友達に慣れるようにしていた。公園で遊んでいる子どもは年下の子が多かったが、すぐに友達になり、一緒に遊んでいたということである。

T男の兄弟は4人という子どもの多い家庭に育っているが、それ以上に大人が多くいるためT男の甘えや要求、欲求がいつも満たされる環境にある。

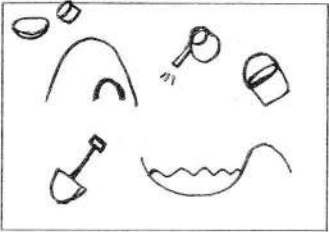
② 入園当初の姿

入園当初からとても元気がよく、活発であったが、ブロックや積木を投げたり、作った物を壊したりと少し乱暴な面も見られた。また降園時等には、みんなと一緒に椅子に座っていることができずふらふらしていることが多かった。

その反面、少しでも友達に叩かれたりすると、めそめそと泣いて教師に甘えたり、抱っこやおんぶをせがんできたりすることも多く見られた。

(3) T男の姿から

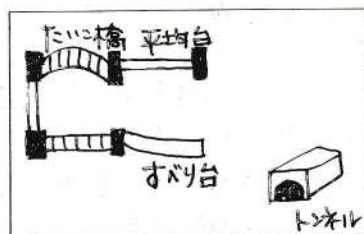
♥…教師の思い

日時	幼児の姿	教師のかかわり
4/16	<p>・一人で積木を高く積み上げたり、くずしたりして遊んでいる。</p> <p>(周囲には同じような遊びをしている幼児が2～3名程いるが、それぞれが個で遊んでいる。)</p>	<p>・早く園生活に慣れて楽しく遊べるように、積木等を用意しておく。</p> <p>♥一人で積み上げていた積木がくずれる様子を楽しんでいるようだが、早くお友達ができ、一緒に遊べるといいな。</p>
4/25	<p>・仲良くなったR男や、D男と一緒に積木を高く積み上げて、遊ぶ。</p> <p>(R男やD男は、T男の言いなりになって、積木を渡しているだけである。)</p> <p>・「先生見て！高いのできたよ。」と自分より高く積み上げた積木を、自慢げに見せる。</p>	<p>♥一人ではなく友達とかかわれるようになってきた様子を見てうれしく思うと同時に、R男やD男を自分の思いのままに動かすのではなく、一緒に遊ぼうとする気持ちになってほしい。</p> <p>・「すごいね。すごく高いね。」とT男の感動を受けとめ喜びを共感する。また「みんなで作るといいのができるね。」と友達と一緒に遊ぶことの楽しさに気付かせるような言葉をかける。</p>
5/27	<p>《砂場》</p>  <p>・T男が自分から進んで、R男やS子、Y子と一緒に砂場に深い穴を掘り水をためて、「温泉だぁー」「気持ちいい」と言って遊んでいる。</p>	<p>・多くの友達とかかわって遊ぶことができるようにと、砂場遊びを設定し、遊具を用意しておく。</p> <p>♥友達と遊ぶ楽しさがわかったのかな。よかった。T男はいろいろな遊びを考え出すな。今日もおもしろい遊びをしている。この遊びが広がり友達とのかかわりをもって遊んでほしいな。</p>

・穴を掘っているのはT男とR男ばかり、水を汲んでくるのはS子とY子ばかりである。

・「そっか」「じゃあ僕行ってくるね。」と言って水を汲みに行くが、一度水を汲んできただけで終わってしまい、結局またS子とY子が水汲みをしていた。

《ホール》



・たいこ橋、平均台、すべり台等で楽しそうに遊んでいる。特に、動くトンネルが気に入ったらしく、数人の友達と中に入ったり、押ししたりして遊んでいた。

・T男はK男とトンネルの中に入ることと争い、自分の思い通りにならずに泣く。

・しばらく泣きやまずにいた。

♥S子とY子は水汲みばかりで楽しいのだろうか。水を汲んでいる二人の様子を見ると楽しそうな表情なので、このまま様子を見ていることにしようかな？しかし、T男に自分ばかり楽しい思いをしないで、友達と交代しようとする気持ちをもって欲しい。

・「ずっーとSちゃんとYちゃんが水汲んでるから、今度はT君とY君が水汲んできたなら。」とバケツを手渡す。

・雨が降っていたため、室内でも体を思いきり動かし、気持ちを開放して友達と一緒に遊べるようにと、ホールに巧技台を設定したところ子ども達は喜んで遊びに加わってきた。



・しばらくT男とK男の様子を見守っていたが、泣いて自我を通すT男の心をおしはかりながら、「我慢できるかな？」と言葉をかけ、思い通りにはならないこともあることを伝える。

♥まだまだ自分中心なんだな。どうしたら我慢する心が育つだろうか。気長に指導していこう。

・T男とR男が早速深い穴を掘り、ヒューム管を通して水を流しはじめる。「海だー！海ができたぞー。」

(T男らの隣で同じように、H男やA男らがヒューム管に水を流して遊んでいる。)

・「そうしよう。そうしよう。」と言って二つの海をつなげはじめる。

・R男がヒューム管の位置を変えようとすると、T男が「だめだよ。水はこっちから流すんだよ。」と強い口調で言う。

(しばらく遊んでから、R男、H男らは、「あっちで山つくろう。」と行ってしまった。)

10 /16 ・友達と4～5人で泥山で土を集めて、山を作って遊んでいる。

・「先生、水使いたい。」と言う。

・土の山に水をかけたり、シャベルで穴を掘って水を流したりして遊んでいる。そのうちにR男やA男と、泥だんごを作り始める。

・砂場遊びを設定した。友達と協力し、譲り合って遊べるように、ヒューム管をいくつか用意しておく。

♥T男のアイデアはおもしろい。いい発想をするな。H男達と一緒に遊べばいいのにな。

・「T君の海、すごく深いね。H君達のも深いよ。二つつなげたらすごーく大きい海になるんじゃない？」

♥同じような遊びをしている二箇所の友達が一緒に遊ぶことで、友達関係が成立してほしい。

・T男がR男の気持ちも受け入れて遊べるようになるのはまだまだ難しいのかな。自我を少しずつおさえ、自分の気持ちをコントロールできるようになって欲しいな。

♥あーあ、また一人になっちゃったな。いつになったら友達と一緒に楽しく遊べるだろうか。

・そこでバケツやシャベルを出す。



・「先生見て！僕、おだんごできたよ。」「この砂かけると固くなるんだよ。」

(K男が「誰か水汲んできて。」と言う。)

・「僕が水汲んできてやるよ。」と言って走って水を汲みに行く。

・照れくさそうにして行ってしまった。

・「僕のおだんご固いよ。」「さわっていいよ。」とおだんごをもってくる。

・「僕のが一番遠くまで行ったよ。僕のおだんご壊れなかった。」

・「T君おだんご上手だね。先生におだんごの作り方教えて。」と言って、教師も一緒におだんご作りをする。

♥うれしい。T君が友達のために水を汲んできてあげようという気持ちになった。

・「T君水汲んできてあげたんだ。優しいね。」と友達のためにしてあげた行動を誉める。

・「ほんとだー。すごく固いのできたねー。」「じゃあ、山の上から転がし競争しよう。」と言って他の幼児も誘う。

(4) 考察

入園前の家庭生活では、自分の思いや願いがかなうことが多くあったであろう。しかし、幼稚園という集団の中に入った時、自分の思いが通らないことや、我慢しなければならぬことが増えてくる。

T男も入園当初には、遊びや生活が自分中心であったのが、園生活を送るにつれて集団生活に慣れ、徐々に周囲の友達を意識して生活が行なえるようになってきた。

T男はすごく良いアイデアを持っていて、遊びが楽しく魅力的である。そこでR男達のように、T男の仲間になって遊びはじめるが、T男が自分の考えを強引に通す面があるので、楽しく一緒に遊んでいた友達も、だんだんと離れていってしまう。T男自身、自分の思いを強く出しすぎて、友達に受け入れてもらえないというさびしい経験や、また逆に、自分の思いを友達に受け入れてもらったという満たされた経験も味わっている。日々友達と遊ぶ中で、そのような経験を繰り返すうちに、友達と一緒に遊ぶことの楽しさがわかり、友達の思いを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら、譲り合って遊べるようになる心が育っていくのではないかと思う。

その為には、心を開放して伸び伸びと遊んだり、友達とじっくり思いを伝えあって遊んだりできるゆとりのある生活と、スペースや遊具等の物的環境が必要である。また幼児の感動を受けとめたり、幼児ができたことに対して、認めたり、誉めたり、友達とのパイプ役を任う教師という人的環境が最も大切であるということを感じた。

教師は幼児一人ひとりについて良く知り、幼児にとって今必要な物、必要な言葉は何か、それぞれの幼児がその時に必要としている環境や援助の在り方を、もう一度考え、友達とかかわりながら、生き生きと生活ができるようにしていきたいと思う。

実践事例 2

『積み木遊びを通して』

— 友達との関わりができてきた頃の事例 —

(1) 対象児

2年保育 4歳児 23名 (男児11名, 女児12名)

(2) 時期 7月4日 (金)

(3) 入園当初から6月迄の幼児の姿 (活動の背景)

入園当初は、初めての集団生活で緊張や期待から気持ちが不安定になる子や入園以前の家庭生活の経験の違いから戸惑いを感じながら生活している幼児が見られたが、すぐに園生活に慣れ元気に遊べる幼児もいた。また元気のよい幼児の中には積み木やブロック等を投げたり、蹴飛ばしたりして乱暴に扱う幼児もおり姿は様々であった。

5月頃になると、自分が生活をする場所や身のまわりにいる先生や友達の名前も徐々に覚えて幼稚園の生活の流れもわかってくるようになった。また、新しい環境に慣れ、教師との信頼関係もでき、心が安定してくると自分からやりたい遊びを見つけて遊ぶようになった。ロッカーが隣同士だったり、同じ場で遊んでいる子とかかわり合う中で、おもしろい遊びをしている幼児の真似をして遊び、気の合う友達ができると物の取り合いや仲間に入れてくれないなどの意見のくい違いから喧嘩になることが多く見られるようになった。

6月になると、先生や友達にも親しみが増してきて、「先生みてて！」と自分に目を向けてもらいたくて要求をしたり、お弁当の時やお帰りの時に気に入った友達と一緒に隣に座りたがったりする様子が見られた。また、2、3人がかたまって遊ぶ姿や「入れて」の言葉を言って仲間に入れてもらおう等遊びのルールができてきた。

(4) ねらい

◎好きな遊びをしながら友達と触れ合う楽しさを知る。

◎自分が思ったことや考えたことを先生や友達に言葉で伝えたり、態度で表す。

(5) 内容

- 自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。
- 自分と同じ遊びをしている友達と一緒にかかわって遊ぶ。
- 自分の思っていることやしてほしいことを先生や友達に話す。

(6) 幼児の姿から

♥…教師の思い

幼 児 の 姿	教 師 の か か わ り
<p>・登園後、身支度を済ませた幼児から好きな遊びを見つけて遊びだしている。いつものように男児数名が、積木で遊びだす。</p> <p>・積み上げたり並べたり崩したりして遊んでいるうちにY夫とH男が、一緒に乗物らしきものを作り始めた。</p> <p>・M男、T夫、I子がそばでそのようすを見ている。 Y夫「うん、電車だよ。」</p> <p>・Y夫が主になって作っている。座る場所ができ、長くつなげている途中で、H男が運転席らしきところに座ろうとした</p> <p>・H男の様子に気付き、「まだ駄目だよ座っちゃ！」と言って手で押し退けようとするが、H男はその場を離れようとはしない。</p> <p>・Y夫が「ぼくが運転手だぞ！」と主張するが、H男も「ぼくが（運転手）になる」と言い張り、襟首をつかみあう激しい喧嘩が始まった。力付くで引きずり下ろそうとしたが一向に譲ろうとしないので、むりやりあいだに割り込んだ。</p>	<p>♥今日はどんな遊びや友達とのかかわりが生まれるか、楽しみである。</p> <p>・「何かできそうね。座るところがあるから電車かしら。」</p> <div data-bbox="986 1218 1362 1594"></div> <p>♥このころは、自己主張が激しくなり同じ場で遊んでいても個々のイメージで動いていることが多いので喧嘩が生じやすい。このトラブルを通して相手の存在を知っていくよい機会なので、もう少し、二人の様子を見守っていよう。</p>

・M男「Y夫君が運転手だよ」と二人の様子を見て、M男がY夫の加勢をした。

・それを聞いておもしろくないT男は、Y夫を引きずり下ろし、自分がハンドル(円形の積木)を持つ。

・すると、M男はそのハンドルに見立てた積木をとってしまい、H夫と背中合わせに座ったY夫の前にその積木を組み立ててY夫が運転手になれるようにした。

・Y夫は「グイーン!」と言いながら、ハンドルに見立てた円形の積木を操縦して満足そうだ。

・Y夫に運転席を譲ったH夫は少々不満の様子だった。

・I子やK子も後ろの席に乗り、遊びに加わった。

・T夫はそばで、Y夫とH夫が電車ごっこをして遊んでいるのを興味深く見ていた。

・T夫はH男のすぐ後ろに乗せてもらってしばらく電車ごっこが続いた。



♥M男の登場でどう遊びが進展していくのか楽しみである。

♥ここで遊びが終わってしまっは、つまらない。声をかけようか迷ったがM男がハンドルをY夫の前においたことで、どう展開していくか、もう少し成り行きを見てみよう。



・「たくさんのお客さんがきたね。運転手さん!どこまで行くのかな」と声をかけた。

♥他の友達も加わってきたので、よりの遊びが広がってほしいな。

♥T夫は最初から積木のそばにいたので、きっと仲間に入りたいのだろう。

・「T夫君、電車に乗りたいの?」「それなら仲間に入れて!って言ってごらん」と促すが、不安そうにしていたので一緒にその場に行き仲間に入れるように見守った。

♥それまで、ずっとY夫が運転手になっていたの、さっきのH男の気持ちもY夫に伝えたい。

・「ねえ、H男君も運転手になりたかったんだって交替してあげたらどうかな?」とY夫の心をくみとりながら、H夫に対しても思いやる気持ちを持つように言葉をかける。

・Y夫「うん、わかった。」すんなりと席を譲る。H夫はとても嬉しそうな表情で運転席に座った。

・M男も運転手になりたくて、H夫に小さな声で「ぼくも運転手さんになりたいな。」と言った。

・H夫「うん、いいよ。」とすぐに替った。

・「よかったね。Y夫君ってやさしいね。」と、Y夫が席を譲ってあげたことに対して誉めてあげた。

♥H夫がY夫に対して譲ってくれてありがとうという感謝の心が持てるようになってほしい。

♥あんなに頑なに席を譲ろうとしなかったH夫が友達の要求を受け入れることができるととても嬉しい。

・「H夫君えらいね。」とM夫に運転手さんを譲ってあげたことを認めた。

(7) 考 察

大人の中で大事に育てられ、何でも要求が通る家庭環境にあったY夫と、のびのびして元気がよいがしつけに関しては殆ど放任の状態のH夫が、好きな遊びを通して意見がぶつかり合い、お互い譲らずの取り合いの喧嘩をしていた。その様子を教師は見守りながら、手助けが必要と思われたときに声をかけてあげたことで、素直に譲る気持ちになったと思う。譲ったY夫も、譲ってもらったH夫も「よかったねY夫君て、やさしいね。」という教師の一言で心地よい気持ちになり、あとからT夫が遊びに加わった時もすぐにH夫が運転席をかわってあげることができたことは、積木遊びの中でそれぞれが自分を出し、葛藤しながらも心の成長につながった結果ではないか。

一人一人の育ってきた家庭環境や発達が違う幼児が、幼稚園という集団生活の中で友達とぶつかり合い、かかわり合いながら、遊ぶ楽しさを知り、教師の仲立ちや援助によって、心も身体も育っていくのではないかと思う。幼児一人一人が生き生きと充実した毎日を送れるように、日々幼児とのかかわりの中で柔軟な対応と援助が必要だと思った。

2 5歳児

実践事例 1

『どんぐりを使った遊びを通して』

(1) 対象児

2年保育 5歳児 28名(男児15名, 女児13名)

(2) 時期 9月25日(金)

(3) 2学期の様子

年長組になって、グループやクラスの友達と協力して行なう遊びや活動が多くなったが、一学期のうちはまだ相談することの意味が分からなかったり、自分の考えを上手く伝えられなかったりする幼児も多く、教師の援助がないとこのような活動が長続きできないこともあった。

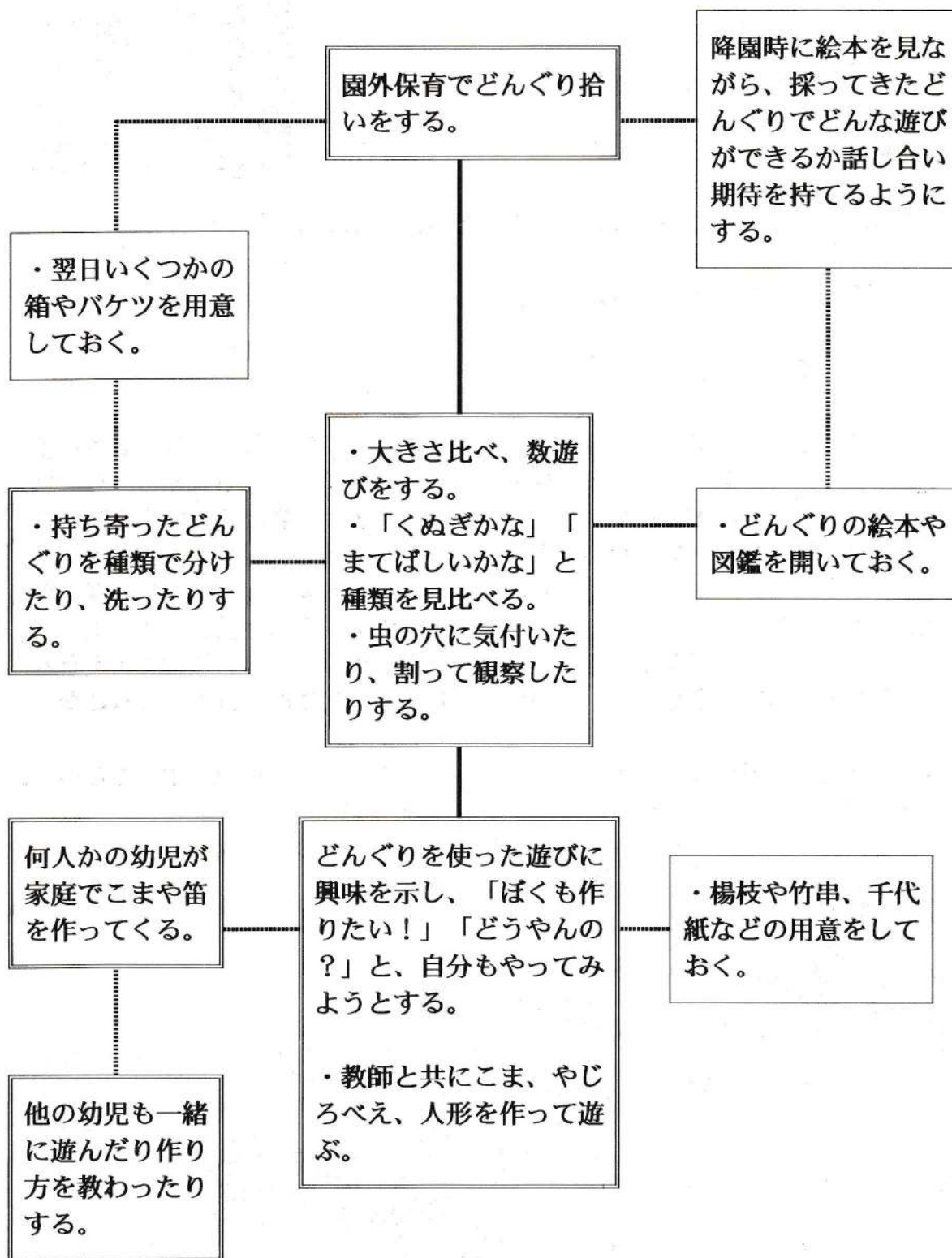
二学期になると、それまであまり親しくなかった友達やより多くの友達ともかかわろうとできるようになり、クラスの友達の輪がさらに広がってきた。

また、一人一人の幼児が落ち着いて物事に取り組んだり、根気強く考えたりする力が身についてきたので、一つの遊びが次第に長期間持続するようになってきた。

中には自ら先頭になって遊びをひっぱっていかこうとする幼児が出てきたので、自分達で遊びを進めていくことがだいぶ多くなってきたようである。



(4) どんぐり遊びにおける幼児の姿



(5) ねらい


- ◎自分たちで集めたどんぐりを使って、より多くの友達と遊ぶ楽しさを味わう。
- ◎友達と相談したり、協力しながら自分たちの遊びを進めていこうとする。
- ◎考えやイメージを出し合いながら、工夫して遊ぼうとする。

(6) 内容

- どんぐりを使ってのゲーム作りを考える。
- 相談することで、友達とイメージを共有できることを知る。
- 自分の考えを他の友達に分かるように伝えたり、友達の考えをよく聞いて理解しようとしたりする。
- 相手の考えを受け入れたり、助け合ってやろうとする。
- 友達と協力して作ることで、よりおもしろいものができる喜びを知る。

(7) 活動の姿

♥…教師の思い

幼児の姿	教師のかかわり
<p>朝登園してくると、保育室に用意してあるどんぐりなどの材料の中に空き箱や木片のあることに気が付く。</p> <p>はじめ、一人一人りが木片を箱につけて迷路のようなゲームを作っていた。</p> <ul style="list-style-type: none">・出来上がったものを数人の友達とどんぐりを転がして遊ぶうち、お互いのものをトイレットペーパーの芯や厚紙の筒などでつなぎ合わせて、さらに大きなゲームにする幼児たちもでてきた。 <p>・T男「もっと大きいのが作りたい。」Y男「これでやる？」と傍らの段ボール箱をながめる。</p> <p>・「でも、深すぎるよ」「手が届かないからだめだよ」「むずかしそうだよ」と言いながら、自分たちのイメージにあった素材を探す。</p>	 <ul style="list-style-type: none">・「すごい、つなげたの？おもしろくなったね。」と、幼児の考えを認める♥友達と一緒に作るのも楽しいことを他の幼児にも知ってほしい。 <p>・幼児たちがどうしたらいいのか戸惑っているようなので、どのように作りたいのか会話をしながら、「じゃあ、これでどう？」と段ボール箱を開き、下に積み木を置いて滑り台のようにする方法を提示する。</p> ♥アイデアを提供したことで、幼児たちの思いを満たせただろうか。

・「うわー！大きい」「よし、どんぐりだ！」と感激しながら、上からたくさんのどんぐりを一気に流す。次の瞬間、数十個というどんぐりが保育室の床いっばいに転がり散らばる。

・「しまった！」「みんな、拾うぞ」「あーあ」と、必死で拾い集める。

・再び「いくよー！」とどんぐりを転がそうとするY男。

・T男「え～またやるの～？」

S男「そうだ、だめだよ」

・「またちらばっちゃうよ」「またひろわなきゃだめになっちゃうよ」

・H男「そうか、ここにこうして…」と下端に空き箱を3つ並べる。

それぞれの箱を3色に色分けして、一気にどんぐりを転がし「青がいちばん（多い）！」「赤こい、赤」など競い合っしばらく遊ぶ。それを見て他の幼児たちも、「ぼくも入れて」「やらせて」と仲間に入ってくる。

・S夫「あ、じゃあさっきのみたいに迷路にしたら？」と斜面の途中に曲げて付けてみる。

・上から転がしたどんぐりが途中で進路をかえていくのを見て「おもしろい！」「もっと付けよう」といろいろな材料を持ってくる。

・トイレットペーパーの芯でトンネルを作ったり、厚紙や箱で曲がり角を作ったりと、各児思いおもいに付けはじめる。

♥たくさんの幼児が一緒に関わって作ることのできる場を与えたい。

・このことをきっかけに、幼児自らが工夫して発展した遊びができないだろうか、どんぐりを一緒に拾いながら幼児たちが次にどうするのか様子を見守っていくことにした。

♥遊びを続けようとするY男の気持ちも汲み取って、遊びを進めてほしい。

・「うまいうまい、よく考えたね」とH男の発想を認め、遊ぶ意欲や自分の思いがだせるよう援助していく。

♥ただ転がすだけではなく、一緒に工夫を出し合いながらもっとおもしろいゲーム作りへと発展していかないだろうか。

・幼児のイメージがうかぶような、素材を用意しておく。

・「こんなものもあるよ」と、厚紙を細長く切ったものを見せる。

♥相談しながらやろうという気持ちが持てないだろうか。

- ・「うんいいよ」「わかった」
- ・「じゃあ、ここはどうするの？」と友達に聞いてからやろうとする。

・ J男が突然斜面の真ん中に切り込みを入れはじめる。

H男「なんでJ男くん、そこ切るんだよ！」S夫「そうだよ、勝手にやらないでよ」

J男「だって…」

・ J男「あのね、ここんとここにどんぐりが落ちればおもしろいよ…」

・ H男「でも、落ちちゃったらおしまいじゃん」S夫「そうだよ、下にいっちゃうよ」

J男は黙ってうつむく。

・ T夫「あ、いいこと考えた！」ゼリーのカップを穴にはめてみせる。「これで落ちないよ」

・ T男「でもさ、それじゃその中にはいんないんじゃない？」

H男「たかいんだよ」

T男「ば～んってあたって、ひよろひよろ～っていっちゃうんじゃない？」

・ S雄「あー！わかった。それじゃこうすりゃいいんだよ」とカップを穴の下から当ててみせる。

・ 「うわー、おもしろい！」「それでいい、おれもやる！」他の幼児も大賛成。

・ S雄「でも、難しいよ…」セロテープでカップを貼ろうとしたが一人では上手くない。

・ 「あらおもしろい！」「よく考えついたね」とそれぞれの工夫を認める。

「先生これ付けていい？」と聞きにくる幼児には「みんなに聞いてごらん」と促したり、「ねえ、Y夫君が、いいこと考えたって」とY男の考えを認め他の幼児に知らせる。

・ J男は、どんな遊びを考えているのだろうか。意欲的に取り組みだしたJ男の気持ちを押し量りながら、「J夫君、みんなに聞いてからにしたら？」

・ 「ああなるほど…」とJ男のアイデアに共感する。

♥ J男のアイデアもおもしろいな。誰かこのアイデアを生かせないだろうか

・ 「ねえ、みんなも考えよう。どんぐりが落ちなければいいんだよね」とJ男の考えを認め教師も一緒に考える。

・ 幼児たちからいろいろなアイデアがでてくるように会話のやりとりを聞きながら様子を見守る。

・ 「すごい、S雄君。」とすばらしいアイデアを出した幼児を賞賛する。

♥ 他の友達の意見を受け入れたり、自分の思いを出したりして遊んで欲しい

「ねえ誰か手伝って」「うん、ぼくが押さえてやるよ」などと、協力して作る姿が見られる。

・T夫とT男がペットボトルを教師に切ってもらい、てっぺんに取り付ける。

・ペットボトルの口を指して「ここからどんぐりが発進するの。」「試してみよう」とどんぐりを1個転がしてみたが、入り口の手前のくぼみに引っ掛かって上手く出ない。

・Y男「なんだ、駄目じゃないか」

・S雄「反対にしてみたら?」「うん、それがいい」とペットボトルをひっくり返し、口の部分からどんぐりを入れようとする。「はいらないよ」「やっぱり、さっきの方がいいよ」「できないんじゃない?」他のものを付けていた幼児も加わってくる。

・「よくわかんない」いろいろに置き換えて試してみるが、イメージが湧かない様子。

・しばらく考えていたが、「こうかな」と高く斜めに持ち上げる方法に意見が集まる。「うん、僕もそう思う」

・「1個入れてみて!」斜めに持ち上げた方にどんぐりを入れると、勢い良く転がり出す。「ワーイ、ヤッター」と喜ぶ



・「こういうときはね、誰かが押さえるとうまくいくよ」と力を貸し合って作る方法を知らせる。

♥遊びの中でお互いを必要とし、相手の気持ちを汲む心が芽生えてきたようだ。

・「どうするの?」他のみんなにも伝えられるよう促す。

♥遊びが発展するように考えたT男達の発想をけなしたY男も一緒にうまくいく方法を考えようとする気持ちをもって欲しい。

・いろいろと考えながら試行錯誤している姿を見ながら、幼児には難しいようであると考え助言する。

・「よく見て、この置き方だから止まっちゃうんじゃないかな?」とペットボトルの平らな様子を手で表してみせる。

・ペットボトルを斜めにしたり平らにしたり、いろいろな方法をもう一度ゆっくりとやってみせながら、「どっちの方がよく転がるかな?考えてみて」と問い掛ける。

・「ほんとかなあ、試してみたら?」と、実際にやって確かめるといいことに気付かせる。

♥子ども達が考えたり工夫したりしてきたのだから、うまく転がって欲しい

・「わーすごい大成功」と幼児と共に喜ぶ。

・その後空き箱を下に取り付けてスターも完成し、どんぐりを転がして遊びはじめる。作っていた幼児たちをはじめ、クラスの他の幼児たちも「すごーい!」「やらせて」と仲間に加わり、少しずつ補充や修正を加えながら、数日間このゲームでの遊びを楽しむ幼児たちの姿が見られた。

♥途中であきらめずに遊びを続けることができるようになってきてうれしいな。これからもみんなで協力して遊べるようになって欲しい。



(8) 考察

仲の良い友達同士でも、協同で何かを作るということになると、なかなか考えを上手く伝え合えずに遊びが続かなかったり、一人ふたりが独断で進めていってしまったりすることが多かった。しかし今回は、『自分たちでたくさん集めたどんぐりを使って遊びたい』『段ボールの斜面にこんなゲームを作りたい』という共通の目的が持てた。また、作りたいものがイメージしやすいものであったため比較的簡単に考えを共有でき、一人ひとりが意欲的に取り組み、根気よく問題を解決しようと考えたり、意見を出し合ったりする姿が見られた。

中にはまだ、いい考えが浮かんでも上手く友達に伝える方法が見つけられない幼児、他人への指摘はしてもそれならどうすればいいのか考えようと思えない幼児もいる。

そんな時、教師のヒントで再び工夫しようとする姿が見られ、良い発想が生まれるのだと感じた。また、教師や仲間アイデアが認められたことで自信がつき、さらに意欲的に遊びにかかわろうとする幼児の姿も見られた。

今回の遊びは幼児たちから生まれた遊びであり、試行錯誤しながら友達とアイデアを出しあって完成させたこのゲームは、幼児たちにとってとても誇らしいものとなった。実際に作っていたのは男児がほとんどだったが、その後加わってきた女児たちも好意的に交えて、数日間クラスのみんなで楽しむことができた。

この活動を機に、何かをする時友達に相談しようとしたり、友達と手を貸し合ったり分担し合ったりやろうとする姿勢が身についてきたように思う。この遊びに見られるような一つひとつの障壁の積み重ねが、幼児たちの前進のきっかけとなって、次の活動に生かされていくものだと感じた。



3 研究の実践

事例 1 テレビ視聴

“こどもにんぎょう劇場「きかんしゃやえもん①②」”



(1) 対象児

2年保育4歳児 18名(男児8名、女児10名)

(2) 幼児の姿

初めての集団生活から次第に幼稚園の生活の流れが分かってきて、先生や友達と一緒にいることや同じ事をするのが楽しくなっている。また、物の取り合いや仲間に入りたくても入れてくれない等のトラブルや、イメージや意見の食い違いから遊びが中断してしまうこともしばしば見られた。

(3) 一斉視聴

『きかんしゃやえもん①』 6月21日(月) 10:30~10:45

テレビの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
オープニング	「あっ、影みたい。」 「トーマスみたいだ。」	「本当ね。」とうなずく。	
曲と歌が流れる。	シュッシュッシュッシュッと手を動かす	教師も一緒に機関車の動作をする。	自分も機関車やえもんになったつもりで体を動かす。音楽に合わせて体を動かすことを楽しんでいる。
やえもんの顔のUP。	「おもしろい顔。」 「おばあちゃんみたい。」 「どうして顔が変わるんだろう。」	にこにこして見る。	
電気機関車からかわれる場面。	真剣な表情で見ている。		
やえもんがかっかかっか怒った場面。(音楽)	子ども達もいっしょになって肩をいからせ、怒った表情でやえもんの動きをまねていた。	教師も幼児と同じ気持ちで動きをまねる。	やえもんと同じ気持ちで興奮している。
火事になってしまった場面。	静かになって真剣に見る。		火事になってしまった展開にびっくりしている。
「悪かった」と謝って終わる場面。	「ばかにしちゃいけないんだよね。」と近くにいる子に話しかける。 「うん、やえもんがかわいそうだよ。」	「やえもんはどうなっちゃうんだろうね」と投げ掛けて終わる。	話の内容を理解して出た会話(やえもんを馬鹿にしたことから火事になったこと)

『きかんしゃやえもん②』 6月28日(月) 10:30~10:45

テレビの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
	登園してきたK子が、 「先生、あのやえもんのお話いつやるの？」と聞いてきた。 「わあい、やえもん今日やるんだって！」喜びながら、友達に知らせていた。 TVの前に座る。	「今日だよ」 「楽しみだね」	やえもんのテレビを早く見たいと心待ちにしていた。

<p>オープニング</p> <p>曲と歌が流れる。</p> <p>先週の話の概要からお話が始まる。</p> <p>曲と歌が流れる。しだいにやえもんが怒って火事になってしまう場面。</p> <p>やえもんが泣く場面。</p> <p>肩鉄にならずに済んだ場面。</p> <p>やえもんの楽しい曲と歌が流れる。</p>	<p>子ども達の目が輝きだし、それぞれがやえもんの話を始めた。</p> <p>「顔が変わるんだよね。」 「鼻がおもしろい。」 「真っ赤になった。」 「火事になっちゃったんだよね。」 「だってしゃあのお声がおもしろかった。」 「早く見たいな。」</p> <p>曲に合わせて楽しそうに機関車の動きをする。</p> <p>静かに聞く。</p> <p>曲に合わせてまた動きですが、手の動きを止めて静かに見る。</p> <p>しばらく画面をじっと見る。</p> <p>「かわいそう。」「泣いちゃった。」 小さな声でつぶやいた。</p> <p>騒つく。</p> <p>音楽にのって楽しく踊る。</p>	<p>「そう、そんなにおもしろかったんだ。」</p> <p>「さあ、これからやえもんのお話が始まるよ。」</p> <p>幼児と一緒に楽しく体を動かす。</p> <p>同じ気持ちでいることをうなずきながら目で知らせる。</p> <p>「やえもんが肩鉄にならずに済んだね。」</p>	<p>一人一人が自分の思いを教師に聞いてもらいたい。</p> <p>やえもんのテーマ曲が大好きになったようだ。</p> <p>緊迫して声も出ない。</p> <p>緊張がゆるむ。</p>
--	--	---	--



視聴後も「きかんしゃやえもん」にとっても興味をもち、遊びの中で空き箱をつなげて、「先生、やえもんができたよ。」と作ってみせたり、絵に描いたり、粘土で作ったりしていた。この様子から、共通のイメージをもって友達同士が関わりながら楽しく遊びが発展していったらいいなと思い、ダンボール箱でやえもん機関車を作って、幼児の目に付くところに置いておいた。また、テレビからやえもんの歌をカセットテープに録音しておき、いつでも遊びの時に曲を流せるようにしておいた。

(4) 「やえもんごっこ」の遊びへ

7月1日(木)

幼児の遊びの様子	教師の願い	教師のかかわり	読みとり
<p>登園してきたK美がやえもん気づく。</p> <p>「わあ、先生、やえもんだ。先生が作ったの？」</p> <p>「ねえ、やえもんがいるよ。大発見だよ。」と次に登園してきたM子やS子に知らせていた。</p> <p>やえもんの顔を見て、 「ほら、笑っているよ。先生が作ったんだって！」とM男達に言うと、 「ダンボールで作ったんだよね。」と言いつつながらさっそくM男とA子とJ男がやえもんに乗込み、床をずるように走る。 「きかんしゃやえもん、出発！」</p>	<p>気付いてほしい。</p> <p>他の幼児にも知らせてほしい。</p> <p>遊びが盛り上がってほしい。</p>	<p>「うん、そうだよ。」</p>	<p>とても喜んでいる。</p>

<p>その様子を見ていた他の幼児も「ぼくも乗りたい。」「わたしにも乗せて。」と次第に遊びに参加する幼児が増え、廊下やお部屋の中を走り回っていた。</p>		<p>危険のないように見守ろう。</p>	<p>おもしろそうだから仲間に入ってみよう。</p>
<p>「怒ったしゃあー！」と言いながら、スピードを出して走る幼児や、椅子に座って順番を待つ幼児が見られた。</p>		<p>やえもんの歌を流す。教師も一緒に共感したり、お客さんになって参加したりする。</p>	<p>テレビ視聴をしたときの場面を思い出して表現をしているのだろう。</p>
<p>しばらくやえもんごっこの遊びが続く。</p>			
<p>N也が残っていたダンボール箱をみて、「先生、これで新幹線を作りたい。」と言いつ出す。</p>	<p>具体的にイメージをしているものを引き出したい。</p>	<p>「どういう形をしていたっけ？」</p>	<p>やえもんの機関車をヒントにダンボール箱で電車を作ってみたくなった。</p>
<p>「こういう風にとがっているんだよ。」と手振りで示した。</p>		<p>「絵本とか図鑑で見てもよ。」</p>	
<p>そばでみていたN男が図鑑を持ってくる。</p>		<p>「こんな感じかな？」ダンボール箱を三角に折り曲げてみせた。</p>	
<p>N男「ここに丸いのが付いているよ。」</p>	<p>イメージにあった物があるといいな。</p>	<p>「いいところに気が付いたね」と認め、「じゃあ、あの箱の中に何かあるかもしれないよ。見つけてきてごらん。」とヒントを与えた。</p>	
<p>さっそくオレンジ色のカップを持ってきてあててみると、N也が「こだま号だ。」と喜ぶ。</p>	<p>いい発想だな。他の幼児にも興味をもってほしい。</p>		
<p>その後、ダンボール箱を絵の具で塗っていると他の5、6人の幼児も一緒に手伝った。</p>			<p>絵の具で塗るのは楽しそうだ。</p>
<p>また、箱をつなげる事でガムテープにするか、紐でつなげるか意見が対立したとき、M子が、高さが違うから紐でつなげたほうがよいという意見を言う。</p>	<p>子ども達の意見を尊重したい。</p>	<p>教師もその意見に賛成して紐でつなげることにした。</p>	<p>信頼のあるM子と教師も賛成したことでみんなも納得した。</p>



降園時に、今日の遊びの中で『やえもんごっこ』について触れ、みんなでやえもんに乗って遊んだ事や新幹線を作った事を話すと「おもしろかった。また乗ってみたい。明日もやりたい。」という意見や「駅や線路がないとだめだよ。」という意見もでた。そこで、明日は園庭に線路や駅を作って遊ぶ事を約束して降園した。



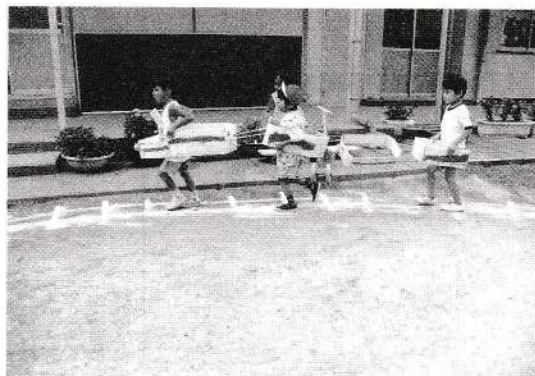
7月2日(金)

園庭にやえもん機関車と新幹線を並べておいておく。朝登園してきた子ども達は着替えもそこそこに乗り物で遊び出した。運転手になりたがる幼児が多く、取り合いのけんかになったり、スピードを出しすぎて後ろに乗っていた幼児が転ぶ等のトラブルが生じた。そのため、どうしたらよいかを一緒に考えたり、ヒントを与えたりして遊びがおもしろくなるよう援助した。また幼児と一緒に線路を描いたり、駅を作ったり他の幼児も誘ったりして園庭での電車ごっこに遊びが広がった。

(5) 気付いたこと

- ・オープニングの場面で子ども達の興味がある乗り物の話だったことや“機関車トーマス”に似ていたことで親しみを感じた。

- ・この人形劇は普段見慣れていない影絵を使ったお話で、やえもんの顔の表情が変わるところや、火事になったり怒ったりすると赤く画面が変化するところなどがうまく表現されていた。
- ・「ぼくだってしゃあ、むかしはしゃあ」「おこったしゃあ」の言葉遣いが繰り返し使われていておもしろく、興味をもった。
- ・途中で何度か流れる曲がテンポ良く、自然に体が動き楽しくさせた。
- ・火事になってしまったとき、「どうしよう」「たいへんだ」と緊迫した気持ちになり、しくしく泣いて困っているときや屑鉄にされてしまうのではないかというときには、無言になって画面に見入り、「かわいそう」という言葉が出たり、主人公と同じ気持ちになっているのが幼児一人一人の表情から伺えた。
- ・2回に渡ってのお話だったが、楽しみに待つ姿があった。
- ・“きかんしゃやえもん”のお話を通して共通の話題ができ、友達とかかわって遊ぶきっかけになった。



事例 2 ビデオ視聴
“いきもの図鑑「あげはちょう」”

(1) 対象児

2年保育4歳児 18名(男児8名、女児10名)

(2) 幼児の姿

久しぶりの幼稚園で、うれしそうに登園してくる幼児や夏休みの出来事を教師に話そうとしている幼児やちょっと緊張が見られる幼児等様々な様子が見られた。また、花壇には6月末に蒔いたニンジンの種が発芽し、夏休みの間に葉が大きく成長していた。ニンジンの種を蒔く前にハツカダイコンを収穫した際、葉にモンシロチョウが卵を産み付け、あおむしの幼虫がたくさん産まれた。その時幼児と共に幼虫を飼育ケースに入れ、さなぎから羽化して蝶になるまでを観察した経験がある。



(3) キアゲハの幼虫を発見

9月1日(水)

幼児の姿	教師の願い	教師のかかわり	読みとり
N男「先生、葉っぱに何か虫がいたよ。」 ニンジンの葉を指差す。 N男とM子が早速昆虫図鑑を持ってくる。 「先生これじゃない?」「これかな?」 花壇のそばで幼虫と見比べながら探していた。	誰か気付いてくれるといいな。 他の幼児にも知らせたい。 モンシロチョウの飼育経験が生かされるといいな。	「えっ、どこにいたの?教えて!」 「わあ、本当だ。ねえ、みんな!N男君が虫を発見したよ。」 「何かの幼虫だね。図鑑で調べてみよう。」 幼虫が載っているページを開き、「どの幼虫かな?」と幼児と一緒に探す。	N男は虫にたいへん興味をもっている幼児なので、すぐに気が付いた。
J男「持ってみたいよー。」	昆虫が大好きで好奇心旺盛なJ男の欲求を満たしてあげたいが触っても大丈夫なものかどうかを聞いてからにしよう。	「アゲハチョウの仲間だねほら、似ているでしょ。ニンジンの葉っぱにいるのはキアゲハと言うチョウだって書いてあるよ。」 園長先生や主任先生に何い触っても皮膚等には大丈夫だが触ると弱って死んでしまうということなので子ども達には見るだけにする話を話す。	
J男「やだ、持ちたい。」と言い張った。 K子「そうだよ。死んじゃったらかわいそうだよ。」J男は渋々納得した。	生命の大切さをわかってほしい。	「人間の手で触っていると弱って死んでしまうんだって。だからそうっとしておいてあげようね。」	以前、カマキリのあかちゃんを握っていて死にかけた事があったので、かわいそうだという友達の忠告を素直に聞き入れた。

H男「先生、これ何？」黒い幼虫を指差して聞いた。	よいことに気が付いてくれた。図鑑に載っているのと比べてみよう。	「これも幼虫なんだよ。ほら、図鑑にも載っているよ見てごらん。」幼児と一緒に卵から成虫になるまでの経過を目で追う。「よく知っているね。M子ちゃん。」	自分の知識を教師に伝えたい。
M子「卵から幼虫になって、さなぎになって、皮を破いてチョウになるんだよ。」			



9月2日(木)

幼 児 の 姿	教 師 の 願 い	教 師 の か か わ り	読 み と り
登園して身仕度がおわったT男が、「先生、幼虫がチョウになっているか見てくる。」 「まだ幼虫だった。」 「こんなに大きいのがいたよ。」 「ここにもいた。」 J男が糞を見つけて、「うんこがあった」とうれしそうに笑いながら言う。周りの幼児も興味深く近づき、「何処何処？」と一生懸命糞のある場所を探していた。 J男「幼虫が今うんちをしたよ。」 K子「本当だ。ここ見て！みんな食べちゃって葉っぱが棒だけになっちゃったよ。」 M子「それでさなぎになって皮を破ってチョウになるんだよ。」 J男「あっ、オレンジ色のつのをだした。おもしろい。」棒で突いたり葉っぱで突いたりしてつのを出すのを面白がっていた。その内、「何か臭いね。」と口々に言いだす。 K子「そんなに突っ突いちゃ駄目だよ！」 一緒になってつの出しを楽しんでいたT也やN男もK子や教師の言葉にはっと気が付き突くのをやめた。	幼虫に興味をもってかわかってほしい。 幼虫の生態を知る手がかりになるので、よく観察をしてほしい。 幼虫が食べた葉の様子にも目を向けたい。 生きているものへの思いやりも育てたい。	「どうだった？」 「わあ、昨日よりも大きくなっているね。」と幼児の驚きや気付きを受けとめる 「すごく大きいうんちをするんだね。」とびっくりする。 「ほら、この幼虫、葉っぱのご飯を食べているよ。」 「本当ね。たくさん食べて大きくなるんだよ。」 「モンシロチョウの時もそうだったね。」 「そうね。みんなが突っ突くので幼虫が恐がって角や臭いを出すんだよ。」とわかるように話す。 「そっとしておいてあげようね。」	昨日の経験が虫への興味につながっている。 幼虫も自分たちと同じように糞をすることを知った。 モンシロチョウの飼育した経験を思い出している。

(4) ビデオ「あげはちょう」を見てみよう (一斉視聴)

キアゲハの幼虫はニンジンの葉をほとんど食べつくし、色も黒から黄緑と黒のしま模様をした色あざやかな幼虫に変化し大きさも5cmぐらいまでになっていた。子ども達は、あちこちでこの幼虫がニンジン畑から移動しているところを発見したり、壁に昇ってじっとしているところやさなぎになって糸を出している場面に遭遇したりして、関心が非常に高まっていた。このように、ニンジンの種を蒔いて栽培したことからキアゲハが葉に卵を産み、幼虫からさなぎへやがて成虫へと変化するところを毎日の生活の中で見る事ができた。そこで、「いきもの図鑑『あげはちょう』」のビデオをしてみることにした。

9月20日(月)

ビデオの場面	幼 児 の 言 動	教 師 の か か わ り	読 み と り
野原でアゲハチョウが翔んでいる。	チョウがひらひらしているのをまねる。「うちにも翔んでた。」	楽しそうな表情で見る。時々幼児の発言にうなずく。	親しみをもって見ている。
アオスジアゲハが翔んでいるところ	「あっ、幼稚園にいたよ。」		

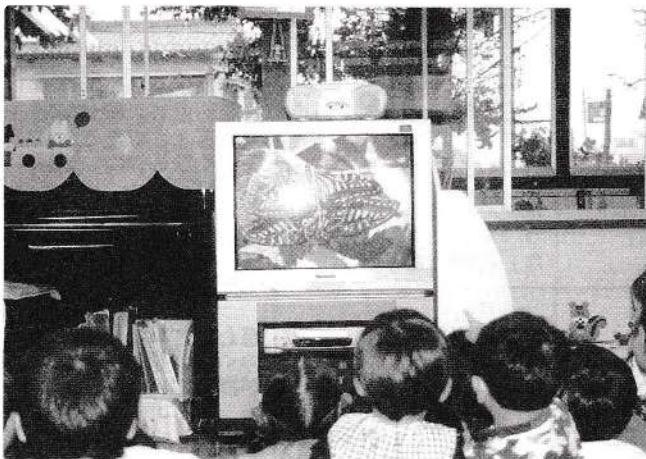
おしっこをする。	「おしっこした。」		
花の蜜を吸うところ。	「おいしいよ。」 「吸ったことあるよ。」		
カマキリがチョウを狙っている。	「あっ、カマキリが狙ってる。」 子ども達が緊張した面持ちでみている。	『あっ、どうしよう』という表情をする。	
チョウが2匹で翔んでいる。	「絡まっちゃった。」 「雄と雌だ。」	にこやかに目を細めて見る。	交尾の場面で、何となく結婚をするという意味に漠然ととらえている。
葉の上にチョウが卵を産み付ける場面。(黄色く真丸な卵)	一瞬息をのんで見ていた後、「お月さまみたい。」と感想をもらす。 「柄が見える」	『あー!』『わあ!』感嘆語意外に言葉がなかった。感動して一点に引き込まれていった。	感動して思わず出た言葉である。
殻の中から幼虫が出てきた。	「わあ、出てきた。」画面に引き付けられていた。		
幼虫が殻を食べて出てくる。	「栄養があるの?」	「うん。そうだね。」 『先生も初めて見たんだよ』という気持ちを込めて伝えた。	自分の殻を食べるシーンを見て不思議に思い自分なりに考えて言った言葉である。
1れい幼虫から脱皮してしゅうれい幼虫へ。	「脱いでチョウチョになるんだよ。」 「はだかになっちゃう。」		
	「うーん、よいしょ。」と皮と脱ぐ所では幼虫と一緒に力が入っているような表情をして見守っていた。 「あおむしだ。」	幼児と同じ気持ちで見守る。	
オレンジ色のつを出す	「幼稚園にいるのと同じだ。」		実際につを出すことを経験していることから出た言葉。
幼虫からさなぎへ。	「同じだね」	うなずき、「糸が見えるね。」と画面に集中させる。	
さなぎから成虫へ。(音楽が流れる)		感動して食い入るように見る。	
さなぎのからだ縦に割れたとき逆さになって羽を乾かしている場面。	「あっ、われた。」画面に集中する。 「でた。でた。」「まだ翔べないんだよね。」「出たばかりだからね。」などと近くの友達と話す。		自分の持っている知識を言葉に表している。
チョウの羽のUP。	「きれいだね。」	「うん。」深くため息をつく。	

5) 視聴後の幼児の姿

毎日、朝登園してくるとニンジン畑をのぞき、幼虫がどうなったか見て「昨日よりも大きくなったよ。」「葉っぱがだんだんなくなってるよ。」などと様子を知らせにきたり、遊んでいるとき地面をはっている幼虫を見つけて「先生、こんな所に幼虫が歩いている。」とか、「先生、壁につかまっている幼虫がいるよ。」など子ども達の気付きによって幼虫が移動してさなぎになる準備をしていることがわかり、急いでさなぎになる場所を作ってあげることにしたがこちらが思うような場所ではさなぎにならなかった。ある時、年長組さんの畑で、まさに幼虫が皮を脱ぎさなぎに変わろうとしているところを年長組の幼児が発見し知らせてくれたので、みんなに声を掛け、見に行った。それは一瞬の出来事だったので、一部の幼児しか体験できなかったが貴重な経験ができた。その後も様々な場所でさなぎになっているのを見つけ、いつアゲハチョウになるのかなと時々幼児と様子を見に行き、チョウになる日を楽しみに待った。ある朝、さなぎからチョウになってとまっているのを発見し、羽を広げて翔んでいく姿を幼児と共に感動的に見送った。その際、「チョウチョさん。元気だね。」「カマキリに食べられないようにね。」「幼稚園にもまた遊びにきてね。」等と口々に親しみを込めて言葉を掛けていた事が印象的だった。

6) 気付いたこと

- ・保育室のすぐ前に畑があり、いつでも幼児の目に触れることができたため、ハツカダイコンやニンジンなどの野菜を栽培したとき、毎日畑に行き、芽が出たかな？、土が乾いているから水をあげよう、葉っぱが大きくなったなど関心をもってみるようになった。このことから、モンシロチョウやキアゲハの卵や幼虫を幼児自ら発見することができた。
- ・一人一人家庭での経験や知識の違う幼児が、幼稚園で生き物のありのままの姿に出会い、実際に触れたり、間近に見たりしたことで、ワクワクドキドキしたりして心を揺り動かされ、教師や友達と感動を共有することができた。またわからないことを図鑑で調べたり、ビデオで認識を新たにしたり、再確認をしたり、その後もよく見ようとする気持ちが芽ばえた。
- ・同じ体験ができたことで、教師や友達に思いを伝え合う喜びを感じることができた。
- ・キアゲハの成長を通して、生き物への関心が高まったと同時にやさしさや思いやりの気持ちが芽生え、言葉遣いや行動が乱暴だったJ男も友達に対してやさしく接することができるようになり変容が見られた。



事例 3 ビデオ視聴
 “しぜんとあそぼ「にわとり」”



(1) 対象児

2年保育5歳児 21名(男児9名、女児12名)

(2) 幼児の姿

年少の頃から園で飼育しているチャボやウコッケイと喜んで触れ合っていた。年長組の飼育当番が刻んだえさを一緒にあげたり、チャボを抱っこしてかわいがったり、産みだした卵を順番に持って帰るのを楽しみにしていた。

年長になり、春休みに産まれたひよこに大喜びで毎日のように飼育小屋に通う幼児が多くみられたが、中には無理に抱いたり追いかけたりしてしまう幼児もいた。

(3) 一斉視聴

『にわとり』 5月10日(月) 13:00~13:15

♥幼児たちがいま興味をもっているニワトリに対し、さらに詳しく知ることで、より興味を持ったり、いたわりの気持ちを持って接して欲しい。また、これをきっかけに飼育当番への意欲を掻きたて、自ら進んで世話をしようという心が育って欲しい。

ビデオの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
オープニング	「あ！ニワトリ！」	幼児たちと共に、うれしい表情で見る。	自分たちの良く知っているニワトリが出てきたことに喜んでる。
親子で散歩の場面 ・「なにかニョロニョロしたものを見つけたぞ？ミミズだ！」 「長くて食べにくい」 ・「砂浴びをしてるんだ羽の中まで砂だらけ」	「かわいい！」 「いっぱいいる」 「ミミズだ」 「おそばみたい」「スパゲッティー」 「つるるんって食べてる」 「くろちゃんみたい」 「気持ち良さそうだね」「お風呂だ」		食べ方を面白がっている。 園にいるチャボとダブらせている。
産卵の場面 ・「お尻をヒクヒク、何が始まるのかな？」 ・「あ、見て見て、卵するっと卵が落ちる。」「ニワトリって、こうやって卵産むんだね」 ・くちばしで、卵を抱える。「大切に、大切におなかの下にしまいこむお母さんニワトリ」 ・「こうして3週間、ずっとおなかの下で卵を温め続けるんだって」	不思議そうに見ている。 T夫「あっ、卵でてくんだよ！」 「あー！」声を揃え、拍手。 「きれいだね」「つるつるしてる」 「あ、卵抱くんだよ」 「コツコツっておなかに入れてる」 じっと見ている。 「ふうん」	幼児と同じく驚きで目を輝かせる。 母どりの様子に気付くよう「あれ？何してんのかな」と問い掛ける。 「3週間もだって！」と驚く。	最初何だか分からなかった幼児も、卵が突然産み落とされたことにびっくりしつつ、感動している。
卵の孵化の場面 ・「ピョッピョッ」と卵の中から聞こえる。 ・コツコツと音がし、外側の殻が破れ内側の白い皮が見える。 ・「中のひよこが現れ始めた。…何時間もかか	聞耳をたてる。 「あー！」とびっくりする。 「ひよこが出てくるんだよ！」 「ひよこだ」 「くちばしだ」	「あれ!？」と注意を促す。	感心している反面、どのくらい長いのか感覚が掴めていない。 卵が返るのだとすぐに察し、期待感で満ち溢れている。

<p>って一生懸命殻を割るんです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「後もう一息だからねがんばって」 ・「やったあ！とうとう出てきました」 	<p>真剣な表情で聞いている。「がんばって！」ハラハラした表情で教師を見る。</p> <p>「出てきた！」と皆で大拍手。笑顔で画面を見つめたり、周囲と視線を合わせたりする。</p>	<p>「がんばってるね」と頷く。喜びの表情を交わす。</p>	<p>なかなか出てこないことにじれったさを感じている。ひよこがやっと産まれたことへの喜びを共感している。</p>
--	--	--------------------------------	--



視聴直後、どんなところがおもしろかったかの教師の問いに、「卵がコツコツってわれたよ」「でも、すぐ出てこなかった」「ミミズをおそばみたいに食べてたよ」などそれぞれに印象に残った場面を教えてくれた。

また、卵を温める3週間という長さを身振りで伝えると大変驚いて、「ずっとなの？」「すごい！」と母どりに対する感心や尊敬の声があがると同時に「くろちゃんも、このまえの時こうやってたのかなあ」「あっためたんだね」「3週間も？」「いつもおなかに入れてるよ」と園にいるチャボに対する言葉も聞くことができた。

翌日から始まる飼育当番に対しても「皆で育てれば大きくなるよね」「早くやりたいなあ」と期待が膨らんだ様子だった。



翌日最初の飼育当番になったH子は、家からたくさんのお水を用意してきて、朝から「飼育当番やる」と意欲的に取り掛かった。他の幼児もまわりによってきて「小さくしてね、ひよこちゃん用に」「いいなあ、あたしもやりたいなあ」「ぼくも一緒に行きたい？」と関心を示していた。

また「ミミズが好きなんだよ」「先生、ミミズの方が喜ぶよ」と、自分たちでたくさんミミズを探してきては、「ほんとにおそばみたいに食べたよ！」「もうたべちゃったよ！」「足りないんだよ」と、放送の内容を思い出してやってみる幼児もいた。

飼育当番を順番にしていくことで、それまで恐くて関わろうとしなかった幼児も、手でえさをあげようとしてみたり友達に教わって抱っこしてみたりするようになってきた。毎日飼育当番についていって一緒に水を替えたり無理に抱いたり追いかけてたりする友達に「いたいよ」「今いやだって」と注意する幼児の姿もみられる。

④ 気付いたこと

- ・自分たちが毎日触れ合って親しみをもっているニワトリの内容だったので、より高い関心をもって見ることができた
- ・産卵や孵化の瞬間の驚きやじれったさの感情を友達と一緒に味わうことができた。また、テレビの中のニワトリや園にいるチャボに対しても共感する姿が見られた。
- ・視聴後、チャボへの親しみや思いやりが増し、やさしく関わったり、自分から世話をする幼児が多くなったことからちょうど幼児の生活にあっていた内容だったのだと思う。

事例 4 紙芝居視聴
“ディズニー名作劇場「力持ちのポール」”

(1) 対象児

2年保育5歳児 21名(男児9名、女児12名)

(2) 幼児の姿

ちょうど運動会のシーズンで、この日は初めて綱引きの練習をした。保育室に帰ってからも「カー杯ひっぱったんだよ!」「もっともっとお弁当食べて、力つける!」「先生、ぼく力持ちだったでしょ?」と口々に興奮を語っていた。

幼児たちが自分の腕の力を意識していた様子から、おもしろく聞けるのではないかと思い、この話を読み聞かせることにした。

(3) 一斉視聴

『力持ちのポール』 9月16日(木)降園時

紙芝居の場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
赤ちゃんのポールが、ミルクを飲ませてもらう。	「これくらい?」と手で大きく身振りしたり、「このお部屋くらい?」「幼稚園より大きい?」「あ、分かった、宇宙くらいだ」「無限くらい?」と想像をめぐらす。 A夫「うわあ、おおきい!」と思わず呟く。 他の幼児も驚いたような感心したような表情で笑いながら見つめている。	降園時、皆が集まったところで「今日はね、ものすごく大きな男の子のお話だよ。どれくらい大きいか、分かる?」と問い掛ける。 「じゃあ、これからお話するから、どんな男の子なのか、よく見ててね」と始める。	これから始まる物語の主人公に対する、興味が湧いてきた。 場面から、ポールの大きさがすぐにどの幼児にも感じ取られたようだ。 物語の中に入り込んで楽しんでいる。
ポールの足に選ばれて子どもたちが学校へ通う。	C子「いいなあ、あたしも乗りたい」 どの幼児も真剣に見入っている。	「そうら、もうひとつ」「カーン!」「よいしょよいしょ」の部分は特に力を入れて、重みや力強さが伝わるように読む。	ポールのすごさをそれぞれに感じている。
もらった斧で、皆のために一生懸命木を切り倒したり、綱を引っ張って曲がった川の流れをまっすぐにしたりする。	N夫、「夫は握りこぶしで「よいしょ、よいしょ」と小声で教師に合わせて呟く	丁寧に、思いを込めて台詞を読む。	ポールの力強さや一生懸命さを体で感じている。
町の人とポールが、お互いに感謝の気持ちを伝え合う。	すがすがしいような、嬉しいような顔		相手に感謝する心の気持ち良さが少しでも伝わるといいな。
機械と競争して負けたポールが、別の町を作り旅立つ。	それまで笑っていた表情がなくなり、深刻そうな目でポールを見つめる。 A子、E子「…なんかかわいそう…」	ポールの淋しさ、落胆を十分に伝えると共に、気持ちの切り替えをはっきりと読む。	物語の展開や雰囲気をよく理解し、ポールの気持ちに共感している幼児が多いようだ。
「今でもかみなりがなると……ポールを思い出します。」	N夫「先生、ぼくそれ聞いたことがあるよ」 A夫「おれも。あっちのほう」 K子「え…でもアメリカっていったよ」	「そう、もしかしたら、ポールかもね…」とその気持ちを認める。	主人公をとっても身近に感じる事ができたんだな。

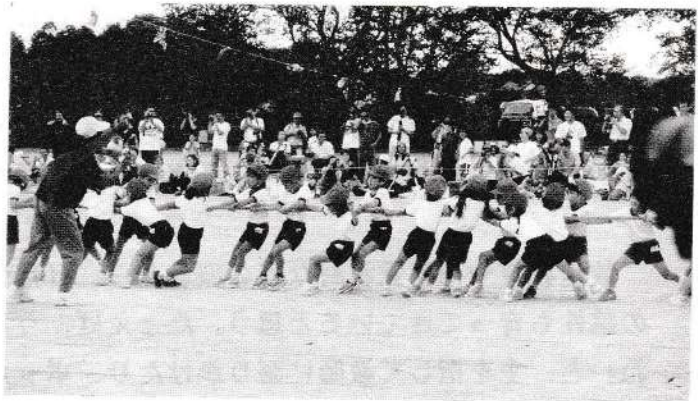
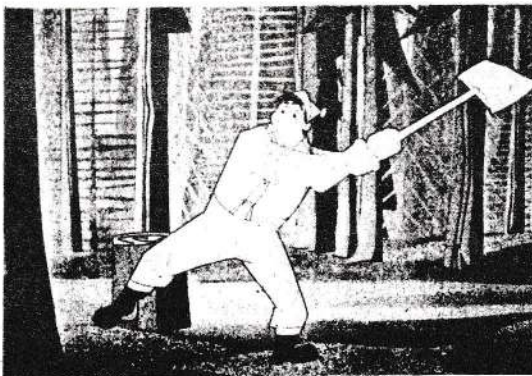


視聴後、余韻を持たせて扉をしめると、幼児たちの方から「なんか、ポールかわいいそう」「先生、ポールになりたい」「ポールと知り合いになりたい。幼稚園に早くこれるし。」「それにおもしろそうだよ」「すごいね、だって川なおすんだもん」「こうやって木を切ってた」「ちからもちなとこがすごい」「機械と勝負して負けたけど、他の町にいったよ」と、口々に感じたことを教えてくれた。

「皆もポールみたいになれるのかなあ」と教師が尋ねると、「えー！、どうやって!?!」「なれるよ、だって力持ちだもん」「今日、綱引きで勝ったじゃん」「分かった、これから毎日うでたてふせして、筋肉もりもりになればいいんだよ」と、ポールの力持ちな所がやはり印象的だったようで、「じゃあ、綱引きも今日みたいに皆でがんばればすごい力持ちになれるかもしれないね…」「うん!」と各自が意欲をもって降園した。

(4) 気付いたこと

- 主人公の体の大きさや、力の強さからくる物語のおもしろさと同時に、自分も話の中にいるような、反対にポールが本当にいるような、不思議な気分を十分に味わうことができたようだ。また、数人の幼児は何となくではあるが、ポールの心の痛みを感じることもできたようである。
- 「ポールみたいになりたい」という幼児の言葉に、ただ力持ちであるというだけでなく、教師の話のもっていき方では「人のためにやること」「あきらめないこと」も気が付くことができたのかもしれない。



みんなでお片付け!

幼児の姿と教師のかかわり

幼児は積木を使って遊ぶのが大好きである。しかし、一定の場所にたくさんの積木を四角に積み重ねて片付けるのは4歳児にはまだ難しい。入園当初、教師が中心となって、いくつかのコツを伝えながら一緒に片付けることで、自分たちでも片付けられるようにした。また、一緒にやりながら、「このまま散らかっていたら、誰かがころんでしまうね。」「このままだと、次に遊ぶとき大変だね。」と、なぜ片付けることが必要か伝えたり、「きれいに片付けると気持ちいい。」「片付けはみんなでやったほうが早い。」という気持ちももてるように言葉や行動で伝えた。



6月に入って、自分たちで片付けることも少しずつできるようになってきた。Y男、D男、R男は積木で電車を作るのが大好きである。中心となって積木の片付けもするY男。ある日、Y男が中心になって進めていたとき、「小さいのは後。」ともってくる子に怒りながら注意している。Y男の見ていない所に勝手に置くと、「ここはだめ。」「まだだよ。」と大声で怒るので、積木をどこにもおけず、何人かは片付けをやめて遊び始めた。「Y君が置かないでってあんまり怒るから、どこに置くかわからなくなって困っているみたいだよ。」「だって、みんなが勝手に置くんだもん。」「怒ってダメダメって言わないで、Y君は上手な片付け方を知ってるんだから、みんなに、やさしく教えてあげたり、直してあげたりして一緒に片付けたら。」とY男の気持ちを聞きながら話をした。すると、ふてくされながらも「穴ぼこが空かないようにするの。」と教えていた。教師と一緒によく片付けをしていたので、Y男は積木の片付け方を知っているが、Y男には一人でやるよりもみんなでやったほうが早い、協力してやる方がうまくいくということを知ってほしかった。

6月下旬、Y男だけが中心だった積木の片付けも、R男、M男も一緒になって他の幼児が持ってきた積木を隙間を作らないように置いている。M男が「三角と三角は合体して四角にするんだよ。」と三角が見えるように合体した四角を置き、M男も片付けの仕方を覚えて教える姿が見られた。Y男がいろいろ指示するなかで、まわりの幼児もやり方を覚え、M男のように、別の幼児に伝えていた。教師もいつでも手伝うのではなく、見守ったり、ほめたり、考えさせたりと幼児の成長と共に援助やかかわり方を変えていかなければならない。

気付いた点

- ・なぜ片付けをするか伝えていかなければ、いつまでも言われて片付けることしかできないので、片付けの大切さを理解し、やろうとする気持ちをもたせることが自分からやろうとする子を育てると思う。
- ・片付けのなかでたくさんのことを学ぶことができる。積木は三角や四角があること、三角を二つ合わせると四角になることなどに気付き、図形を覚えたり、図形に関心をもったりすることができる。また、一人でもてない大きい積木は友達と一緒にもてばいいなど考えたりすることができ、友達と力をあわせることもできるようになる。それらのことを教師がすべて教えこむのではなく、遊びながら気付かせたりしていくことが大切である。
- ・一人で片付けることも大切であるが、みんなでやろうとすること、みんなでやれば片付けやすいということ伝え、気付かせることで、みんなで役割を分担することができるようになると思う。

事例2 2年保育4歳児5月中旬

どうして仲間に入れてあげないの? 『S子ちゃんはだめ!』

幼児の姿と教師のかかわり

幼児たちはいつものように砂場で膝まで埋め込んで感触を味わったり、バケツに砂を入れてご馳走を作ったり、穴を掘って水を流しこんだりなどの遊びをしていた。M子、L子、A子たちがテーブルにお皿やお碗を並べてご馳走作りをはじめた。この日もM子が中心になってジュースを作ったりごちそうを作ったりしてまわりの幼児たちはそれができるのを待っていた。そこへ、普段、一人で遊ぶことの多いS子がやってきて、M子たちの遊びに興味をもち、仲間に入りたそうにしていた。



S子は自分からあまり言葉を発しない子だったため、きっかけをつかめないでいるのだと思い、教師がM子たちに「ねえ、S子ちゃんが仲間に入りたんだって!入れてくれる?」と聞くと、M子はあまりいい顔はしないで、「ええ!だって座れないよ」と言ったので、S子と一緒に椅子を探して仲間に入れてもらうことにした。S子はさっそくご馳走を食べようとお皿に手をもっていくと、すぐ様M子が「ダメ!」というので、今度はペットボトルをもってコップにつごうとしたが、「まだダメ!今作ってるんだから」と強く言われてしまった。S子は待っているのがつまらなかったのか砂が付いた両足をテーブルの上にのせた。隣でそれを見ていたM子は「だからS子ちゃんはいやなんだ」とかなり言葉を荒立てて怒鳴った。まわりの子ども二人の会話に言葉を失った様子だった。そこで教師が二人の間に入ってお互いの気持ちを伝えるようにしたところM子もS子も一応は納得したようだった。その後、他の幼児が仲間に入りたそうにしているとA子が椅子を持ってきてあげたり、Y子が場所を譲ったりしていた。またS子には「待ってなね、もうすぐできるから」となだめるT子の姿があった。教師が「よかったね。M子ちゃん、おいしいジュースができるかな?S子ちゃんがとっても楽しみにしているよ」と言葉をかけると、嬉しそうに「待って!オレンジジュースができるから」と答えていた。

気付いた点

- ・すべてにおいて行動がマイペースで、一人で遊ぶことが多く、生活に必要な言葉や態度がまだ育っていないS子と、自己主張が強く、自分が中心になって遊びを進めたがるM子の二人の性格の違いから起こったと思う。その二人の性格や行動の違いを教師がよく理解し、受けとめた上で、心情を汲み取り、その子やその場に合った言葉をかけてあげることがとても大切だと感じた。
- ・M子の主張が強く、まわりの幼児が気持ちを抑えて遊ぶことが多かったが、教師が二人の気持ちを受けとめ、相手にも思いがあることを代弁したことによって、M子はS子の気持ちに改めて気付いたり、S子も無意識にやっていた行動をいけないことだと気付いたりして、それぞれが自分の気持ちを振り返って考えることができた。
- ・教師のM子、S子に対するかかわり方を見て、まわりにいた幼児たちも仲間に入りたいと思っている幼児にやさしく声をかけてあげたり、場所を譲ったりしてあげるなど、他の幼児に対して気遣う心の変容が見られた。

事例3 2年保育4歳児6月中旬

言葉で伝えて!

幼児の姿と教師のかかわり

おままごとコーナーで、K男や女児3人くらいがご飯を用意したりして遊んでいる。女児が犬の人形を抱いて遊んでいるのを見て、K男はほしくなり、H子も持っている人形をつかんでとろうとするが、放さなかったため、K男はH子をたたいた。



K男は普段から気に入らないことやほしいものがあるときに、手や足が出てしまう。「ぶったー」「たたいた」などと他の幼児からでてくることがしばしばである。友達と一緒に遊ぶには、「かして」「まって」「ごめんね」と言葉で伝えていかなければ楽しく遊べない。こうしたトラブルを通して、言葉で伝えることの大切さをわかってほしいと思い、「お口で言わないとわからないよ。」「お話できるお口があるでしょう。」ということ伝えてきた。

H子が「先生、Kちゃんがぶった。」と言い、「Kちゃん、たたいたの?」「どうして?」と声をかけると、K男は無言で下をむいた。「Kちゃんはこのワンちゃんを使いたかったの?」と聞く。しばらくして「うん。」と答えた。「ねえ、使いたいときは、とったり、ぶったりしないで、どうしたらいいの?」とまわりの子にも一緒に話しかけると、T子が「貸してっていうんだよ。」「そうね。貸してって言うといいね。Kちゃんもお話できるよね。お友達に貸してって聞いてごらん。」と促した。

「かして。」とK男が言うと、今度はH子が何も答えない。「Hちゃん、Kちゃんが聞いているよ。どうする?」それでも黙ってうつむいたままである。「貸したくないのかな?」H子は頷く。「でも、この人形をKちゃんが遊びたいのもわかるかな?H子ちゃんと同じようにこのお人形で遊びたいんだね。じゃあ、すぐに貸してあげられなかったら『終わったら貸してあげるね。』って言ってあげたら?」とH子のまだ遊びたいという気持ちを受け止めながら、K男も同じ気持ちであることを伝えた。

教師は、H子たちがK男への悪いイメージから貸してあげるか不安もあったので「でもね、Kちゃん、もしお約束して、なかなか終わらなかったら、『まだ??』って聞いていいんだよ。」と、伝える。しばらくして、K男が笑いながら、H子に「貸して。」と聞くと、H子「いいよ。」と、人形を渡しながら大声で笑いあった。教師は「Kちゃん、お口で言えたね!H子ちゃんもお約束したとおりに貸すことができたのね。」と二人をほめた。

気付いた点

- ・K男は、言葉で伝えると気持ちよく遊べることを感じ始めている。そのことをもっと実感することが必要であり、教師はK男の様子を見守り、伝えられたときには認めて、ほめたり、なかなか言葉がでないときには一緒に考えたりすることが大切だと感じた。
- ・言葉は知っていても、伝える勇気が出ないことも多い。幼児の思いを読み取り、どう思っていて、どうしたいのかわちんとわかってあげたり、幼児には見えていない相手の思いを伝えてあげたりすることが教師は必要である。教師の声かけで友達に話しかける勇気が出たり、相手の思いを知ることができるので、教師は幼児の行動を見守り、心をくみとることが必要である。
- ・遊びのなかのトラブルを通して、まわりの子の気持ちを知ろうとしたり、考えたりして、みんなで解決しようとする気持ちや相手を思いやったりする心が育ってくれるのではないかと思う。

事例4 2年保育4歳児10月中旬

友達と一緒に楽しいな『忍者の修行ごっこ』

幼児の姿と教師のかかわり

5,6人の 男児が砂場の近くの滑り台を利用して、そこを岩にして何か技を掛けながら降りてきたり、よじ登ったりして遊んでいた。その幼児たちの動きをみて、教師が思わず「かっこいいね、忍者みたい。」という、Y夫が「忍者ってこうやって術をかけるんだよ」と指を組んで忍者の真似をする。するとそれに習ってM男やS男たちもすっかり忍者の気分になってやってみせた。その姿を見て女兒も興味を示した。忍者の話で盛り上がっているとY夫が「先生、忍者は修行をするんだよ」と言ったので「修業ってどんなこと？」と関心を示すと、Y夫は坂を転げ落ちたり、芝生の上をでんぐり返しをしたりしてみせた。他の幼児も「ぼくだって修業する」と遊びに加わり得意な側転をしたり、滑り台を掛け登ったり、植込に隠れたりしてみせた。また「忍者ってさ、音を立てないで走るんだよ」といって小走りに走ったり、ジャンプして砂場に飛び込んだり、太鼓橋、チェーンネット、ジャングルジムなどの固定遊具を利用して登ったり渡ったりなど、一人の幼児の修業という言葉からいろいろな忍者の動きがうまれた。



翌日、遊びがよりおもしろくなるというなど考え、みんなでビデオ“つくってあそぼ：忍者でござる”を視聴した。視聴後、ワクワクさんをまねて、新聞紙を使って手裏剣や刀を作ったり、さらに忍者らしくなるように教師がカラーポリ袋の忍者服を作ってあげると、喜んでそれを身に付け、作った刀や手裏剣を持ち、すっかり忍者に変身して遊んでいた。他の幼児も「ぼくも作りたい」「わたしも作って」と興味をもち、たくさんの幼児が遊びに加わった。その後、園庭に出て教師と一緒に修業のコースをつくり、それぞれの幼児が思い思いにタイヤ飛びやけんけん飛びをしたり、築山を寝転がって降りたり側転をしたりしているいろいろな修業ごっこの表現をしながら友達と一緒に体を思いきり動かして遊ぶことを楽しんでいた。

気付いた点

- ・教師の言葉かけひとつで幼児の心を動かし、遊びを生み出したり、遊びに興味湧いたり、イメージが膨らんだりして友達と一緒に楽しく遊ぶことができた。それには普段から幼児との信頼関係を築き、かかわっていくなかで教師の態度や受けとめが重要であると感じた。
- ・小道具や洋服があるとそのものになりきって遊べるので、予想して材料を用意しておくことも遊びを発展させていく大事な環境のひとつであると思った。
- ・身体を動かす遊びやルールのある遊びに興味をもってきた頃に、教師が“忍者の修行ごっこ”の遊びを取り入れ、飛ぶ、走る、転がる、渡るなどの運動遊びも組み込まれ変化に富んだ環境を用意したことから、友達とのかかわりができ、一緒に遊ぶ楽しさを感じることができたと思う。
- ・教師は、幼児の興味や発達、運動機能等を十分考慮して環境を用意していくことがその遊びを盛り上げる要因になると思う。

ルールを守ろう

幼児の姿と教師のかかわり

幼児たちの間で、“転がしドッジボール”の遊びが始まっていた。円を描き、円の外からボールを投げ円の中にいる幼児がボールに当たったら円の外に出る、という簡単な遊びである。

この日も、クラスの半分かくらいの幼児が転がしドッジボールに興味をもちはじめ、友達や教師と一緒に遊んでいた。その中には、自分の思いが通らないとすぐに友達をたたいたり、ぶったりする幼児、Y男も加わっていた。また、転がしドッジボールのルールがよくわからないK男もいた。Y男がボールに当たり円の外に出て、Y男は自分の所にボールが来るのを待っている。その隣には、Y男と同じようにK男が立っていた。そこへ待ちに待ったボールが2人の元へ転がってきた。2人は「ボールがきた！」と思い、ボールにとびついた。Y男もK男もほとんど同時に、ボールに手を出した。Y男は「何するんだよ。僕が先にボール取ったんだよ！」とK男にいい、「違うよ！僕が先だったんだよ！」と大声を出してボールの取り合いが始まった。普段から2人はボールの取り合いでトラブルを起こし、その都度、教師が仲裁に入り、お互いの思いを聞いたり、伝えたりしてきた。しかし、いつまでも教師が仲裁してばかりでなく、そろそろ2人で、周りの幼児から刺激を受けながら解決できるようにしたいと思い、しばらく様子を見守ることにした。ボールはいつまでもY男とK男の手の中にあり、ゲームは始まらない。他の幼児もそれを見てどうしたらよいか分からない幼児もいれば、「早くしてよ。」と、ゲーム再開を促す幼児もいた。教師がここで幼児たちがスムーズに遊べるようにルールを決めたり、教え込んだりしてゲームを再開させることは易しいことだろう。しかし、幼児たちがどうしたら楽しく友達と一緒に遊べるのだろうか？と考えたり、悩んだり、またルールを守りながら遊ぶ大切さにも気付くために教師は、「Y男君、K男君みんなが待っているよ。いつまでもボールのとりっこをしていていいのかなあ？どうしたらいいの？」と声をかけた。すると、M男が「じゃんけんして決めれば？」と提案した。教師は「それはいいアイデアだね。」と、M男の提案を認めるようにしたところ、Y男とK男は2人でじゃんけんをはじめ、K男が勝ちゲームが再開された。じゃんけんに負けたY男は、ボールを投げられなかったことに悔しい表情をみせたので、教師はY男に「お友達にボールを譲って偉かったね。」と誉めた。Y男は「うん。」とうなずき、表情も和らぎ、最後まで転がしドッジボールをして遊んだ。

その後、ボールの取り合いが起こるたびに、幼児同士でじゃんけんを行い、勝った人が投げられるというルールが確立し、それを守りながら遊べるようになっていった。



気付いた点

- ・男児2人のボールの取り合いからゲームが中断した時、教師がすぐに仲裁せず見守ることで幼児たちはゲームを中断すると「つまらない。」という感じ、どうしたら楽しく遊べるのかと自分たちで知恵をだし、遊びが再開できるように考えることで、友達の意見も受け入れられるようになった。
- ・Y男やK男は、みんなから「早くしてよ！」と指摘されることや、みんなが待っているということで、「自分ばかり勝手なことをしていたのではいけない。」ということに気付く、いいきっかけだったのではないかと思う。
- ・M男のじゃんけんの提案を認めたことで、他の幼児たちもルールの大切さに気付き、ルールを守りながら遊ぶと楽しいということが分かってきたのだと思う。
- ・Y男がじゃんけんに負けた時に、K男にボールを譲る気持ちを誉めたことで、我慢することの大切さに気付くことができた。また、みんなと一緒にゲームをする楽しさがわかってきたので、最後まで転がしドッジボールをして遊んでいたのではないか。この時期は我慢する心や最後までやり通そうとする心の育つ時期であることから、保護者と連携をとり、協力を得ながら幼児の心を育てていくことも大切であると思う。

事例6 2年保育4歳児2月頃～5歳児6月頃まで

ルールを変えると楽しいね!

幼児の姿と教師のかかわり

4歳児の2月頃、幼児たちの間で“転がしドッジボール”が人気のある遊びの一つとなっており、友達と一緒にルールを守りながら遊んでいる姿がよく見られた。

ある日、うさぎ組の幼児数名が転がしドッジボールを楽しんでいた。後からりす組の幼児数名が自分のクラスのボールをもって「仲間に入れて。」とやってきた。うさぎ組の幼児たちが「いいよ。」というとりす組のY男が持っていたボールをいきなり投げ始めた。そのことからボールが1個から2個で行う転がしドッジボールが始まった。その際に教師は、幼児の動きや、幼児が転がしドッジボールのルールが分かっているかなどの状況を把握し、2個のボールを使った転がしドッジボールのルールを認めるようにしていった。幼児たちは「きゃー!」といいながら、ボールに当たらないように逃げ回ったり、円の外にいる幼児は、ボールを一生懸命に取ろうとしたりして、ボールが2個になったことで動きが活発になった。そこで教師は、友達とぶつかり合う危険性が予測されたので幼児の動きを見ながら円の大きさを変えた。また、ボールが急に2個になってしまい戸惑っている幼児には、「○○ちゃん、ほら、後ろからもボールがくるよ!」「○○ちゃん、今当たっちゃったね。」と声をかけ遊びが盛り上がるようにした。その後、幼児たちの間で、2個のボールを使った転がしドッジボールが白熱していき、楽しく遊んでいた。

4歳児の3月頃には、5歳児が行っている“ドッジボール”をする姿を見て、おもしろそう、やってみたいなど思い、「仲間に入れて。」と年長児に話しかけている幼児の姿も見られるようになった。仲間に入れてもらった年少児は、好きなチームに入れてもらい、ボールは取らずに逃げ回ったり、ボールに当たった時には、線の外に出る事は分かっても、どこに出ればいいのか分からずに戸惑っている姿が見られた。しかし、年長児に「○○ちゃんはあっちに出るんだよ。」「○○ちゃんは、当たったから外に出るんだよ。」などと優しく教えてもらい、両学年で遊んでいる様子が見られた。4歳児は5歳児への憧れの気持ちをもって、自分たちも大きい組の遊びをやってみたいと思っているので、教師はこうした幼児の素朴な気持ちを大切にするようにした。また、年少児と年長児が関わっている様子を温かく見守るようにしながら、年長児に教えてもらったがよく分からずいたり、ルールを無視したりしている幼児に対して、必要に応じてルールを分かりやすく話しをし、幼児たちと一緒にドッジボールをして遊びながら伝えていくようにした。年長児と一緒にドッジボールをすることで、だんだんとルールが分かるようになり、その後、年少児だけで2チームに別れてゲームを楽しむ様子も見られるようになってきた。

年長児になると、「一緒にドッジボールをして遊ぼうよ。」と友達同士で誘い合って一緒に楽しむ姿が見られた。チーム分けも2人組になってじゃんけんをし、「勝った人は、こっちチーム」「負けた人は、あっちチーム」と自分たちでゲームを進められるようになり、自分のチームが負けそうになった時は「○○ちゃん、がんばれ!」と応援したりして、友達と一緒に遊ぶ楽しさとルールを守る中で勝敗をつけるおもしろさもわかるようになってきた。



気付いた点

- ・ボールが1個から2個へと偶発的に始まった新しいルールだったが、教師が「危ないから駄目だよ。」と否定するのではなく、認めたことで幼児は、「ルールを変えるとおもしろいな。」ということに気付いたり、ボールがどこからとんでくるか分からないドキドキ感もあったりして、遊びが盛り上がり持続して楽しむことができたのだと思う。
- ・ボールが2個になったことで、円の中の幼児は、ボールから逃げるための敏捷性がついたり、円の外にいる幼児は、ボールに触れる機会も増え、ボールをとることが上手になったり、円を大きくしたことから投力もつくようになった。このように幼児の様子に応じて環境を変化させることが幼児の成長を促すのに大切であると思う。
- ・5歳児と一緒に遊び、転がしドッジボールからドッジボールへとゲームが変化したことで、より遊びがおもしろくなったり、ルールを守って遊ぶことの大切さがわかってきた。それは、遊びの様々な場面で葛藤を繰り返しながら、友達の意見を受け入れる心も育ってきたからだと思う。

友達と一緒に作ろう

幼児の姿と教師のかかわり

空き箱を使って作ることが大好きな幼児たちはこの頃、自動車を作って遊ぶ姿がよく見られた。自分の思いを出して車を作っていたが、動かない車に物足りなさを感じ、遊びが停滞してきているようなので「つくってあそび乗り物工場」のビデオを視聴することでそこからヒントを得てより楽しく遊ぶことができるのではないかと考え、みんなで視聴した。視聴後、各自のイメージでワクワクさんのまねをしながら片ダンボールを丸めて動く自動車づくりを始めた。一人ではできない子には「やってあげるよ」と声を掛けたり友達同士で教え合ったりしながら作る姿が見られた。車ができあがり、友達と競争して楽しんでいるとK子が「先生、みんなで街を作りたい!」と言った。「Kちゃんいい考えね」とK子の発想を認め、他の幼児にも伝えた。この遊びをきっかけにクラスみんなで遊べるというのを考え幼児と一緒に街づくりに必要な材料を用意し作り始めた。Y子は「信号の色が変わるようにしたい」というので幼児の思いを受けとめ教師も一緒に工夫しながら作った。友達の良さにも気づき刺激し合えるように「Yちゃんは信号が変わるようにしたんだって。すごいね。」と褒めたり「TちゃんとSちゃんは分担して作っているよ」と周りの幼児に広めた。街づくりが進む中で普段から友達とトラブルの多い女児3名が途中で抜けていった。日頃から自己中心的な行動が多いので他の幼児がどのような反応をするのか様子を見た。抜けたことに他の幼児たちも気づき、何人かずつ順番に3人の所に行っては「一緒に作ろうよ」「みんなでやらないとできないよ」と誘いかけていた。そこで、他の幼児のみんで作りたいという思いやみんなで協力して作る大切さに気付くように話をした。子どもたちは意欲的に取り組み「ガタガタ道も作ろう」「T君の作ったおうちにはカーテンもあるよ。すごい」と友達の良さを認め、出来上がった街に作ったバトカーやショベルカーを走らせたりして遊び始めた。遊びがより楽しくなるように救急車などの効果音を流し「どこかで事故みたいです」と声をかけると「どこですか?」と事故現場を探したり、「救急車は赤でも走れるんだよ」といいながら走らせ自分たちでいろいろな場面を考えながら遊んでいた。



気付いた点

- ・ 幼児の気持ちを受け止めたり、見守ったり、必要に応じて援助したりすることで車づくりだけでなく街づくりにも興味を示し、クラスみんなで「街を作ろう」という目的に向かっての一体感が出てきたように感じた。上手く入れずに抜けてしまう幼児も見られたが、他の幼児が誘いかけクラスの仲間意識が育ってきたように思う。
- ・ 友達同士で協力したり刺激し合ったり、アイデアを出し合ったりしながら遊ぶためには教師の援助のタイミングが大切であると感じた。
- ・ 街づくりになったことでいろいろな友達とのかかわりが増え、みんなで作り上げた充実感、達成感が味わえていたようだった。

事例8 2年保育5歳児7月

いっぱいとれたよ！

幼児の姿と教師のかかわり

年長組に進級した幼児は3月に植えたじゃがいもが気になり、朝、登園してくるとじゃがいもの芽の出たところに「こっちはまだ小さいなー」と言いながら水をあげ収穫を期待して世話をしていた。植物は水をあげたり雑草を抜いたり、肥料をあげたりしてまめに世話をしないと大きく育たないことに気付かせ

ると、雑草を見つけては「栄養を摂られちゃうんだよ」「大変だ！！」と言いながらみんなで抜くようになった。また、ありや虫を見つけるとりありさんのおはなしと歌を口ずさんだり、図鑑で虫を調べたりしていた。あまり畑に興味のない幼児たちにも植物の生長に興味をもってほしいと思い、よく世話をしている幼児たちに畑の様子をみんなに知らせる機会を設け畑に興味を設けた。そのうちに花が咲き始めると「あっ、花が咲いてるよ」「わあー。白いんだね」「こっちも咲いているよ」ととても嬉しそうだった。子どもたちがじゃがいものちょっとした変化にも目を輝かせている姿を受けとめ、共感するようにしていった。また、遊んだ後に「じゃがいも大きくなっているかな？」と伝えることで興味や関心が持続するようにした。この頃になると「中のおいもはどのくらいかな？」「きっと大きいよ」と期待も高まってきた。しばらくするとじゃがいもが土の表面に顔を出し始めた。「わあー。じゃがいもができてるよー！」「ほんとだっ」とみんな大喜び。「じゃあ、少しだけ掘ってみよう」と声をかけ子どもたちと一緒に掘ってみると大きいのがみつかった。「できてる！」「大きいね、早く掘ろうよ」と早く収穫したいという気持ちが高まった。

そして翌日、大きいじゃがいもを期待してみんなで掘り始めた。「こんなに大きいのが採れたよ」「僕だって大きいよ」と友達同士で比べっこをしたり、形を見比べたりしていた。「たくさんのじゃがいもが採れたね。みんなが一生懸命に世話をしてきたからだよ」「まだ、土の中にあるかもしれないね。よく探してみてごらん？」と話すと、土で汚れることも気にせず土を掘り返し「あったよ」「ここにはないや」と畑を耕していた。「たくさんとれたね」「早く食べたいな」「先生、小さい組にもあげようよ」と年少組のことも思いやる気持ちが見られたことを嬉しく思い「年少さんもきっと喜ぶよ。みんなで一緒に食べようね」と収穫を喜ぶ心を大切に受けとめた。



気付いた点

- ・毎日続けて世話をしてきたことで、自分たちのじゃがいもという特別な思いがし、大きく育つようにたっぷり水をあげたり雑草を抜いたりして優しい気持ちで世話をし生長を見守る事ができたように思う。
- ・たくさんのじゃがいもに感動し、収穫の喜びを満喫すると自然に自分たちだけでなく分けてあげたいという気持ちになるのだと思う。
- ・教師自身が感性豊かであり、また優しい気持ちで植物に接していくことで幼児も感性や優しさが自然と芽生えてくるのではないかと思う。教師はよきモデルとなるように努めることが大切であると感じた。

目標の指標化

3つの 進捗目標	低学年	中学年	高学年
学力の向上	<p>6歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思ったことや考えたことを友だちに伝えたり、友だちの思いや考えを受け入れたり理解し合ったりする。(※1) 絵本や歌謡に親しみ、想像する楽しさを味わう。 遊びや生活を通して文字や数詞に興味や関心をもち、 元氣よくおしゃべりしたり、英語に「おはよう」「ごめんね」を言ったりする。 友だちと積極的にいかかわりながら、喜びや楽しみを共有し、 友だちや異年齢児に親しみや想いやりの気持ちをもち、 共通の目的に向かって、友だちと一緒に作業や遊びを楽しむ姿勢をもち、 友だちとの生活や遊びの中で適切な大げさに気づき、守ろうとする。 おどやや驚きなどがあることに気づき、考えながら行動する。 身近な動物に興味を持ち、その生き生きとした姿に気づき、いたわったり大切にしたりする。(※1に配慮) 自然の中で遊んで生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく。 (※1に配慮) 動物や自然の仕組みを身に付ける。 一日の生活のつくりかたを、安全な生活や遊び方を学び、守って行動する。 自分の目標に向かって努力し、積極的に様々な挑戦をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を最後まで聞く。 正しい姿勢、口形で最後まで話す。 読めば読むほど楽しむ。 自分自身で学習する。 工夫して学習する。 ものごとのわけを考え、 元氣よくおしゃべりし、返事をする。 「～です、～ます」「ありがとう」「ごめんね」「ごめんなさい」を素直に言う。 友だちや物・人に、親切にする。 友だちの思いを受け入れ、失敗を許す。 友だちと協力しあって、活動する。 自分のことは自分です。 のびのびと行動する。 うそをいわない 家族に親しみ、 自然に親しみ、 楽しいものを大切にする。 動物や自然の仕組みを身に付ける。 好きな食べ物のつくりかたを、安全な生活や遊び方を学び、守って行動する。 元氣よく遊ぶ。 最後までがんばる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を最後まで聞き、 内容を整理し、分かりやすく話す。 要点をつかみ、読書の楽しさを広げる。 協力して学習する。 新しい考え方や方法を考え出す。 常に探究態度をもつように努める。 相手の態度を見て、はっきりおしゃべり、返事をする。 「～です、～ます」「ありがとう」「ごめんなさい」「失礼します」をはっきり言う。 相手のことを思いやり、親切にする。 相手の立場を理解する。 働くことの大切さや喜びを味わい、専任活動をする。 自分の責任を果たす。 責任ある行動をする。 正しいと思うことは、勇気をもって正しく行動する。 親士を愛する。 自然にやさしい心で遊ぶ。 清らかな心で愛敬心をもつ。 自分で動物や自然に親しむ。 何でも食べることが好きな体を作る。 安全に遊ぶ。 適切な運動に親しみ、 苦しいことも辛くも乗り越える。
規律ある態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや物・人に、親切にする。 友だちの思いを受け入れ、失敗を許す。 友だちと協力しあって、活動する。 自分のことは自分です。 のびのびと行動する。 うそをいわない 家族に親しみ、 自然に親しみ、 楽しいものを大切にする。 動物や自然の仕組みを身に付ける。 好きな食べ物のつくりかたを、安全な生活や遊び方を学び、守って行動する。 元氣よく遊ぶ。 最後までがんばる。 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの大切さや喜びを味わい、専任活動をする。 自分の責任を果たす。 責任ある行動をする。 正しいと思うことは、勇気をもって正しく行動する。 親士を愛する。 自然にやさしい心で遊ぶ。 清らかな心で愛敬心をもつ。 自分で動物や自然に親しむ。 何でも食べることが好きな体を作る。 安全に遊ぶ。 適切な運動に親しみ、 苦しいことも辛くも乗り越える。 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの大切さや喜びを味わい、専任活動をする。 自分の責任を果たす。 責任ある行動をする。 正しいと思うことは、勇気をもって正しく行動する。 親士を愛する。 自然にやさしい心で遊ぶ。 清らかな心で愛敬心をもつ。 自分で動物や自然に親しむ。 何でも食べることが好きな体を作る。 安全に遊ぶ。 適切な運動に親しみ、 苦しいことも辛くも乗り越える。
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 動物や自然に興味を持ち、その生き生きとした姿に気づく。 身近な動物に興味を持ち、その生き生きとした姿に気づく。 (※1に配慮) 動物や自然の仕組みを身に付ける。 好きな食べ物のつくりかたを、安全な生活や遊び方を学び、守って行動する。 元氣よく遊ぶ。 最後までがんばる。 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの大切さや喜びを味わい、専任活動をする。 自分の責任を果たす。 責任ある行動をする。 正しいと思うことは、勇気をもって正しく行動する。 親士を愛する。 自然にやさしい心で遊ぶ。 清らかな心で愛敬心をもつ。 自分で動物や自然に親しむ。 何でも食べることが好きな体を作る。 安全に遊ぶ。 適切な運動に親しみ、 苦しいことも辛くも乗り越える。 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの大切さや喜びを味わい、専任活動をする。 自分の責任を果たす。 責任ある行動をする。 正しいと思うことは、勇気をもって正しく行動する。 親士を愛する。 自然にやさしい心で遊ぶ。 清らかな心で愛敬心をもつ。 自分で動物や自然に親しむ。 何でも食べることが好きな体を作る。 安全に遊ぶ。 適切な運動に親しみ、 苦しいことも辛くも乗り越える。

知的な好奇心
言語
コミュニケーション

徳
思いやり・言葉遣い
不とう不屈

健康安全
早寝早起き
朝ごはん

学びの接続

育ちの接続

幼・保・小連携による心豊かに生きる子どもの育成

幼稚園教育要領・保育所保育指針と小学校学習指導要領のつながり「人間関係」

ねらい	5 歳児 (幼稚園)	6 歳児 (保育所)	学年の目標	第 1 学年及び第 2 学年
人間関係	他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。	(1) 進んで身近な人と関わり、信頼感や愛情を持って生活する。 (2) 身近な人との関わりの中で、人の立場を理解して行動し、進んで集団での活動に参加する。 (3) 進んで異年齢の子ともたちと関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わう。	学 年 の 目 標	・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもち、それらに愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。(生活科) ・学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。(道徳) ・望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。(特別活動)
ねらい	(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分です。 (4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (5) 自分の思っていることを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (6) 友達のをよさに気付き、一緒に行動する楽しさを味わう。 (7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (8) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 (9) 友達のかかわりを深め、思いやりをもつ。 (10) 友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする。 (11) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。	(1) 保育士や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。 (2) 集団遊びの楽しさが分かり、まじりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 (3) 進んで自分の意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受け入れたりする。 (4) 友達との生活や遊びの中でまじりがあることの大切さに気づく。 (5) 自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする。 (6) 友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることが分かり、判断して行動する。 (7) 共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 (8) 自分より年齢の低い子どもにも、自ら進んで声をかけをして誘い、いたわって遊ぶ。 (9) 外国の人など自分とは異なる文化をもった様々な人に関心をもち、知ろうとするようになる。	生 活 科	・学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことなどが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。 ・家庭生活を支えている家族のことや自分で行うことなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。 ・自分たちの生活、地域の人々や様々な場所とかわわっていることが分かり、それらに親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。 ・公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えている人々がいることが分かり、それららを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。 ・身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったたりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。 ・多くの人々の支えにより自分が大きくなってきたこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、増えたとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。
内容	(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分です。 (4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (5) 自分の思っていることを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (6) 友達のをよさに気付き、一緒に行動する楽しさを味わう。 (7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (8) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 (9) 友達のかかわりを深め、思いやりをもつ。 (10) 友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする。 (11) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。	(1) 保育士や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。 (2) 集団遊びの楽しさが分かり、まじりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 (3) 進んで自分の意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受け入れたりする。 (4) 友達との生活や遊びの中でまじりがあることの大切さに気づく。 (5) 自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする。 (6) 友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることが分かり、判断して行動する。 (7) 共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 (8) 自分より年齢の低い子どもにも、自ら進んで声をかけをして誘い、いたわって遊ぶ。 (9) 外国の人など自分とは異なる文化をもった様々な人に関心をもち、知ろうとするようになる。	道 徳	・気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 ・身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 ・友達と仲よくし、助け合う。 ・日ごろ世話になっている人々に感謝する。 ・みんなが使う物を大切にし、約束やまじりを守る。 ・父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 ・先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。 ・郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。
特別活動	(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分です。 (4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (5) 自分の思っていることを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (6) 友達のをよさに気付き、一緒に行動する楽しさを味わう。 (7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (8) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 (9) 友達のかかわりを深め、思いやりをもつ。 (10) 友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする。 (11) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。	(1) 保育士や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。 (2) 集団遊びの楽しさが分かり、まじりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 (3) 進んで自分の意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受け入れたりする。 (4) 友達との生活や遊びの中でまじりがあることの大切さに気づく。 (5) 自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする。 (6) 友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることが分かり、判断して行動する。 (7) 共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 (8) 自分より年齢の低い子どもにも、自ら進んで声をかけをして誘い、いたわって遊ぶ。 (9) 外国の人など自分とは異なる文化をもった様々な人に関心をもち、知ろうとするようになる。	特 別 活 動	・学級活動においては、学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上を図り、健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。 ・学校行事においては、全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体系的な活動を行うこと。

幼稚園教育要領・保育所保育指針と小学校学習指導要領のつながり「伝え合う力」

	5 歳児 (幼稚園)	6 歳児 (保育所)	学年の目標	第1 学年及び第2 学年
ね ら い	<p>言葉 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。</p> <p>(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</p> <p>(2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p> <p>(3) 日常生活に必要な言葉が分かるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。</p>	<p>(1) 自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わう。</p> <p>(2) 人と話し合うことや、身近な文字に関心を深め、読んだりすることの楽しさを味わう。</p> <p>(3) 絵本や童話、視聴覚教材などを見たり、聞いたりして様々なイメージを広げるとともに、想像することの楽しさを味わう。</p>	<p>(1) 相手に応じ、経験したことなどについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事なことを落とさないように聞くことができるようになることともに、話し合おうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようになることともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気がつきながら読むことができるようになることともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>	
内 容	<p>(1) 先生や友達の話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>(2) したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>(3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分らないことを尋ねたりする。</p> <p>(4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>(5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</p> <p>(6) 親しみをもって日常のあいさつをする。</p> <p>(7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</p> <p>(8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>(9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。</p> <p>(10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</p>	<p>(1) 日常のあいさつ、伝言、質問、応答、報告が上手になる。</p> <p>(2) 身近な事物や事象について話したり、日常生活に必要な言葉を適切に使う。</p> <p>(3) みんなで共通の話題について話し合うことを楽しむ。</p> <p>(4) 話し相手や場面の違いにより、使う言葉や話し方が違うことに気づく。</p> <p>(5) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>(6) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</p> <p>(7) 童話や詩などの中の言葉の面白さ、美しさに気づき、自ら使って楽しむ。</p> <p>(8) 絵本や物語などに親しみ、内容に興味を持ち、様々な想像して楽しむ。</p> <p>(9) 身近にある文字や記号などに興味や関心を持ち、それを使おうとする。</p>	<p>ア 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話す。</p> <p>イ 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもつて聞くこと。</p> <p>ウ 身近な事柄について、話題に沿って、話し合うこと。</p> <p>ア 相手や目的を考えながら、書くこと。</p> <p>イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。</p> <p>ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること。</p> <p>エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。</p> <p>オ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いやなどに注意すること。</p> <p>ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。</p> <p>イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。</p> <p>ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。</p> <p>エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。</p>	

幼稚園の5歳児の指導内容から関連する小学校教科

月	ねらい	指導内容	教科
4月	○年長になった喜びと自覚をもち、新しい生活に必要な決まりを守る。 ○友達と一緒に好きな遊びを十分楽しむ。 ○身近な春の自然に触れて遊ぶ。	・年少児にしてあげられることを考え、親しみをもって接する。	道徳
		・新しい生活の場を整えたり、決まりを話し合ったりする。	道徳
		・香の草花遊びや虫探しに興味をもち、友達と一緒に楽しむ。	生活・理科
		・自分の思っていることを伝えたり、友達の考えを聞いたりする。	国語
5月	○戸外で思い切り体を動かして遊びながら、友達とのかわりを深める。 ○身近な動植物に興味や関心をもち触れて遊ぶ。	・戸外で遊びながら、砂・土・水の感触を十分に味わい、試したり、工夫したりして楽しむ。	生活・理科・体育
		・種まきや苗植えなどの栽培を通して植物の生長に興味をもつ。	生活・理科
		・自分の考えを相手にわかるように話したり、友達の話聞き理解しようとしたりする。	国語
		・戸外で友達と一緒に、のびのびと体を動かす心地良さを味わう。	体育
		・園庭の草花や新緑の変化に気付いたり、気付いたことを話したりする。	生活・理科
		・当番の仕事や身の回りのことを友達と楽しんで行う。	道徳・生活
		・自分の体のしくみや成長に関心をもつ。	理科
6月	○気の合う友達と思いを伝え合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○梅雨期の自然事象や動植物に興味や関心をもち、見たり触れたりして遊ぶ。	・歯の大切さを知り、歯の衛生に関心をもつ。	学活
		・雨の日の散歩を楽しみながら、雨の降る様子、雲の動き、水滴など気付いたことを伝え合う。	生活・理科
		・小動物に触れたり、よく見たりして発見したことを教師や友達と伝え合う。	生活・理科
		・友達と一緒に曲に合わせて歌ったり踊ったり楽器をならしたりし、いろいろな表現を楽しむ。	音楽
		・感じたことや考えたことをイメージして、いろいろな材料を使って作ったり遊んだりする。	図工
		・自分のイメージや考えを伝えながら、友達と遊びを進める楽しさや共感する楽しさを味わう。	全教科領域
		・約束を守って安全にプール遊びを楽しむ。	体育

7 月	<p>○プールでのいろいろな水遊びに挑戦したり、試したりして楽しむ。</p> <p>○七夕など夏の行事に関心をもち、異年齢児と一緒に集いを楽しむ。</p> <p>○飼育物や栽培物の生長に興味や関心をもち、進んで世話をしたり親しみをもってかかわったりする。</p>	・自分なりの目標をもち、プールでの遊びを楽しむ。	体 育
		・星や空、宇宙などに興味や関心をもちイメージをふくらませる	理 科
		・色や形などに関心をもち、工夫して作ったり飾ったりして七夕の行事に触れる。	図工・生活
		・友達と一緒に歌ったり、楽器を使ったりして音色やリズムを楽しむ。	音 楽
		・生活や遊びを通して、進んで年少児とかかわり楽しく過ごす。	道 徳
		・収穫した野菜を友達と一緒に切ったり、食べたりする喜びを味わう。	家 庭
		・夏野菜の感触やにおい、数や形などに関心をもち。	生活・理科
		・栽培物の生長や変化に興味や関心をもち、世話をしたり収穫したりする。	生活・理科
9 月	<p>○友達と一緒に戸外でいろいろな運動遊びに取り組み、体を動かす心地良さを味わう。</p> <p>○友達と共通の目的をもって考えを出し合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。</p> <p>○身近な草花や虫などに親しみをもってかかわったり触れたりして大切にす。</p>	・夏休みに経験したことを友達の前でわかるように話したり、友達の話も聞いたりする。	国 語
		・共通の目的に向かって友達と力を合わせたり、競い合ったり挑戦したりする。	体 育
		・戸外で体を十分に動かし、いろいろな運動遊びを繰り返し楽しむ。	体 育
		・空や雲の様子の変化や涼しい風などから、季節の移り変わりを感じる。	生活・理科
		・種や実、虫などに興味が深まり、自分で絵本や図鑑を見たり調べたりする。	生活・理科
		・いろいろな国の名前や国旗に親しむ。	道徳・社会
		・友達と一緒にリズムに合わせて踊ったり、体を動かしたりすることを楽しむ。	音楽・体育
・お年寄りや地域の人と一緒に楽しく過ごし、親しみをもつ。	道徳・社会・生活		
10 月	<p>○体を十分に動かし、遊ぶ楽しさを味わいながら、自分なりの目的や課題をもって取り組もうとする。</p> <p>○身近な秋の自然に興味や関心をもち、触れたり扱ったりする中で、気付いたり感じたりした事をいろいろな方法で表現して遊ぶ。</p>	・自分なりの目あてをもって、いろいろな遊びに取り組む。	体 育
		・友達と相談し、ルールを考えたり力を合わせたりして遊びを進める。	体 育
		・運動会を十分に楽しみ、やり遂げた充実感を味わう。	体 育
		・秋の木の実や種を集めたり、遊びに使ったりする。	生活・理科

11月	<p>○秋の自然に触れたり、感じたり、取り入れたりして自然物を使った遊びを楽しむ。</p> <p>○友達とのつながりを深め協力して遊ぶ中で、共通の目的に向かって遊びを進める。</p>	・木の葉や木の実を種類別に分類したり、遊んだり使ったりして色や形などに興味や関心をもつ。	生活・理科
		・秋の自然に触れ季節の変化やその美しさに気づき、感じたことや考えたことを表現する。	生活・理科
		・遊びの中で文字や数、量に興味・関心をもつ。	国語・算数
		・友達と考えを出し合い、共通の目的に向かって協力して実現する喜びを味わう。	全教科領域
		・自分達の身の回りで働いている人々がいることを知り、感謝の気持ちをもつ。	生活・社会
		・絵本やお話の世界に親しみ、イメージを広げて表現することを楽しむ。	国語
12月	<p>○自分達で考えたことを遊びの中で実現したり、表現したりすることを楽しむ。</p> <p>○年末の街の様子や行事などに関心をもつ。</p>	・遊びを通して言葉のやりとりのおもしろさや文字に興味をもつ。	国語
		・友達と遊びに必要なものを考えたり、工夫したりして遊びを進めることを楽しむ。	生活・図工
		・年末の街の様子や行事に関心をもち、遊びに取り入れる。	生活・社会
		・風の冷たさや木々の変化などの冬の自然に興味や関心をもつ。	生活・理科
1月	<p>○お正月の遊びに興味をもち友達や異年齢児と一緒にかわって遊ぶことを楽しむ。</p> <p>○自分なりの目的をもち、十分に力を発揮しながら挑戦したり競ったりして遊びを進めていく。</p> <p>○寒さに負けず、進んで戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。</p>	・冬休みに経験したことを友達の前でわかるように話したり、友達の話に関心をもち聞いたりする。	国語
		・身近な人と新年のあいさつを交わす。	道徳・学活
		・お正月遊びに興味をもち、友達と誘い合って一緒に楽しむ。	生活
		・お正月の遊びやゲームなどの遊び方を友達同士で考えて進めたり、年少児に教えたりして一緒に遊ぶことを楽しむ。	生活
		・数量、図形、文字などへの関心を深めたり遊びに使ったりする。	算数・国語
		・地域の人と交流し、伝承遊びを楽しむ。	生活・社会
		・お話の世界に親しみ、気の合う友達同士でイメージを広げて遊ぶ。	国語
		・寒さに負けず、友達と一緒に体を動かして遊ぶ。	体育
・自分の目的に向かって繰り返し取り組み、できた満足感を味わう。	全教科領域		

2 月	<p>○身近な冬の自然事象に興味や関心をもち、見たり試したりして遊ぶ。</p> <p>○伝承行事に関心をもち、進んで参加し楽しむ。</p> <p>○友達と協力して遊びを進めイメージを共有したり、表現したりすることを楽しむ。</p>	・霜柱や氷などの冬の自然事象に興味をもったり不思議さを感じたりする。	生活・理科
		・節分の行事に期待をもって参加し、自分の年齢や成長を認識する。	生活・社会
		・友達と工夫したり協力したりしながら劇遊びを進めていき、表現したり作り上げたりする喜びを味わう。	国語
		・小学校生活を体験し入学への期待をもつ。	生活科
3 月	<p>○友達存在を認めながら遊びや生活を積極的に進めていき充実感を味わう。</p> <p>○修了の喜びと入学への期待をもち、自信をもって行動する。</p>	・時刻や時間などを意識し、見通しをもって園生活や遊びを自分達で進めていく。	全教科領域
		・一緒に過ごした友達や身近な人々への感謝の気持ちをもつ。	道徳
		・作品や持ち物の整理をしたり、生活の場をきれいにしたりして修了を楽しみに待つ。	学活
		・日差しや風の暖かさ、草木の芽吹きなど季節の変化に気づき春の訪れを感じながら生活する。	生活・理科
		・園生活を振り返り、幼稚園の思い出を話し合う。	生活
		・年少児に親しみや思いやりの気持ちをもって接する。	道徳

保育所の5歳児の指導(遊び)内容から関連する小学校教科

月	ねらい	指導内容	教科
4月	・年長児になった喜びを味わい 自覚をもって遊びや生活する	・楽しく食事をしながら、苦手なものにも挑戦する	学活
		・保育者や友達と好きな遊びを楽しむ	生活・体育
		・友達と当番活動について話し合い、進んで取り組む うとする	道徳・学活
		・春の自然に興味を持ち、遊びに取り入れて楽しむ	生活・理科
		・考えたり、経験したことを話す	国語
		・リズム 歌を楽しむ	音楽
5月	・遠足に楽しく参加する ・戸外で春の自然や友達とふれ 合いながらのびのびと過ごす	・健康な生活の仕方が分かり、身の回りのここをすす んで行う	学活
		・戸外でのびのび体を動かして遊ぶ	体育
		・保育者や友達とかかわりを持ち、一緒に遊ぶことを 楽しむ	生活・体育
		・異年齢児とのかかわりを持ち、親しみを広げる	道徳
		・動植物の世話をしたり、観察したりする	生活・理科
		・造形活動を楽しむ	図工
6月	・夏まつりに向け、楽しみながら 製作・練習をする ・身近な自然・動植物に興味・ 関心を持ち関わる	・すすんで衣服の調節・手洗いうがい・水分補給をする	学活
		・畑作りを通して、野菜に興味持ち、楽しく食事する	生活・理科・家庭
		・絵本や紙芝居・童話に親しみ、想像を膨らませる	国語
		・自分の思いや考えを友達に伝えたり、友達の考え を聞いたりする	国語
		・様々な素材を使って製作を楽しむ	図工
		・友達と一緒に歌ったり、踊ったり、太鼓を叩いたり して楽しむ	音楽

7月	・砂・泥・水遊びを十分楽しむ ・夏祭りを楽しみ、楽しい思い出になるようにする	・汗をかいたら着替えたり水分補給、帽子をかぶる等自分でしようとする	学活
		・プールの約束を守り、水遊びを楽しむ	体育
		・行事を通して、地域の人との交流を楽しみ、親しみを持つ	道徳
		・夏野菜の収穫や世話を楽しくする	生活・理科
		・太鼓の練習を楽しむ	音楽
8月	・友達と夏の遊びを楽しむなかで達成感や満足感をあじわう	・汗をかいたら着替えたり水分補給、帽子をかぶる等自分でしようとする	学活
		・プール・水遊びなど、夏の遊びを楽しむ	体育
		・自分の思いを主張し、ぶつかり合いながら友達の思いに気付く	道徳
		・かぶと虫やせみ・チョウ等身近な昆虫に触れ、遊び・世話をする	生活・理科
		・自分の思いや意見を言葉で表す	国語
		・リズム 歌を楽しむ	音楽
9月	・運動遊びに意欲的に取り組み、運動会への期待をもつ	・運動用具(鉄棒・跳び箱・平均台)を安全に使い、全身を使って遊ぶ	体育
		・ルールを守りながら集団遊びを楽しむ	全教科領域
		・年長児としての自覚を持ち、友達と一緒に当番活動をする	道徳・学活
		・経験したことを友達の前で話したり、聞いたりする	国語
		・夏から秋への自然の変化に気づく	生活・理科
		・歌ったり、踊ったりしながら、リズムを楽しむ	音楽

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に楽しく参加し、やり遂げた達成感をあじわう ・小学生との交流を通して、憧れや期待を膨らませる 	・戸外で十分体を動かす気持ち良さを味わう	体育
		・食材に関心を持ち、楽しい雰囲気の中で食事をする	家庭
		・運動会を通じて、みんなで応援し合いながら頑張る	体育
		・小学生や年下児の交流で、いたわりや憧れの気持ちを持つ	道徳
		・十五夜の由来を知り、お月見団子作りを楽しむ	生活・家庭
		・時刻や時間に関心を持つ	算数
		・経験した事を自由に描いて楽しむ	図工
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・風邪をひきやすい季節を、元気に乗り越えていく ・心地よい日差しの中で、戸外遊びや散歩を楽しむ 	・風邪の予防の大切さを知り、手洗い・うがいを丁寧にする	保健・体育
		・食材や料理に興味を持ち、食事する	家庭
		・秋の自然にふれ、季節の変化を感じる	生活・理科
		・秋の自然物(ドングリ・マツボックリ)を使い、造形活動を楽しむ	生活・図工
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園コンサート・お楽しみ会への期待を高め参加する ・生活リズムを整え、健康に過ごす 	・寒さに負けず、体を使って遊ぶ	体育
		・手洗い・うがい・衣服の調節をする	学活
		・体調の変化を保育士に伝える	学活
		・自分の気持ちを相手に伝え、みんなで楽しく遊ぶ方法を考える	国語・学活
		・水・風の冷たさや、木々の変化に関心を持つ	生活科・理科
		・保育士や友達と会話を楽しみ、思ったこと感じたことを話す	国語・学活
		・自分なりのイメージ体験から、自由に絵を描く	図工
		・劇遊びを楽しむ	国語・学活

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、戸外で体を動かして遊ぶ ・お正月遊びや季節の製作を楽しむ 	・体の温まる遊びをする	体育
		・お正月の遊びを楽しむ	生活
		・伝統的な食に興味を持つ	家庭
		・冬の自然(氷・霜柱)に触れて遊ぶ	生活・理科
		・新年の挨拶をしたり、お正月に経験したことを話したり聞いたりする	国語
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の頑張り、気持ちを大切に自信を持たせる ・卒園を意識し、就学への期待感を持たせる 	・健康な生活リズムを身につける	体育
		・身近に地域の人たちや小学生との交流を深める	生活・道徳
		・冬の自然に触れて遊ぶ	生活・理科
		・話を落ち着いて聞くようにする	国語
		・小さい子のクラスにお手伝いに行き、異年齢交流を深める	道徳
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・友達・保育士と残り少ない園生活を楽しむ 	・戸外でたくさん体を動かして集団遊びを楽しむ	体育
		・社会生活に必要なマナーを見に付ける	道徳
		・お別れ会・卒園式を通して、感謝の気持ちを表す	道徳
		・4月からの新しい生活に期待を持つ	生活
		・保育所での思い出や、学校への期待などを話す	国語

1年生入門期における指導内容

知	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の話や友だちの発表を最後まで聞く。(国) ・正しい姿勢、口形で、大きな声ではっきり最後まで話す。(国) ・正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方で、ていねいに書く。(国) ・ひらがなを正しく読んだり、書いたりする。(国) ・10までの数について、じゅんにならべたり、大小をくらべたりする。(算) ・くり上がりのないたし算、くり下がりのないひき算をする。(算) ・学校を探検し、施設や先生方に親しむ。(生活) ・アサガオを育て、観察する。(生活) ・校庭や地域の自然に親しむ。(生活) 	学 力 の 向 上
徳	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつ・返事をする。(道徳) ・「～です(か)」「～ます(か)」を言う。(道徳) ・「ありがとう(ございます)」「ごめんなさい」を素直に言う。(道徳) ・「入れて。(あそぼう。)」 「いいよ。」と誘い合って一緒に遊ぶ。(道徳・学活) ・悪口・うそを言わずに、友だちと仲良くする。(道徳) ・くつ箱、ロッカー、机の中など、身の回りの整理整頓をする。(道徳・学活) ・学習用具を忘れずに準備する。(道徳・学活) ・日直・そうじ給食当番・係など自分の仕事に進んで取り組む。(道徳・学活) 	規 律 あ る 態 度 の 育 成
体	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、歯みがきをする。(学活) ・早寝、早起きをする。(学活) ・好き嫌いせずに、良く噛んで食べる。(学活) ・安全(交通・不審者・施設遊具等)に気をつけて行動する。(学活) ・元気よく外遊びや朝マラソンに取り組む。(業前・業間活動) ・自分の目標に向かって、いろいろな運動に親しむ。(体) 	体 力 の 向 上
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の前面黒板の前に広いスペースをとって、集まって座って話を聞けるようにする。 ・くつ、ロッカー、机などに名前シールを貼り、自分の使う場所が分かるようにする。 ・名前の順、背の順で並べるようにする。 ・「きりつ」「きをつけ」「れい」「前へならえ」などの号令に合わせて、整列したり集団行動したりできる。 ・はさみ、鉛筆、箸を正しく使うようにする。 ・座り込まずに立ったまま、左右反対にせずに、靴をはいたり脱いだりする。 ・固結び、ちょうちょう結びができる。 ・雑巾のねじり絞りができる。 ・姿勢良く、立ったり座ったり食事をしたりできる。 ・おわんを手を持って食べる。 ・地区名、班長の顔と名前を覚える。 	

平成19年度 連携交流カレンダー

●職員・保護者 ◎児童・幼児

月/日	内 容	幼	保	小	保護者
4/19(木)20(金)	授業・給食体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
4/25(水)	授業体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
5/28(月)	1年生保護者向けアンケート実施				●
5/31(木)	(指導課訪問)	●	●	●	
6/18(月)	(心肺蘇生法合同講習会)	●	●	●	
6/19(火)	音楽交流会(小4・幼・保)	◎	◎	◎	
6/7(木),12(火),21(木), 26(火),28(木), 11/5(月),12(月),19(月)	交換授業体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
6月～7月	交換保育体験(小学校職員→幼・保へ)	●	●	●	
7/6(金)	七夕まつり(小1→幼稚園へ)	◎		◎	
7/17(火)	音楽交流会(小3・幼・保)	◎	◎	◎	
7/17(火)	パズルで遊ぼう(小5・幼・保)	◎	◎	◎	
7/27(金)	(パソコン合同研修会13:00～)	●	●	●	
8/20(月)	プール体験(幼→小学校へ)	◎			
8/21(火)	(教育相談研合同修会8:30～) 教育講演会(13:10～・平方公民館)	●	●	●	
8/22(水)	プール体験(幼→小学校へ) 保育参観(プール指導)9:30～	◎		●	
9/22(土)	運動会(幼保→小学校へ)	◎	◎	◎	
9/27(木)	虫さがし(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
10/6(土)	幼稚園運動会(小1卒園生→幼稚園へ)	◎		◎	
10/11(木)	研究授業(3年)学活3-1	●	●	●	
10/13(土)	保育所運動会(小1卒所生→保育所へ)		◎	◎	
10/18(木)	研究授業(2年)道徳2-1	●	●	●	
10/25(木)	研究授業(6年)国語6-3	●	●	●	
10/27(土)	幼稚園バザー	◎	◎	◎	●
10/30(火)	道徳授業体験(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
10/30(火)	図書委員会読み聞かせ→幼・保へ	◎	◎	◎	
10/31(水) (雨天予備日11/5(月))	チャレンジ集会・学校公開日	◎	◎	◎	●
10月～11月	交換保育体験(小学校職員→幼・保へ)	●	●	●	
11/5(月),12(月), 19(月)	交換授業体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
11/8(木)	研究授業(4年)国語4-1	●	●	●	
11/9(金)	動物園ごっこ(小6・保→幼稚園へ)	◎	◎	◎	
11/10(土)	平方小キッズフェスタ	◎	◎	◎	●
11/13(火)	校庭遊び(小1・幼・保)	◎	◎	◎	

月/日	内 容	幼	保	小	保護者
11/16(金)	落ち葉拾い(小1・幼・保→丸山公園へ)	◎	◎	◎	
11/19(月)	3年生読み聞かせ(小3・幼・保)	◎	◎	◎	
11/22(木)	4年生読み聞かせ(小4・幼・保)	◎	◎	◎	
11/22(木)	研究授業(5年)国語5-2	●	●	●	
11/30(金)	校内持久走大会応援	◎	◎	◎	●
12/10(月),11 (火),14(金),17(月)	図書委員会読み聞かせ→幼・保へ	◎	◎	◎	
12/6(木)	おもちつき	●		●	
12/14(金)	道徳授業体験(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
1/16(水)	保育参観(幼稚園指導課訪問)	●	●	●	
1/18(金)	昔遊び(小2・幼稚園)	◎		◎	
1/21(月)	校庭遊び(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
1/21(月)	給食体験(幼・保→小5へ)	◎	◎	◎	
2/7(木)	研究発表 研究授業(1年)道徳1-1, 1-2, 1-3 幼児授業体験(幼・保→小1へ) 図書委員会読み聞かせ(幼・保へ)	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	
2/12(火)	歌って手足を動かして(ドレミ体操 と手遊び)(小3・幼・保)	◎	◎	◎	
2/12(火)	ことば遊び歌(群読)(小4・幼・保)	◎	◎	◎	
2/28(木)	年長組を送る会(保→幼)	◎	◎		

平成19年度 交流活動計画

活動名	音楽交流会（総合2時間）	
活動日時	平成19年6月19日（火）	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学4年生
ねらい	・4年生の歌を聴いたり、一緒にふれあって遊んだりして親しみの気持ちをもつ。	・自分から進んで幼児に声をかけたり、手をつないだりして、思いやりの心をもって優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	七夕まつり（音楽2時間・図工2時間・生活3時間）	
活動日時	平成19年7月6日（金）	
活動場所	平方幼稚園ホール	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児	小学1年生
ねらい	・小学校一年生の児童と共に七夕の行事に喜んで参加し、一緒に過ごしたり楽しんだりして親しみをもつ。	・幼児に優しく話しかけたり手をつないだり飾り付けをしたりしながら、あたたかい心で接することができる。 ・幼児の世話をしたり、発表をほめてもらったりしながら、上級生としての自信をもつことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	音楽交流会（音楽1時間・国語1時間・総合2時間・学級活動2時間）	
活動日時	平成19年7月17日（火）	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児 保育所 5歳児	小学3年生
ねらい	・3年生の歌を聴いたり、じゃんけんゲームを一緒にしたりしてふれあうことを楽しむ。	・幼児に歌を発表したり音楽リズム遊びを一緒にしたりしながら、自ら進んで関わりをもつことができる。 ・幼児に優しく接し、上級生としての自信をもつことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	パズルで遊ぼう（図工8時間・学級活動1時間）	
活動日時	平成19年7月17日（火）	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学5年生
ねらい	・5年生の作ったパズルで話したり教えてもらったりしてふれあいを楽しむ。	・幼児にパズルの遊び方をわかりやすく教えることができる。 ・幼児に優しく話しかけたり遊んだりしながら、思いやりのある気持ちで接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	虫探し（生活2時間）	
活動日時	平成19年9月27日（木）	
活動場所	平方小学校校庭及び周辺	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学1年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや感じたことを一年生に伝えながら一緒に虫探しを楽しむ。 ・友だちや一年生と一緒に虫を探したり捕まえたりする楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に自分から話しかけたり一緒に行動したりしながら、優しい心で接することができる。 ・幼児と仲良く虫を探したり観察したりすることができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	読み聞かせ（国語1時間・総合2時間・学級活動2時間）	
活動日時	平成19年11月19日（月）	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学3年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。 ・小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が好みそうな本を選ぶことができる。 ・幼児におもいやりのある気持ちをもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	読み聞かせ（国語1時間・総合1時間）	
活動日時	平成19年11月22日（木）	
活動場所	平方小学校4学年各教室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学4年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。 ・小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にわかりやすく本を読むことができる。 ・幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	動物園ごっこ（総合2時間）	
活動日時	平成19年11月9日（金）	
活動場所	平方幼稚園園庭	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児 保育所 5歳児	小学6年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の幼児や小学生を招待し、自分たちで作ったもので遊んだり、やりとりを楽しんだりして満足感を味わう。 ・自分の思いや必要なことを相手にわかるように伝えたり相手の話を聞いたりして遊びをすすめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいな言葉づかいで、幼児からの問題に答えたり、幼児に質問したりできる。 ・相手の気持ちを考えて「招待ありがとう」の手紙を書くことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

	落ち葉拾い（生活5時間）	
活動日時	平成19年11月16日（金）	
活動場所	丸山公園	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児 保育所 5歳児	小学1年生
ねらい	<p>5歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然に触れ、木々の変化や美しさを感じ、集めたり作って遊んだりして楽しむ。 ・自分の思いを伝えながら、小学生と一緒に遊ぶことを十分に楽しみ、かかわりを深める。 <p>4歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生と一緒に色付いた木の葉を見たり、集めたり、首飾りを作ったりすることを楽しみ、秋の自然を十分に味わう。 ・気付いたことや発見したこと、感じたこと等、自分なりの言葉で相手に話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に優しく話しかけながら落ち葉の冠の作り方を教えてあげる等、思いやりのある態度で接することができる。 ・幼児と仲良く落ち葉や実などを観察しながら、秋らしさに気づくことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	昔遊び（国語1時間・図工1時間・生活科10時間）	
活動日時	平成20年1月18日（金）	
活動場所	平方小学校体育館及び平方幼稚園ホール	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児	小学2年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなお正月遊びに興味をもち、進んで2年生とかかわりながら、繰り返しやってみたり、一緒に楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔遊びの楽しさや技を名人から教わり、幼児と一緒に楽しむ。 ・教わった技を1年生に優しく教えてあげる。
備考	・事前打ち合わせ3回	

活動名	給食体験（学級活動3時間）	
活動日時	平成19年1月21日（月）	
活動場所	平方小学校5学年各教室・クラブ室・ランチルーム・家庭科室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学5年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生に教わったり、一緒に食べたりし、給食の雰囲気を楽しみ、小学校への期待をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に給食の仕方を分かりやすく教えることができる。 ・幼児への思いやりの気持ちをもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	授業体験（道徳1時間）	
活動日時	平成20年2月7日（木）	
活動場所	平方小学校1学年各教室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学1年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教師、友達、1年生の話をじっくり聞いたり、自分の感じたことや考えたことを伝えようとする気持ちをもつ。 ・親しみをもつ1年生と一緒に授業に参加することで授業の雰囲気になれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と一緒によく話を聞きながら話し合い、誰にでも優しくしようとする気持ちをもつことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	図書委員会読み聞かせ（業間活動）	
活動日時	平成20年2月7日（木）	
活動場所	平方小学校1学年各教室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	図書委員会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・お話をよく聞き、じっくりお話の世界を楽しむ。 ・小学生が読んでくれる絵本を楽しみ、感謝の気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容が幼児に伝わるように、上手に音読しながら読み聞かせをすることができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	歌って手足を動かして（音楽1時間・総合2時間）	
活動日時	平成20年2月12日（火）2校時	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園 4歳児・保育所 5歳児	小学3年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と一緒にリズム遊びをし、歌を歌ったりリズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・小学生と楽しく過ごす中で親しみをもって交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と一緒に歌ったり、手足を動かして音楽リズム体操をしたりして積極的に関わることができる。 ・上級生としての自信をもって、幼児に優しい心で接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	ことば遊び歌（国語 時間）	
活動日時	平成20年2月12日（火）3校時	
活動場所	平方小学校4学年各教室	
対象	幼稚園 4歳児・保育所 5歳児	小学4年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のリズムややりとりのおもしろさに気づき、遊びを楽しむ。 ・4年生の話を聞いたり自分の思いを伝えたりして関わって遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に言葉や歌をわかりやすく教え、一緒に楽しむことができる。 ・幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

第1学年 交流活動案

日時 平成19年7月6日(金)

場所 幼稚園ホール

指導者 平方小学校 神田、川島、野村
内田

平方幼稚園 大室、佐藤、池田、
加藤、久川

教科時数内訳【音楽2時間・図工2時間・
生活3時間】

1 交流活動名 「七夕まつり」

2 活動のねらい

- 小学生・幼児に優しく話しかけたり手をつないだり飾り付けをしたりしながら、あたたかい心で接することができる。
- ・幼児の世話をしたり、発表をほめてもらったりしながら、上級生としての自信を持つことができる。
- 幼児 4歳児・小学校一年生の児童と共に七夕の行事に喜んで参加し、一緒に過ごしたり楽しんだりして親しみをもつ。
- 5歳児・みんなで作ったり飾ったりした笹飾りの中で雰囲気十分に味わい、一年生と一緒に七夕の行事を楽しむ。

3 幼児の実態

4歳児

- 七夕に興味をもち、お話を聞いたり七夕の飾りをつくったりしている。
- 小学一年生の児童に短冊へのお願い事を書いてもらったり、一緒に飾りをつけたりしたことで「(小学生に)また会いたいな」という気持ちが高まってきている。

5歳児

- 小学生と一緒に遊ぶ中で一緒に話をしたり手遊びをしたりして少しずつそれぞれが関わりをもとうとする姿や「話したい」「遊びたい」という思いが出てきた。
- 前日にペアになり短冊を書いてもらったことがとてもうれしかったようで、親しみをもち、次の日また一緒に七夕まつり会で会えることをとても楽しみにしている。
- 合奏を一年生に聞いてもらうことを楽しみにしている。

4 幼稚園との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、発表を見たりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、短冊を書いてあげたり、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると思う。

5 事前の指導

- 出し物の練習 あいさつの言葉・・・各クラス代表1名
歌3曲
終わりの言葉・・・1名
- 七夕かざり・短冊制作
- 幼児のために短冊を書いてあげて、一緒に飾り付け。(前日)・・・各自自己紹介や優しい言葉かけ
- 招待状をいただく。(前日)・・・各自お礼の言葉

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:50	1 幼児とペアになり、幼稚園ホールへ入場し席へ着く。	○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。 ◇自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。
10:00	2 始まりの言葉・・・園児代表	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	3 園長（校長）先生の言葉	○話を最後までしっかり聞くようにする。
	4 先生自己紹介（小学校・幼稚園）	○先生方に親しみを持つきっかけとする。
	5 1年生の歌 「子どもの世界」「きらきらぼし（ペープサートを用意）」「校歌」	○恥ずかしがらずに一生懸命歌うようにする。
	6 全員の歌 「たなばたさま」	○友達の声聞きながら歌うようにする。
	7 年少組の歌 「おほしさま」	○歌を良く聴いて、拍手するようにする。
	8 年長組の歌 「たなばたまつり」	◇心をこめて拍手したり、幼児をほめたりできる。
	9 終わりの言葉・・・小学生代表	○感想を交えながら、みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
10:35	10 幼児と握手をしてさようならの挨拶をする。	◇優しい声かけをしながら、握手してお別れの挨拶をすることができる。
	11 幼児を教室へ送ってから、幼稚園ホールの椅子を片付ける。	

7 活動を終えて

- 前日に短冊を書いてあげたり、一緒に飾り付けをしたりすることで、親しみが増し、交流が深まった。
- 前日のペアが当日に生かされ、期待を持つことができた。
- 席が隣同士になってよかった。一緒に過ごせて楽しかった。
- ペアや3人組で活動したので、子どもたちは必然的に伝え合いに努力していた。
- お互い仲良くしたいという願いを持たた。
- 1年生の出し物に幼稚園児が感心し、あこがれをいただいていた。幼児も1年生も、お互いに発表を見せ合うことで満足し自信を深めていた。
- 園児のゆかた姿がとてもかわいらしかった。
- 前日に短冊を書いたり、飾り付けをしたりするときの子どもたちの活動場所や活動方法の確認をしたほうがよかった。当日集会終了後の子どもたちの動きについても確認したほうがよかった。
- 数名は教師の願い事を書く担当だったが、前日から全員がペアや3人組で活動すればよかった。
- 30分程度と時間が短かった。1年生が願い事を上手に発表していたが、幼児の発表も入れて、みんなの前で話す、聞く活動があってもよかった。
- 集会の中で、感想交流をしてもよかった。
- 時間的場所的な余裕があれば、手遊び歌など取り入れるとさらに交流が深まるだろう。

第1学年交流活動案

日時 平成19年9月27日(木)
 場所 平方スポーツ広場
 指導者 平方小学校 神田、川島、野村
 平方幼稚園 大室、加藤、久川
 西上尾第2保育所 板垣、新井、氏家
 教科時数内訳【生活科2時間】

1 交流活動名 「虫探し」

2 活動のねらい

○小学生 ・幼児に自分から話しかけたり一緒に行動したりしながら、優しい心で接することができる。
 ・幼児と仲良く虫を探したり観察したりすることができる。

○幼児 5歳児・思ったことや感じたことを一年生に伝えながら一緒に虫探しを楽しむ。
 ・友だちや一年生と一緒に虫を探したり捕まえたりする楽しさを味わう。

3 幼児の実態

5歳児 ○園庭でコオロギやバッタを探し、捕まえて喜んだり、図鑑で調べたりする姿が見られる。
 ○一年生(小学生)と一緒に遊んだことがとても楽しかった経験となり、また会えることや遊べることにとても期待をもっている。


4 幼稚園・保育所との連携



春夏の頃と比べ変化してきた秋の野原の自然とふれあいながら、小学生においては幼児に優しく接する態度や思いやりの心を養い、幼児においては小学生に対して親しみや憧れの気持ちを持つことができると考える。

5 事前の指導

- ペアやグループの設定
- 虫探しコースの下見、平方スポーツ広場の予約(スポーツ振興センターTEL048-781-8112)
- 自己紹介・やさしい話しかけ方や接し方についての話し合い
- 虫かご・薄手の長袖・長ズボンの用意(各自)、虫除けスプレー・医薬品の用意(各クラス)
- 保育所の児童の控え室(ランチルーム)、トイレサンダルの準備
- 水筒持参(保育園児)

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	児童の反応	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 幼児とペアになり、第2校庭に集合する。 	・○○です。よろしくね。 ・仲良くしようね。 ・虫が捕れるといいね。	○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。 ◇自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。

9:40	2 平方スポーツ広場まで、手をつないで一緒に歩く。		○交通安全に気をつけるようにする。
9:55	3 虫探しをする。	 <ul style="list-style-type: none"> ・こおろぎがいるよ。 ・虫をとってあげようか？ ・ありがとう。 ・バッタもさがそうよ。 ・おにいさん、おねえさんは、虫探しが上手だな。 	○虫を探す範囲、気をつける場所、集合の合図、離れ離れにならず仲良く虫探しをすること等について事前指導してから行動させる。 ○各場所に分散し、虫探しの様子を見守り 子どもたちを支援する。 ◇幼児と仲良く虫を探したり観察したりできる。
10:20	4 学校まで、手をつないで一緒に帰る。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったね。 ・虫をとってくれてありがとう。 ・喜んでくれてよかったな。 ・虫をとってあげたかったな。 	○捕まえた虫に注意がいきがちなので、交通安全に気をつけるようにする。
10:35	5 今日の活動について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・とれなかったけど、楽しかったな。 ・また一緒に遊びたいね。 	○仲良く活動できたことの楽しさについて感想を聞き、次回の交流への期待を持たせるようにする。

7 活動を終えて

- 活動場所が適度な広さで見通しがよく、安全に活動しやすい場所で適切だった。
- 小学生は、幼児に優しく接しようとしていた。また、幼児をかわいといいと感じて慈しみ、思いやりの心を育むことができた。
- 幼児は、小学生との交流を楽しみ、感じたことを積極的に教師や友達に伝えようとしていた。
- 幼児は自分のために一生懸命探してくれたことがとてもうれしかったようで、「見つからなかったけど、ずっと探してくれた。」と一年生のやさしい気持ちを感じている様子が見られた。
- 「お兄さんが虫をとってくれてすごうれしかった。」と一人の幼児が話すと、「わたしも」「ぼくも」と嬉しそうに話す幼児がたくさんいた。
- 「虫を入れるときに箱をあけて手伝ってくれた。」など、一年生がしてくれたこと一つ一つがとても心に残っている幼児もいた。
- 子どもたちが顔見知りになり、名前を覚えて親近感を深めることができた。
- お互いに今後の交流を楽しみに期待することができた。
- 教師同士が協力関係を深めることができた。
- 時間に余裕があれば、ペアやグループで学校の校庭で遊ぶ活動が持てると、さらに子どもたちの親しみが増すだろう。

第1学年交流活動案

日時 平成19年11月16日(金)

場所 丸山公園

指導者 平方小学校 神田、川島、野村

平方幼稚園 大室、加藤、久川、佐藤、池田

西上尾第2保育所 板垣、新井、氏家

教科時数内訳【生活科5時間】

1 交流活動名 「落ち葉ひろい」

2 活動のねらい

- 小学生
 - ・幼児に優しく話しかけながら落ち葉の首飾りの作り方を教えてあげる等、思いやりのある態度で接することができる。
 - ・幼児と仲良く落ち葉や実などを観察しながら、秋らしさに気づくことができる。
 - ・見守ってくださる地域の方々に感謝の心をもって接することができる。
- 幼児
 - 5歳児・秋の自然に触れ、木々の変化や美しさを感じ、集めたり作って遊んだりして楽しむ。
 - ・自分の思いを伝えながら、小学生と一緒に遊ぶことを十分に楽しみ、かかわりを深める。
 - 4歳児・小学生と一緒に色付いた木の葉を見たり、集めたり、首飾りを作ったりすることを楽しみ、秋の自然を十分に味わう。
 - ・気付いたことや発見したこと、感じたこと等、自分なりの言葉で相手に話そうとする。

3 幼児の実態

- 5歳児
 - 園庭のサクラやケヤキの葉が赤や黄色に色づき変化していることに気づき、美しさを感じたりいろいろな葉の形や色の違いに興味をもったりしている。
 - 「一年生とお弁当食べられたらいいな。」と楽しみにする様子があったり、授業やペアリングと一緒に過ごす機会があり、一年生とのかかわりの中で自分を出し、安心して楽しんで遊ぶ姿が見られたりしている。
- 4歳児
 - 園庭にあるケヤキやサクラの葉の色が変化したことに気付き、拾ったり落ち葉を集めてお風呂にしたりシャワーにしたり、葉っぱの音を聞いたりすることを楽しんでいる。
 - 小学生と七夕まつりに参加したり、触れ合って遊んだり、運動会を小学校校庭で行ったりする中で小学生への親しみをもっており、落ち葉拾いに一緒に行くことに期待を膨らませている。






4 幼稚園・保育所との連携

深まってきた秋の公園の自然とふれあいながら、小学生においては幼児に優しく接する態度や思いやりの心を養い、幼児においては小学生に対して親しみや憧れの気持ちを持つことができると考える。また、地域の方々にご協力いただくことにより、人との温かい交流を深め、感謝の心を持ち、豊かな心を育むことができると考える。

5 事前の指導

- ペアやグループの設定
- 丸山公園管理事務所への連絡(TEL048-781-0163)
- やさしい話しかけ方や接し方についての話し合い
- 首飾り材料の用意(毛糸、セロテープ)、首飾りの作り方の学習

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	児童の反応	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:00	1 幼児とペアになり、園庭に集合する。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○です。よろしくね。 ・仲良くしようね。 ・地域のおじさん、おばさん、ありがとうございます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。 ◇自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。
9:10	2 丸山公園まで、手をつないで一緒に歩く。	<ul style="list-style-type: none"> ・手をつなぐと、あたたかいな。かわいいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全に気をつけるようにする。
9:55	3 丸山公園に到着後、トイレ休憩。		<ul style="list-style-type: none"> ○初めに到着する1組が北側のトイレまで移動し、2組、3組は南側のトイレを利用する。
10:10	4 保育所の幼児も合流し、グループごとに落ち葉や実などを拾い、首飾りを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱの色がきれいだな。 ・毛糸は固結びするんだよ。 ・セロテープでとめていくんだよ。 ・首飾りがすてきだね。 ・ほかの遊びもしたいな。  	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち葉を拾う範囲、気をつける場所、集合の合図、離れ離れにならず仲良く落ち葉拾いをする事等について事前指導してから行動させる。 ○各場所に分散し、落ち葉拾いの様子を見守り、子どもたちを支援する。 ◇幼児と仲良く落ち葉拾いをしたり首飾りの作り方を優しく教えたりできる。
11:30	5 お弁当を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一緒に食べるとおいしいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに一緒に食べるようにする。 ○食べ終わったグループから順番にトイレをすませておくようにする。

12:30	6 学校まで、手をつないで一緒に帰る。	<ul style="list-style-type: none"> ・さようなら、また遊ぼうね。 ・楽しかったね。 ・かわいかったね。 ・おにいさん、おねえさん、やさしくしてくれてありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所の幼児とお別れの挨拶をしてから出発する。 ○仲良く活動できたことの楽しさについてふりかえり、次回の交流への期待を持たせるようにする。 ○緊張がほぐれているので、気を抜かず、交通安全に気をつけるようにする。
1:15	7 学校へ到着	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のおじさん、おばさん、ありがとうございました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守ってくださった地域の方々にお礼の挨拶をする。

※雨天延期 11月20日(火)

この場合、昼食はとらず11:30～園児と学校へ出発、

12:15 学校へ到着

7 活動を終えて

- トイレへ一緒にいったり首飾りの作り方を教えたり一年生のリードする姿や責任感がすばらしかった。
- 学校の行き帰りに一年生がなぞなぞを出したり話しかけたり、進んでかかわり楽しませようとする姿勢がみられた。
- 幼い子を気遣う心が育まれていた。
- 地域の方々が同行して見守ってくださったので、安全に過ごすことができた。また、地域の方々への感謝の心も育むことができた。
- 交流することにより人と人との温かいかわり合いの点では豊かな心を育みねらいを達成していたが、「秋の自然を十分に楽しむ」という生活科のねらいや保育のねらいは薄れがちだった。首飾りを作ることは時間を要するので、秋探しをする活動を中心に交流したほうがよい。

第2学年 交流活動案

日時 平成20年1月18日(金) 2・3校時

場所 体育館及び平方幼稚園ホール

指導者 平方小学校 堀、井上、島田

平方幼稚園 大室、佐藤、池田、加藤、
久川

教科時数内訳【国語1時間・図工1時間・生活
科10時間】

1 交流活動名 「昔遊び」

2 活動のねらい

- 小学生・昔遊びの楽しさや技を名人から教わり、幼児と一緒に楽しむ。
・教わった技を1年生に優しく教えてあげる。
- 幼児・いろいろなお正月遊びに興味をもち、進んで2年生とかかわりながら繰り返しやってみたり、一緒に楽しんだりする。

3 幼児の実態

4歳児

- 糸引きごまに色を塗り、繰り返し糸引きごまを回すことを楽しんでいる。また、友達に「どちらが長く回せるか競争しよう。」と誘ったり、一緒に回したりして遊ぶことを楽しんでいる。お手玉や剣玉等いろいろな遊びにも興味をもっているが、なかなかうまくいかない。そして、昔遊び名人にコツを教えてもらうことや会えることを楽しみにしている。

5歳児

- 年少組のときにも名人の方や2年生と交流し、こまやお手玉、おはじき、剣玉など、いろいろなお正月遊びを知り興味をもって楽しんだ。昨年の経験から今年はもっと上手になりたいと挑戦する姿が見られる。
- 興味を持ったことに繰り返し挑戦したり、友達と一緒に試したり、工夫したりしながら楽しんだりするようになってきている。

4 幼稚園との連携

幼稚園児との関わりを深くするためには、事前にペアを組み、お互いにコミュニケーションをとることによって安心感や期待感を持たせることが大切だと考え、一人対一人、一人対二人など組み方の工夫をした。また、事前の打ち合わせを通して役割分担を行い、活動がスムーズにいくように無理のない計画を立てた。

5 事前の指導

- 昔遊びの練習…お手玉、こま、剣玉など。
- 幼稚園児とのペア作り（自己紹介のしかた、ゲーム）
- 終わりの会でお礼を言う子への指導（男女1名ずつ）
- 名人さんへのお礼の手紙の書き方指導
- 掲示物の書き方指導（会場図）
- 幼児への接し方と名人さん（地域の人）への接し方
- 幼稚園児への手紙の書き方指導（交流の感想）

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:30	1 体育館に集合し、幼児とペアになって座る。	○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。 ◇自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。 ○拍手で名人さんを迎える。
9:45	(はじめの会) 2 校長あいさつ 3 昔遊び名人さんの紹介 4 児童・園児の紹介 5 諸注意	○話を最後までしっかり聞くようにする。 ○名人さんに親しみを持つきっかけとする。
10:00	6 (昔遊び開始) ・体育館…こま・ベーゴマ・紙芝居・剣玉・ゴム跳び ・ホール…おはじき・めんこ・お手玉・折り紙 *体育館とホールを行き来しながら昔遊びを教わる。	◇園児と仲良く遊びを教わっている。 ◇教えてもらったら、「ありがとうございます。」とはっきり言うことができる。 ◇進んでいるいろいろな遊びにチャレンジし、楽しんでいる。
11:20	体育館に移動する。 園児とペアになって座る。	
11:25	(終わりの会) 7 お礼の言葉 2年生…男女1名ずつ 幼稚園…年少・年長1名ずつ 8 プレゼント渡し 9 区長代表さん挨拶	○教えて下さった方へ、心をこめて、丁寧な言葉づかいで、はっきりとお礼の言葉を伝える。 ○「ありがとうございました。」と言葉を添えて児童と園児がペアになって渡す。
11:40	解散	

7 活動を終えて

- 事前に幼稚園児とペア作りをして顔合わせをしておいた。簡単なゲームを楽しみ、互いに触れあう時間を確保しておいたので、当日はスムーズに行動できた。また、昔遊びを早くやりたいという意識の高揚にもつながった。
- 普段、小学校では面倒を見てもらっている2年生だが、当日は、年長者としての自覚がさまざまな場面で見られた。また、園児も大変喜んでくれて、2年生を頼る声も聞かれた。
- 更に交流を深めるために、ペアを組んだ園児に手紙を書き、届けた。
- 名人さんから丁寧にわかりやすくコツを教えてもらい、子どもたちは大満足だった。
- 安全面の点から、場所は幼稚園ホールと小学校の体育館に限定した。会場の行き来もスムーズに行うことができ、よかった。
- 昨年に比べ、名人さんの人数が確定するのが遅く、事前の準備(お礼の手紙)に手間取った。
- 当日になって、名人さんの人数変更(追加)や遊ぶ種目の追加など、予想外の事態に戸惑い、活動の流れも開始、終了ともに遅れが出てしまった。
- 前日が開校記念日だったため、直前の準備に支障が出た。日程は休みの翌日を避けた方がよい。
- 事前の打ち合わせの段階で、幼稚園だけでなく、名人さんとも種目の確認などが行えるとよい。

第3学年 交流活動

日時 平成19年7月17日〔火〕

場所 体育館

指導者 平方小学校 後藤、宮本、内田

平方幼稚園 大室、佐藤、池田

加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【音楽2時間・総合2時間】

1 交流活動名 「音楽交流」

2 活動のねらい

○小学生・幼児に歌を発表したり音楽リズム遊びを一緒にしたりしながら、自ら進んで関わりをもつことができる。

・幼児に優しく接し、上級生としての自信をもつことができる。

○幼児 4歳児・3年生の歌を聴いたり、じゃんけんゲームを一緒にしたりしてふれ合うことを楽しむ。

5歳児・3年生とゲームやリズム遊びをふれ合いながら楽しみ、親しみをもち関わって遊ぶ。

3 幼児の実態

4歳児

○友達に親しみをもち、自分の思いを出しながら好きな友達と一緒に遊んでいる。

○教師や友達と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びをしたりして遊ぶことを楽しんでいる。

5歳児

○6月に4年生と音楽交流をしているので、歌を聴くことや一緒に遊ぶことをとても楽しみにしている。

○歌を歌うことがとても好きで、友達と一緒に口ずさんだり、リズムにあわせて踊ったり楽器にふれたりしている。

4 幼稚園・保育園との連携

幼児は、音楽発表を見たり、音楽リズム遊びをしたりすることで、上級生に親しみをもち、小学校への安心感が高まるであろう。また、小学生は、歌やリズム遊びでリードし、思いやりを持つとともに自分の成長に自信を持ち、幼児への関心を持つことができると考えられる。

5 事前の指導

○出し物の練習 始めの言葉・・・2名

司会の言葉・・・4名

歌1曲・音楽ゲーム2曲

終わりの言葉・感想・・・2名

○感想用紙

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント		
9:25	1 体育館へ入場し席へ着く。	○身近に感じるよう向かい合うようにする。 ○拍手で迎えるようにする。 ○拍手で迎えるようにする。		
	2 保育所入場し席へ着く。			
	3 幼稚園入場し席へ着く。			
9:35	4 先生の言葉（小学校）	○話を最後までしっかり聞くようにする。 ○明るく元気に話すようにする。 ○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。 ○自信をもって、一生懸命に歌うようにする。 ○歌を聴いて、拍手をするようにする。 ◇心をこめて、拍手をしたり、ほめたり思いやりを持って聞くことができる。		
	5 司会のあいさつ・・・小学生代表			
	6 始めの言葉・・・小学生代表			
	7 3年生の歌「きょうりゅうとチャチャチャ」			
	8 保育所の歌「夏のうた」			
	9 年少組の歌「おほしさま」			
	10 年長組の歌「ロケットばびゅ〜ん」			
	9:50		11 みんなで歌って遊ぼう「じゃんけん列車」「大きなくりの木の下で」	◇安心して取り組めるよう、自分から進んで幼児とスキンシップをとることができる。 ◇恥ずかしがらずに幼児を見ながら踊ることができる。 ○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
			12 感想発表・・・幼保子ども代表	
	10:05		13 終わりの言葉・・・小学生代表	○次の約束をし、お別れの挨拶をする。

7 事後の反省

- 幼児も3年生も、お互いに発表を見せ合うことで満足し自信を深めていた。
- 「じゃんけん列車」は、幼児も知っている遊びなので、慣れてくるとともに積極的に楽しむことができた。
- 「大きなくりの木の下で」は、じゃんけん遊びからスムーズに円形がつくられていた。お互いに顔を見せ合うことでも交流が深まり、その動作がそれぞれにとってもかわいらしかった。
- 感想交流では、こどもの言葉で発表でき、場が和みとてもよかった。
- 「じゃんけん列車」では、意識のずれがあったのか、交流に積極的になれない3年生がいた。
- 時間的な余裕があれば、「大きなくりの木の下で」の後、グループで自己紹介など取り入れるとさらに交流が深まるだろう。
- 伝え合いが自然に出来るよう、3～4人位の少人数で活動するとよかった。

第3学年 交流活動案

日時 平成19年11月19日〔月〕2校時

場所 体育館

指導者 平方小学校 後藤、宮本

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第二保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【国語1時間・総合2時間・特活2時間】

1 交流活動名 「読み聞かせ交流会」

2 活動のねらい

○小学生・幼児が好みそうな本を選ぶことができる。

・幼児におもいやりのある気持ちをもって、優しく接することができる。

○幼児 5歳児・小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。

・小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。

3 幼児の実態

5歳児

○降園時に教師が読む絵本や紙芝居をととても楽しみにしており、長い物語や読み聞かせなども集中して聞くことができるようになってきている。

○週一回の絵本の貸し出しでは、ぐりとぐら、バーバーパパなど好きなシリーズを楽しみに借りていく姿が見られる。

4 幼稚園・保育園との連携

幼児は、小学生が読んでくれる絵本を聞いたり、手作りプレゼントをもらったりすることで、上級生に親しみを持ち、小学校への安心感が高まるであろう。また、小学生は、幼児が分かりやすい本を選んであげたり、幼児を楽しませてあげたりすることで、おもいやりのある気持ちを持ち、優しく接することができると思う。

5 事前の指導

①幼児への接し方

②選んだ本の読み方の練習

③準備（楽しい読み聞かせ交流会の工夫）

- ・幼児が好みそうな本
- ・本のクイズ
- ・手作りプレゼント
- ・出てくる人の紹介
- ・ペープサート
- ・感想を聞く
- ・かんばん作り

④始めの言葉・・・2名

終わりの言葉・・・2名

*感想用紙を用意する。

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:20	1 体育館へ入場、準備し席へ着く。	○本の題名を壁面に掲示し、コーナーの準備をする。
	2 保育所入場し席へ着く。	○身近に感じるよう向かい合うようにする。
	3 幼稚園入場し席へ着く。	
9:35	4 先生の言葉（小学校）	○話を最後までしっかり聞くようにする。
	5 始めの言葉（小学生代表）	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	6 先生から（小学校）	
	7 グループに分かれての読み聞かせ	○一人一人が役割を持ち、責任を持って行えるようにする。 ◇幼児の様子を見て、声の大きさや読む速さに気を付けてあげることができる。
	8 終わりの合図・集合	○聞き手がいない時は、幼児を迎えに行きあげるようにする。
10:30	9 感想発表（幼稚園・保育所の幼児）	◇幼児が分かりそうなクイズにしたり、正解したらほめたりできる。 ○みんなに聞こえる声ではっきり気持ちを伝えるようにする。
	10 終わりの言葉（小学生代表）	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	11 幼児を送ってから、体育館の片づけをする。	◇次の約束をして、優しい声かけをしながら、お別れの挨拶をすることができる。

7 活動を終えて

- 9月から意識的に読書指導を高めるための活動を行ってきた。また、子ども会議を開き、読み聞かせ交流会でどうしたら幼児に楽しんでもらえるかを話し合い、その内容を子ども主体で決定してきた。そのため、準備や当日の活動においては、一人一人が役割を持ち、責任を持って、交流会に臨むことができた。
- 準備段階で生じた問題にも、各々のグループで話し合い、解決していかなければならなかったもので、お互いに意見を出し合うという機会がもてた。
- 一生懸命に聞いてくれる幼児を前にして、読み聞かせ活動を行うことで、自分を表現することに喜びを感じ、張り切る様子が多くのグループに見られたことも一つの成果のように思う。
- 幼児が集中して聞いてくれたこと、「読んでくれて、ありがとう。」の言葉がとてもうれしかったようだ。
- 準備をするための時間が予定した時間よりかかってしまった。
- 話し方や読み方の練習をたくさんさせ、意欲を持たせながら聞き手に伝わるよう指導をしたい。

第3学年 交流活動案

日時 平成20年2月12日〔火〕3校時

場所 平方小学校体育館

指導者 平方小学校 内田、後藤、宮本、

平方幼稚園 大室、佐藤、池田

西上尾第二保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【音楽1時間・総合2時間】

1 交流活動名 「歌って手足を動かして」

2 活動のねらい

○小学生・幼児と一緒にリズム遊びをし、その中で歌ったり、手足を動かしたりして積極的に関わることができる。

・上級生としての自覚をもって、幼児に優しい心で接することができる。

○幼児・小学生と一緒にリズム遊びをし、歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ楽しさを味わう。

・小学生と楽しく過ごす中で親しみをもって交流を深める。

3 幼児の実態

○友達と歌を歌うことや手遊びをすることを楽しんでいる。また、リズムに合わせて体を動かして全身で表現したり、踊ったり音楽に親しんでいる。

○1学期に音楽交流をしており、「大きなくりの木に下で」を教えてもらったり、じゃんけん列車を一緒にしたりして楽しく過ごした経験から、また小学生と交流がもてることを楽しみにしている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、手足を動かしてリズム遊びをすることで、上級生に親しみを持ち、小学校へ入学することへの安心感が高まるであろう。また、小学生は、歌やリズム遊びで幼児をリードすることにより、思いやりを持つとともに自分の成長に自信を持ち、幼児への関心を持つことができると考えられる。

5 事前の指導

○出し物の練習 始めの言葉・・・2名

司会の言葉・・・4名

音楽リズム4曲

終わりの言葉・・・2名

感想・・・3～4名

○ 準備 手作りペンダント（「ハッピーフレンズ」で使用）

○ 感想用紙

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
10:35	1 体育館へ入場し席へ着く。	○身近に感じるよう向かい合うようにする。
	2 幼稚園・保育所入場し席へ着く。	○拍手で迎えるようにする。
10:40	3 先生の言葉（小学校）	○話を最後までしっかり聞くようにする。
	4 司会のあいさつ・・・小学生代表	○明るく元気に話すようにする。
10:55	5 始めの言葉・・・小学生代表	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	6 3年生の歌「ドレミの歌」	○自信をもって、一生懸命に歌いながらリズム体操をするようにする。
	7 幼児も一緒にドレミ体操	◇幼児と積極的に関わりながら、優しく思いやりを持って教えることができる。
11:05	8 リズム音遊び 「からだのたいこ」	○恥ずかしがらずに動作を大きくして踊る。 ◇幼児が安心して取り組めるよう、自分から進んで幼児とスキンシップをとりながら踊ることができる。
	9 みんなとリズムにのって歌おう 「ハッピーフレンズ」	◇幼児の手を引きながら、ゲームを楽しむことができる。
11:25	10 みんなで歌って遊ぼう 「ロンドン橋」	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	11 感想発表・・・幼児代表	○お別れの挨拶をする。
11:25	12 終わりの言葉・・・小学生代表	

第4学年 交流活動案

日時 平成19年6月19日(火)

場所 平方小体育館

指導者 平方小学校 坂本、金子、野坂、内田、飯野

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【総合2時間】

1 交流活動名 「音楽交流会」

2 活動のねらい

- 小学生 自分から進んで幼稚園児や保育園児に声をかけたり、手をつないだりして思いやりの心をもってやさしく接することができる。
- 幼児5歳児 4年生の歌を聴いたり、一緒に触れ合って遊んだりして親しみの気持ちをもつ

3 幼児の実態

- ・ 「お誕生月集まれ」や「なべなべそこぬけ」のリズム遊びなどを幼稚園でも友達と楽しんでおり、触れ合って遊ぶことが好きである。
- ・ 年少のときに絵本の読み聞かせや昔遊び・クイズなど小学生との交流を経験しているので、小学生と遊ぶことに大きな期待を持っている。
- ・ 幼児同士では友達とのかかわりがふえ、自分の思いを伝えたり友達の話の聞いたりできるようになっている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、発表を見たりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、歌や合奏を披露してあげたり、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると考える。

5 事前の指導

- 歌、合奏の練習・・・3曲
- 司会、言葉の指導・・・各クラス代表2名
- 音楽遊びの練習・・・2曲
- 幼児への接し方

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 始めの言葉（4年生代表）	○幼稚園児、保育園児に分かりやすい言葉で話すようにする。
9:45	2 校長先生の話	○目と耳を傾けてしっかり聞けるようにする。
10:00	3 4年生による歌、合唱披露 （かさじぞう、子どもの世界、とんび）	○隊形移動を素早く、静かに行い、それぞれのパートごとに合わせて演奏できるようにする。
	4 4年生、幼稚園児、保育園児によるゲーム交流（お誕生月集まれ、なべなべそこぬけ）	○4年生が幼稚園児、保育園児をリードできるように指導する。 ◇自分から進んで幼稚園児や保育園児とやさしく声をかけたり、手をつないだりすることができる。
10:15	5 終わりの言葉（4年生代表）	○幼稚園児、保育園児に分かりやすい言葉で話すようにする。

7 活動を終えて

- 幼稚園児や保育園児と同じ目線で接してあげられる児童が多かった。
- 年下の子どもに、自分から関わることで、年長者としての意識が芽生えてきた。
- 積極的に園児と関わり、おんぶや抱っこをしてくれたり、話しかけてくれたりする小学生もいて、子どもたちもそのことがとても嬉しかったと話していて、そういった関わりがあったことが、とても良かった。
- 幼児にとって、4年生はとても大きく、「かっこよかった」「足がすごく大きかった」等、一緒に関わるだけで色々感じたことがあったようなので、触れ合う機会がもててよかった。
- 幼稚園児や保育園児に進んで交流することができなかった児童が見受けられた。
- 「お誕生月集まれ」のリズムは、幼稚園と小学校で少しやり方が違っていて、戸惑っている小学生もいたので、事前に話し合えばよかった。
- 児童には、様々な交流活動を経験することで、接することができるように指導していきたい。
- 児童には、教師が声がけをすることで、成功体験をつまらせていきたい。
- 幼児は、自分たちの知っている「小さな世界」や「お誕生月集まれ」「なべなべそこぬけ」の曲やリズムを小学生と一緒にしたり、聞かせてもらったりすることが、より楽しいようだったので、そういったお互いに楽しめる曲やリズムをするのもいいと思った。

第4学年 交流活動案

日時 平成19年11月22日(木)

場所 4-1 3階多目的室

4-2 2階多目的室

4-3 教室

指導者 平方小学校 坂本、金子、野坂

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【国語3時間】

1 交流活動名 「読み聞かせ」

2 活動のねらい

- 小学生
 - ・幼児にわかりやすく本を読むことができる。
 - ・幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
- 幼児5歳児
 - ・小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。
 - ・小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。

3 幼児の実態

- ・降園時に教師が読む絵本や紙芝居をとっても楽しみにしており、長い物語や読み聞かせなども集中して聞くことができるようになってきている。
- ・週一回の絵本の貸し出しでは、ぐりとぐら・バーバーパパなど好きなシリーズを楽しみに借りていく姿が見られる。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、読み聞かせを聞いたりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、読み聞かせや手遊びを披露して、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると思う。

5 事前の指導

- 読み聞かせの練習・指導
- 手遊びの練習・指導
- 幼児への接し方

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 始めの言葉	
9:37	2 4年生、幼稚園児、保育園児による自己紹介・手遊び交流（班ごと）	○4年生が幼稚園児、保育園児の緊張をほぐすために楽しませることができるように指導する。
9:45	3 4年生による読み聞かせの披露（班ごと）	○幼稚園児、保育園児にはっきりゆっくり分かりやすく読むようにする。
10:05	4 感想交流	○目と耳を傾けてしっかり感想を交流できるようにする。
10:13	5 終わりの言葉	◇幼児にわかりやすく本を読んだり、思いやりの心をもって、優しく接したりすることができる。

7 活動を終えて

- 幼稚園児や保育園児の反応を見ながら読み聞かせや手遊びをしていた。
- 年下の子どもを思いやる気持ちや態度がたくさん出ていた。
- 4年生が本を一生懸命読み、幼稚園児や保育園児も真剣に聞いていた。
- グループ（4～5人の班につき、3人の幼稚園児や保育園児）で活動したことで、一人一人が自覚をもって取り組むことができた。
- 他教科と連携をとりながら、事前指導の時間を生み出す工夫をしていきたい。
- 幼稚園児や保育園児にわかりやすく本を読むことができなかった児童が見受けられた。
- 教師が声がけをすることで、成功体験をつまらせていきたい。

第4学年 交流活動案

日時 平成19年2月12日(木)

場所 4-1 3階多目的室

4-2 多目的室

4-3 教室

指導者 平方小学校 坂本、金子、野坂

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【国語3時間】

1 交流活動名 「言葉遊び」

2 活動のねらい

- 小学生
 - ・幼児に詩や言葉をわかりやすく教え、一緒に楽しむことができる。
 - ・幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。

- 幼児5歳児
 - ・言葉のリズムややりとりのおもしろさに気づき、遊びを楽しむ。
 - ・4年生の話を聞いたり自分の思いを伝えたりして関わって遊ぶ。

3 幼児の実態

- ・正月遊びや郵便屋さんごっこで、文字や数、言葉を取り入れて遊び、興味をもって書いたり、読んだりしている。
- ・しりとりや言葉集めなどに興味をもち、教師や友達と喜んで遊んでいる。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、詩や言葉遊びを聞いたりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、詩や言葉遊びを披露して、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると思う。

5 事前の指導

- 詩や言葉遊びの練習・指導
- 詩や言葉遊びの選択
- 幼児への接し方

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 始めの言葉	
9:37	2 4年生、幼稚園児、保育園児による詩や言葉遊びの交流（班ごと）	○幼稚園児、保育園児に分かりやすく読んだり、交流したりできるようにする。 ○目と耳を傾けてしっかり感想を交流できるようにする。
9:45	3 感想交流	◇幼児に詩や言葉をわかりやすく教え、一緒に楽しむことができる。
10:05	4 終わりの言葉	◇幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
10:13		

第5学年 交流活動案

日時 平成19年7月17日(火)

場所 体育館

指導者 平方小学校 高橋、赤木、小高
平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所

新井、氏家、板垣

教科時数内訳【図工8時間・学級活動1時間】

1 交流活動名 「パズルで遊ぼう」

2 活動のねらい

○小学生・幼児にパズルの遊び方を分かりやすく教えることができる。

・幼児に優しく話しかけたり遊んだりしながら、思いやりのある気持ちで接することができる。

○幼児 ・5年生の作ったパズルで話したり、教えてもらったりして触れ合いを楽しむ。

3 幼児の実態

○自分の気持ちや考えを相手に伝えられる幼児と、初対面の人に対して自分の気持ちを伝えられず黙ってしまう幼児がいる。

○1つの遊びに集中して取り組める幼児が多くなってきたが、まだ集中が続かずにあきってしまったたり、できないことをすぐにあきらめてしまう幼児もいる。

○交流会は3回目なので、小学生と交流できることをすごく楽しみにし、期待をもっている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、一緒に遊んだりすることで、上級生に親しみをもつことができるであろう。また、小学生は、パズルのやり方を分かりやすい言葉で伝えたり、楽しく遊んだりすることで、思いやりの気持ちをもち、優しく接することができると思う。

5 事前の指導

○始めの会・終わりの会の練習 各クラス代表1名

○グループ分け 各クラス4グループ

○遊び方の練習

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
10:15	1 席に着く。	
10:20	2 始めの会	○みんなに聞こえるようにはっきり話す。

		①始めの言葉 ②校長先生のお話 ③パズルの説明	○話を最後までしっかり聞くようにする。
10:25	3	グループ作り	○お互いにあいさつをして、輪になるようにさせる。 ◇自分から進んで幼児に優しく声をかけることができる。
10:30	4	パズルで遊ぶ	○パズルのやり方を優しく教えることができるようにする。 ◇楽しく遊んだり、幼児をほめたりできる。
10:55	5	後片づけをして席に着く。	○協力して片付けをする。 ◇優しい声かけをしながら、片付けをし、席まで送っていくことができる。
11:00	6	終わりの会 ①感想発表 ②終わりの言葉	○感想を交えながら、はっきり話すようにする。
	7	さようならの挨拶をして、見送りを する。	○お別れの挨拶をする。

7 活動を終えて

- 一緒に遊ぶことで、親しみが増し、交流が深まった。
- 2人組や3人組にしたので、パズルが教えやすく、幼児が分かりやすかった。
- 自分達で作った物を幼児が楽しく遊んでくれたので、5年生は満足していた。
- 楽しく過ごせたことで、給食交流に向けて、意欲が高まった。
- じっくりパズルに取り組めていてよかった。
- 事前の時間があまりとれなかったのも、その場でグループを組んでしまったので、名簿の交換をしておくよかった。
- パズルにすぐ目がいってしまって、自己紹介が疎かになってしまった。

第5学年 学級活動(就学児給食体験) 指導案

日時 平成20年1月21日(月)

児童数 88名 幼児数 64名

場所 5年全学級教室

家庭科室(5-1・エンゼル)

ランチルーム(5-2・ぞう)

第一会議室(5-3・くま)

指導者 平方小学校 高橋、赤木、小高

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【学級活動2時間】

1 活動名 「幼稚園・保育園と給食交流をしよう」

2 活動のねらい

○小学生・幼児に給食の仕方を分かりやすく教えることができる。

・幼児への思いやりの気持ちをもって、優しく接することができる。

○幼児 ・5年生に教わったり、一緒に食べたりし、給食の雰囲気を楽しみ、小学校への期待をもつ。

3 幼児の実態

○決められた時間内に食べ終わるように意識し、嫌いなものでも食べようとする気持ちが育っている。

○給食をととても楽しみにしている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼稚園・保育所の園児に給食の配膳の仕方やマナーや片付けの仕方などを分かりやすい言葉で伝えたり、楽しく会食したり、簡単なゲーム等を一緒にやって思いやりの気持ちをもって優しく接する場としたい。

5 事前の指導

○始めの会・終わりの会の練習をする。

○グループ分けをする。各クラス6グループ

○遊び方の練習をする。

○幼児は名札を用意する。

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
11:50	1 それぞれの活動場所へ移動する。	○各グループ代表1人が迎えに行く。
12:00	2 配膳の準備をする。 席を決める。 自己紹介をする。	○園児の名前を呼び、手をつないで席へ連れて行く。 ○自己紹介をし合い、名前呼び合えるようにする。
12:10	3 配膳をする。	○5年生が付き添って、園児の給食をもらい、席に運ぶ。 ◇配膳の仕方を分かりやすく教えることができる。
12:20	4 楽しく会食する。	○マナーを守り、楽しい会食になるよう5年生が上手にリードできるようにする。 ◇園児の気持ちを考えて、楽しい会話ができる。
12:55	5 片付けをする。	○一緒に教えながら給食の片付けをする。 ◇優しい言葉や態度で教えることができる。
13:05	6 楽しく交流する。	○グループごとに簡単な遊びをし、楽しく過ごす。 ◇園児に優しく遊びを教えることができる。
13:20	7 さようならの挨拶をして、見送りをする。	○手をつないで、園児を集合場所まで連れて行く。

第6学年 交流活動

平成19年11月9日(金)

場所 平方幼稚園園庭

指導者 平方小学校 鈴木、小西、吉田

平方幼稚園 大室、加藤、久川

教科時数内訳 【総合1時間】

1 交流活動名 平方動物園

2 活動のねらい

- 小学生 ・幼児の発表を聞いたり、クイズに答えたりして動物園を楽しむ。
 - ・幼児の発表の良さを見つけ、ほめたりやさしい言葉かけをしたりするなど思いやりのある気持ちで接することができる。
- 幼児 ・小学生に発表し、認められることで自信が持てる。

3 幼児の実態

- 動物園で見たことや自分の知っていることを友達に伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら、自分たちで協力して進めようとする姿が見られた。思いを受け止めてもらったことを喜んで、自信を持ったり、相手の思いも受け入れたりしようとする姿が多く見られた。
- 年少さんや小学生のお兄さん、お姉さんに見せたいという自分の気持ちを言葉にして表現する幼児が増えてきた。喜んで来てもらえるように招待状を作ったり、クイズを考えたりと友達と工夫して作る姿が見られた。

4 幼稚園との連携

幼児は、小学校の最高学年である6年生に対して発表し、あたたかい言葉をもらうことで、自分たちの活動に自信を持つことができるであろう。また、小学生は自分たちの入学前を思い出し、あたたかく接することで思いやりの心を育むことができるであろう。

5 事前の指導

- 各クラス、個人で招待状をいただく。(前日10:40～)
 - 目線を合わせて、各自お礼の言葉を述べる。
- 幼稚園側との打ち合わせを行い、平方動物園にいる動物を確認する。(10頭)
- 幼稚園内での態度、園児に対する言葉かけを確認する。
 - 会話をする。工夫しているところをほめる。

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導のポイント ◇評価のポイント
11:00	幼稚園を訪問する。 (1組→2組→3組)	○プール側の門から入るようにする。 ○幼稚園児が受付を行うので、時間差で訪問する。
11:05	招待状とスタンプカードを交換して、園内を見学する。	○各クラスグループで、空いているところから見学をする。 ◇園児からの問題に答えたり、小学生の側から園児に質問したりして、動物園を楽しむ。 ◇あいさつをしたり、発表をほめたりするなど、思いやりの心を持って接するようにする。
11:40	お礼の会を行う。 ・小学生の感想(2~3名) ・幼稚園児の感想 ・園長先生のお話 ・握手をして退場	○6年担任の司会進行で、会を行う。 ◇感想発表に対し、あたたかい拍手でこたえるようにする。

7 活動を終えて

- 園児の態度がすばらしく、自信を持って活動している姿が見られた。
- 動物が上手にできていて、時間をかけて制作をした努力が伝わってきた。
- BGMが臨場感を出していて、本当の動物園にいるようだった。
- 6年生としての自覚を持って、園児に対する言葉かけができていた。
- 動物園の様子を思い出しながら、招待ありがとうの気持ちをまとめることができた。
- 事前に打ち合わせを行っていたので、当日の進行がスムーズにできた。

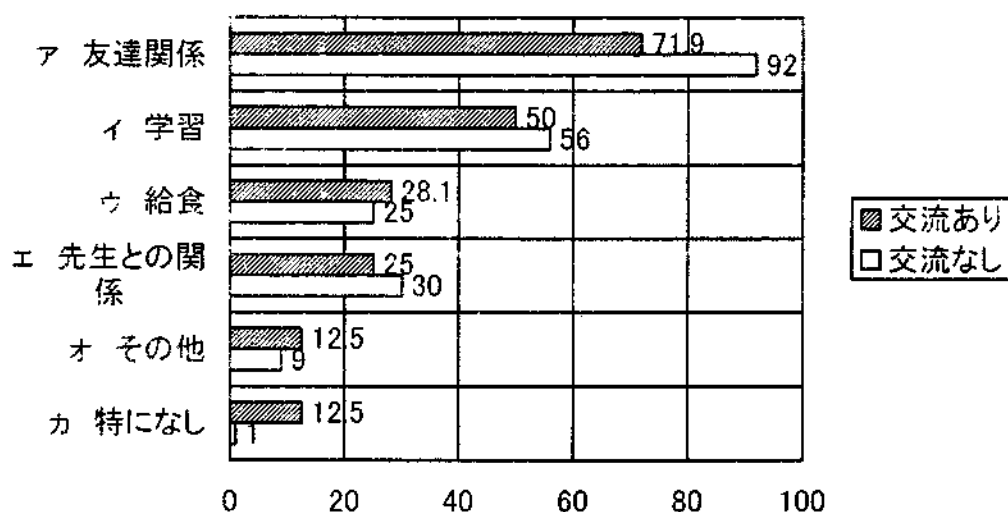
調査統計部

幼・保・小連携に関するアンケート調査結果と報告（平成19年6月実施・保護者配布版）

幼・保・小連携に関するアンケート結果のお知らせ

平方小学校では、幼児期から児童期への滑らかな接続を図るため、幼・保・小連携事業に取り組んでいます。それにつきまして、1学期中に、平方小学校の1年保護者の方々に、「幼・保・小連携に関するアンケートのお願い」という意識調査のアンケートを実施致しました。ご協力いただいた意識調査の結果は、次の通りとなっています。（小学校就学前の経歴で、平方幼稚園と西上尾第二保育所に通われていた方は「交流あり（31人）」、それ以外の幼稚園や保育所に通われていた方は「交流なし（56人）」で統計を出してあります。）

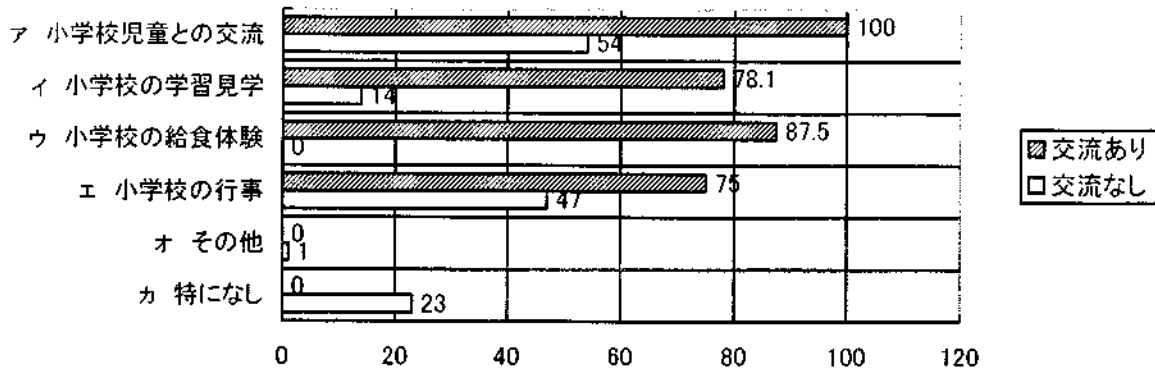
- (1) お子様の小学校入学にあたり、保護者として不安なことはどんなことでしたか。
（複数回答可）



◇調査結果の考察

- 「ア友達関係」が二者（交流あり、交流なし）とも一番多くなっている。
 - ・小学校という初めての環境での人間関係が懸念されている。
 - ・コミュニケーションがとれない子が増えてきていると思われる。
 - ・交流なしがとりわけ数値が大きいのは、知っている子がいないことや新しい友達を作れるかどうかということを心配しているからであると考えられる。
- 「ウ給食」において、「交流あり」の方が高く、逆に「交流なし」の方が低くなっている。
 - ・昨年度に給食体験の交流をもったことで、どのように配膳をするのかが分かり、給食の見通しがついたが、仕事を分担したり給食着の脱ぎ着や準備を一人でできるかどうかを心配していると考えられる。
 - ・好き・嫌い等の給食内容で心配している傾向も考えられる。
- 「オその他」における特記事項としては、「朝の支度」「通学時間が長い」「歩くのが遅い」「言葉遣い」「先生の指導法」が挙げられていた。

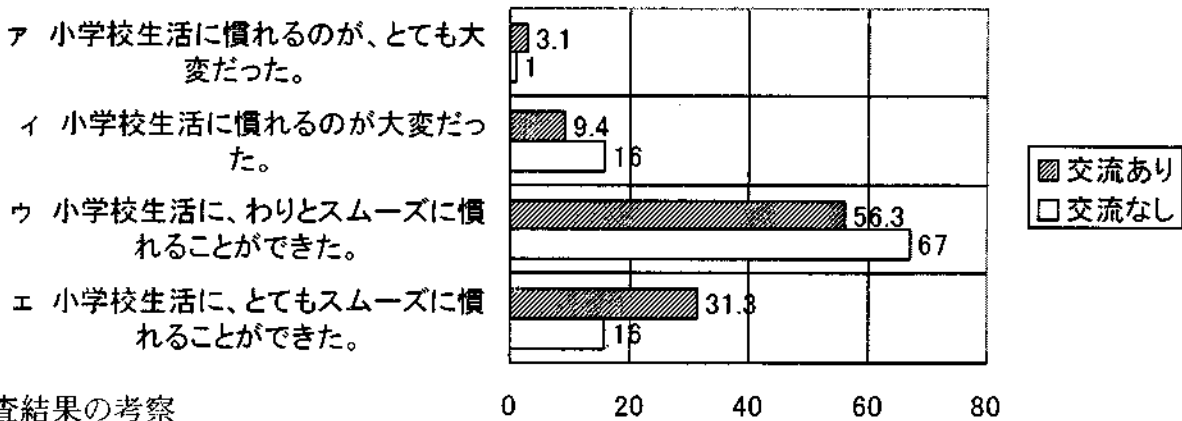
(2) お子様は、入学前に以下の内容の経験はありましたか。(複数回答可)



◇調査結果の考察

- 「ア小学校児童との交流」において「交流あり」が 100%であるのに対して、「交流なし」が 54%と約半分の割合となっている。
 - ・「交流なし」は、入学前に小学校児童と接する機会のない子もいることが明らかになった。
 - ・家のまわり等でも、小学校児童と遊んだりふれ合ったりする機会が無くなってきているようだ。
- 「ウ給食体験」において、「交流なし」の場合は、入学するまでに給食体験をしている子がいない。
 - ・交流活動に「給食体験」が行われているので、「交流あり」は、ある程度の見通しの中で、給食が行えるが、逆に体験しているがゆえに不安が多いことも考えられる。

(3) 入学当初、お子様の小学校生活への適応の様子はいかがでしたか。



◇調査結果の考察

- 二者共に、「ウ小学校生活に、わりとスムーズに慣れることができた」が一番多い。
 - ・幼・保において、入学前に園内でしっかり集団生活の基本を身につけている実態がある。
- 「交流あり」は、「エ小学校生活に、とてもスムーズに慣れることができた」が、「交流なし」の二倍の数値となっている。
 - ・交流活動を体験したことにより、小学校における学校生活の流れを、ある程度把握することができ、異学年の小学校児童の知り合いがいたことでスムーズに慣れることができたと考えられる。

(4) 交流学习等を経験して、お子様の様子で気づいた点について、自由にお書きください。

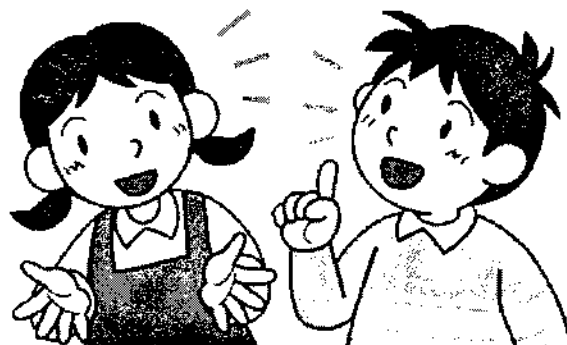
<交流あり>

- ・緊張が少なかった。
- ・学校がこういうところだとわかってよかった。スムーズにとけ込めた。
- ・上級生と関わり喜んでた。
- ・教師と関わられてよかった。
- ・表現力や感情に幅が広がった。
- ・入学を楽しみにしているようだった。
- ・楽しそうだった。
- ・異学年の友人ができた。
- ・校長・教員がよくしてくれて心強い。
- ・小学校生活に対し前向きな考えを持てた。
- ・小学校生活に「不安」を感じていたのが、交流を通して「楽しみ」や「期待」に変わった。
- ・子どもの交流も大切だが、先生との交流も子どもにとって左右されると思う。
- ・小2のお姉さんに優しくしてもらったのが印象的だったようで、自分も幼稚園児に優しくしてあげたいと言っていたので良い経験だったと思う。
- ・小と幼が同じ敷地内にある環境が素晴らしいと思う。
- ・上級生に知り合いができ、声をかけてもらえることが嬉しい様子であった。
- ・先生方が幼稚園に来ることで先生に対する緊張感がなくなったように感じる。

<交流なし>

- ・養護学校との交流はあるのか。今後、検討してほしい。
※障害のある子と接することで、優しい心が育まれる。とても大切なことだと思う。
- ・決まった園だけでなく、来年度入学予定の園児全員を対象にしてほしい。入学予定の園児全員に活動参加の案内があれば公平だと思う。
- ・他の幼稚園等を卒園した子や保護者にとっては、疎外感のように感じる。
※上尾市全体が、近隣の幼稚園・保育所・小学校で連携が進むことを願い、研究を進めている。

ご協力頂いた保護者の皆様、ありがとうございました。これらのアンケート結果を基にして、今後の幼保小連携事業に取り組んでいきます。



交流活動・交換経験研修を振り返って（感想の分析）

1 プール参観（小学校→幼稚園）

- 一斉指導よりも個別の声かけを重視していた。
- 小学校の教員に、幼稚園の子どもが親しんでいた。
- 幼稚園児は、予想外に泳力があり、楽しんでいる様子がみられた。園内のプールでの様子ではどのくらい泳げるかが分からなかったが、小学校のプールでは泳力がよく見えた。
- 話の聞き方が上手で、指示がよく通る。
- 子どもが集中するまで待つ時間があり、感心した。
- 自由時間になっても自由に遊ばず、復習をする姿に感心した。
- ◆広いプールで不安を感じたのか、一部の子は自由に遊ぶことができなかった。

2 運動会（幼児徒競争）

- 上級生が一生懸命に首にメダルを掛けてあげていた。
- 園児は小学校に親しみを持っていたようだった。
- 幼児達は笑顔を見せて嬉しかったようだった。
- 商品を渡す児童がはりきっていた。
- ◆レースの間隔が短かったので、声かけまではできていなかった。
- ◆交流としての意味は感じなかった。
- ◆不特定多数の参加だったので、就学児童に絞れると良いのではないか。

3 チャレンジ集会（幼稚園・保育所→小学校）

- 小学校の児童が手本を見せて、それを見ながら園児が挑戦するという種目もあり、かかわりがもてた。
- 6年生が幼児の大きさに合わせて挑戦する道具のサイズを選んであげていて良かった。
- 幼児が成功すると、児童が拍手するなど関わる姿が見られた。
- 幼児が来ると、児童が緊張する場面が見られた。児童の平常とは違う姿を見ることができ、良かった。
- 幼児が好奇心いっぱい楽しくチャレンジした。「難しいよ。」という「だからチャレンジするんでしょう。」と純粋に楽しんでいた。
- 交流は少なかったが、児童が幼児に優しく挨拶したり、上級生が全体の運営をスムーズに進めようとしている姿を幼児が見たりすることで、いい刺激になった。
- 幼児達は、大きな小学生のなかでも学校という場に慣れてきているため、十分に楽しむことができた。
- 「僕は2こ入った。」などうれしかったことを小学校の先生に話しかける様子もあり、慣れてきて関わりをもてるようになってきた。
- ◆引率の先生が幼児への指示を全部してしまっていたので、幼児と児童のかかわりという面では課題が残った。
- ◆一緒に何かするという活動ではないので、交流が限られてしまう。児童の中から「お世話係」をつけるなど、関わりを持てるようにしてみてもどうか。
- ◆出来上がった行事に参加しているので、交流になっていない。交流させるのであれば事前の打ち合

わせが必要だが、時間帯の違いで無理がある。

- ◆どこかの学年と兄弟姉妹グループを作ってみてはどうか。
- ◆幼稚園と保育所で交流してみることで、幼児の姿がはっきり見えてくるのではないか。
- ◆小学生や、小学校の先生に対して、幼児が自分から「ありがとう。」「お願いします。」「こんにちは。」などの言葉が出なかった。身近な人や慣れているだけでなく、誰に対しても自分からそういった言葉が出せるように指導していく必要がある。

4 平方小運動会に参加した平方幼稚園児（年長）

- 小学校の校庭で走ることが経験できたことで、「来年は自分たちもここで運動会をやるんだ。」という気持ちをもった幼児が多かった。
- お兄さん・お姉さん達の様子が見られて、小学生の足の速さや迫力に感動していた。

5 平方小持久走大会を見学した平方幼稚園児（年長・年少）

- 年長児は一年生とペアになり、虫探し・落ち葉拾いを一緒に楽しんだ経験の後だったので、一年生が走っている時には「僕と手をつないでる子だっ!!」「○○ちゃんが走ってたよ」とペアの子を探したり、一生懸命応援したりし、昨年まで応援に行っていた時よりも、こども達も親しみを持って応援することが出来たように感じた。
- ◆小学生のコースの邪魔になってしまったりし、どこで応援するといいのか事前に確認をしておけば良かったと感じた。

6 職員間の交換保育体験（小学校職員→幼稚園・保育所へ）

(1) 子どもの実態について

- 年長さんは数が数えられており（算数の基礎）、ゲームの回数なども把握していた。また、子ども同士で本の内容を説明し合っている姿も見られた。遊びを通して基礎を学び、表現力や思いやりが自然と育っていくように思えた。
- 行儀が大変よく、洋服も自分できちんとたためていた。
- 幼稚園では、子どもたちが包丁を使っていたことに驚いた。
- 保育所では役割分担がしっかりできており、掃除も自分たちで行っていた。
- 曲がかかるとすぐに体を動かし、自分から踊り出す。
- 保育所では、半数以上が鉄棒や跳び箱ができていた。
- 保育所は、会話や行動が小さな大人社会で、幼稚園にはないような衝突が見られる。しかし、喧嘩やもめ事が起きた時に、周囲の子どもが子ども同士で収める姿が見られた。
- ◆とても素直なので、思ったことをすぐに口にしてしまうようだ。
- ◆年長さんと年少さんの伝え合いが、言葉でできていないようだった。

(2) 指導について

- 廃材集めが参考になった。材料（環境）を教員が集めておき、環境を整えてあげると、アイデアが生まれるのかも知れない。
- 保育園では、自分のことは自分でさせると言う方針が随所に見られた。対して、幼稚園では、子どもたちの活動において、教師が周到に準備を行っているという印象が残った。

- 小学校と比較して、時間に融通が利くように感じた。また、子ども同士のトラブルを解決する方法や様子面で、時間をかけて落ち着いて取り組める点が小学校と大きく違うと感じた。
- 複数の目で安全面への配慮をしている。
- 単語ではなく、最後まできちんと話をさせている。伝え合う力を育てるには大切なことだと感じた。
- 保育園では、時間がかかっても最後まで給食を食べさせる指導をしていた。
- 幼稚園と比較すると、保育所では教師が介入せず見守ることが多いように感じた。

7 職員間の交換保育体験（幼稚園・保育所職員→小学校へ）

(1) 子どもの実態について

- 自分の役割を理解しており、班ごとの清掃がきちんとできていた。
- 新しい友達との様子、授業態度が見られ、成長が感じられた。
- 国語の書き取りで、大きな字をしっかりと書けていたことに感心した。
- ◆1年生になって2ヶ月で字をしっかりと書けるようになっていた。一から覚える児童は大変だろうと思った。
- ◆聞く耳をもてない児童もいたので、これからは聞く耳をもてるように育てていきたいと思った。
- ◆給食のペースの早さを改めて感じた。残さず食べさせるためにも、時間を少しずつ小学校に近づけていかなければならないと思った。

(2) 指導について

- 幼稚園で生活していた時との違いや、学習が進んでいく過程、幼稚園から小学校への移行時期の様子が分かったので、つながりを持たせるための参考になった。
- 1年生の授業の進め方、児童の集中の度合いが分かった。また、1学期にどの程度のことのできるようにならなければいけないかが分かり、話を聞く姿勢、約束、友達との関わりなど、就学前に身につけておきたいことを考える機会となった。
- 歯ブラシの管理が保健室できちんとできていることに驚いた。
- プール指導では、約束事を児童にも言わせていたことが参考になった。また、じゃんけん遊びを早速保育所でも取り入れたところ、とても喜んでやっていた。
- ◆休み時間など、遊ぶ時間が少なく感じた。
- ◆道徳や図工の時間はどんな補助をしたらいいのか迷ってしまい、立ちつくしてしまった。

調査統計部 活動のまとめ (○成果と◆課題)

- 幼・保・小連携教育の成果について、小1保護者を対象に意識調査ができたことは、この事業を進めていく上で、大変参考になった。
- 幼・保・小各教育現場での教育の特色・子どもの実態が明らかになった。子どもの発達を理解する上で、大変重要であることに気づけた。
- ◆本年度は実態調査とその結果の公表にとどまってしまった。今後は、日常の教育活動に生かせるよう、年度当初の段階で配慮していきたい。
- ◆各教育機関がそれぞれの特長を理解した上で指導していくことが大切である。したがって、今後も交流事業を続けていきながら、教職員同士が互いを意識しながら教育活動を展開する必要があると感じた。

ア にこにこ先生体験（一日先生体験）

- ① 対 象 在籍している園児の保護者
- ② 内 容 1学級1名の配置
自分の子どもが在籍していない並行学級の保育補助
終了後、アンケート用紙に記入し、提出
- ③ 時 間 登園から降園まで（9時～14時と9時～14時30分）
- ④ 参加方法 予定した日程や内容等を知らせた手紙を配布し、希望した日を調整して決定
- ⑤ 当日までの流れ
- ・ 参観日等の全体会で、保護者に主旨を説明
 - ・ 年間の予定や内容・参加方法などを記述した手紙を保護者全員に配布
 - ・ 希望者の募集
 - ・ 事前打ち合わせ
※活動内容やその日のねらい、援助の仕方、守秘義務等について打ち合わせ
 - ・ 「にこにこ先生」の保育参加



イ 各種園行事への参加や手伝い

- ・ 年度初めに、原則として、園児一人につき1回は園行事への準備や手伝いに携わることを条件に、募集する

（本年度の予定）

日程	項目 参 加 事 業	保護者		合 計	おもな内容
		父	母		
6/18	プ ー ル 清 掃	0	5	5	年長児と一緒にプール清掃の共同作業
7/10	カレーパーティー	0	4	4	カレーの調理の手伝い
9/18～9/26	運 動 会 の 準 備	0	16	16	園児の衣装や小道具作りの手伝い
11/2	焼き芋パーティー	3	0	3	枯葉を燃やして焼き芋作り
12/11	おもちつき	4	7	11	父親はお米を捏ねてつき、母親は出来上がったお餅にあんこやきな粉を付ける作業
2/6～2/14	劇の発表会の準備	0	16	16	園児の衣装や小道具作りの手伝い
3/5	お別れ遠足	0	2	2	丸山公園までの交通整理
3/12	昼食バイキング	0	7	7	バイキングメニューの下ごしらえ
合 計		7	57	64	

（その他の園行事）

✿誕生会（毎月1回）✿

誕生会に、誕生月の園児の保護者（父や母）を招待し、一緒にお祝いをする。その際、自分の子どもの誕生した時のエピソードや名前の由来、いちばん嬉しかった出来事など、お話ししていただく時間を設けている。終了後、親子で記念撮影をしたり、クラスでおやつを食べたりして一日を過ごす。また、誕生会の様子を録画し、後でDVDに編集してプレゼントする。

✿参加型の参観日✿

学年で年1回、全員の保護者が園児と一緒に幼稚園の活動に参加する。内容は、運動遊びや製作活動等である。



平成27年度

研究集録

研究テーマ 発達過程を踏まえた造形教育の在り方

～様々な表現を楽しむための教師のかかわり～



上尾市立平方幼稚園

様々な表現を楽しむために教師のかかわり <2年保育4歳児>

月	活動内容	素材と経験したこと	(☆)環境 (◇)教師のかかわり (○)幼児の姿
4月	<p>こいのぼりづくり</p> 	<p>・絵の具を使って画用紙に手形を押す</p>  <p>・指絵の具でうろこ作りをする</p>  <p>・画用紙で作った目を糊で貼る</p> 	<p>☆前日に水で新聞紙に手形スタンプ遊びができるように水・新聞紙を用意する。</p> <p>○「手の形になった」「指の所が見えない」など繰り返し遊ぶ中で、しっかり付けることや押し方を変えて楽しむ。</p> <p>☆布に絵の具を染み込ませて置いておく。水色とピンクはテールを別にする。</p> <p>◇絵の具の感触を楽しみながら手形スタンプを押すことができるように「絵の具冷たいね」「上手に手の形が出たね」などの言葉掛けをした。</p> <p>○水とは違い、手に絵の具が付くことに抵抗のある幼児もいる。</p> <p>◇教師も一緒にやりながら数は少なくてもできたことを認めていく。</p> <p>☆手形スタンプを押した画用紙をこいのぼりの形に切る。絵の具は布に染み込ませておく。</p> <p>○前日の手形スタンプの経験があったので、進んで指スタンプでうろこ作りをしている。</p> <p>◇やりすぎてしまいそうな幼児には様子をしながら声をかけていく。</p> <p>☆のりの板・のりの手拭きを個々に用意する。</p> <p>○のりを指で付けることが初めての幼児が多く、付ける量や伸ばし方など試している。</p> <p>◇のりを指で端までのばすことができるように声を掛けたり、やって見せたりする。</p> <p>☆絵の具で輪郭を描いた画用紙を用意する。</p> <p>○髪の毛や顔を描く。「髪の毛は長いんだよ」「メガネをかけてる」などお母さんを思い出しながら描いていた。</p> <p>◇描くことが苦手な幼児やクレヨンとの経験があまりない幼児はなかなか進まないで、一緒にお母さんを思い出しながら描けるようにする。</p> <p>☆様々な色や形の花を用意する。</p> <p>○自分なりに色や形を組み合わせて作ることを楽しんでいる。</p> <p>◇幼児なりに考えたり、組み合わせたりする姿を認めたり出来たことを一緒に喜んでたりする。</p>

イチゴケーキ作り



・イチゴの折り紙を折る

・ケーキにクリームやフルーツを貼る

父の日のプレゼント作り

・お父さんの顔を描く

・メッセージボードに飾り付けをする



☆赤い折り紙・いちごのへたを用意する。

◇初めての折り紙なので、基本形でわかりやすい折り方の折り紙を選んだ。

◇少人数で折り紙を行なうことで個々の幼児の把握をする。

◇指先を使って折ることがなかなか上手できない幼児も多い。幼児の様子を見ながら個々に援助したり、認めた
りしていく。

☆台紙にケーキの画用紙を貼っておく。帯(クリーム)と色や形の異なったフルーツを用意する。

◇クリーム(帯)の中に4種類の色や形の違うフルーツを1つずつ貼ることを伝える。糊の量や端まで付けられるよ
うに見守ったり、具体的にやり方を伝えたりする。

○それぞれに貼り方や並び順を考えながら貼っている。同じフルーツを貼ってしまいう幼児もいる。

☆絵の具で顔の輪郭を描いておく。洋服を数種類用意する。

○母の日の時にも顔を描いたので、比較的スムーズに顔や髪の毛を描くことができていた。

○お父さんの好きな色や模様などを考え、洋服を選んでいた。

☆ハートや星、ひし形などの形、メッセージボードの土台となる画用紙(数色)を用意する。

◇画用紙の周りに模様を貼ることを話す。幼児の選び方や貼り方を見守りながら幼児の考えや工夫を認める。

○「お父さん喜んでくれるかな」「使ってくれるといいな」などプレゼントすることを楽しみしながら製作している。

・画用紙にタンポをする

短冊作り

・障子紙を染める



☆少し大きめの画用紙を用意する。ガゼで作ったタンポと布に含ませた絵の具を用意する。

○ピンク・水色・紫の好きな色を選び、友達と一緒にタンポ遊びを楽しむようにする。

○タンポで押した模様に不思議さを感じたり、押すたびに色の濃さや形の違いを楽しんでいる。

☆絵の具(ピンク・黄色・水色・黄緑・紫)を水で溶き、容器に入れておく。


○障子紙を三角に4回折る。一つ目を一緒に折らなったら、2枚目3枚目と自分で折る。

◇染める手順をやって見せながら話をする。特に染めた紙を広げる時には慌てず、丁寧に折ることを話す。

○個々に色を選んで模様の出方を楽しんだり、色の混ざり方、変化などを楽しんだり、驚いたりしている。

○回数を重ねるごとに絵の具を付ける量や組み合わせなどを工夫している。

○染めた紙を広げる時に、1枚ずつ開いていくことができず、破れてしまいう幼児もいる。

<p>7月</p>	<p>泥粘土</p>	<p>・泥粘土に触れて遊ぶ</p> 	<p>☆泥粘土に水を含ませて捏ね、幼児が使いやすい方さ、大きさにしておく。 ○初めての泥粘土に戸惑いを感じている幼児もいる。 ◇教師も幼児と一緒にちぎったり、丸めたりして泥粘土の感触に共感したり、ダイナミックに楽しんだりする。 ○慣れくると、手だけではなく足で踏んで感触を楽しんだり、たくさん泥粘土を使って大きな形を作ったりすると自分なりに楽しんでいる。 ○場を大きく取っておいたことで、ダイナミックに遊び幼児、粘土と同じように遊ぶ幼児など思い思いに楽しんでた。</p>
<p>9月</p>	<p>自分を作る</p>	<p>・自分の顔を描く ・洋服を選び張り合わせる</p>	<p>☆肌色の画用紙を用意する。 ◇自分の顔を鏡で見ながら顔を描く幼児が多い。顔を描くことに苦手意識をもっている幼児はなかなか描けないので、幼児によって教師が輪郭を描いたり、手を持って一緒に描いてみたりする。 ☆洋服・スカート、ズボンの色や形を変えて用意しておく。腕は別に作り、まっすぐ・曲がついているなど用意する。 ○洋服の色や形を楽しみながら選び、組み合わせを変えたり、試したりしている。 ◇腕の付ける位置がわからない幼児もいるので、教師の体を使ってどこから手が出ているか、どのような向きで付いているかなどに気付かせていく。 ☆大きい画用紙を用意する。</p>
<p>10月</p>	<p>運動会の絵を描く 木の実に遊ぶ</p>	<p>・友達と一緒に運動会の絵を描く ・楽器作り ・タペストリー作り</p>	<p>○同じ競技の絵を描きたい幼児同士がみんな1つの絵を書き上げていく。描くことが苦手な幼児も自分の描ける所に参加することで無理なく描くことができた。 ○同じ経験をしていてもイメージや印象がそれぞれ違うので、自分が思っていないことを他の幼児に描かれてしままい、言い合いになってしまうこともあった。 ☆楽器の見本と木の実・カップなどの材料を用意しておく。 ○興味をもった幼児が見本をみて自分なりに作り、曲に合わせて鳴らして楽しんでいたことで他の幼児にも広がり、真似をしたり、自分なりに木の実を変えたり、容器を選んだりして作っていた。 ☆様々な秋の自然物、ボンド、土台を用意する。 ○自分なりに使う自然物や何に見立てるかなどを考えてじっくり取り組んでいた。</p>

<p>11月</p>	<p>おいもほりの絵を描く</p>	<p>・絵の具やクレヨンを使って絵を描く</p> 	<p>◇なかなかイメージが膨らまない幼児には、友達が作っている様子に気付かせたり、どんなものを作りたいか一緒に考えたりする。</p> <p>◇ポンドの使い方、小さい木の実への接着の仕方などを知らせ、幼児の取り組みを見守ったり、幼児がイメージを実現できるように援助したりする。</p> <p>○出来上がったタペストリーを友達と見せ合ったり、飾って楽しむことができた。友達の発想に刺激を受け、遊びの中で新しく作る幼児もいた。</p> <p>☆白い画用紙、さつまいも(3色)・土・空の絵の具、画板を用意する。</p> <p>◇画板の使い方を知らせる。</p> <p>◇はじき絵の手法を知らせ、幼児が絵を描く時の選択肢の1つとして提案する。</p> <p>○最初にはじき絵の手法を知らせたことで、幼児が興味をもってクレヨンと絵の具を使ったはじき絵の手法を取り入れていた。ただ絵を描くだけでなく力を入れてクレヨンを塗ることに気をつけたり、絵の具がクレヨンをはじく様子を不思議がったりしていた。</p>
<p>12月</p>	<p>クリスマスバック作り</p>	<p>・油性ペンで線を書く</p> <p>・線で囲まれた空間をクレヨンで塗る</p> <p>・クリスマスツリーに毛糸を巻く</p>  <p>・紙袋にクリスマスツリー、星の切り紙を貼る</p>	<p>☆白い画用紙に二等辺三角形を書き、左右にハート・星・丸などの模様をつける。</p> <p>◇教師の指示にあわせて模様同士を線で繋げていく。幼児がわかりやすいように絵での表示も利用する。</p> <p>○繋ぎ合わせる模様を探したり、複数ある模様のどこを繋げるかを考えたりしながら教師の指示に沿って線で繋げていた。</p> <p>◇クレヨンで塗ることを考え、できるだけ遠い模様同士で繋げられるように言葉かけをしたり、気付かせたりする。</p> <p>◇隣同士が同じ色にならないように話をする。また、黒や茶色など使わない色を知らせる。</p> <p>○自分なりに色を考えて塗っていた。最後まで丁寧に塗ることができた幼児と筆圧が弱かったり、集中力に欠けたりし、飽きてしまう幼児がいた。</p> <p>☆ツリーの形に切った紙に切れ込みを入れておく</p> <p>○指先を使うので、毛糸を巻くことに難しさを感じる幼児がいた。</p> <p>◇毛糸を軽く引く張りながら切れ込みにかけていくことを知らせ、一緒にやりながら出来上がったことを認めたり、一緒に喜んでたりする。</p> <p>☆クリスマスツリーに画用テープを貼る。金色の折り紙を折っておく。</p> <p>◇画用テープを剥がすということにも指先を使うので、幼児の様子や指の使い方を見守ったり、剥がし始める場所を知らせたりする。</p> <p>○折った紙を切ることで、星の形になることや切る角度によって星の形が違う感動や驚きが幼児から聞かれた。</p>

凧作り

・ビニールに絵を描く



・竹ひごを印に合わせて貼り付ける

- ☆凧の形に白いカラービニールを切る。竹ひごは長さを合わせて切る。
- ビニールに絵を描くという経験がない幼児が多かったので、描きにくそうにしている幼児もいた。
- ◇マスキングテープを利用し、机に貼り付けて動かさないようにして幼児が描きやすいようにした。
- 凧がどうやってできるのか、楽しみにしながら絵を描いたり、飛ばしたときの向きを気にしたりしながら絵を描いたりする幼児もいた。
- ◇しっかりと留めることができるように、セロハンテープの向きに気付けたり、少しずつ貼っていくことを知らせたりした。また、一人で留めることが難しい幼児は友達に自分から声をかけ、押さえてもらえようように援助した。
- ◇竹ひご同士が重なり合っている場所の近くは接着が難しいので、1つずつ確認をし、補強した。
- 「凧ってこうやって作るんだ」とができる工程に興味をもっている幼児や「いっぱい飛ばぶかな」と自分の作った凧をあげることを楽しみにしながら作っている幼児の様子が見られた。

鬼のお面作り

・画用紙をお面の形に折る



・画用紙を切って鬼の顔を作る
(重ねて切る)

- ☆赤と青の画用紙を用意する。
- ◇画用紙が折り紙よりも硬いため、折り目をしっかりとつけることが難しい幼児もいた。大きめの画用紙だったため、ひとつひとつの工程は折りやすそうだった。
- 画用紙を折ることに興味をもって取り組んでいた。普段使っている素材でもその素材をどうやって使うかによって幼児の興味・関心はい大きく変わる。
- ☆様々な色や大きさの画用紙を用意する。
- ◇実際にやってみせながら重ね切りの手法を知らせる。
- 複数枚必要で重ね切りが必要なもの、鼻のように1枚でいいものを使い分けられることがスムーズにできる幼児とどこに複数枚必要かなかなかかわからない幼児がいた。
- 重ねて切ることと同じ形ができることに驚きや喜びを感じている。
- 円錐を作る工程では手先の動きや使い方、発音が顕著に見られた。なかなか形にできず苦戦している幼児もいた。



・鬼の角を作る

・毛糸をまとめ、バンドで付ける

・柄を折る

- やり方やコツがわかるとたくさんできていくことを喜んでいたり、楽しんでいたりした。
- バンドなど接着に必要な素材の量やつけ方など自分で必要な量を考えて付けることができるようになっていた。
- 折り方はコップと同様だったため、今までの経験で教師の話を聞きながらスムーズに折ることができていた。
- 画用紙で折ることも鬼のお面で経験しているため折り折り目をつけることなども意識している幼児が多かった。

雛人形作り

・折り紙でお内裏様とお雛様の体を作る

・画用紙で作った型を組み合わせ、顔や飾りを作る



・台を貼る

・発泡球に色を塗り、ぼんぼりを作る

・切り紙で桃の花を作る



・トイレットペーパーの芯に布を貼る



・芯やフォトフレームにレースやリボンをつける



○折る位置がはつきりと決まっていなく、目安であったため、どのくらい折ればいいのか戸惑ったり、自信がなくひとつひとつ確認しながら折る幼児もいた。

○「指を入れて開いてつぶす」ということも鬼のお面での経験があったため、スムーズにできた。

☆髪の毛や扇子、杓などのパーツを用意する。

○髪の毛の位置や顔と体のバランスなど自分なりに考えて作っていた。

◇**幼児が考えてつくる姿を見守り、それぞれの考えや工夫を認めていくようにした。**

○自分でできたことを認めてもらえたことで、楽しみながら自信をもって取り組むことができた。

○ポンドを使って貼る素材、のりを使って貼る素材が違うので、できるだけまとめて行なうようにした。素材によって接着剤を変えることが1つの作品の中で経験することができた。

☆発砲球を半分に切っておく。

◇**筆を使ってプライトカラーを塗る時には、筆の使い方、絵の具の量など、一緒にやりながら知らせる。**

○ひとつつめの切り紙を一緒に作っていき、それを基に自分で折ったり切ったりできるようにした。一度の経験でできる幼児と何回説明しても一人で進めていくことができない幼児との差がとても大きい。

○どこに貼るか、どの色を使うかなど自分で考えたり工夫したりして自分だけのひな飾りを作っていた。

☆様々な柄の布を切っておく。ポンド・筆を用意する。

○布にポンドをのばし、端までつけることに苦戦している幼児もいたが、「年長風にプレゼントしたい」という気持ちをもって丁寧に作り組む姿が見られた。

◇**3枚の布の組み合わせ方を自分なりに考えて貼り合わせていたが、巻くことが難しい幼児には布を置き、芯を転がして巻いていく方法を伝え、できるだけ教師の手を借りず、自分で作ったという気持ちや自信がもてるようにした。**


☆レースを必要な長さに切って種類ごとに置いておく。

○プレゼントする年長児のことを考え、色や柄、種類を一生懸命考えていた。プレゼントをする相手のことを考えながらひとつひとつ丁寧に作り組むことができるようになった。




年長組にプレゼントを作る









様々な表現を楽しむための教師のかかわり <2年保育5歳児>




月	活動内容	素材と経験したこと	(☆)環境 教師のかかわり 幼児の姿
4月	こいのぼりづくり 	○布にマスキングテープで模様をつけてローラー遊びをする ・色の混色を楽しむ ・ローラー遊びを楽しむ ○かわいたところを大きな布のこいのぼりに貼る ・両面テープ ○フェルトの目を貼る ・両面テープ	☆20センチ×15センチくらいの白い布を1人3、4枚遊べるように用意した。 その布をこいのぼりのうろこにした。 ・ローラーは年少の時に使って遊んでいたが、教師がマスキングテープを貼った上からローラーで色をつけ、はがした時に模様が真っ白にできてきたことに感動し、「早くやってみたい」とわくわくしながら喜んで遊び始めた。 ・マスキングテープを着る所が考えていた以上に指先の作業に難しさを感じる幼児が見られた。 扱い方を知らせていくと、慣れていき、自分でできるようになり、経験としてよかったと感じた。 ・初めは、直線に貼って、ローラーで色をつけてはがし、試していたが、 友達の出来上りの声を知らせると、次第に線路や縞模様様に工夫して貼って楽しんでいった。また、付けた色合いやはがした後の模様からイメージが生まれたりしていき、教師はその声に共感しながら、まわりの幼児にも伝わるようにする と、そこからさらに工夫をしたり、イメージが広がったりしており、一人一人の遊びではあるが、まわりの友達から遊びがより楽しくなっていた。 ☆絵の具は4テーブルに3色ずつおいて、自分で色合いの好きなコーナーを選んでもできるようにした。 ・自分なりの色の混ざり方や色の使い方(2色にしてみたり、重ね方を変えたり)を試して楽しんでいたので、一人一人が自分の布で繰り返し遊べたのがよかった。 ・この経験とつなげて、混色でスチレン版画をする活動も楽しいのではと考えた。
4月	迎える会プレゼントづくり	○じゃばら折りペンダントをつくる	・昨年に続き、じゃばら折りペンダントをつくった。進級して間もないので、行程の少ない、わかりやすいつくり方の物を考えた。そのことで、幼児が「何色が好きな?」「どんな動物が喜ぶかな?」など考えて、安心して楽しんでくれることができた。 教師もつくり方を伝えることよりも、幼児が気持ちをこめてつくる姿を十分に受け止めたり、プレゼントを渡すことに期待がもてるような声かけやかわりをしたりした。

<p>5月</p> <p>染物 (バック)</p> 	<p>○染め物</p> <p>・ビー玉と輪ゴムで模様をつける</p>	<p>・輪ゴムで巻きつけるのが上手な幼児が多く、輪ゴムを取る時にも、あまり苦戦している様子がなかった。年少のときの毛糸の経験がながっているのではないかと感じ、この基礎があったことで、ビー玉をつける位置や数を考えながら楽しんで工夫してできた。</p> <p>・出来がった時の感動や輪ゴムを取る時のワクワクした気持ちは染め物ならではの経験であり、どんな模様も失敗がないところが幼児が出来上がった時の大きな満足感になっていた。教師はその気持ちに共感し、感動体験を一緒に楽しんだ。また、それがプレゼントになり、お母さん方が使ってくれることがとても嬉しい様子だった。</p> <p>☆偶然できる形や模様もおもしろいが、工夫を楽しめるように染め物のビー玉を重ねたときにどんな形ができるか、またビー玉を使わないとどんな絞りができるかなど、布の染めた時にできる模様をわかりやすく飾っておくのもいいのではないかと</p> <p>☆保育室を2部屋使い、行程ごとにコーナーにすることで幼児にとってもわかりやすく、次の行程に移れる様子があった。</p>
<p>5月</p> <p>折り紙 (だまし舟・風車)</p>	<p>○つくった折り紙で遊ぶ</p> <p>○形が変化する折り方を楽しむ</p>	<p>・折り方の行程が長いので全体ではなく、興味をもった幼児から伝えていくようにしたことで、出来上がった時に面白さを感じ、友達同士で伝え合う姿につながっていた。</p> <p>・風車にストローをつけて、まわるようにしたことでつくったもので遊べる楽しさを味わっていた。</p> <p>・風車・だまし舟・ヨットといろいろな形に変化することが楽しく、繰り返し折って遊んでいる中で今までよりも少し難しい折り方も習得していた。</p>
<p>6月</p> <p>絵の具で好きな絵を描く</p> 	<p>○絵の具の使い方を知る</p> <p>・新聞紙に水で描く</p> <p>・波を描く</p> <p>・虹を描く(ハレット)</p> <p>・○の中に色を塗る</p>	<p>・「絵の具の基本的な使い方を知る(筆の扱い方、色を変える)」という部分に丁寧に時間をかけていたが、年少組で筆の扱い方は経験しているもので、年長では「色を変えたい時にどうしたらいいか」「色を重ねる時は…」という2つのポイントでいいと思われるので、『虹』の基本だけでいいと感じた。</p> <p>・色を重ねる基本の経験では「ケーキのクリームを塗り、フルーツやチヨコロシートを描くなど」もできるのではないかと</p> <p>・好きなテーマで白い大きな紙(4ツ切り)を渡すと、まだイメージが形にならない幼児も多く、少し描いて友達のをみて「もう一枚描く」という姿があったり、何を描こうと戸惑う様子もあった。教師も何枚も描こうとする幼児に紙を渡すことを</p>




		<p>・好きなテーマで絵の具で絵を描く</p>	<p>戸惑う気持ちにもなった。絵の具で好きな描く楽しさを味わう経験にしたいのであれば、「大きな紙で自由に描く」方がその経験になったのではないだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな絵の描いて貼っておくことで、友達の絵を見てまねして自由帳にクレヨンでクワガタを描いたり、「また、描きたい」と話したりする様子があった。絵は模倣や経験を重ねることでイメージが広がったり、形になったりしていくのではないかと感じた。
<p>6月</p>	<p>木工遊び</p>  	<p>○木材で船をつくる(親子)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・船づくりの前に金槌や釘の使い方を知るきっかけになるように煙の看板や樹木の名札づくりをした。はじめて触れる道具ではあったが、「やってみよう」「大工さんみたい」と喜んで遊び始めていた。安全な扱い方が伝わるように二人組でおさえたり、協力したりできるようにし、また、コーナーをつくり、興味をもった幼児から少人数でできるようにした。 ・船づくりでは、親子で行い、幼児の自分なりの船のイメージを支える形で一緒につくってもらえるように伝え、親子でつくことで道具に慣れていく様子があった。 ・それぞれの親子でいろいろな材料を選んで、様々な形にできあがった船を見せ合う機会をもった。友達の考えた工夫やできあがった船のよさを認め合う様子があった。 ・自分でつくった船が川遊びで浮かび、大喜びし、木工遊びの面白さやつくったもので思いきり遊ぶ楽しさを味わっていた。
<p>6月</p>	<p>押し花</p> 	<p>○自分で押し花にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押し花でフレームを飾る 	<ul style="list-style-type: none"> ・押し花を選んで飾り付け、パウチをしたときの感動がとても大きかった。 ・自分で園庭のお花を選んで、押し花になる仕組みを知り、不思議さや色が残る感動を味わっていた。 ・花の名前を伝えたり、「きれいだね」という気持ちに共感したりし、自然物に触れる機会としてよかった。
<p>6月</p>	<p>時計づくり</p>	<p>○空き箱や容器を使って好きな時計をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕時計 ・掛け時計 	<ul style="list-style-type: none"> ☆時の記念日にちなんで、いろいろな種類の時計を廊下に飾って置いた。 ☆自分で材料を選んで、ほしい時計をつくれるように材料を置いておき、数字をシールで貼れるようにしたり、針が動くようにわりピンを用意したりした。 ・腕時計を喜んでつくる幼児が多く、「お昼は何時から？」と時計の針を合わせ生活の中でも時計を使って遊んでいた。遊びに取り入れられるものが幼児にとって、つくる楽しさやつくってみようという気持ちに大きくなっていた。

6月	泥粘土 (6/25, 26, 7/16)  	○泥粘土に触れて遊ぶ ○個人の七夕飾りをつくる ・ちょうちん ・折り紙でロケットを折る ・貝殻つなぎ	・鳩時計など ・初めて触れた泥粘土に初めはドキドキしながら触れていたが、投げてみたりふんでみたり、「ツルツル」「冷たい」「重い」など一人一人の感触も様々で、自由のびのびと触れて遊び始めていた。 <u>その気持ちや感触を味わっている姿に共感したり、十分に楽しむ時間を確保したりした。</u> ・一人一人が十分に触れられるように5つのコーナーに泥粘土を分けておいた。 ・触れて遊ぶことから始まり、トンネルや道、ロケット、人、イス・・・など様々な形に変化させて遊ぶ姿になっていった。粘土はかんたんいろいろな形にでき、また、見立てることができることも楽しい様子だった。 ・友達とイメージが違って、道路をつなげたり、宇宙のイメージを共有したりして友達と同じ場をつくったり、遊んだりすることを楽しんでいった。 ・遊びの中で友達との会話がイメージの広がりにつながっている様子があったので、 <u>友達のつくっているものや遊んでいることがまわりの友達にも伝わっていくようにしたり、それぞれの楽しんでいることを知らせるようにしたりした。</u> ・3回目は泥粘土の固さが固すぎたり、柔らかすぎたり、幼児が形にしようという様子があった。そうなるとうと、遊びの広がりや停滞してしまうので <u>粘土の扱いやすい固さを準備することが大切だ</u> と感じた。
6月	七夕飾りづくり 	○貝殻の数を教えながら友達と比べたり、より長くしようとしたりしながら楽しんでつくっていた。 <u>教師も一緒に数えてみたり、長さが感じられるように室内に飾ったりすることで飾りが増えていく喜びや美しさを感じながら、七夕飾りづくりの楽しさが十分に味わえるようにした。</u> また、二人一人の色合いの違いを見ることがも楽しい様子だった。 ・折り紙に5月から多く触れていたことで、折り紙での飾りづくりを一層楽しむことができた。 ・ちょうちんや貝殻つなぎでは、 <u>はさみの扱い方を一人一人丁寧に教えることができ、</u>	また、時計や時間への関心にもつながっていた。 ・材料を選んだり、割ピンの扱い方等友達と伝え合っていてつくっている姿を <u>見守ること</u> で、友達とのかかわりも大きかった。 ・いろいろな時計の種類があり、イメージがわきやすく、イメージに合う材料を選びながら、工夫してつくっていた。イメージが広がると工夫する楽しさが味わえるようだった。


<p>7月</p>	<p>宇宙ごっこ</p>  	<p>○クラスで七夕飾りをつくる</p> <p>○宇宙のイメージで友達と遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材を使ってイメージを広げて遊ぶ 	<p>個々に合わせた指導ができた。また、丁寧に切ることができるようになった。また、丁寧な指導ができた。また、丁寧に切ることができるようになった。</p> <p>○大きな七夕飾りづくりでは、クラスで色合いやできることを考える話し合いの時間をもち、みんなが話し合っただけで大きな飾りをつくる経験になるようにした。</p> <p>・「一緒につなげよう」「数を確かめよう」など友達と分担したり、協力したりすることは初めての経験ながら、つくり進めていく中で「僕たち、速くできあがるよ」「みんな、あと4本だよ」など友達と力を合わせてつくる楽しさを感じることができた。「○○くんとつなげたら、もっと長くなるね」と教師は、友達に必要とされていることや一緒につくることでより長くできたり、大きなものが出来上がったりする達成感を味わえたりするように言葉かけをした。</p>
<p>9月</p>	<p>夏休みの絵</p> 	<p>○大きな紙に絵の具で絵を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな紙に描くことを楽しむ ・自分の使いたい絵の具を選ぶ 	<p>・ロケット飛ばしや段ボールで宇宙基地やロケットをつくったりして空箱や段ボールなどイメージを形にしたり、なりきって遊んだりすることを楽しくできるようにした。</p> <p>・気の合う友達と同じものをつくって楽しんだり、「ここは女の子星です」と場所をつくって遊んだりして数人の友達とイメージや場を共有しながら遊んでいた。その中で「隕石だ」とイメージを広げて遊んだり、「ドアがないからつくろう」と必要なものを考えてつくって遊んでいた。</p> <p>・また、イメージを形にすることが難しかったり、友達とイメージが合わなかったりするので、幼児が話したことや前日の続きで遊べるように場を用意したり、音楽をかけたり、部屋を暗くしたり、イメージに合う段ボールを用意したりしておくことで、友達と誘い合って遊んだり、相談しながら遊んだりする様子が見られた。</p>
<p>9月</p>	<p>夏休みの絵</p> 	<p>○大きな紙に絵の具で絵を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな紙に描くことを楽しむ ・自分の使いたい絵の具を選ぶ 	<p>☆ホルの床にタイベックス(白)、ラシヤ紙(黒、水)を3カ所に置く。</p> <p>☆絵の具をペットボトルに溶いておく。牛乳パックの入れ物と太さの違う筆をそれぞれ用意しておく。</p> <p>・夏休みの経験をそれぞれに伸び伸びと描く姿が見られた。一枚の画用紙に描く時とは違い、好きな色の絵の具を選び、好きな場所で好きなものを描くという、とても自由な雰囲気の間になった。夏休みの思い出を語りながら振り返る子供たちに</p>

	<p>自分の全身を紙でつくる</p> 	<p>○画用で顔のパーツをつくる(顔・首・胴・手・足)</p> <p>・体のバランスに気付きながらつくる</p> <p>○割りピンで留める</p> <p>・体の部分のつながり気付く</p>	<p>対して、教師側も余裕をもってかかわることができた。一枚の画用紙だと、たくさんある経験の中からどれか一つを選ばなくてはならないが、今回は花火の絵を描いたり、海の絵を描いたり、旅行の絵を描いたり場所を自由に移動できたので、幼児の「全部の思い出も描きたい」という気持ちを十分に出し切る事ができたのではないかと思う。</p>
<p>9月</p> <p>敬老の日 (メッセージカード)</p>	<p>○おじいちゃん、おばちゃんにメッセージカードをつくる</p> <p>○得意な折り紙を折る</p> <p>・相手のことを思いながらつくる</p>	<p>☆顔、手、胴、腕、足 それぞれの大きさの画用紙を用意しておく</p> <p>・手は自分の手の形を鉛筆でかたどり、切る。顔もほぼ自分と同じ大きさ。</p> <p>・それ以外の腕や胴、足は体のバランスを気づかせながら、つくっていった。</p> <p>・できたパーツを割りピンでとめたり、のりで接着したりする。</p> <p>一つ一つのパーツをつくらせている過程ではあまり感じられなかったが、割りピンでそれぞれを留めてつなげると「本物のからだみたい！」「おもしろい！」とつくった人形に動きが生まれたことを楽しんでる様子が見えたり、</p> <p>・一学期の時計づくりで割りピンに触れていたもので、要領をつかむと、自分で行う姿が多く見られた。(経験を重ねることが大切)</p> <p>・折れるようになつたり、得意な折り紙を折ってカードを製作した。個人差が見られるが、大分細かい部分も折れるようになってきた。作品のために折り紙に触れるのではなく、普段から遊びに使える折り方(ハート、バックンチョ、やつこ、財布など)により多く触れ、親しめるような継続した教師のかかわりや保育計画、環境設定が必要だと感じた。</p>	
<p>10月</p> <p>木の実の飾り</p> 	<p>○正面テープをつけた土台に木の実を飾る</p> <p>・いろいろな自然物に触れる</p> <p>・組み合わせを楽しみながらつくる</p> <p>○おがくずをまぶす</p>	<p>☆画用紙、おがくず、木片(丸くスライスされたもの)、野菜チップ、押し葉、小豆、種、小枝等、乾燥させた植物、両面テープ、ポンド</p> <p>・夏季実技研修で学んだ技法を保育に取り入れた。</p> <p>・教師自身が研修で感動した経験が保育に大きく影響した。</p> <p>・大人以上に子供たちの素材の組み合わせや並べ方は斬新であった。「何でもあり」という状況が想像を豊かにし、満足いくまで素材に触れていた。教師も子供たちの自由な想像に寄り添いながら、「その形おもしろいね」「どんな模様になるかなあ？」など会話をしながら活動を進めていった。</p> <p>・おがくずをかけて全て隠してしまうという技法が、子供たちにとって不思議だったよう</p>	

		<p>・浮き上がった模様を楽しむ</p>	<p>で、「かけちゃって大丈夫？」「ほんとうにできるのかなあ？」と心配しながらも、出来上がりを楽しみにしていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な(自然の)素材ほど子供たちにとって扱いやすく、かつ子供たちの自由な想像を引き出すものになると感じました。
<p>10月</p>	<p>運動会の絵</p> 	<p>○画用紙に運動会の絵を描く(四つ切)</p> <p>・運動会の思い出を絵に残す</p>	<p>☆画用紙(四つ切)、クレヨン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年少児に比べ、印象に残っている場面がはきりしており、運動会を思い出しながらそれぞれに描く姿が見られた。 ・ただ、正直なところ経験の絵を書く難しさ(子供の記憶、運動会を経験をしたことだけで満足しているのではないかという疑問、思い出を絵として残そうとする教師(大人)の意図)が入り混じっていた気がする。 ・子供の表現を十分に受け止めたいと意識しているもの、「空はどうだった？」「周りに誰がいたかな？」「何色の帽子をかぶっていたかな？」など、「それらしい絵」になるような言葉掛けをしてみようになった。絵画表現の難しさを感じた。
<p>10月</p>	<p>お芋ほりの絵</p> 	<p>○大きな紙にお芋ほりの絵を描く(絵の具・クレヨン)</p> <p>・お芋ほりの思い出を絵に残す</p>	<p>☆A1の画用紙を13枚ずつつなげ、2枚つくる(人数分の枚数)、クレヨン、絵の具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの絵の経験から、大きな紙に描くことへの楽しさや期待が感じられた。 ・絵を描き始めると、「友達と同じように描かなくてはい」と感じている幼児が多く見られた。「伸び伸び」という姿より、「描かなくてはい」という気持ちの方が強く見られた気がする。地中のもの(サツマイモ)を掘っている自分の絵を客観的に描くのは難しいような気がした。 ・夏休みの絵を描いた時の違いは、夏休みの絵は一人一人経験が違っているので、「夏休みの絵」というテーマの下、それぞれが自分の絵を描くことができた。一方、お芋ほりの絵は「お芋ほりの絵」というテーマのもの、「お芋ほりの絵を「描かなくてはいけないういという活動になってしまったため、どこか表現を制限されるような、正解を探すような幼児の戸惑い(教師も同様)が感じられたように思う。
<p>11月</p>	<p>動物づくり</p>	<p>○ダンボールで動物をつくる</p> <p>○絵の具で色を塗る</p> <p>○いろいろな素材を組み合わせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆段ボール、素材(紙類、カップ、毛糸、ストロー、木の美など)、絵の具、接着剤 ・昨年の経験がとても大きく、「遠足に行ったら、僕たちでも動物園開くんですよ！」と動物園ごっこの活動を見据えたスタートとなった。 ・動物の形になるように段ボールを組み合わせたり、いろいろな素材を付けたりして製作を進めた。友達と「これにしよう」「いいね」「こっこのほうがいいよ」などと、

		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に一つの作品をつくり上げる楽しさや嬉しさを感ずる ・自分の思いを出したり、友達の思いに気付いたりしながら取組みを進める 	<p>共感したり、時には考えを衝突させたりしながら完成に向けてつくる姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の完成度や活動の意図をどう設定するかで、教師のかかわりが大きく変化するように感じた。教師側も、動物づくりに関して「幼児に気付いて欲しいこと」「教師が気付かせたいこと」を明確にして取り組む必要があると思う。 ・6年生との連携活動では幼児だけでは思いつかないアイデアをもらおうと「やき、動物づくりがさらに進んでいった。かかわり方としては、少し受け身がちで「やってみよう」形になってしまったのは課題だと思う。
12月	<p>絵画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モーモースクール ・ クリスマス 		<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでも自由画帳の使い方について課題をあげていたが、絵を描く経験そのものが少ないことを実感した。教師から意識的にテーマ（今回なら「モーモースクールの絵」「クリスマスマスの絵」）を出して、絵を描くきっかけをつくる必要性も感じた。 ・ 自由画帳よりも画用紙（普通紙でも）がいつでも置いてあり、自由に使える方が幼児が「描きたい」と思った時に描けるような気がした。
12月	<p>クリスマスバッグ</p> 	<p>〇いろいろな素材を使ってクリスマスバッグをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サンタさんが来るのを楽しみにしながらバッグをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画用紙にクレヨンでクリスマスモチーフを描いたり、タンポをしたり、マスキングテープや画用紙を切ったものを貼り付けたりする ・ これまで扱ったことがあるものを使用したもので、子供たちが自分のイメージに合わせて素材を使っている様子が合った。 ・ 絵を描く幼児、画用紙を貼る幼児、マスキングテープを組み合わせる幼児など、それぞれが自分だけのバッグを製作することができたので、愛着をもってクリスマスを楽しみにすることができた。 ・ できあがったバッグは窓に飾り、友達同士で見せ合えるようにした。 ・ 新しい技法やつくり方を紹介し、つくってみることも大切だが、これまで経験したことを生かして製作を重ねていくことも大切だと感じた。 ・ 好きな色のビニールを選んで自分の好きな絵を描けるようにしておく ・ 絵を描くことの楽しさを感じ始めていた時期だったので、喜んでくださったようにしようか考えて、描き始めていた。 ・ 友達と一緒にたこづくりを楽しんでいるが、自分なりに描きたいものやイメージがあり、それを自分なりの色合いや構図でじっくり描いていた。同じテーマで（例えば、女の子やクワガタなど）描いていても、自分なりに描いている様子があった。
12月	<p>たこづくり</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビニールにマジックで絵を描く ・ ひもを結ぶ 	

	<p>紙版画（鬼）</p> 	<p>○鬼の原板をつくる ・画用紙をイメージした形に切って貼る ○印刷する</p>	<p>・いろいろな絵だこが出来上がる面白さに共感し、友達の描いたものよさを感じたり、自分のつくったこに愛着がもてるようになった。 ・色合いを工夫したり、本物らしく描きたいという気持ちが強くなるようになってきているように感じた。 ・結ぶことが経験を重ねて上手になり、タコ糸を上手に結べるようになっていた。</p>
<p>1月</p>		<p>○＊の形に毛糸をまきつける</p>	<p>・まず、紙版画を印刷するところを見て、どんな風に印刷できるか知り、興味をもてるようにした。面白さを感じ、紙を重ねて貼ったところが形として出てくるのがわかり、楽しんでつくり始めていた。 ・「こわい鬼」「つよそうな鬼」「きばを大きくしたい」など鬼のイメージを広げてつくっており、1、2学期のイメージを形にできなかったり、イメージが広がらなかつたりした様子からの変化が見られた。イメージに合う形になるように何度も描いて試してみたり自分なりによく考えて工夫してつくることに楽しさを感じていた。 ・髪の毛を紙を丸めてモコモコした雰囲気ができるように使ったり、はさみで切り込みを入れたり、重ねて貼ったりするなどこれまで経験したことを生かしてつくり進めていたのいろいろな素材に触れたり技法を知ったりしたことが、幼児の中に溜め込まれているのだと感じた。 ・初めての版画遊びなのでも楽しんで印刷を繰り返していた。ローラーを経験することは多くあったので早い時期にステンシル版画も経験できると楽しいのではないかと。</p>
<p>1月</p>	<p>雪の結晶づくり</p> 	<p>○＊の形に毛糸をまきつける</p>	<p>☆いろいろな色の毛糸を用意し、色を変えて楽しめるようにする ・マフラーづくりの経験から指先を細かく動かしたり、毛糸の扱いが上手にできるようになっていたりした。 ・一本ずつ抜かさないように集中して進めており、きれいに仕上がることに喜びを感じていた。 ・自分の力でつくり上げたり、つくり方がわかって色合いを試して繰り返すつくったりする姿があったので、友達と伝え合ったり、試したりしている姿を見守った。</p>

2月	<p>おひなさまづくり</p> 	<p>○雛人形や屏風、小物をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土や発砲球、和紙、折り紙、毛糸などさまざまな素材を使ってつくる。 ・いろいろな素材の使い方を知らせると、「そうやってできているんだ。やってみたい」と意欲が見られ、これまでの経験を総て、つくることの楽しさを十分感じているように感じた。そのことで、集中してじっくり取り組んでおり、「つくる楽しさ」が育ったことが丁寧につくったり、自分の力で工夫してつくったりする姿につながっていると感じた。 ・出来るまで工程が長いですが、4日間程度に分けて少しずつ進めていくことでだんだん出来上がっていくことを楽しみにつくり進めることができた。幼児にとつて見通しがいちいちやさしい、製作計画、過程を考へることも大切だと感じた。 ・つくり方を理解して自分なりにつくり上げていくことができるように、材料をわかりやすく分けたり、工程を示したりした。
----	---	-----------------------	---

平成28年度

研究集録


テーマ「異年齢とかわりを深めるための指導計画の工夫」



平成28年度 年間異年齢交流活動

年長 2クラス(26名) 年少 1クラス(20名)

日程	活動	内容	活動の写真	形態	年少の様子	年長の様子
1 4/18	年長児と一緒に園庭めぐり	年長児が年少児に遊具の約束を教えた り、一緒に遊んだりする		ペア①	まだまだ、落ち着かない時期ではある が、年長児が手をつないで教えてくれ ることで、約束をよく聞いている様子 もありった。ペアによって年長児の負 担も大きいかもしれない。	初めてのペア活動に初めは戸惑いを感じて いたが、幼児なりに一生懸命遊び方や約束 を伝えようとしていたり、年少児の話を聞きな がら一緒に遊んだりしていた。
2 4/28	年少組みを迎える会	迎える会の中でペアでペアと一緒にリズムを したり、年長から年少にプレゼントを 渡したりした。		ペア①	年長さんと一緒に参加するということで普段より も落ち着いて参加していた。年少児にとつては、 年長さんからの手作りプレゼントがととても嬉しい 様子だった。また、リズムではたくさん笑顔が見 られ、みんなできてリズムがたくさんあるとい いと感じた。	緊張している年少児を気遣ったり、話しか けたりしながら一緒に楽しんでいた。プレ ゼントも喜んで首からかけてもらえ、嬉し かったようだった。
3 5/17	一緒にお弁当を食べる	年長組の部屋でペアで一緒にお弁当を 食べる		ペア①	ペアを組んで一緒に食べることで 親しみをもったり、また、あの子 と遊びたいという気持ちになって いたようだ。ペアを組んで食べた ことがよかった。	年長組の部屋の説明をしたり、同じおかず に喜んだりしながら楽しくお弁当を食べて いた。なかなか話が弾まない幼児もいた が、教師がきっかけ作りをすることで、少 しずつ話をすることができるようになっ た。
4 5/27	一緒にお弁当を食べる	下校庭への散歩を予定していたが、雨 のためホールでシートをひいて、ペア で一緒にお弁当を食べる		ペア②	続けて食べる機会があることで、それ が楽しみになっている様子がある。前 回と違うペアであっても、年長児と ホールという特別な場所ですべて楽し さを感じていた。	ペアの年少児にシートで食べる時の準備の 仕方やお弁当の姿勢など教えてあげよう とする姿が多く見られた。ペアを変えたこ とで、戸惑う様子も見られたので、前回の ペアのままのほうがいい。
5 5/31	下校庭へのお散歩校庭と 園庭遊び	下校庭から小学校校庭へお散歩に行 き、そのまま小学校庭と園庭で遊ぶ		ペア②	今回は遠足に向け、並んで歩くというのが大事な経験だっ たが、年長児と一緒に経験することで、教師が注意するこ とが減り、楽しんで散歩することができた。年少だけで 行った場合は「ちゃんと並んで歩くこと」を重視してし まったかもしれない。今日一緒に長く過ごしたことで「種 れのお兄さん、お姉さん」という存在になった幼児も見ら れた。	年少児のペースを気にしたり、見つけたも のを教えてあげたりしながら一緒に暮の自 然や小学校の遊具を楽しんでいた。年長児 のみで1度散策をしてから交流したほうが もっと年少児をリードできたかなと思う。
6 6/17	園外保育 (丸山公園)	丸山公園からの帰り道、一緒に手をつ ないて歩いて幼椎園まで帰る		ペア②	年長児と一緒に帰りに手をつないでく れたことで、疲れが出る帰り道も元気 に歩いてくることができた。また、ク ラスの友達よりもトラブルも少なくなっ た。	疲れている年少児の手を引き、「もう少し だよ」「大丈夫？」などと声を掛けたり、気 話や歌で楽しく歩くことができようになっ てきた。

7	7/11	カレーパーティー	年長児の調理（ニンジンを切る）の様子を見たり、お昼を3クラスの教室に分かれてペアでペアで一緒に食べる	ペア③	調理の様子を見ることで「すごいな」「やってみよう」というあこがれの目で見たりしていた。この時期になると、自分たちの活動とは違う、年長児の活動への興味や関心、憧れが出てきていた。	自分たちが調理したこともあり、野菜が苦手な年少児に対して「食べてみたら美味しいかもよ」「ひとつだけ頑張ってみたら？」などと励ましている姿があった。また年少児から「美味しい」「ニンジン切るの上手だね」などと褒めてもらおうととても嬉しそうにしていた。
8	9/6	泥遊び	泥遊びが十分にできる時間と場を確保し、同じ場で楽しむようにする		普段のかかわりが少ないせいか、なかなか同じ場ですぐ一緒に遊び始める様子は見られない。しかし、何人かの年長児がチヨコケーキの型抜きをつくり方を教えてくれて、互いの遊びたいところが重なると一緒に遊ぶことが嬉しそうだった。	同じ場で遊ぶ中で、自分の知っている遊びを教えてあげながら一緒に楽しんだり、年少児の遊びに参加したりしやりとりを楽しんでいた。
9	10月	異年齢競技 玉入れ	運動会種目として、異年齢玉入れを行い、紅白のチームを組んだり、一緒に練習したりして遊ぶ		年少にとっては、年長児のリレーに興味がある幼児が多し。運動会前から一緒に遊んで楽しんで、玉入れが同じチームということがわかると、クラス別リレーも一生懸命頑張ろうと、チーム意識が芽生えていた。競技があることで、一緒に遊ぶ中で玉入れを楽しんだり、年長児がリードしながら遊んでもらえたりすることがよかった。	年少児と一緒にチームとなって競う競技があったことで、例年よりもチームとしての意識や応援しようという気持ちが高かったように思う。年少児は1クラスを半分に分けたので、1度きちんとチームの組み合わせをもっとしっかり出来るようにしたい。
10	10月	運動会後の遊び	運動会であこがれたリレーやダンスを教えてもらったり、一緒に遊んだりする		ダンスやリレーは、運動後の異年齢のかかわりの深まりに繋がった。あこがれるやってみようという気持ちと一緒に楽しむことで年長児のかかわりが自然と多くなった。年少は、年長児の遊びにはついていくことにあまり抵抗はない様子だった。教師も年長児に遊びを進めることを任せ、見守るように心がけた。	走る順番をリードし体ながら決めようとしたね、「走ったら今度は○○ちゃんに渡してね」と次の人を教えてあげたりして積極的に関わりを深めようとしていた。自分の思いと年少児の思いの差に葛藤する場面も見られた。
11	11/17	4年生 遊び交流	4年生との遊び交流の際、年長と年少もグループを組み、そのグループを4年生と合体し、異年齢で一緒に遊ぶ（ドッジボール・縄跳び・だるまさん・竹馬）	グループ	ペアの機会が多かったことで、同じクラスの中にペアがいなくても、年長児と一緒に遊ぶことで安心して遊べる様子だった。縦の交流の中でも遊びの内容がわかりやすかった。年少でも一緒に楽しむことができ、だるまさんやドッジボールと一緒に遊んだことで新たな遊びへの興味も広がった。	グループを組んだ際には、年少児と混合のグループであることも喜び、同じグループの年少児の名前を何度も確認して覚えてきたり、「こっちはだよ」と手をつないで誘導したりしていた。しかし、連携活動になると年長児その中で遊ぶのが難一杯で、遊び自体は楽しいが、年少児とかがかわった、世話をしたりするのは難しい様子だった。
12	11/21	動物園ごっこ	年長児がつくった動物園に年少児が招待してもらおう（年長児からチケットをもらおう）		「どうやってつくったんだらう」「すごいね」「すごいね」など「年長さんってすごいな」という気持ちが強くなった様子だった。動物園でのえさやりややりとりを十分に楽しんでいった。また、友達と一緒に自分たちで行きたい動物の所で積極的にかかわって遊んでいた。幼児同士でやりとりを自然な形で楽しむためには、これまでに年長児とのやりとりが積み重ねられていたことも大きいのではないかと感じた。	製作から年少児組が来てくれたことをとても楽しみにしていた。年少児とのかかわりにも慣れ、扉をあけると扉がない年少児を抱っこしてあげたり、目線を合わせて動物の秘密を話したりしていた。「次は○○してあげたい」という願いも聞かれ、2回時間を設けられたことで十分にかがわることができたように思う。
13	11/29	誕生会 言葉あそび	4人グループで言葉遊びを一緒に楽しむ（乗り物の名前・赤い食べ物などを一緒に考え、グループ対抗ゲームをする）	グループ	言葉遊びをお部屋でしていたこともあり、一緒に自分の思いを伝えながら言葉遊びを楽しんでいた様子だった。年長児の話や聞くことが難しい様子も幼児もいたが、年長児しか思いつかないアイデアを聞いて楽しむこともよい経験なので、継続して楽しむ機会をつくってほしいのかもしれない。	年少児との混合ペアアというところもあり、張り切りすぎる幼児も多かったが、張り切りすぎる年少児の思いに耳を傾けてもらえなかった。普段の遊びの交流とは違い、年少児の意見を聞き、話し合っ進めていくということでは年少児にとってもよい機会になったと思うので、今後も取り入れていくといいのではないかと思う。

14	12/13	点灯式 (12/19ダンス)	点灯式に参加する時に、年長・年少ペアを組み、年長が暗くなったホールに連れて行ってあげる。その後、一緒にジングルベルのダンスをする。		ペア	点灯式を経験している年長児にホールに案内してもらって一緒に参加する内容だったが、こういった小さななかかわりを継続して数多くすることや、いろいろな年長児と顔見知りになっていくことなども大切な機会だと思う。ダンスも年長児とやることでより、リズムを楽しめたようだった。2回目は大喜びで、ダンスを楽しむ幼児が多かった。中良くなった年長児と誘い合って、ペアを組んでいる幼児もいた。
15	12月	お正月遊び	いちご組を開放し、かるたやおはじき、トランプ、すごろくを異年齢で一緒に楽しめる場にする			まだまだ、遊び始めであるため、年長児に教えてもらおうというよりは難しい。この時期は「お正月遊びに興味をもち、同じ場で一緒に遊ぶ楽しさを知りたい」という気持ちで、教師が遊び方を伝えるように、教えたりして仲立ちしながら、遊びを楽しめるようにすることが必要だと感じた。しかし、トランプや双六など年長と一緒にすることで同年代の友達と遊ぶ機会が豊富に毎日さを感じることができている様子もあつた。
16	1月	お正月遊び	いちご組を開放し、おはじき、こま台を置いて、一緒に楽しめる場にする			いちご組に設定してあっても、なかなか年長児と遊ぶ時間が合わせられず、クラスの友達と遊ぶだけになってしまつた。向度か機会があったときには、すぐに一緒に遊ばせて、すごろくやトランプを楽しんで、年長児とかわつて遊べることを喜んでいて。
17	1/26	3年生 室内遊び交流	3年生・年長・年少の縦割りのグループをつくって、幼稚園で遊ぶ(トランプ・しりとりなど3年生が考えた遊びをした)		グループ	初めての3年生との交流ということもあり、みんな生が戸惑ってしまつている様子も見られた。3年生がいたため、年長が率先して年少児をリードすることかできなかったこともあった。3年生の遊びがグループではっきりしているところは時間いっぱい使つて楽しんでた。
18	2/8	戸外遊び交流とお弁当	ドッジボール、ドローケイ、大縄の3つのコーナーに絞つて、好きな遊びで遊ぶ		お弁当はペア④	ドッジボールでは年少児にボールを譲つたり、「こう投げるとよ」と教えてあげたりする姿も見られた。大縄は年長児の跳び方を見る機会にはなつたと思うが、交流としてはなかなか難しかつた。
19	2/24	一緒にお弁当を食べる	インフルエンザの流行で予定していたクッキングを変更してお弁当を年長組2部屋で食べる。お弁当後少し遊ぶ(バスル・絵本・トランプなど)		ペア④	今回は年少児から誘つての食育交流になつたが、今まで様々な交流でかかわつてきたため、どのペアも戸惑つることなくたくさんのお話をしながら楽しい時間を過ごすことができた。また、食後は絵本を読んだり、トランプやすごろくをしたりと短い時間ではあつたが、一緒に楽しむことができた。
20	3/10	お別れ会	年少が司会、飾り付け、プレゼントづくりなど自分たちでできることを計画したり、考えたりし、当日は一日一緒に楽しく遊び、お昼もホールで食べる		ペア④	年少児が企画・進行してくれた会に参加し、「次は何があるのかな」としても期待して楽しんで見られた。今までは年長児が主となることが多かつたが、年少児が一生懸命進めようとする姿に「年少さんすごいね」と感心していった。手作りプレゼントも「お弁当があるから飾ろう」「船が入るね」と喜び、とても大喧嘩に教師に見せたり、友達と見合せたりしていた。

平成29年度

研究集録

研究テーマ 幼思の興味・関心を広げ、充実した生活や遊びの実現を目指して

～計画的な継続視聴を通して～



上尾市立平方幼稚園

〈2年保育4歳児〉 テーマ 生活習慣を身につけるために

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
4月下旬	〈絵本〉 おべんとう なあに？	山脇 恭	・お弁当開始を前に、お弁当が始まることに期待がもてるようにと読み聞かせを行なった。 偏食の幼児が多いので、自分のお弁当への楽しみと食への興味の広がりになるきっかけになってほしい。	・自分のお弁当に何が入っているか、一緒の物が入っているかなど興味をもち、教師に知らせたり、聞いたたりする姿が見られた。
5月中旬	〈絵本〉 がんばれ はぶらしハーマン	木村 裕一	・1日保育にも慣れ、歯磨き指導を始めるときに、歯磨きの大切さ、歯磨きへの興味をもってもらえるようにと考え、読み聞かせを行なった。	・歯磨きをしながら「ハーマン！」と呼んだり、「こうやって磨くんだよね」と思い出しながら磨いたりする姿が見られる。 ・絵本をととも気に入り、「これ読んで」ともってきて繰り返し楽しんでいる。
5月下旬	〈絵本〉 ナンタン ぶらんこのせて	キヨノ サチコ	・戸外遊びが増えてきて、順番を守ったり、友達が使っているものを「貸して」などのやりとりができるようになって欲しいと考え、幼児が親しみやすいナンタンの絵本を選んで読み聞かせた。	・絵本を知っている幼児が多く、一緒に「ナンタン プランコのせて！」と声に出して楽しんでいた。 友達が使っているときに「貸して」と伝えることを使いたい友達がいる時には順番に使うというこは理解している幼児が多かったが、実際に遊び始めるとなかなか交代や順番に使うということができない。
6月下旬	〈絵本〉 おともだちになつてね	岡本 一郎	・友達への興味が出てきた幼児が増え、同じ場で遊ぶ中でやりとりをしたり、友達の間でいることに興味をもったりする姿が見られるようになってきたため、絵本でも取り入れた。友達の存在やかわりのきっかけになってほしいと考えた。	・「みんなと一緒に食べるとおいしいよね」「くまさん優しいね」など一人よりもみんなと一緒に楽しんでいるという気持ちをもった幼児がいた。 友達を意識するというよりも「優しくしてあげよう」という意識や思いが感じられるようになった。
10月上旬	〈絵本〉 ななちゃんのおかたづけ	つがね ちかこ	・園生活や遊びに慣れ、遊びが活発になってきたが、片付けがよい加減になっている様子があり、「綺麗に片付けようね」などの言葉掛けよりも視覚的に知らせていくことが効果的ではないかと考え、取り入れた。	・片付けをしているときに、場所や片付け方を無視してしまう幼児に対し、「おもちゃが出てきちゃよ」「ここじゃないって怒るんじゃない？」など絵本を利用して友達に問いかける姿が見られる。一人ひとりが少し片付けに対して意識をするようになってきている。
10月下旬	〈絵本〉 くれよんのくろくん	なかや みわ	・友達に対する意識の高まりとともに、「何で〇〇ちゃんは口でできないの？」「お話できないのは赤ちゃんなの？」などの疑問が聞かれるようになってきたり、「一人ひとり違う」ということ、互いを認め合えるようになって欲しいと思い、選んだ。	・「くろくんすこいね」と感心すると同時に、くろくんが画用紙を真っ黒にした引っかけ絵に興味をもち、自由画で繰り返し楽しんでいた。 「互いを認める」ということは難しいが、クレヨン黒を通して、新たな魅力を発見するという経験ができた。

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
12月上旬	<絵本> きもち	谷川 俊太郎	・友達とのかかわりが深まっている中で、自分の思いが優先になってしまいがちな状況に気づき、相手の気持ちを考えられず傷つけてしまったりすることが多い。絵を見て様々な気持ちを一緒に考える中で、自分の気持ちの違うに気づいて欲しい。	・1ページ1ページ進めるたびに幼児がそれぞれイメージをしながらどう感じるかを考えていた。自分の気持ち、友達が感じる気持ち、話をしたり聞いたりする中で互いに「それもある」「そうだね」と気付けたり共感したりしていた。
1月下旬	<絵本> うそ	中川 ひろたか	・「うそ」って悪いことばかりなのかなということ考えてきつて、「うそ」ってどんな時につくのかを一緒に考えるきっかけにしたいと考えた。	・少し難しかったようだったが、「じゃあ、OOはいいうそ?」「OOはどうなんだろう?」と考えたり、友達がうそをついた時に「今のは悪いうそだ!」と話したりする様子が見られた。
2月中旬	<絵本> ないた	中川 ひろたか	・「泣く」のはどんなときなんだろうということ絵本を通して一緒に考えてみようと思ひ、読み聞かせをした。	・「ママも嬉しい時泣くよ」「先生も!」など身近な人の悲しい涙だけでなく、嬉しい涙を思い出したり、泣く時は悲しいときだけじゃないんだよと改めて感じたりしている様子があった。
3月上旬	<絵本> おおきくなるっていうことは	中川 ひろたか	・年長組になる前に一年間を振り返る気持ちを込めて、自分の成長、また新たに入園する年少組のお兄さん・お姉さんになるという気持ちをもてるように読み聞かせをした。	・靴や洋服などが小さくなったこと、歯が生え変わったことのように自分の体のことを振り返ったり「年少さんに優しくないよ」「色々教えてあげるとだ」など年長組への意欲に繋がったりした。 「おおきくなるっていうことは」という繰り返しが幼児に心地よい響きだったようで、幼児も繰り返し言葉にしていた。

<園内研究を通して>

- ・1年間、どの時期にどのような絵本を読み聞かせることが効果的であるかを改めて考えることができました。今回は、生活習慣をテーマとして、幼児の実態やクラスの様子を見ながら教材を探っていくことの難しさ、テーマに沿っていても内容が難しいなど今まで以上に事前に自分自身が絵本と向き合い、選んでいくことができました。教師の思いがあっても選んだ絵本ではあっても、読み聞かせてみると幼児には教師の思いとは違う感じ取り方があっても改めて感じ、教材選びや伝えることの難しさも実感しました。
- 4歳児の読み聞かせでお話を楽しむことではなく何かを伝えたい時には、話が簡潔で、繰り返し同じ言葉が出てきたり、短い文章で一緒に考えたりするものの方が心に響きやすかったり、幼児の印象に残ったりすることを感じたので、今後の絵本選びに生かしていきたいと思ひます。

テーマ 幼児の食に対する興味や関心を深めていくために

<2年保育5歳児>

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
4月中旬	【絵本】 おべんとうばこのうた	ひさかたチャイルド さいとうしのぶ 構成・絵	・園生活の中で、お弁当の時間を楽しみにしている幼児が多い。食事をすることに對してさらに関心が高まるよう、新年度のお弁当開始に合わせて読み聞かせを行った。	・絵本の文章が歌「おべんとうばこのうた」であることに気付き、友達と顔を見合わせながら喜んで、口ずさみながら絵本を見たりしていた。 ・お弁当の時間にも本の内容を思い出した様子で、自分のお弁当に入っているおかずを歌のフレーズに合わせながら嬉しそうに歌っている幼児もいた。
7月上旬	【絵本】 パパ・カレー	ほるぷ出版 武田美穂	・7月の「カレーパーティー」に向けて興味・関心をもってほしいと考え読み読み聞かせを行った。カレーパーティーでは調理体験が予定されていたので、カレーが出来上がるまでの工程が具体的に描かれている絵本を選ぶことにした。	・絵が大きく、言葉が少ないのがこの絵本の特徴である。幼児が絵を見て自ら気付いたことを言葉にしたり、「僕もおうちでジャガイモ切ったことある」と経験を思い出したりする姿が見られた。 ・中にはカレーが出来上がるまでの工程をじっくりと見たのは初めてだった幼児もあり、「こうやってつくるんだね!」「おいしいそう」と興味をもち、「明日(カレーパーティー当日)も同じ材料でつくるの?」「早くお料理したいな」と行事に期待をもっている様子がうかがえた。
11月下旬	【絵本】 かこさとしのたべものえほん1 ごはんですよ おもちですよ	農山漁村文化協会 加古里子・文 中沢正人・絵	・12月に行われる「もちつき」に向けてこの絵本を取り上げた。単につくられたもの・出来上がったものを食べるのではなく、料理に使われている食材がどのようなようにしてつくれるかを知らせてあげたかった。	・「もちつき」の行事に向けて話をすることで、「もちは何からできているの?」「という教師からの問いに、ほとんどの幼児が「お米(もち米)」と答えたが、「お米はとうもろこしやとうもろこしという間いには戸惑ったが、「分らない」と答える幼児が多かった。一粒の米から数百の米ができることや、できた米もそのままではなくて(精米)食べること等を知らると、「すごい!」「いっぱい食べたいね!」「そうなんだ」と驚いた表情で話を聞いていた。 ・その後のお弁当の時間では「このおにぎりは何粒入っているのかな?」「おもちは何粒(米粒)入っているのかな?」「と「米」という食材に興味をもっている会話が聞かれた。
通年	【ポスター】 えいようまんてんポスター	ベネッセコーポレーション こどもやれんじ 幼児のまなび応援団	・日常的に幼児の目が届きやすい保育室(ままごとコーナー)に年間を通して掲示しておき、食料や料理に関心をもつきっかけにした。	・はじめは特に気にする様子は無かったが、徐々に「おまごとコーナー」にある食べ物と同じものを見つけて「ピーマンあつた!」「目玉焼きもあるね」と照らし合わせながらポスターに目を向ける幼児が増えていった。 ・エプロンシアターや絵本を通して食べ物の働き(赤・黄・緑)について知ると、お弁当を食べながら「おにぎりは黄色だね!」「ハンバーグは何色(のはたらき)だろ?」「今日は緑が少ないな」と栄養に注目しながらポスターを見ている幼児も多くなっていった。
1月中旬	【エプロンシアター】 中谷真弓先生の 食べものいっぱいエプロンシアター	学研 中谷真弓	・これまで行事に合わせて食育指導を行うことが多かったが、一方で偏食がちな幼児が多いこともクラスの問題であった。そこで食べ物の働きについて気付かせ、バランスよく食べることの大切さを知らせたいと思い、エプロンシアターを行った。	・絵本とは違う教材ということもあり、幼児の関心がとても高く感じられた。 ・初めは食べ物の働き「赤・黄・緑」について理解が難しい幼児もいたが、「ご飯を食べると元気が出る」「牛乳を飲むと骨が強くなる」「野菜を食べると体がきれいになる」といった日常生活で耳にしたことを重ねながら少しずつ理解を深めている様子だった。 ・幼児には「バランスよく食べる」ということを言葉だけではなく、視覚的教材も用いて知らせていくことが有効的だと感じた。

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
1月下旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん1 たべのだいすき！ みんなげんき	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・エプロンシアターをききかけに食べ物に食べ物の栄養や働きについて関心が高まった。「バナナは何色の食べ物？」「ウインナーはお肉からできているから赤の食べ物だね！」と幼児自ら食べ物に興味をもって考えたり、調べたりしている姿も見られた。	・第一巻は主に食べ物が入って消化される様子が描かれていた。「バナナうんち(健康な排便)をするにはバナナスよく食べることが必要」ということを伝えていた。はじめは「うんち」の響きに笑いが起こっていたが、食事と排便に深い関係があることを理解し始めると、「たまにベチャベチャうんちが出る時もあるよね」「野菜を食べるといいってママが言っていたけど、それぞれを経験を語り始める姿もあり、体や食について関心をもっている様子が始まってきた。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん2 じょうぶなからだをつくるたべもの あかのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・そこで、「赤」「黄」「緑」の食べ物について深く掘り下げ、さらに関心を深めていくことにした。これまでは一冊ものの教材を扱うことが多かったが、今回は5冊シリーズの教材を扱うことで、興味や関心が持続していくことをねらった。	・第二巻から第四巻まではこれまでも多く触れてきた「赤」「黄」「緑」の栄養について、より深く知るきっかけとなった。「赤」の栄養については「体のもとになる食べ物」ということを伝え、「筋肉になるよね」「牛乳は骨の基なんだよ」と多くの幼児が話していた。また、肉が食卓に届くまでを描いた場面では「僕たちが食べるために牛さんとか豚さんが死んでくれたるんだよね」とつぶやいている幼児の姿は印象的だった。普段は当たり前のように食べているものも、改めて考えてみるとうるさくないことも多く、幼児がどこまで深く考えているのかはわからないが、「生活を振り返る」という点ではよい機会になったと思う。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん3 びょうきからまもってくれるたべもの みどりのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・このシリーズは食材に関して、生産される様子、さまざまな調理方法、栄養など、多岐にわたって描かれている。あらゆる視点から幅広く食材を見つめたいと思いき、取り上げることにした。	「緑」の栄養については、「緑＝野菜」というイメージが幼児の中でも強く、印象に残った様子だった。驚いたのは偏食気味の幼児が絵本を見た後のお弁当の時間に「緑の食べ物が入ってる」「(緑の食べ物も)食べないと赤と黄色の食べ物だけになっちゃうやう」などと食べ物について意識を持ち始めていたことだった。エプロンシアターに引き続き、視覚的教材の効果を感じることができた。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん4 つよいちからがでるたべもの きいろのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・また、はつきりとした絵の色づかいや分かりやすい言葉で描かれているので、教師が読み聞かせをするだけでなく、幼児だけでも繰り返し読むことができるのは魅力的だった。	「黄」や「白」の食べ物についても、いろいろな栄養や働きがあることを知り、興味深く読み聞かせを聞く姿があった。当初のねらい通り、シリーズの絵本だったので「次は何色の食べ物の話？」「明日も読んでね！」と興味が持続し、食べ物への関心が高まっていた。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん5 おいしいあじのおてつだい しろのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵		

<園内研究を通して>

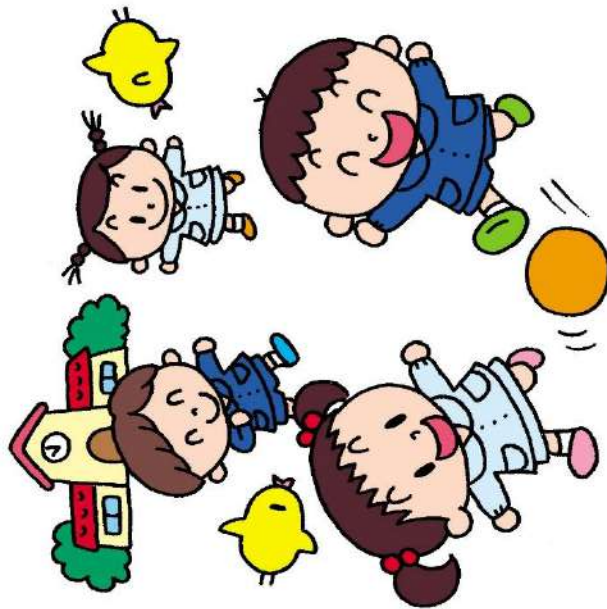
- ・教材を提供するごとに幼児の食べ物に対する興味がわき、知っていることや考えたことを自分なりに話す幼児も出てきた。いろいろな角度から食について触れたことで、より関心が高まったように思う。
- ・これまでは時期を考慮しながら読んでいたことのある絵本を選ぶことが多かった。今回の課題研究を通して、新しい教材に出会うことができたと共に、絵本だけでなくエプロンシアターやポスターも幼児にとって効果的な教材であることが分かった。
- ・副題にある「計画的な継続」という部分が想像していた以上に難しいことだった。幼児に教材を提供する前に、教師自身がテーマに対して意識を高くもち、課題やテーマにそった教材を探していくことが必要である。「なんとなく日々が過ぎてしまわぬよう、計画的に今後も保育を進めていきたい。

平成30年度

研究集録

研究テーマ 健康な心と体を育てる環境や活動の工夫

～心と体を働かせながら、充実感や見通しをもって生活や遊びに取り組み幼児の育成を目指して～



上尾市立平方幼稚園

4歳児

幼児期の終わりに育ってほしい姿 『健康な心と体』 年間指導計画と評価・反省

健康な心と体を育てる環境や活動の工夫 ～心と体を動かさせながら、充実感や見通しをもって生活や遊びに取組む幼児の育成を目指して～

平成30年度 園内研究課

期	I 期(4月～5月上旬)	II 期(5月中旬～7月)	III 期(9月～10月中旬)	IV 期(10月下旬～12月)	V 期(1月～3月)
発達の姿	新しい環境で不安や緊張を抱いている時期	気持ちが開放され始め、自分の思いを出して遊ぶ時期	個々の興味や関心が広がりが友達とのつながりを求めて働きかけていく時期	気の合う友達と思いやイメージを出し合いながら遊ぶ時期	友達とのつながりの中でいろいろな遊びを楽しむ時期
育てたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友達に親しみを持ち、安心して過ごす 戸外に出て保育者と触れ合いながら体を動かす お弁当の手順を知り、楽しんでお弁当を食べる 遊具や用具の安全な使い方を知る 園生活の流れを知り、やってみようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊具や場所で十分に遊ぶ 先生や友達とかけっこや鬼遊びなど、体を伸ばし遊びを動かして遊ぶ 水、砂、泥の遊びをじっくり味わう 雨の日の過ごし方や夏の健康に必要な生活の仕方を知る 園生活の仕方が分かり、進んで取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で思い切り走り回り、心地よさを感じたりして運動遊びし、心地よさを感じる 音楽に合わせて、友達と一緒に踊って遊ぶ 土に触れ、サツマイモの収穫を楽しむ 防災訓練を通して、災害時の非難の仕方や約束を確認し、大切さを理解する 身の回りのことや生活に必要なことを自分から行おうとする 自分たちの生活に必要なことに気づき、当番やグループ活動に進んで取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> たくさん友達と一緒に体を動かして遊ぶ 栽培物の生長に期待をもって種まきや球根植えを楽しむ 冬の過ごし方を知り、寒さに負けず健康に過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> 寒さに負けず、友達と一緒に戸外で思い切り体を動かして遊ぶ 友達と一緒にリズムや音楽に合わせて動いたり、踊ったりすることを楽しむ 栽培物の生長に関心をもって進んで世話をす 感染症の予防方法を知り、行う 生活に必要な身の回りのことは、見通しをもって自分でやってみようとする 様々な活動に意欲的に取り組み、進級への喜びや期待を感じる
環境構成(☆)と教師の援助(◇)	<ul style="list-style-type: none"> ☆すぐに遊び出せるように、遊具や用具を幼児の視線に合わせて配置しておく。また、遊びの様子に応じた、場の広さや遊具の数を調節する ☆片付けやすいうように種類ごとに分けたり、絵表示で始末場所を示したりする ☆幼児が生活しやすい環境になるよう、ロッカーや靴箱、所持品の置き場所などには、マークや絵表示を付ける ◇一人一人との関わりを大切に、スキミングをしたり会話をしたりしながら信頼関係を築く ◇遊びの様子に寄り添い、思いを受け止めながらしたい遊びが十分にできるように楽しい雰囲気をつくる ◇生活習慣については個人差に配慮しながら繰り返して伝え、幼児が自らやってみようとする姿を認める 	<ul style="list-style-type: none"> ☆砂や泥でじっくりと遊べるように道具を用意しておいたり、いろいろな感触が楽しめるように水を溜めておいたりする ☆興味をもった遊びに関わるよう用具や場を用意したり、繰り返し遊べると遊べるように十分な時間を確保したりする ☆健診に合わせ絵本やエプロンシアターなどの視覚的教材を用いながら健康への関心を高める ◇一人一人の遊びの様子から興味や関心を捉え、必要な用具や場を提供できるようにする ◇教師も一緒に遊びに参加し、戸外の気持ち良さや体を動かす心地よさに共感していく ◇身支度や片付けなど、幼児が進んで行えるような環境やスペースを用意し、できたことを具体的に言葉にして褒めたり、認めたりしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分たちが遊んでいた遊びを始めるように、園庭にラインを引いたり、用具を使いやす配置しておいたりする ☆体を十分に動かして安全に遊べるよう、園庭の整備や遊具の点検を行う ☆食べ物に関する教材を用いて、旬の食べ物や調理方法を紹介し、「食べる」ことへの関心を高める ☆当番やグループが分かりやすいように、色や名前などで分け、表を掲示しておく 	<ul style="list-style-type: none"> ◇教師も仲間に入りながら一緒に体を動かして遊ぶ楽しさに共感し、いろいろな体の動きや軟骨や長縄、うんてい等、いろいろな動きを楽しめるような遊びを積極的に取り入れていく ◇水の温かさを感じたり、もち米が蒸げる様子を見たりして、季節ならではの食事に関心をもてるようにする ◇冬の健康について手洗い・うがいの大切さを改めて話し、意識して取り組めるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ◇寒い中でも戸外に出て日の暖かさを感じたり、元気に体を動かして遊ぶ心地よさを味わったりする ◇冬の健康や感染症について話し、教師も一緒に行う中で予防に努める ◇自分から進んで生活を進めている姿を見守り、具体的な言葉を掛けて褒めることで自信をつけ、進級に期待をもっているようにする
活主な動き	<ul style="list-style-type: none"> 発育測定 ○砂遊び ○固定遊具 ○まごごと ○触れ合い遊び ○かくれんぼ ○ボール遊び ○積み木 ○ブロック ○避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○砂・泥・水遊び ○プール ○おおかみかきたぞ ○巧技台 ○内科健診 ○歯科検診 ○カレールーパーティー ○避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 発育測定 ○リズム遊び ○お手ほり ○鉄棒 ○ボール遊び ○しっぽとり鬼 ○へびじやけん ○リレーごっこ ○当番活動 ○避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜の栽培(二十日大根) ○氷鬼 ○長縄 ○ころがしドッジボール ○おもちゃつき ○花の栽培(チューリップ・ヒヤシンス) 	<ul style="list-style-type: none"> 発育測定 ○お正月遊び ○ドロケイ ○ドッジボール ○オベレック ○お別れ会 ○野菜の栽培(ジャガイモ) ○避難訓練
評価・反省(幼児の育ち)	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人との関わりを大切にしている様子で、会話したり一緒に遊んだりの中で関係が深まった。4歳児にとって担任(周囲の大人)の存在ははじめて大きく「先生と一緒に」ということが活動の原動力になることが多かった。そのことを意識して関わることとままたま保育を計画していくことが重要になると感じた。 お弁当の時間をとても楽しみにしている様子で、お弁当の目立つ幼児が多くいるので、園でお弁当だけでなく、家庭の状況とも照らし合わせながら連携を図る必要がある。 生活習慣では毎年の課題であるハンカチとちり紙の始末を定着できるように表示を用いたり、場所を示した。表示を見始末を行う幼児もいるが、家庭生活の影響が強く、個人差もあり、繰り返し声をかけたり、教師も一緒に行った方が効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びでは年長児や親子で踊り返した運動会後には年長児がリズムを繰り返して踊って楽しむ姿があり、この頃から「友達と一緒に」という意識も芽生え、大勢の友達と過ごすようになった。幼児が満足いくまで十分に遊んだり、取り組んだりできる環境(場所や時間)がとて大切だと感じた。 お芋堀りではお芋を掘り、体を動かす姿が見られた。運動会後には年長児がリズムを繰り返して踊って楽しむ姿があり、この頃から「友達と一緒に」という意識も芽生え、大勢の友達と過ごすようになった。幼児が満足いくまで十分に遊んだり、取り組んだりできる環境(場所や時間)がとて大切だと感じた。 お芋堀りではお芋を掘り、体を動かす姿が見られた。運動会後には年長児がリズムを繰り返して踊って楽しむ姿があり、この頃から「友達と一緒に」という意識も芽生え、大勢の友達と過ごすようになった。幼児が満足いくまで十分に遊んだり、取り組んだりできる環境(場所や時間)がとて大切だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びでは年長児や親子で踊り返した運動会後には年長児がリズムを繰り返して踊って楽しむ姿があり、この頃から「友達と一緒に」という意識も芽生え、大勢の友達と過ごすようになった。幼児が満足いくまで十分に遊んだり、取り組んだりできる環境(場所や時間)がとて大切だと感じた。 お芋堀りではお芋を掘り、体を動かす姿が見られた。運動会後には年長児がリズムを繰り返して踊って楽しむ姿があり、この頃から「友達と一緒に」という意識も芽生え、大勢の友達と過ごすようになった。幼児が満足いくまで十分に遊んだり、取り組んだりできる環境(場所や時間)がとて大切だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で転がしドッジボールや鬼遊びなど大勢の友達と楽しむ姿が多く見られるようになった。友達と関わりながら思い切り走り回り、心地よさを感じるようになった。友達と一緒に遊ぶ楽しさに共感し、いろいろな体の動きや軟骨や長縄、うんてい等、いろいろな動きを楽しめるような遊びを積極的に取り入れていく 水の温かさを感じたり、もち米が蒸げる様子を見たりして、季節ならではの食事に関心をもてるようにする 冬の健康について手洗い・うがいの大切さを改めて話し、意識して取り組めるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 生活発表会への取り組みの中では、音楽のセリフやリズムに合わせて動くことを楽しんでいる様子が見られた。友達と関わることが多くなった。活動の方向性は教師が示しながらも、活動の内容や進め方については幼児の感受性や自然な動きを十分に捉え、「やってみよう」と感じてくれた。 2学期課題になったのは、音楽のセリフやリズムに合わせて動くことを楽しんでいる様子が見られた。友達と関わることが多くなった。活動の方向性は教師が示しながらも、活動の内容や進め方については幼児の感受性や自然な動きを十分に捉え、「やってみよう」と感じてくれた。 2学期課題になったのは、音楽のセリフやリズムに合わせて動くことを楽しんでいる様子が見られた。友達と関わることが多くなった。活動の方向性は教師が示しながらも、活動の内容や進め方については幼児の感受性や自然な動きを十分に捉え、「やってみよう」と感じてくれた。

期	I 期(4月～5月上旬)	II 期(5月中旬～7月)	III 期(9月～10月中旬)	IV 期(10月下旬～12月)	V 期(1月～3月)
発達の姿	年長になった喜びの中で張り切って環境に働きかける時期	思いを伝え合いながら友達とのつながりが深まっていく時期	友達とのつながりの中で個々の力を発揮し、意欲的に取り組む時期	自分たちで生活を進める中で課題に向かっ実現しようとする時期	生活や遊びが充実し見通しをもって生活する時期
育てたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで戸外に出て、自分の思いを教師や友達に伝えながら遊ぶ ○安心して過ごす中で、一日の見通しをもち、できることは自ら進んで行おうとする ○好きな遊びを見つけ、じっくりと取り組んだり、友達と一緒に遊んだりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○思い切り体を動かして遊ぶ心地よさを味わい、様々な遊びに友達や教師と楽しむ ○危険な遊び方や場所が分かり、安全に遊ぶ ○夏野菜の栽培を通して、食への興味・関心をもち進んで食べようとする気持ちをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の体を知り、意欲的に体を動かしたり、いろいろな運動遊びを十分に楽しんだりする ○友達と力を合わせたり、競ったりする中で、自分の力を十分に発揮する ○自分なりの目あてや目標をもち、繰り返して取り組んだり、挑戦したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に全身を使っているいろいろな運動遊びやルールのある遊びを楽しむ ○友達と相談したり考えを出し合いながら、遊びを進めることを楽しむ ○共通の目的に向かっ友達と一緒に遊びを実現できるようにする ○就学に向けて生活のリズムや生活習慣などを意識したり、自分なりに一日の活動の見通しをもったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う ○友達と共通の目的に向かっ意欲的に取り組む、充実感を味わう ○園生活や遊びの見通しをもち、友達と十分にかかわりながら進める ○小学校へ入学することに期待をもち、自信をもって行動する ○様々な食べ物への興味や関心をもち、食の大切さに気づき、進んで食べる
環境構成(☆)と教師の援助(◇)	<ul style="list-style-type: none"> ☆年少時との変化は分かりやすいように絵・文字表示を作る ☆幼児のしたい遊びが十分にできるような時間をと場を確保する ☆興味・関心に応じて、材料、道具を用意し、自ら試したり、工夫したりできるようにする ☆野菜の生長が分かるように写真や文字を使った掲示をする 	<ul style="list-style-type: none"> ☆天候を考慮し、砂や泥、巧技台など計画的に取り組めるようにする ☆全身を使って遊ぶことができるような遊具や道具を用意する ☆興味・関心に応じて、材料、道具を用意し、自ら試したり、工夫したりできるようにする ☆野菜の生長が分かるように写真や文字を使った掲示をする 	<ul style="list-style-type: none"> ☆年少担任とともに園庭の使用について協議し、時間や場所を確保する ☆興味をもった遊びができるよう、用具や道具を出しておく ☆目当てや目標に応じ、ラインを引いたり、コースを作ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ☆年少担任とともに園庭の使用や一緒に遊ぶ時間などについて協議する ☆活動の時間と遊びの時間を区切り、メリハリのある生活ができるように活動や時間の表示などを利用する ☆友達と考えを出し合い、遊びを進めることができるように用具や材料を出しておく ☆友達の様子や頑張りがわかるように、伝え合う時間を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の体に興味・関心をもてるように教材を用意したり、時間を設けたりする ☆遊びや活動の振り返りや翌日への期待を伝える時間や時間を確保する ☆一日の流れがわかるように、その日の日程を表示し、遊びや活動に見通しをもって自ら行動できるようにする ☆小学校に向けて、楽しみにしていることややってみてみたいことなどを伝え合う時間を設ける
活主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○砂遊び ○固定遊具 ○発達測定 ○避難訓練 ○年少児に親しんでいたルールのある遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ○砂・泥・水遊び ○巧技台 ○プール ○野菜の栽培(夏野菜) ○カレパパーティ ○ボール教室 ○内科検診 ○歯科検診 ○避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○竹馬 ○サッカー ○かけっこ ○リレー ○リズム ○ボール教室 ○避難訓練 ○野菜の栽培(ダイコン) ○お手まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッジボール ○短縄 ○缶蹴り ○跳び箱 ○マツト ○お部屋さんごっこ ○動物園ごっこ ○おもちゃつき ○ボール教室 ○避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○発育測定 ○お正月遊び ○劇遊び ○合奏 ○ドレクイ ○ボール教室 ○短縄 ○避難訓練
評価・反省(幼児の育ち)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はクラス替えも担任の変更もなかったため、進級当初から比較的落ち着いた様子で過ごすことができた。身支度や一日の流れを絵で表示したこと、自ら確認をして行動しようという気持ちが出てきたように思う。 ・身支度は進んで行おうとする姿勢はあるもののペースに差があり、友達を待たせたり、お友達を気付けさせたり、時計の表示を利用して決めた時間までに終わらせようとしたが、なかなか身につけていない。 ・年少児に親しんでいたしっぽ取り鬼や色鬼、ごっこ遊びなどを友達と誘い合っ遊ぼう姿が多々見られた。転入児が一人で遊んでいる姿が見られたり、ルールなどを教えたりする姿が見られた。言葉が足りないときやどう伝えたいか困っている時には話を補ったり、伝え方を知らせたりしていきようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者がつくってくれた竹馬に喜んで遊び、繰り返したり、目標に向かっ取り組んだりすることが多く見られた。しかし、幼児によって取り組む個々に差があり、みんなで取り組む時間や順番がなかなか関係がなかった。「苦手だな」「できない」と感じている幼児が「やってみようか」という気持ちで変わって見逃さず、じっくり関わったり、できるようなことに取り組むこととで幼児の意欲や興味が高まってきたこと感じた。また、竹馬を通して、繰り返して挑戦することでできるようになること、頑張ることが多く、頑張ればできると思う。 ・リレーや大玉転がしなど、友達と一緒に遊ぶ中で、勝ち負けや負ける悔しさを感じたり、友達と協力する楽しさを感じたりすることができた。また、体を動かして遊ぶことにも積極的になった幼児が多く、進んで友達を誘って遊ぶ幼児も増え、体を動かして遊ぶことに更に積極的になったように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会を経験し、更に友達とのかかわりが深まり、誘い合っ遊んだり、自分たちで考えを出し合っ遊ぶことや活動を進めようとしたりすることが多く見られた。また、友達と協力して遊ぶ姿が合わず、遊びが止まったり、時にはトラブルになったりすることがあった。幼児も一緒に解決方法を考えるようになり、友達も一緒に遊ぶようになった。時間をかけて自分たちで解決し、遊びを進めることとで、満足感を感じることができたように思う。 ・お部屋さんごっこや動物園ごっこでは、自分の気持ちを相手にわかるように伝えることが難しくなったり、うまく伝わらずに葛藤したりすることが多かった。また、自分の思いだけで進めたいことを実践したり、気持ちに折り合いをつけたり、相手を受け入れたりする経験が多くなったように思う。 ・活動でも遊びでも苦手なことやできないこと、活動に対して消極的だったり、避けたらしようとしてしまう幼児もいるので、教師が遊びや活動を工夫し、自ら進んで取り組んでいきたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期になって改めて自分の体などについて見たり、健康について話をすると、知っていることが増えたり、教師の話を意欲的に聞く幼児が増えたり、話をした後から、手洗いや歯磨きの丁寧になりました。友達と声を掛け合っ行おうとする姿が多々見られるようになった。 ・行事や活動が入ることが多々あり、一日の予定を表示し、知らせようとした。表示していないだけでは字の読めない幼児や興味のない幼児にはなかなか伝わらないので、活動に入る前に予定や時間を確認してから遊びや活動に入るようにした。みんなで確認することで個々に意識するだけでなく、互いに声を掛け合っ過ごすことができるようになった。 ・寒い日にも進んで戸外に出ていき、友達と誘い合っ走ったり、体を動かしたりして遊ぶ姿が多々見られた。「寒いから行きたくない」などと言う幼児は見られず時には汗をかきながら友達を追いかけ、友達との時間をとる楽しさを感じている。 	

令和元年度

研究集録

研究テーマ 「幼児が充実感を味わうための戸外遊びの感化用や活動の工夫」

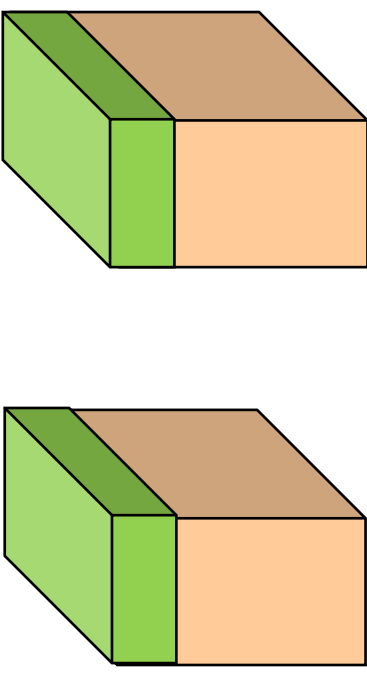



上尾市立平方幼稚園

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな戸外での遊びや新しい環境、友達の遊んでいる姿に興味をもち、積極的に取り組む姿がある。 ・クラスでボール送りゲームをして、チームで競い合う楽しさを感じている。 ・運動会があることを知り、リズムを練習したり、かけっこで協奏したりすることを楽しんでいる。 	<p>ねらい</p>
	<p>環境構成</p>   	<p>遊びの様子</p>
<p>4歳 9月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雲梯・太鼓橋・ジャングルジムの3つ遊具に幼児が興味をもてるような動物や恐竜の目標をつけ、動物にご飯をあげて遊ぶ環境にした。 ・玉入れにつながるように、上に投げるような動きができるような環境にした。 ・幼児の遊びに合わせて、ラインを引いて難易度を変えて遊んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなコーナーがあったことで、自分なりに投げ方を試しながらよく遊んでいた。入ったことを喜び、教師に見せたり、少し離れてラインの外から投げることに挑戦してさらに楽しんでいた。 ・ジャングルジムは幼児は鬼に見立て、思い切り投げたり、段ボールに強く当てて跳ね返って入ることを面白がったり、椅子を持ってきて座って投げて入れる遊びをしたりし、幼児なりの発想で遊んでいた。 ・太鼓橋のサルが一番難しかったようで、なかなか入らないと話していた。
	<p>評価・反省</p> <p>工夫した環境を整えることで、幼児の意欲や遊びが充実するのが感じられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな難しさを考えた環境にすることで「入る楽しさ」と「なかなか入らない面白さ」を味わいながら、幼児が自分の力に応じて試しながら遊ぶことができた。 ・動物という幼児にとって親しみやすいものや「動物にごはんをあげようよ」というイメージで玉入れ遊びを実習生が考えており、幼児がすぐに楽しんで遊んでいた。また、園庭に出るとすぐに目に入ったようで、「何か楽しそうなものがある!」と、興味をもっていた。いつもの遊具が魅力的な環境に変化することで幼児はともわくわくしていた。 ・その後の運動会の玉入れにもつながり、急に玉入れをするよりも、投げて入る楽しさを味わっていた経験が玉入れの高いかごにも繰り返し挑戦して遊ぶ気持ちにつながっていた姿も見られた。 ・継続的にこの遊びをできる時間を多くは確保できなかったので、玉入れの前にじっくり遊べる指導計画にできるとよりよかったです。 	

4 歳

腕支持遊び

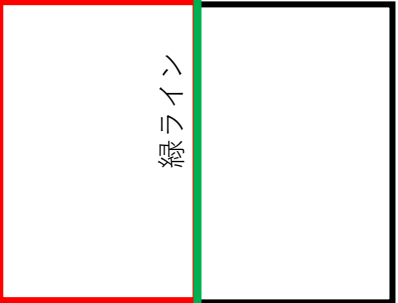


	発達段階	幼児の興味・関心	ねらい
<p>4 歳 1 0 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会を終え、体を動かして遊ぶことの楽しさや運動遊びでの興味が深まっている。 ・友達と一緒にいることに興味をもって遊ぶ姿が見られる。 ・やってみようとする気持ちが見られ、いろいろな遊びに挑戦する幼児が見られる。 	<p>○自分の力を試したり、いろいろな身体の動きを経験したりしながら全身を使って遊ぶことを楽しむ</p>	<p>ねらい</p>
	<p>環境構成</p>  <p>・巧技台を2つ置き、そこで腕支持をして遊べるようにした。</p> <p>・園庭に置いておいて、やってみせると、幼児も遊び始めた。</p>	<p>遊びの様子</p>  <p>・すぐに興味をもって力を試して、遊び始めた。</p> <p>・腕に力がなく出来ない幼児もいたが、サーキットの中の一つのコーナーに取り入れたことで、繰り返し遊ぶ中でコツをつかんだり、力の入れ方がわかってきたりした。</p> <p>・友達の様子を見て、刺激を受けたり、数を数えて「○○くん、すごいね」と一緒に喜んでいたりした。</p>	<p>遊びの様子</p>
	<p>評価・反省</p> <p>・今まで試したことはなかったが、幼児が興味をもって遊び始めたので、やってみてよかった。</p> <p>・幼児の遊ぶ姿から、一人一人の腕の力を把握することができた。</p> <p>・この後、サーキット遊びの途中にもこのコーナーを取り入れたことで、幼児が遊びの中で繰り返し挑戦する姿が見られ、継続して遊ぶことがよかった。</p> <p>・いろいろな運動遊びや遊具があるが、幼児が遊びの中でどんな動きを経験し、どんな力が育っているのか、また、あまり経験していない動きはどんなことか知ることをもって学ぶことが必要だと思った。腕の力や腕支持の力を遊びの中でつけてくれることで、遊びの中での成長が促されることが増えたり、この時期に興味をもって鉄棒の力にもつながったりすると考えた。</p>		

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車の遊具を家にして、下でご飯をつくったり、上を嘔る所に見立てたりして友達とごっこ遊びを楽しむことが多く見られる。 ・ ごっこ遊びの中で友達とやりとりしたり、同じイメージで遊んだりする楽しさを感じている。 ・ 遊びの場を工夫して遊ぶことが増えてきている。 	<p>ねらい</p>
		<p>○友達とのごっこ遊びの中で、縄に触れて遊ぶことを楽しむ</p>
	<p>環境構成</p>	<p>遊びの様子</p>
<p>4歳 10月</p>	 <div data-bbox="1102 1108 1246 2004"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車の遊具の2階から縄を下ろして、バケツを結んで下から上に運んだり、下ろしたりして遊べるようにした。 ・ 縄を遊びの中に取り入れる。 </div>	 <div data-bbox="1018 129 1241 1048"> <ul style="list-style-type: none"> ・ つくった葉っぱのごちそうを上へ上げたり、下ろしたりしてごっこ遊びに使っていた。 ・ 縄を引いたり、そっと下ろして入ったりして縄に触れて遊ぶことに興味をもっており、その動きや上下の友達とやりとりして遊ぶことを楽しんでいました。 ・ 出してしばらくは興味をもってよく遊んでいたが、しばらくすると、あまり使っていないかった。 </div>
<p>評価・反省</p>		
<p>縄を遊びに取り入れられることをやってみたいと考えたので実践してみた。井戸のようなこういった動きは遊びの中でなかなかないので幼児も面白さを感じていた。縄跳び遊びだけではなく、いろいろな遊び方、遊具の使い方に触れるということはよかったです。</p> <p>この時期になると、友達の見え方が変わってきたり、やりとりして遊んだりできるようになってきたので、急に人の上に落ちたり、人が使っているときに引いたりということは心配が見られなかった。「引っ張るよー」などと幼児同士で声を掛け合ったり、友達の見え方を意識して遊んでいたことは幼児の姿として成長の一つと捉えられた。</p> <p>継続して楽しむことはあまりできなかったもので、もっと幼児の遊ぶ姿を見て、それに応じて工夫できるとよかった。（大きさを変えるとか）</p>		

4 歳

挑戦ブレスレットでサーキット遊び

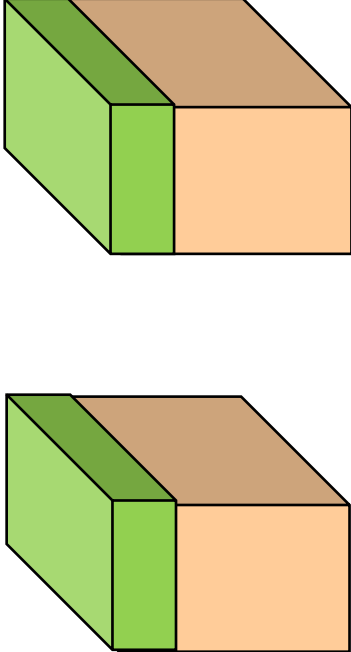

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会後、運動することの心地よさや楽しさを感じながら、いろいろな遊びに意欲的に遊ぶようになってきた。 鉄棒に興味をもち、前回りやぶたのまるやぎに繰り返し挑戦するようになった。 鉄棒をきっかけに太鼓橋や雲梯など、できるようになったこと見せたり、友達の姿からやってみようとしたりする幼児が増えた。 	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな運動遊びに興味をもち、全身を使って遊ぶことを楽しむ ○挑戦することを楽しんだり、できた喜びを味わったりする
	<p>環境構成</p>	<p>遊びの様子</p>
<p>4 歳 1 1 月</p>	<div data-bbox="616 1572 868 2013"> </div> <div data-bbox="624 1084 820 1543"> <p>挑戦ブレスレット： サーキットをゴールした幼児やできるようになったこと増えた幼児にシールを貼る</p> </div> <div data-bbox="855 1084 1038 1543"> <p>目当てをもって挑戦する楽しさを味わえるように、チェーンネットや登り棒に動物の表示をつける</p> </div> <div data-bbox="1058 1084 1241 1543"> <p>太鼓橋から汽車の遊具まで、ジャンプ台、平均台を置きながら、線路でつなげ、いろいろな運動遊具に挑戦して楽しめるようにした</p> </div> <div data-bbox="895 1554 1230 2013"> </div>	<div data-bbox="616 645 914 1055"> </div> <div data-bbox="632 152 727 629"> <p>毎日、遊びの様子に応じて、コースを変えたり、幼児とつくったりした</p> </div> <div data-bbox="775 163 1102 613"> </div> <div data-bbox="1118 152 1230 629"> <p>友達の姿から前回りができるようになりたいと挑戦し、多くの幼児ができるよう</p> </div>
<p>評価・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具と遊具を線路のラインでつなげたことで、「汽車のところまでつなげてゴールにしよう」という声があり、ゴールということでブレスレットにシールを貼ることにした。すると、ブレスレットに興味をもって、やってみたり、鉄棒に挑戦していた幼児もいろいろな遊具に挑戦したりするきっかけになり、いろいろな体の動きを経験する遊びになったので、ブレスレットではよかったと思う。最終的にブレスレットをどのようにするかが難しく、なんとなく終わりになってしまったのもっと工夫すればよかった。 すべてできてシールを貼ることにごたわらずに、4歳児なのでその子にとってできるようになってきたことに対して、シールを貼るようになった。統一性はなかったのがよかったのか、反省としてあるが、個々の意欲を認めたり、運動することへの興味や意欲にはつながっていた。 「誰にでもできそうな目安、ちょっと挑戦してできる目安」それが4歳児のポイントだと感じた。 サーキットにすることで、スタートから友達と一緒に繰り返してやってみたり、いろいろな遊具に取り組み中で身体の動きが慣れてきて、できることが増えてくるのが感じられたりしたので、遊具をつないでサーキット遊びになったのはよかったと思う。 		

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○四角のドッジボールの遊び方やルールを理解して、友達と伝え合いながら新しいルールのある遊びを繰り返し楽しむ ○ボールをキャッチしたり、狙った相手に投げたりする面白さを感じて遊ぶ
<p>環境構成</p>	<p>遊びの様子</p>
<p>4歳 2月</p> <div data-bbox="662 1086 1204 1870"> <p>赤ライン</p>  <p>緑ライン</p> <p>白ライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帽子の色に合わせて、赤チーム、白チームのラインにし、真ん中のラインは全く違う色にした。 ・色を変えてラインを引くことで、ルールや遊び方が幼児にとって目で見えてわかりやすくなり、共通理解して遊べるようにする。 ・遊びの中で友達同士でルールを伝えやすくなると考えた。 </div> <div data-bbox="646 593 941 1030">  </div> <div data-bbox="981 593 1236 1030"> <p>遊び始めると、仲間が増えていく様子があり、繰り返し遊ぶ中で、チーム内でパスし合ったり、友達のボールがとれたことを喜んだり、円型ドッジボールとは違った新たな楽しさを感じて遊び、好きな遊びの一つになった。</p> </div> <div data-bbox="989 156 1244 560">  </div> <div data-bbox="630 145 949 560"> <p>予想よりも早い段階で遊び方やルールを理解し、チームでの勝負を楽しんでいた。「緑の線から出ちゃだめだよ」と幼児同士で伝え合う時に、相手に伝わりやすかった。遊び初めのチームで別れる時にも、ラインを見て集まっていた。ルールがわかりやすくと、幼児もすぐに楽しさを感じていた。</p> </div>	<p>評価・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時期、遊びが継続して楽しめるようにするために、幼児同士で遊び方を伝え合うことができることも大切なことだと思う。そのため、できる一つとして、ラインをわかりやすくすることで、幼児同士で伝え合う中で、相手に伝わり、遊びが中断することが減り、楽しさをより感じられるように感じた。 ・遊び方がわかりやすいことは興味の継続には重要な要素で、とくに理解に時間がかかる幼児にとっては大きな影響しているように感じた。どうしたら、わかりやすく新しい遊びを紹介できるか、小さなことでもできる工夫を考えていきたい。 ・強いボールや速いボールを投げたいという気持ちがあり一層芽生え、上手に投げられる姿を見て、その友達のよさを認めたり、刺激を受けまねてやってみたりする姿にもつながった。

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p>	<p>ねらい</p>
<p>4 歳 9 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことに消極的な部分があり、なかなか取り組もうとしないことが多い。 ・お父さんやお母さんがつくってくれた竹馬に興味をもって進んで遊び始める姿がある。すぐに乗れるようにならないことに興味が薄れ始めてしまう幼児もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○竹馬に興味をもち、意欲的に取り組む ○出来たという経験を重ね、自分なりの目標をもつ
	<p>環境構成</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・どうやったら竹馬に乗れるようになるかをわかりやすく絵と字で示し、一つ一つクリアしたらシールを貼っていくように表にしたものを配布する。全部クリアしたら賞状を渡す。 ・名人になった幼児が増えてきたら、さらに難しいものを用意し、幼児自身が何に挑戦するか考えられるようにした。 ・コーンや石灰を使ってコースをつくり、ただ歩くだけでなく、楽しんでゴールまで行けるようにする。 	<p>遊びの様子</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・毎日コツ取り組んで「乗れるようになりたい」と頑張る幼児と、乗ることが難しいとわかるとすぐに諦めてしまう幼児の差がとても大きい。 ・担任や担任外が補助をしながら コツを教えていくようにしたが、なかなか乗れないことで意欲がなくなってしまいう幼児もいた。 ・配布した表を見ながら、できるように繰り返し挑戦する幼児がとても増えた。 ・友達と距離を競ったり、励まし合ったりしながら一緒に挑戦する姿が見られた。
	<p>評価・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗れるようになるための過程を可視化したことで、次に何をすればいいかがわかりやすく、進んで取り組むことができたように思う。また、一つ一つの項目も細かく区切ったことで、「できた！」という達成感が感じやすくなり、意欲に繋がっていった。 ・竹馬に乗り始めたころは、みんなが補助を必要とするため、担任・担任外と」複数で対応したが、それでも待つ時間が長くなってしまったので、グループごとなどで時間を分けてやることも必要だったと思う。 ・竹馬を通して、くり返し、継続的に取り組むことの大切さや努力をすればできるようになることを多くの幼児が感じられたように思う。 	

5歳

腕支持遊び

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p>	<p>ねらい</p>
<p>5歳 10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊びの中で、ブランコやすべり台は好きでよく遊ぶ姿が見られるが、鉄棒、雲梯、上り棒などへの興味・関心がほとんどない ・クラスで上り棒や鉄棒にみんな挑戦した時に、自分の体を支えられない幼児が多く、前回りすらできない幼児が半数以上いた。 	<p>○繰り返し挑戦する中で、コツをつかんだり、友達と競い合ったりして遊ぶことを楽しむ</p>
	<p>環境構成</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・巧技台を2つ置き、そこで腕支持をして遊べるようにした。 ・園庭に置いておいて、やってみせると、幼児も遊び始めた。 	<p>遊びの様子</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・力を試して、遊び始めた。 ・初めはなかなか腕で保つことが難しい幼児もいたが、何回かやるうちに、コツをつかんで足を動かさないうようにしたり、力の入れ加減を考えたりしていた。 ・数を数えて長い時間できると達成感を味わったり、友達と競い合ったりして楽しんでいる。また、なかなかかやってみようとしなかった幼児も友達のとりに
	<p>評価・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲梯や鉄棒、上り棒など腕を使った遊具への取り組みに消極的だったり、実際にやってもできない幼児が多かったりしていた理由がこの遊びを通して分かった。 ・幼児の遊ぶ姿から、腕力のない子、支え方のうまくない子など一人一人の腕の力を把握することができた。 ・なかなかやってみようとしないう幼児もいたので、時間を設け、みんな順番に挑戦したり、長くできる幼児に見本を見せてもらったりした。友達のをみることで刺激を受け、「〇〇秒まで頑張る！」と遊び始めた幼児もいた。友達のとりに刺激を受けた。友達の姿も増えていると感じた。 	

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p>	<p>ねらい</p>
<p>5歳 10月</p>	<p>・運動会を終え、玉入れを経験したこととつながり、ボール遊びにも興味をもっている。 ・「ねらって球を入れる」面白さを感じた幼児から、「高いバスケットやりたい」という声が聞かれた。 ・自分の力を試したり、挑戦する楽しさを感じたりする幼児の姿が多く見られる。</p>	<p>○自分なりに試したり、挑戦したりしながらボール遊びを楽しむ ○狙ったところにボールを投げて遊ぶ</p>
	<p>環境構成</p>	<p>遊びの様子</p>
	<p>(環境の配慮点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつものバスケットゴールをより高く設定した。 ・時期や発達に応じて、いつもの遊具を少し変化させて出すことで意欲や興味をもって、繰り返し挑戦できるようにした。 ・壁の前に設定したことで遊びやすかった。 ・ラインを何段階か引くことで年長児もさらに難易度を変えて遊べるようにした。 ・支柱と結ぶことで倒れずに高いバスケットを設定することができた。 	 <p>・投げ方のコツをつかみながら、何度も挑戦して遊ぶことを楽しんでいた。 ・年長児も年少児も、ラインに立って、それぞれ離れたところからやってみたり、「次はこっちで挑戦！」と自分なりに試したりしていた。</p>
	<p>評価・反省</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと高いのがやりたい」という幼児がいたので、いつも使っているバスケットであるが、高さを変えて遊べるようにし、挑戦して楽しむことができた。 ・幼児の興味や実態に応じて、どうやれば実現できるかを考えて、既存の遊具を工夫して使っているようにしたいと思う。 	

	発達段階 幼児の興味・関心	ねらい
5歳 11月	<ul style="list-style-type: none"> 腕支持遊びや鉄棒などで、腕力がない幼児が多い 鬼ごっこが好きで、水鬼、ドロケイ、色鬼など様々な鬼ごっこを友達と誘い合っている 運動会を通して、友達と競い合うことに楽しさを感じている 	○クモ鬼を通して遊びながら体力づくりをする
	環境構成	遊びの様子
5歳 11月	<div data-bbox="587 1400 949 1966" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> 新しい鬼ごっこの提案 裸足で鬼は四つん這いになり、追いかける。逃げる幼児はお腹を上にして四つん這いになって逃げる 捕まったら鬼になり、四つん這いで追いかける（鬼が増える） 	<ul style="list-style-type: none"> 鬼ごっこはとて好きなので、新しい鬼ごっこの提案にもとても興味を示していた。 逃げる側の四つん這いが腕力をととも使うのできつく、すぐに捕まってしまう幼児が多い。 腕力のある幼児は逃げるのもとても速く、逃げる時間も長いので、幼児によって大きな差ができる。 ホールでもできる鬼ごっことして幼児はととも楽しそうにくり返し遊んでいた。
	評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> 腕支持遊びから、全体的に腕力がないことが感じられたので、幼児の好きな鬼ごっこと合わせてできる遊びを提案した。 逃げていた幼児は慣れない姿勢に苦戦していたが、繰り返し遊ぶことで慣れていき、自分なりに動いたり・休んだりを工夫している姿が見られた。 継続して遊ぶことで、遊びながら腕力や持久力が身に付くことができるので、3学期も継続して遊びに取り入れていきたい。

園内研究を通して

(年長)

・運動遊びへの興味・関心がうすいと感じていたが、様々な環境を用意しておくことで、自ら興味を持って参加したり挑戦したりする幼児が増えたように思う。

(年少)

・小さな環境の変化でも、幼児が気付き、興味をもって遊び始める姿がどの実践でも見られた。幼児が新しい遊びに興味をもつことは、4歳児は遊びの幅や友達関係の広がり大きく影響していくと感じた。



幼児の実態や興味に応じた新たな環境を構成することで、いつもとは異なる環境に触れ、自ら興味をもって遊び始める幼児の姿が多く見られた。そして、その遊びの様子を捉えて、環境をさらに工夫することで継続的な意欲につながったり、挑戦する気持ちが育まれたりし、幼児が充実感を味わうことができた。

どんな環境の工夫ができるか考えていく中で、新たな環境を探っていくことは難しく、日々の保育がどんどん過ぎてしまったことは反省点である。戸外遊びは気候や遊びやすい季節の影響があるため、実践計画を早めに立てておこなければ、タイミングを逸して実践が積み重ねられないことも実感した。簡単で小さな環境の工夫でも幼児の姿に変容があり、遊びの充実につながると感じ、大きな環境の工夫と構えず、日々の中で実践していくようにしていくことが大切である。また、これまで実践した遊びも、さらにできる環境の工夫はないか探りながら、実践、評価、反省を続けていきたいと思う。



令和2年度

研究集録

研究テーマ

「協同性を育む保育の在り方」



上尾市立平方幼稚園

資料 2 7

1 研究主題

『協同性を育む保育の在り方』

2 主題設定の理由

今年度は、少人数での教育活動を展開していく。その中で、幼稚園教育要領の中で謳われている幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿のひとつである「協同性」を育むためには、各年齢の発達段階を踏まえた活動や異年齢での活動の両方から様々な遊びや活動を計画的に取り入れることが大切であると考え。さらに少人数の中でも幼児一人一人が、遊びが充実し、友達との関わりを深め、互いを認め合い、徐々に共通の目的をもって実現する喜びを味わうことができるような保育の在り方について追究したいと考え、本テーマを設定した。

3 研究の観点

- ① 幼児一人一人の性格・興味・関心・発達・経験の把握
- ② それぞれの発達段階における協同性の芽生えや広がりをつえる
- ③ 少人数の中で協同性を育むための計画的な活動と工夫
- ④ 異年齢の関わりを通しての保育の展開・活動の充実
- ⑤ 協同して遊ぶようになるための環境構成や教師の援助

4 研究計画・研究内容

- ① 幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿「協同性」の内容を理解する。
- ② 研究課題の方向性を共通理解する。
- ③ クラス全体として、または幼児一人一人の中に「協同性」の芽生えがあるか、育まれているかなど生活や遊びを通して細かく見取る。
- ④ 少人数の中で幼児が協同性を育むために必要な経験は何かを考え、保育展開の工夫や環境構成、教師の援助をする。
- ⑤ 異年齢での保育の展開や活動を工夫し、様々な人と関わり、多様な関係性の中で協同性が育めるようにする。
- ⑥ 遊びの中で友達との関わりが生まれてくるような環境や援助を考える。
- ⑦ 幼児が主体的に活動できるような環境構成や援助をする。また、一人一人が自己充実する姿を大切にしながら、友達と遊ぶ中で多様な感情体験を味わい、関わりを深めたり、共通の目的をもって実現する喜びを味わったりできるようにする。
- ⑧ 様々な実践を重ねていく中でさらなる幼児の協同性の芽生えや広がりを捉える。
- ⑨ 実態を踏まえて評価・反省し、指導計画の作成や今後の保育展開について教師間で共有する。

4 歳

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 (_____ 協同性の芽生えが見られた場面)	☆環境構成・◇教師の援助	考察
4 歳 1 期 (6 月)	6 月 中旬・ 下旬	○自分の好きな遊びを見つけて、自分から遊ぶ ○好きな遊びを楽しみの中で先生や友達に親しみをもつ	<p>(砂遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ、様々な遊びの環境に興味をもち、喜んで遊び始めたり、自分なりの動きを試して楽しんでる姿が見られた。 ・「今日も裸足で遊ぼう」と、前日に楽しんだことを翌日も友達と楽しむ姿が見られた。 ・砂場では、「僕もブルドージャーだ!」「こっちから砂を集めよう」など、繰り返して、動きを友達と試し、自分たちのイメージが重なって遊んでいることが楽しい様子が見られた。 	<p>☆幼児が興味もてる環境、「楽しそう」「やってみよう」と思えるような環境を構成した。</p> <p>☆思いを出して、満足いくまで遊べるように十分に満足できる時間の確保をした。</p> <p>◇幼児が好きな遊びを見つけて、楽しんでいけることを教師も一緒に楽しみ、思いを共有し、教師との信頼関係を築けるようにした。</p> <p>◇同じ場で遊ぶ友達のしていることや楽しんでいることを知らせ、同じ場で遊ぶ心地よさや楽しさを感じられるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ、自分のしたい遊びを十分に楽しみ、幼稚園で安心して遊ぶことが大切である。その基礎ができることで、友達と一緒に遊ぶようになっていくと思われ、それが協同性を育む土台となっていくと思われ。そのためにも、興味もてる環境、思いを出して遊べる環境の構成が必要と考え、実践した。
4 歳 11 期 (7 月)	6 月 中旬	○友達に親しみを持ち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ	<p>(ダイナミックな絵の具遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具遊びでは、友達と同じような動きをしたり、同じようにことをしたりすることの楽しさを感じている様子が見られた。 ・五感を使って、感触や心地よさを味わいながら遊ぶ中で、心が開放されて、自分の思いを動かすのびのびと表していた。 	<p>☆砂・水遊び、絵の具遊びなど、五感で感触を十分に味わう経験を多くできるように計画を立て、気持ちを解放して遊ぶ中で友達と一緒に過ごす楽しさも感じていけるようにした。</p> <p>◇遊びの中で、友達と「楽しい」「気持ちいいね」など、気持ちを共感し合えるように、教師がそれぞれ楽しんでる姿や感じたことを言葉にして、互いに伝えるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全身で遊ぶことが好きな二人の実態を踏まえ、大きな紙でのクレヨン遊びやいろいろな絵の具の活動を通して、思いきり遊べる遊びを多く計画した。手形・足形の絵の具遊び、ローラー遊びでは、友達と一緒に楽しみ、「今日は気持ちよかったね」「また、やりたいね」という気持ちのつながりが友達との仲を深めた。そういった経験が「一緒に○○しよう」と遊び始める姿につながったと考え。 ・同じことをしたり、同じ動きをしたりすることは友達との存在を意識したり、刺激を受けたりしている姿である。こういったことが協同性の芽生えの一歩だと考える。

<p>4歳 11期 (7月)</p>	<p>7月 上旬</p>	<p>○友達に親しみをもち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ</p>	<p>(年長児に刺激を受ける姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこ、ドロケイなど、年長児と一緒に遊ぶことが楽しくなってきた。それと共に「年長さんみたいに、速く走りたい」「どうやったら速く走れるの?」と憧れの気持ちが強くなっていった。 憧れの気持ちと共に、「年長児と一緒に遊びたい」という親しみの気持ちも強くなり、二階に遊ぶ中で年長児の姿をよく見て、真似てやってみる姿がいろいろな場面で見られた。 ・また、年少は2人であるが、たくさんの友達と鬼ごっこやドロケイをすることの楽しさを感じるようになり、教師がいなくても、自分達で仲間に加わって遊んでいた。 ・家庭でも、速く走る練習をするなど刺激を受けている姿が見られていた。 	<p>☆年長児と一緒に遊べる時間を確保できるように週や日の計画を立てるようにした。</p> <p>◇「年長さん、すごいね」という憧れの気持ちを受け止める。また、年長児の活動や姿を目を向けられるように気付けさせる。</p> <p>◇年長児一人一人との友達関係を築けるように仲立ちし、時には、教師は様子を見守り幼児同士の関わりを大切にするようにした。</p> <p>◇年長児と関わることで「みんなで遊ぶと楽しい」という気持ちやいろいろな幼児と触れ合う中で「○○君は面白いよね」「○○君が教えてくれたよ」など、その子らしさを感じ取る気持ちを大切に受け止めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年少組だけであると、大勢の友達の中で過ごす楽しさを感じる経験やいろいろな友達の違いや遊び方に触れる経験が少なくなってしまう。しかし、たくさんの時間を異年齢で生活するようになると、年長児の中に入っても、安心して遊べるようになってきた。 ・憧れの存在ができることで、意欲につながり、相手の姿をよく見て真似たり、相手の話に耳を傾けたりする姿が見られた。異年齢での関係は、憧れの気持ちを抱くことだけでなく、様々な場面で吸収することがより大きくなると感じた。
<p>4歳 11期 (7月)</p>	<p>6月 下旬 ・ 7月 上旬</p>	<p>○友達に親しみをもち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ</p>	<p>(年少同士で刺激を受ける姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の姿が目が向くようになり、つくって遊ぶ中では、「僕も○○くんみたいにしよう」「僕もやりたい」と相手を意識し、工夫したり、取り組んだりする姿が多く見られるようになった。 ・製作活動や戸外でのジャンプなど、「僕もできるよ」「僕の方がすごいよ」という『自分の力でできる』という充実感が、様々な遊びへの主体的な姿につながっていた。また、『負けないぞ』という気持ちも芽生えていた。 ・同じ物ができて嬉しい、同じことをしていることで気持ちがつながっていく様子も感じ取れた。 	<p>◇相手のしていることに気付けるような言葉かけを意識し、友達の工夫しているところや得意なことを知って、「すごいね」「頑張っているね」と認める気持ちを大切にしたい。</p> <p>◇友達に刺激を受け、「僕もやってみよう」という気持ちを受け止め、できないところを支えながら、工夫する楽しさや新たなことに挑戦する面白さを味わえるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激を受けている姿は、相手を認めたり、「すごいね」「いいな」と感じる心の現れでもあると考える。 ・協同性を育む中では、「相手のよさを知る、認める」ことが後に、互いの考えを出し合って、協力することにつながっていくので、4歳の「いいな」「すごいな」という気持ちは、協同性の芽生えの大きな一つであると思う。刺激を受けたときに、それを認めたり、自分もやってみようという気持ちをもてるようにしたりするためには、友達のようにしていることに関心が向けられるようにする教師の援助が重要だと感じた。

<p>4歳 II期 (7月)</p>	<p>7月中旬</p>	<p>○友達に親しみを持ち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ</p> <p>○感じたことや思ったことを言葉や動きで表す</p>	<p>(電車遊び)</p> <p>・二人は、遊びの中で「ここに10秒止まってから、出発しよう」など遊びのルールや遊び方を決めていた。</p> <p>・「次はどこに行く?」「次はホールに行こう」「この階段は通らないようにしよう」など動きを合わせるだけでなく、言葉で伝えて一緒に動く姿が見られるようになった。</p> <p>・年長児とも教師の仲立ちがなくても、声を掛け合って一緒に乗って遊んでいた。</p> <p>「ゆうたくくん、出発するよ、乗って」など年少から年長児への言葉掛けも聞かれた。</p>  	<p>☆積み木で新幹線をつくって遊んでいた姿が見られたので、段ボールで新幹線を用意した。「同じ物を使いたい」と思いがぶつかり合ったり、折り合いをつけたりする経験にもつながると思い、二種類用意した。</p> <p>◇二人がどんな風に遊び出したり、互いに思いを出したりする様子を見守った。</p> <p>◇特に新幹線の種類にこだわる様子はなかったが、「交換しよう」などの言葉のやりとりはなく、なんとなく、交換している様子があったので、言葉で相手に伝えられるように知らせた。</p> <p>◇遊びの中で「ここに10秒止まってから、出発しよう」など遊びのルールや遊び方を二人で決めていた。伝えたり受け入れて遊ぶ様子を確認できるようにした。</p>	<p>・思いがぶつかり合うのではなく、二人は使いたいと思っている新幹線にこだわることもよきも、一緒に新幹線に乗っているいろいろな所に行くことが楽しい様子であった。そのために、「行き先」や遊び方も相手と会話しながら、二人で決めていた。</p> <p>・この遊びでの経験では、言葉でやりたいたいこと、したいことを相手に伝えることが増えたことである。「友達に分かってもらいたい」「一緒にやりたい」という思いが自分の思いを表現するということにつながっており協同して遊ぶためには、大切な一歩であると思われる。</p>
<p>4歳 II期 (7月)</p>	<p>7月</p>	<p>○友達に親しみを持ち、同じことをしたり、関わったりして遊ぶ</p> <p>○感じたことや思ったことを言葉や動きで表す</p>	<p>(飼育活動)</p> <p>・教師と一緒に飼育物の世話をすることで、わたるはカタツムリをもつことができたが、じんたができなかった。毎日、教師と3人で世話をすることで、自分ができると、苦手なことがわかり、友達と一緒に協力し合う場面が見られるようになった。</p> <p>・「わたるくん、カタツムリ中に入れて。僕がもつてるから」「いいよ。じゃあ、僕が蓋も閉めるね」など、自分のやりたいことを伝えたり、相手がやろうとすることを受け入れたりする言葉のやりとりが聞かれた。</p> 	<p>◇世話をすることに関心をもち、自分達でできるという気持ちが見られ始めたので、二人にできることを任せながら一緒に行うようにした。日々の中で「二人でやれたよ」という気持ちを味わえるように「ありがと」「二人でできたなんてすごいね」と関わるようにした。</p> <p>◇「先生できな」と言った時に、「○○くんが上手に昨日やってくれたよ」と伝え、幼児同士で協力できるようなきょうかけをつくる。</p>	<p>・生活の中で、年少児にもできるような場面、互いのできることを認めたり、助け合ったりすることで友達と成し遂げられたという経験はこの時期でもできる大切な経験だと思ふ。</p> <p>・飼育の場面では、どっちが蓋を洗うか、入れ物を洗うかで、揉めたり相談したりする場面が見られ、そういう毎日の生活の場面でも協同性の芽生えの一つと捉え、見守ったり、認めたり、一緒に考えたりすることが大切だと感じた。</p>

4歳
3期

(8 月 下 旬) (1 0 月 中 旬)

10月
上旬

○気の合う友達と関わり
を楽しみ、自分の思いを
伝えようとする

(サッカー遊び)

・サッカーゴールで、キーパーとシュートする人で遊び始めた。大きなゴールを守りたい幼児が多
「狭いよ」「前に立たないで」とぶつかり合う場
面が遊ぶ中で増えてきた。

わたるは、シュートしていた子から「交代して」と声を掛けられたが、「やだ」と答える。そして、友達に「ずっとやっててほしいよ」と言われて黙ってしまふ。「まだやりたいの?」と教師が声をかけると、頷き、そのことを伝えてみるように促した。わたるが「まだやりたい」と答えると、それを聞いていた子が「あと何回で交代してしたらいいんじゃない?」と提案してくれ、と、「わかった」と答えて、その話に応じていた。少しすると、わたるは交代し、その後、わたるは友達に「交代して」と自分から伝えていた。



☆友達や年長児と一緒に遊び方を決めたり、相談したりするサッカー遊びの場になったので、継続的に設定し、友達とやり取りできる機会になるようにした。

◇友達との遊びの中でどんな思いの出し方をしているか見守りながら、自分のやりたいことを言葉にできるように必要に応じてきつかけをつくる。そして、自分の思いが友達に思いが伝わる経験を重ねていけるようにする。

◇友達の思いを聞く場面をつくり、相手の気持ちを知って、感じたり、感じたことで自分の思いが変わったりしていくことを大切にす
る。

◇一緒に遊ぶ友達とぶつかり合う経験を見守り、葛藤体験を大切にす。教師が共感したり、受け止めたりすることで、自分の気持ちに折り合いをつけていく支えとなるようにす
る。

・一学期は、自分の思いを主張したり、そのことで友達とぶつかり合ったりする場面はあまりなかった。しかし、二学期に入り、友達や年長児との仲が深まっていくとの同時に、自分の思いが出せるようになっていった。そのことで友達と思いがぶつかる場面が見られるようになり、このことを通して、自分とは違う相手にも思いがあることに気付いたり、それを知り、葛藤したりする経験につながった。

・相手にも思いや考えがあることに気づき、自分の思いをどのように表すのか、どう折り合いをつけるのか、経験を重ねることが四歳児の二学期は大切であると考える。主張が受け入れられない悔しさ、それを乗り越える力、教師や友達に気持ち伝わった嬉しさなど、様々な感情体験を経験することで友達との関わりが深められていくことがこの時期に必要な協同性の芽生えの一つだと思ふ。

<p>4歳 川期</p>	<p>10月 中旬</p>	<p>○大勢の友達と一緒にいろいろなルールのある遊びを楽しむ</p>	<p>(集団遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの好きな鬼ごっこには、自ら入って楽しむ姿が見られるが、初めての遊びや鬼ごっこ以外の遊びは、二人でマイペースに遊ぶのが楽しそうな様子が見られた。 10月に入って、転がしドッジボールやドッジボールも年長児がしている姿に少しずつ興味をもち、二人で「どうする？入れてもらおうよ」と相談する姿が見られ、しばらくすると、二人で「入れて」と自分たちで仲間に加わった。その遊びの中で、「先に僕が捕ったよ。」「じんたくくん、いっぱい投げてるでしょ」と二人ともボールから手を離さない。また、ボールが取れないことでつまらなさそうな表情も見られた。 ルールを守らなければならないことは理解しよく守れているが、大勢の友達と遊んでいると、自分の思うようにはいかないことで、つまらなさや強く主張する様子が見られた。 しかし、翌日は遊びを見つけると、仲間に加わっていた。また、ヘビジャンケンなど、いろいろな遊びに入って、繰り返し楽しむようになった。 	<p>◇教師が誘い掛けるのではなく「みんながやってみようという気持ちになるまでこと待つようにする。</p> <p>◇楽しかったという気持ちに教師も一緒に遊びながら共感する。幼児がどんな所に楽しさを感じているのかを読み取り、みんなの中で自分なりの動きをしたり、力を発揮して楽しんでいたりしている姿を認める。</p> <p>◇大勢の友達と遊んだことで、自分の思い通りにならないことや我慢することも出てくるが、その気持ちを受け止めたり、我慢できたりしたことを十分に認める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大勢で遊ぶと、気の合う友達と遊ぶよりも思い通りにならないことや我慢することも増えるが、大勢で遊ぶからこそ、感じられる楽しさやたくさんさんの友達と面白さを共有することができ。自分の好きな遊びだけではなく、いろいろな遊びを楽しむ中で「みんなでやるともっと楽しい」という気持ちを経験することが協同性を育む土台として必要であると考える。運動会を経験し、友達との関わりが深まったこの時期に、「みんなできなにかやってみよう。楽しそう。一緒にやってみよう。」という気持ちで主体的に遊ぶ姿を育てたい。そのためには、教師から誘いかけたり、クラスでやる活動だけではなく、幼児がどの段階まで気持ちが高まってきているか、見取ることも重要ではないかと思う。 また、このように遊びを通して幼児同士の関係性が広がっていくことは、協同して遊ぶために大切な土台あると考える。クラスやより多くの友達関係の中で自分を思い出し、幼児同士で試行錯誤、葛藤しながら、自分の気持ちの出し方を調整できるようにしていくと考える。
------------------	-------------------	------------------------------------	---	---	--



○友達と遊び場や遊びに必要な物をつくり、感じたことを表して一緒に遊ぶことを楽しむ

(ケーキ屋さんごっこ)

- ・家でつくってきたチョコを並べて、隣にケーキづくりができるお店のように環境を用意しておくこと、喜んで木の葉を使ったチョコをつくり始めた。
- ・できあがったケーキを先生とやり取りして、遊んだ。「あたためますか」「500円です」とやり取りすることを楽しみ、二人でお店やさんになるのが面白いようだった。
- ・いろいろなお店屋さんがのった月刊絵本を見せると、「こういう旗みたいなの看板がほしい」と看板を二人でつくった。
- ・年長児がたくさん来てくれると、初めはやり取りに戸惑う様子があったが、だんだんなりきっているようなやり取りをして楽しんで遊んでいた。
- ・「食べるテーブルを用意しなくちゃ」「コロナだから、少し離して置こう」など遊び場を考えて友達とつくって楽しんでいた。



☆幼児が興味をもてるように、お店屋さん風につくって遊べる環境を設定しておいた。

☆家庭で画用紙でチョコをつくってきて、大菓子屋さんのようにして遊んでいたのですが、興味があがっていきつきかけにもなると考え、環境や紙粘土でつくったクッキーや材料を用意した。

◇幼児が「トッピング」「アイスクッキー」など、イメージしていることに応じてやり取りすることで、なりきって会話を楽しんで遊んだり、イメージを広げてつくったりする楽しさを感じられるようにする。

◇友達と考えたり、イメージがなかったりする楽しさと共感すると共に工夫を認め、友達と一緒に遊べる楽しさを味わえるようにする。

◇お財布やお金、看板など、やり取りがより楽しめるようなものを幼児のイメージに応じて材料を提案したり、きっかけをつくったりする。

・二人だと活動が偏るため、秋の自然物に触れて遊んだり、必要なものをつくりたり、イメージを広げて友達とやり取りして遊んだりできることは何がいいのか、幼児の幼児の遊びの様子、興味、タイミングを探った。協同性を育む遊びの豊かな経験をするために、時期やタイミングを逃さず、また、幼児の主體的な遊びになるようにすることはとても、難しい。この遊びに興味をもったが、これまでにいろいろなきっかけを教師自身が試行錯誤してつくったが、なかなかうまくいかないことも多かった。協同性を育むようなねらいを達成できるような遊びを展開するために教師自身がクラスの実態、興味を捉え、いろいろなアプローチしないとい、経験してほしいことがしないままになり、協同性の芽生えを育めないことになってしまふのだと感じた。

・この遊びを通じて、友達とイメージを広げて遊ぶ楽しさや自分達のアイデアや工夫が形になっていく楽しさを味わうことができた。こういった経験が年長になって、考えを出し合って自分達で進めていく協同した遊びにつながっていくと思う。

<p>4歳 IV期</p>	<p>(1 0 月 下 旬) (1 2 月)</p>	<p>○友達と一緒につくる楽しさやイメージが広がる楽しさを感じる</p> <p>○自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりしながら遊ぶ</p>	<p>(ホワイトタイガづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物園後は、一番お気に入りだったホワイトタイガを積み木でつくって、見立てて乗って遊んだ。乗って遊ぶのが楽しいようで、そこから、年長児の動物づくりをまねして、積み木を段ボールに変えてつくったことにした。 「明日は、足つくるう」「その次は顔だね」と毎日少しずつつくり、だんだん出来上がっていくことが嬉しそうだった。 初めは、ガムテープを切るのも、思い思いにやっていたが、「ここも切るから切って」「わっちゃんか形描いて。僕が切るね」と二人で一緒につくろうとすする姿が増えていった。 「こっちのカップのがいい!」「これの方がいい」とぶつかり合うと、写真を見ながら、折り合いをつけ決めたりしていた。 出来上がると、大喜びして、走らせたり二人で乗って遊んだりしていた。 	<p>☆年少は素材のイメージやたかさんの材料から選ぶことは難しいので、幼児が「丸っぽい棒みたいな形」など話していたことに近い物を多すぎないようにいくつか用意しておくようにした。</p> <p>◇それぞれがイメージしたことや、アイデアが相手に伝わるように言葉を補って伝え、友達の思いや考えに気付いたり、関心がもてるようにしたりする。</p> <p>◇つくる中で相手に自分の思いや考えを伝えようとする姿を支えたり、自分の思いだけで進めているときには、相手に聞いてみることを促したりし、言葉で伝える経験を重ねていくようにする。</p> <p>◇出来上がった物で、一緒に遊んだり、楽しんでみることが、一緒につくった楽しさや嬉しさが十分に感じられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年少の実態としては、協力することは考えを出し合うことは難しいため、ねらいとして「一緒につくる楽しさを味わうこと」「友達に思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりする」ことを目指した。このねらいは、協同して遊ぶ経験にもなる。ただ、教師がねらいをどこにおくかで全く違う活動や実態に合わない活動になってしまつたため、年少としてのねらいを意識することがとても重要だと感じた。 年少はイメージを言葉にするのはとても難しいので、そこは配慮し、言葉を補い、「僕はここをやりたい」「この材料を使いたい」など自分の思いを言葉にして伝えることを経験できるようにした。年長になって、協力して進めたり、考えを出し合ったりする段階に至る前に、二人で伝え合いながら、一緒につくることで、二人なりに手伝い合ったり、自分の得意なことをやったりする姿が遊びの中で見られるようになった。 二人にとっては、協同して遊ぶ経験になったが、今年度の体制、この二人だけからできた活動だと感じた。
-------------------	--------------------------------	---	--	---	---



<p>4歳 IV期 (10月下旬～12月)</p>	<p>11月下旬</p> <p>○友達と一緒に活動する楽しさを味わう</p>	<p>(動物園ごっこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児との動物園ごっこでは、ホワイトタイガーのグループに加わって、つくったり、開園準備に参加した。 ・動物園が開園すると、初めは飼育係を少し不安そうな表情でしていたのだが、何日か遊ぶと「飼育係がいい」とお客さんではなく、飼育係をいつも選んでいた。 ・動物園が開園し、何日間か遊んだときに振り返りをすると「秘密とか話したのが楽しかった!!」と嬉しそうに話していた。 	<p>◇年長児の中で思いを表したり、伝えたりできおくるようにききかけをつくると共に年長児からアプロ一手をかけてもらえるようになる。</p> <p>◇つくるだけでなく、動物の生態に関心があるように一緒に絵本や図鑑を見て、いろいろなことを知る楽しさを感じ、興味を深めたいけるようにする。</p> <p>◇お客さんが喜んでいたり様子や本児がつくったものに対して、年長児が話していたことを伝え、できあがったうれしさやみんなと一緒に動物園を開くことができた楽しさを感じられるようにする。</p> <p>◇本児がどんな様子で年長児の中で過ごしているか、感じているか、育ちが何なのかを捉え、考える。</p>	<p>・この活動では、年長児と一緒に活動する楽しさを味わえることが大きくなれらうとして捉えていた。しかし、この活動が終盤に差し掛かったときに、本児が伝えることの楽しさ、相手に伝わることの嬉しさを味わい、充実感を味わっていることを感じた。</p> <p>・自分の気の合う友達ではなく、たくさんの人との関わりの中で、相手に分かるように伝えようとしていたり、コミュニケーションをはかりながら自分でできることをしようとして一生懸命活動したりしたことは、教師が考えていた以上に幼児自身が自信をもつことができた。友達との関わりの中で充実感を味わって遊びを楽しむことが、協同性の芽生えとも言えるのではないだろうか。</p>
<p>4歳 IV期 (10月下旬～12月)</p>	<p>12月中旬</p> <p>○自分の気持ちを伝えたり、相手の話をよく聞いたりしながら遊ぶ</p>	<p>(かるたやトランプ遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児とのつながりが少しずつ感じられるようになってきて、「入れて」「抜けるね」「誰から?」など年長児に必要な言葉を伝えたり、やり取りしたりして遊ぶ姿が見られた。 ・「今日は年長さんに勝って、2位だった!!」と楽しさを感じ、「やり方知らない」という新しい遊10月びも年長児から教えてもらいながら遊んでいた。 	<p>◇遊びの中で幼児同士でやり取りする中で伝え合う姿を見守り、その中で相手の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする経験を重ねられるようにする。</p> <p>◇「勝手嬉しい」「負けて悔しい」など遊びの中での感情体験をする中でも、そこに面白さを感じ、繰り返して楽しめるように、気持ちに共感したり、応援して楽しい雰囲気をつくったりする。</p> <p>◇友達がしていることに関心をもち、友達の話をよく聞こうとする姿勢を大切にし、気付けていないときには、気付かせていくようにする。</p>	<p>・友達との関わりを深めて遊ぶ中で、「相手の話に関心をもって聞く」ということがこの年少のこの時期に育てたいことであると思う。</p> <p>・年少の協同性を育てるということを考え、友達との関わりにおいて、「伝える」「聞く」「やり取りを楽しむ」など、年長の活動につながる様々な観点がねらいになると感じた。</p>



<p>4歳 V期</p>	<p>1・2月</p>	<p>○友達との関わりで遊ぶことを楽しみ、やり取りをしたり、相談したりしながら遊びを進めようとする</p>	<p>(①)1月 お正月遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外での鬼ごっこやこま回しなどは、友達と遊ぶことが楽しい様子がある。年長児が遊んでいる中に「入れて」と伝えて遊んでいるが、年長児に伝わっていないのか、何の鬼ごっこなのか、誰が入っているのかわかっていないまま遊んだりしている様子が多い。相手とのやり取りではなく、「入れて」って言うから!という気持ちが見られた。こま回し遊びでも、勝負しているグループに急に加わっている場面が多い。 <p>(②)2月 戸外遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バナナ鬼やろう」と年長児に誘い掛けたが、鬼がわからなまま、みんなが逃げ始めてしまい、困っていた。普段は、遊び始めや相談している時に場を離れてしまうことが多かった。「鬼はどうする?」と言っても、伝わらずに困り果てた。年長のゆうきがその様子を見て、「待って待って」と一緒に声をかけてくれ、「鬼は誰?」「何人する?」と伝え、なんとか決め、遊び始めることができた。 	<p>◇幼児自身が友達との関わりの中での伝わっていないことで困ったり、自分なりに考えたりする場面を経験できるように少し見守るようにする。</p> <p>◇教師自身も言葉の伝え合いの様子を深く見て、誰に伝えたいのか、どんな言葉が足りていないのか、把握して援助につなげていく。</p> <p>◇自分が伝えたいことや決めたいことを一緒に遊ぶ友達が聞いてもらえないことで、感じたことや気付いたことを受け止め、相手の話を聞く大切さや相談するときは、近くで一緒に考えないと困ることなどに気付けるようにする。</p> <p>◇自分から年長児に誘い掛けたり、やりたいことを伝えたりして、自分から発信する姿を大切にしながら、相手に伝わってうれしいという気持ちが経験できるようにする。</p> <p>◇「仲間に入ったのみんな知っているかな?」「どっちのチームがたりていないのかな?」など、一緒に遊ぶ仲間には伝わっているか、相手にわかるように伝えたり、ハッと気付くようなきっかけをつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児と遊ぶことが多いため、誘い掛けてもらったり、なんとなく仲間に入っていたりしていたため、幼児同士で相談する中で話があまり理解できていなくても、一緒に遊ぶことができてしまう様子があった。 ・遊びの中で必要な言葉を伝えることや簡単な言葉のやり取りが2学期には育ってきたが、年長で幼児同士で遊びを進めていく姿の前段階として、3学期は幼児同士での言葉のやり取りが活衆になることが大切な課題と思われた。「相手に伝わっていない」「聞いてもらえない」「遊びたいのに、続かない」など、うまくいかずに困る経験を重ね、どんな伝え方がよくなったのか、どうやって相談するとよまいくのか、友達はどんな話をしてたのか、など教師は幼児が困り感を経験できるように見守りながら、必要に応じて考え、気付かせて、幼児が試行錯誤しながら友達とやり取りすることこそが、協同性の芽生えを育むために必要だと感じた。 ・協同性の芽生えが明らかに見えるものではなく、一度経験したから、すぐに身に付くものではない。そのため、この事例の場面で協同性が芽生えが見られた明らか場面はない。しかし、日々葛藤経験を重ね、試行錯誤しながら、自分の思いの表し方や友達との言葉のやり取りの仕方を学んでいくことこそが協同性の芽生えを育む上でこの時期に必要なことだと思った。
------------------	-------------	---	---	---	--



<p>4歳 V期 2月 中旬 (1 月 { 3 月)</p>	<p>○友達の話をよく聞き、思いに気付いたり、受け入れようとしたりする</p>	<p>(戸外遊び) ・二学期は、鬼ごっこをしていても、「僕は警察」と決めていて、相手チームの人数が足りなくても、変わる事がなかった。しかし、「どっちが少ない?」という言葉が聞かれるようになってきた。 また、自分がバナナ鬼をしたときにも、「みんなはどれやる?」と聞いたり、「どうしようかな。本当はバナナ鬼だけど、ドッジボールしようかな」とみんなのやりたいたいことを聞いて考えたりしていた。 ・また、遊びから抜ける時には、「この一回が終わったら、やめるね」と伝え、「なんで?」と言われると、「ブランクがやりたいたいんだ。抜けていい?」と相手の話を聞いて、<u>自分のやりたいたいことを伝えていた。</u></p>	<p>◇友達の表情や動きに興味をもって気付いたり、それを受けて考えたりしている姿を大切に認める。 ◇友達と遊ぶ中で友達の話に興味を持ち、一緒に相話しようとして友達の輪の中に加わって一緒に考えたりする姿が見られるようになってきたことを、具体的に認める。 ◇幼児同士で相談してみんなで決めた遊び方が十分に楽しめるように、遊び出しの場面を見守ったり、教師も仲間の一人として、最後まで一緒に遊びを楽しんだりしながら、支えていく。</p>	<p>・三学期に入って、自分自身が困る経験を重ねたことで、友達の気持ちを考えたり、自分の思いを伝えたりするだけでなく、それに対して、友達の気持ちや反応を気にかけ、耳を傾けるようになっていった。 ・協同性を育む段階を考え、実践を重ねる中で、「友達の話を聞く」「耳を傾けて聞く」というねらいの裏には、友達の表情や動きから、相手の気持ちに関心をもちたいというところが、育ちの段階として重要だと感じた。この気持ちの育ちがあると、教師の仲立ちがなくても、幼児同士のやり取りが活発になり、相手を受け入れたりと、相談したりすることができるようになっていくように思う。 ・今年度、気持ちの面で、段階を追いながら育ちの姿が見られているのは、一緒に遊ぶ相手が年長児だということも大きいかもしれない。相手が話を聞いてくれていると、自分が話を聞くこと、受け入れることが育っていくと思われ、また、年長児がわかるように話をしてくれているので、話をより聞くようになっていくと思われる。</p>
--	---	--	--	---

<p>4歳 V期 (1 月) (3 月)</p>	<p>1月 下旬 ・ 2月 下旬</p>	<p>○友達とみんなを取り組む 楽しさを味わい、つながり を深める</p>	<p>(生活発表会に向けての取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会に向けての劇や合奏では、初めは、「難しいかな。できないかもしれない」という声が聞かれた。取組みの中で、一番意欲につながったのは、年長児の存在だった。 「ゆうたくくんみたいに、明日は大きい声でやってみたいな」「今日、かずてるくん、すごいじょうずだったよね」「昨日お休みだったから、あかりちゃんに教えてくれたよ。」など、友達から刺激を受けたり、友達のいい所に気付いたりして、一緒に取り組む力になっていった。発表会を終えた時には、「難しいと思っただけ、やってみたらできた」という充実感を味わっていた。また、劇では「僕の一番楽しみな」と、みんなの中で自分の役割を考えて、力を発揮しようとするとともに、一緒に出る友達が力を発揮する姿にも関心をもつことができていた。 発表会に向けて、一緒に頑張っ取り組む時間を過ごしたことで、今まで以上に生活や遊びの中で会話が增え、誘い合っ遊ぶようになっていった。 	<p>◇年長児と一緒に活動する中で、年長児のよさや頑張りがあるのがうれし、目が向けられるようにしたり、一緒に過ごす中で感じたことや気付いたことを日々受け止めたりする。</p> <p>◇日々の振り返りの時間ももち、自分の頑張ったことや明日頑張りたいことを自分なりに言葉にする経験を大切に、それを教師も十分に受け止め、認める。</p> <p>◇年長児が本児の頑張りを認めてくれたり、教えてくれたりする姿や場面を大切に、年長児とのつながりを感じながら、取り組めるようにする。</p> <p>◇みんなと一緒に取り組む中で自分の力を発揮する充実感に共感したり、自分の役割を考えて行動する姿を認めたりし、やり遂げた満足感を実感できるようにする。</p> <p>◇難しいな、ドキドキするな、うれしいな、など様々な感情の揺れ動きに寄り添い、それをみんなと一緒に乗り越えられたという嬉しさや楽しさが自信につながったり、友達とのつながりを深めたりできるような経験になるようにする。</p>	<p>・一緒に一つのものに向かって取り組んだことで、より年長児の一人一人の頑張りやよさに気付くことができ、幼児同士のつながりが深まったように思う。また、年長児に日々、頑張りを認められた経験が、本児自身も相手の頑張りに目を向ける姿につながっていったように感じた。</p> <p>・互いに認め合うことは協同性を育む上でとても大切なことだが、その土台として、日々の振り返りを大切に、まずは、自分の日々の変化を認められること、自分自身が実感することはとても大事で、そこから友達に目が向くようになるのではないかと。</p> <p>・長い時間をかけて取り組むこと、四歳では少し高い課題も多かったことで、負担になってしまったこともあった。また、協同性を育む上では、年長児に教えてもらったり、リードしてもらったりするよきな練習の場面をつくることもできれば、より幼児の協同性を育めたと思う。</p>
--------------------------------------	--------------------------------------	---	--	--	--



5歳

<p>5歳 I期 (6月)</p>	<p>ねらい</p> <p>○友達と一緒に遊んだり、活動したりする中で、互いの思いを出し合い、共感したり、試したりする</p>	<p>幼児の具体的な姿 (____協同性の芽生えが見られた場面)</p> <p>(年少組を迎える会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が少ないこともあり、毎日一緒に遊ぶ中で、年少児に親しみを持って接している。 ・昨年度は自分たちが迎えてもらった年少組を迎える会を行うにあたり、「年少さんに喜んでほしい」という共通の思いが見られ、そのためにはどうしたらいいか意見を出す姿が見られた。 ・プレゼントについて話し合うと、「男の子だから遊べるものをプレゼントしたい」「それいいね」など友達の話に共感し、一緒に考えようとする様子もあった。 <p>(砂遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂場に新しく砂を入れてもらったことで、大きな山ができ最初は登って楽しんでた。次第にその山を利用して、トンネルを掘り始める幼児が出てきた。その様子を見ていた周りの幼児もそれぞれにトンネルを掘り始めた。 ・大きい山なので、高さや方向によってトンネルが繋がらなかった。「なぜ繋がらないのか」を教師や友達と一緒に考え、くり返し試してみようとした。 ・「上に向かって掘ってみて」「もっと真っ直ぐ！」など、様々な意見に互いに耳を傾け、一緒に試す姿が見 	<p>☆環境構成・◇教師の援助</p> <p>☆年少児と一緒に遊ぶ時間を確保し、年少児に親しみがもてるようにする。</p> <p>☆昨年度の迎える会の様子を写真で用意する。</p> <p>◇写真を一緒に見ながら、昨年度を振り返り、「今度自分たちがやってあげたい」という意欲に繋がるようにした。</p> <p>◇話し合いの時間をじっくり取り、個々の思いや考えを互いに聞くことができるようにした。</p> <p>◇年少児の人数が少ないこともあり、プレゼントや装飾は自分ができることや取り組んでみたいことを尊重し、分担しながら「年少組を迎える会」という共通の目的に向かって意欲的に取り組めるようにした。</p> <p>☆自分の好きな遊びや友達と関わって遊ぶ時間をしっかりと確保し、思い切り遊べるようにした。</p> <p>☆日々の幼児の遊びから翌日の遊びを想定し、道具や環境を整えたり、変えたりする。</p> <p>◇教師も一緒に遊ぶ中で、個々の幼児理解を深めていく。</p> <p>◇友達とのやり取りを見守り、必要に応じて補足をしたり、仲立ちをしたりして友達との関わりを深めたり、遊びを広げたりできるようにする。</p> <p>◇降園時には振り返りを行い、他の幼児にも知らせていく。</p>	<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は入園当初から年少児とのかわりが密にあったので、幼児一人一人が年少児に親しみをもち、「喜んでほしい」という気持ちが強く見られたように思う。 ・初めての活動だったので、「楽しい」「やってよかった」と感じられるように、幼児の意思を尊重しながら負担して行ったことで、とても意欲的に取り組むことができたように思う。 ・友達をしている遊びに興味を持つ幼児が多く、「何してるの?」「一緒にやってみよう?」など積極的に参加するので、教師も一緒に遊びながら、幼児が個々の思いを伝えたり、友達の話に耳を傾けたりして遊びを進められるように見守り、援助を行うようにした。 ・試行錯誤しながらトンネルが繋がった時にはとても嬉しそうに友達と喜び合う姿が見られた。この経験が、また違う遊びや活動へとつながっていくと感じた。
---------------------------	---	---	---	--

期	月	ねらい	幼児の具体的な姿 (_____ 協同性の芽生えが見られた場面)	☆環境構成・◇教師の援助	考察
5歳 Ⅰ期 (6 月)	6月 下旬	○友達との繋がりを深め、 友達と考えを出し合い、 遊ぶことを楽しむ	(ゲームボックスを使って) 「迷路を作ろう」 ・ホールに用意したゲームボックスにとっても興味を持ち、意欲的に遊ぶ姿が見られた。最初は、出来ていくものだけで満足していたが、次第に物足りなくなると「2階建てにして」「もっとつなげたい」などの思いが聞かれるようになり、友達とどこに繋げるか相談する姿もあった。 ・「お化け屋敷」「道路」「おうち」など個々にイメージを膨らませて遊ぶ姿が見られ、イメージの違いからトラブルになることもあった。 ・ゲームボックスで遊び始めて1週間経ち、「迷路を作りたいたい」という思いに多くの幼児が共感をし、「迷路を作って年少さんを呼ぼう」と作り始めた。	☆悪天候が続いたため、ホールにゲームボックスを用意し、少し繋がった状態で置いておく。 ☆残りのゲームボックス、ネジは幼児がすぐに使えるように置いておく。 ◇最初は「2階にしたい」などの思いを受け、教師が変えていく。「やってみたい」といふ気持ちが見られたら、ゲームボックスを使うときの約束をクラス全体で確認し、教師と一緒に組み立てを行うようにした。 ◇単発で終わらせるのではなく、継続的に遊べるように計画を立てた。 ◇一人一人のイメージに共感しながら、それぞれの思いを他の幼児にも知らせ、互いに興味をもてるようにする。	・天気が悪くなかなか思い切り切り体を動かすことができない時期だったので、とても興味をもって遊ぶことができ、友達との遊びを充実させるよい経験になった。 ・継続的に遊べる環境を用意したことで、個々の遊びも満足でき、友達の提案にも共感できるようになった。 ・ゲームボックスだけではなく、巧技台やマットなども繋げていけるように環境や援助が出来たらもっと遊びが広がったと思う。巧技台の経験がほとんどないようなので取り入れていきたい。
5歳 Ⅱ期 (7 月)	7月	○友達との繋がりを深め、 友達と考えを出し合い、 遊ぶことを楽しむ	(車遊びから街づくりへ) ・動く車をつくって走らせて遊んでいたことからホールに道をつくると、本物の道のようにラインを引いたり、駐車場をつくったりする姿が見られた。 ・道をどんどん延ばしたい、自分の家をつくる、お店が欲しいなど様々なイメージの中で、共通の「街づくりしたい」という気持ちが芽生えた。そのことで「番号も必要かな」「海もつくりたい」「電車で走らせたい」などさらにイメージを広げ、教師や友達と一緒に実現していこうとする姿が見られた。	☆幼児の興味を把握し、遊びが広がっていくようにホールに場を設定する。 ☆段ボールや画用紙、ガムテープなど遊びに必要な物を想定し、用意する。 ◇「車を走らせたい」「家をつくりたい」など個々の思いを受け止め、一人一人が満足感を感じられるように心掛けた。 ◇遊びの終わりにそれぞれがどんなものをつくらせているのかを知らせ合う時間を設け、共感したり、友達の遊びを尊重したりできるようにした。 ◇「一緒につくりたい」「手伝って」など必要な言葉を使って相手に伝えていけるようにする。	・今までの遊びよりも規模が大きいのので、一人でやるだけでなく友達と一緒にすることができるようになり、コミュニケーションや必要な言葉を知らせた。 ・それぞれの興味や得意・不得意などを考えながら協力し合えるように声掛けや援助をしたが、教師の方が「みんな」という気持ちが強くなりすぎた部分があったので、友達などを改めて考えながら声掛けなどをしていきたい。 ・幼児のイメージを聞きながらじっくり時間をかけて遊べるように環境を整えたことで、一人一人が「楽しかった」と満足感や達成感を感じることで活動になったと思う。



<p>期</p>	<p>月</p>	<p>ねらい</p>	<p>幼児の具体的な姿 (_____協同性の芽生えが見られた場面)</p> <p>(集団遊び) 「鬼ごっこ」 ・増やし鬼や氷鬼の遊びから、「ゾンビ鬼をしよう」という提案が出てきた。「<u>どんな鬼ごっこにしようか</u>」「<u>ゾンビが追いかけて、捕まった人がゾンビになる!</u>」「<u>ゾンビも動いていいことにしようよ</u>」など様々なアイデアが出てきた。</p> <p>・「鬼は〇人でやってみようよ」「復活なしは?」など遊ぶ中で、試したり、工夫したりして自分たちの遊びをつくりあげられる様子が見られた。</p> <p>・互いの意見がぶつかり合い、遊びが中断してしまうこともあるが、友達や教師が仲立ちし少しずつ相手の気持ちを受け入れながら遊ぶことができるようになった。</p>	<p>☆環境構成・◇教師の援助</p> <p>☆幼児が悪い切り走って遊ぶことができるように他の遊びを考えながら場所を確保する。</p> <p>◇幼児同士のやり取りや遊びを進めようとする姿を見守る。</p> <p>◇複数の意見でまとまらない時にはすぐに口を出さず、幼児の葛藤体験を大切にすること。その上で、必要に応じて、一つずつ試してみるところを提案し、一緒に遊ぶ中で良いところを認めたり、楽しさに共感したりした。繰り返しながら遊びの中で、幼児自身が楽しいと感じるルールを友達と一緒に決めていくことができるようにする。</p>	<p>考察</p> <p>・友達と考えを出し合い、考える姿や、試してみても、「楽しかったからもう一回同じように遊ぼう」などと繰り返して遊ぶ中で、一つの「ゾンビごっこ」を友達と一緒に作り上げていくことができた。</p> <p>・大きな活動や行事だけでなく、普段の遊びの中でも協同性の芽生えや育ちが見られることが増えてきた。今までたくさん親しんできた遊びをきっかけとして、新しい遊びを提案したり、誘ったりと幼児同士の関わりが深まってきているように感じる。ただ、行事や製作等の他の活動が増える中、まとまって遊べる時間を取ったり、継続して遊べる様に計画を立てられるように心掛けたが、なかなか計画通りにいかず、遊びが中途半端になってしまいうこともあった。連続して遊ぶことができて時間や環境があることは友達関係や協同性を育む上で、重要だと考える。</p>
<p>5歳 Ⅲ期 (8 月 下 旬) (1 0 月 中 旬)</p>	<p>10月 下旬</p>	<p>○共通の目的に向かって相談したり、考えを出し合ったりし、遊びや活動を進めようとする</p>			

<p>5歳 IV期 (10月下旬)(12月)</p>	<p>月</p>	<p>ねらい</p> <p>○共通の目的に向かって相談したり、考えを出し合ったりし、遊びや活動を進めようとする</p> <p>○友達と一緒に思いを実現したり、見通しをもって進めたりする</p>	<p>幼児の具体的な姿 (____協同性の芽生えが見られた場面)</p> <p>(動物園ごっこ①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス遠足をきっかけに動物園をつくることになり、どんな動物園にしたいかを話し合った。自分の思いや考えを離したり、友達の意見を聞いたりする中で、友達の考えに触れて共感したり、自分では思いつかなかったアイディアに驚いたりしながら、「動物園を開園する」という共通の目的に向かって、話し合いを繰り返した。 ・つくる動物やグループが決まると、毎日楽しそうに製作に取り組んでいた。友達と相談しながら段ボールの大きさや組み合わせ方を試行錯誤しながら決めていく姿が見られた。 ・積極的に意見を離せる幼児が一人でアイディアを出して進めようとする姿もあり、意見や考えを話せる幼児と話すことが苦手な幼児との差が大きく見られた。 ・個々の得意な部分を生かして役割を分担したり、友達と協力したりして、一人一人が力を発揮して取り組んでいる。 	<p>☆環境構成・◇教師の援助</p> <p>☆①様々な大きさの段ボール ②空き箱、新聞紙、芯材、などの材料 ③キヤップ、ストロー、紙皿、コップなど ④絵の具、フェルト、布、ラシヤ紙などの色付けの材料</p> <p>遊びの様子や活動状況を見て、すぐに出せるように用意しておく</p> <p>☆図鑑や本を用意し、顔や爪、しっぽなどの細かな部分まで調べられるようにする</p> <p>◇幼児同士のやり取りや意見の言い合いを見守りながら、必要に応じて声を掛けたり、相手の思いに気付けたりしていく。</p> <p>◇活動の始めには、その日にやることをみんなで確認し合うようにし、活動の終わりにつくった部分を他のグループにも知らせたりすることができるようになるように時間を設ける。</p>	<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は活動に戸惑い、なかなか自分の思いや考えを話すことができない幼児もいた。しかし、継続した活動の中で、自分の思いを友達が共感してくれたり、考えたことが形になっていたりすることで少しずつ自信をもつことができるようになってきている。 ・自分の思いだけでは進まない、相手の考えを受け入れるなど、様々な葛藤体験を繰り返すことは協同性を育む上で大切なことであり、受け入れたり、受け入れられたりしながら進めていけるようになることで、遊びや活動が進んでいくということを学ぶよい機会になった。 ・活動を始める前に、その日につくる部分や今日やることなどを具体的に考え、確認することで、見通しをもつことができ、活動に意欲的に取り組む幼児も増えた。
------------------------------------	----------	--	---	---	---



期			<p>幼児の具体的な姿 (_____協同性の芽生えが見られた場面) (動物園ごっこ②)</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物づくりを進めていくと、「顔も本物みたいに」「尻尾もあるね」「模様はどうやってつけようか」など次々と考えが出てくるようになった。そこで、友達と一緒に遊びを進めやすいように開園までの予定表をつくった。つくる物の目安や開園まで何日あるかなどを幼児同士で確認しあい、「今日は絶対に○だけは終わらせようね」などと目標を共有する姿があった。 活動の終わりに、今日できた部分、工夫したところや頑張ったことなどを発表するようになったことで、互いのグループの様子を知ったり、刺激を受けたりしている様子があった。 動物園の開園では、積極的にお客さんに話かけたり、自分で調べた動物の秘密を教えたりしていた。「知らなかった」「すごい」と認めてもらうことで、自信となり、自分なりに楽しみながらお客さんとのやり取りをしていた。また、開園できたことの達成感や充実感を一人一人が感じ、「また明日も開園しよう」「お客さんにもなってみたいな」と繰り返し楽しんでいった。 	<p>☆環境構成・◇教師の援助</p> <p>☆開園までの予定表を大きく用意し、各グループごとに見通しがもてるようにする</p> <p>◇イメージが沢山出てきたことで、話し合っ て決めた部分ではなく勝手に進めようとしてしまう幼児もいるので、確認ができるように促したり、自分の気持ちを伝えるように援助したりした。</p> <p>◇使う素材や大きさ、接着など様々なことで悩み、迷う姿が見られたが、教師はできるだけ見守るようにし、自分たちが「これでつこう」と納得して進められるように心掛けた。必要に応じて一緒に考えたり、ヒントを出したりして援助した。</p>	<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物園の開園に向けて、予定表をつくったことで、視覚的に目標がはっきりし、幼児の意欲が高まったように思う。また、見通しがないことで不安になってしまっ た幼児も、毎日友達と確認し、表記することで、自分自身で確認をし、安心して活動することができた。 毎日活動を共にしていても、なかなか、思いや考えを相手に分かるように伝えることが難しかったり、相手にうまく伝わらなくてイライラしたりすることもあったので、教師が見守りと援助を見極め、柔軟に対応していくことが大切だと感じた。
5歳 IV期 (1 0 月 下旬 (1 2 月))	11月	<p>ねらい</p> <p>○自分の役割が分かり、友達と協力して遊びを進める</p> <p>○共通の目的に向かって友達と一緒に遊びを進め、達成感や充実感を味わう</p>			

期	5歳 Ⅴ期	ねらい ○遊びや活動の中で、 自分の力を発揮し、 互いに認め合いなが ら進める	<p>幼児の具体的な姿 (_____協同性の芽生えが見られた場面)</p> <p>(正月遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の知っている遊びを友達に教えた り、一緒に考えたりしながら一緒に遊 ぶ姿が見られる。その中で、互いの知 っているルールを確認し合い、どのよ うなルールで遊ぶかを一緒に考える姿 が見られる。 コマやけん玉など、繰り返し練習する 姿がある。上手くできるようになった 友達に「上手だね」「どうやったら上 手できるか教えて」など友達の姿を 認めたり、自分の知っていることを友 達に教えたりする様子があった。 <p>友達に刺激を受け、自分もできるよ うになりたいと努力したり、友達と競 合ったりして繰り返し楽しんでいた。</p>	<p>☆環境構成・◇教師の援助</p> <p>☆それぞれの遊びをじっくり楽しめるよ うにコーナーをつくる。また、道具は 使いやすいうに置いておく。</p> <p>◇教師も一緒に遊ぶ中で、幼児の考えや 思いを認め、互いに知らせられるよ うにする。</p> <p>◇できるよくなるように繰り返し努力す る姿を認め、自信をもったり、自分 の力を発揮したりすることができるよう にする。</p> <p>◇友達の話を聞いて、取り入れたり、コ ツや遊び方を聞いて真似をしたりでき るように声を掛けたり、気付かせたり する。</p>	<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と遊べる時間を計画的につくる ことで、幼児もやりたい遊びやでき るよふになりたことにじっくり取 り組む事ができた。そうすることで、 友達と楽しい遊び方を考えたり、友 達の姿を認めたりできるようになり、 また、繰り返し努力し、自分の力を 発揮しようとする様子も見られた。 幼児同士が考えを出し合ったり、一 緒に遊びを考えたりすることができ るよふに、教師は見守ることを心掛 け、必要に応じて仲立ちや補足など を行うよふにした。 遊びの中や隙間などに、上手にな ったことを見せてもらったり、遊び について話をしてもらったりするこ とで、興味・関心を高められるよ ふにした。しかし、興味が偏りがあり、 全体に広がるよふに時間がかかった。 もっと誘いかけ、きかけをつく たり、コツや面白さを伝えていける よふにし、もつと友達と認め合っ て遊べる経験をすることができるとよ かった。
---	----------	---	--	---	--



<p>5歳 V期 (1 月) (3 月)</p>	<p>○遊びや活動の中で、自分の力を発揮し、互いに認め合いながら進める</p>	<p>(生活発表会 劇) ・生活発表会に向け、どんな劇をするか、みんな話して話し合いを行った。人前で話することが苦手な幼児は、劇をすることに消極的だった。しかし、劇が決まり、劇ごっこをして繰り返し遊ぶことで、少しずつ自分の言葉で話せるようになった。そのことを教師や友達に認めてもらえたことが自信となり、<u>配役決めでは、積極的に自分のやりたい役に立候補できるようになった。</u></p> <p>・「○○って言ったらどうか」 「次は○ちゃん番だよ」など、<u>友達の台詞と一緒に考えたり、教えてあげたりしながら、劇をつくっていく様子が見られた。</u>また、ビデオや絵本を思い出しながら、自分なりに表現しようとしたり、動きを考えたたりする幼児を見て、「すごいな」と友達を認め、<u>自分も真似してみたり自分なりにやってみようとする様子が見られるようになった。</u></p> <p>・生活発表会当日は、一人一人が自分の力を存分に発揮し、<u>友達と力を合わせ、劇を成功させることができ、大きな拍手をもらうことができ、みんなでやり遂げた達成感を感じることができた。</u></p>	<p>☆絵本やビデオを利用し、幼児がイメージしやすいようにする。 ☆お面を用意する。 ☆遊びの様子を見ながら、小道具や音楽などを出せるように用意しておく。 ◇劇の発表に向け、幼児によって取り組み方や気持ちに違いがあるので、<u>実態を把握し、幼児が無理なく楽しんで取り組むことができるように計画を立てた。</u> 劇遊びを通じて、様々な役を知ったり友達のやり取りを楽しんだりすることができるようになり、遊びに取り入れていく。 ◇「こうやって言ってみようかな」「こんな動きをしてみよう」という気持ちを大切に、自分なりにできたことを認めたり、他の幼児にも知らせたりする。 ◇困っている友達に教えたり、一緒に考えたりできるように、きっかけをつくり、見守る。必要に応じて教師も仲立ちしていく。 ◇自分たちが演じている様子を撮影し、観ることとで、自分がどう見えているのかを知ったり友達の頑張りに気付いたりできるようにし、お互いに認め合って共通の目的に向かって頑張れるようにする。</p> 	<p>・話をすることに抵抗や不安を感じる幼児がいる実態があったので、少しでも抵抗がなくなったり、自信をもったりすることができるように進め方を考えた。劇ごっこの中で、友達と一緒に自由に動いたり、真似をして話したりする時間を設けたことで、<u>どんなふうに進んでいくかを知ったり、話したことを友達に認めてもらい安心したりする様子が見られた。</u></p> <p>・友達に助けってもらいながらできるよになったり、出来たことを認めてもらったりしながら、一緒に一つのものを作り上げていく楽しさや、達成感は幼児の自信となり、<u>積極性や挑戦する気持ちなど様々な変化が見られた。</u></p> <p>・年間を通してもっと表現したりなりきって遊んだりできるように環境を整え、計画的に取り入れていくことができたから、<u>五歳児のこの時期、もっと様々な協同性の育みが活動を通して経験することができたのではないかな</u>と思う。</p>
--------------------------------------	---	--	--	--

<p>5歳 V期 (1 月 ~ 3 月)</p>	<p>自信をもって行動し、 友達と一緒に協力して 園生活を進める</p>	<p>(主体的に園生活を送る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その日の予定や時間を見ながら、何をすべきか考え、行動できる幼児が増えた。その中で、友達のことを気に掛けたり、声を掛け、行動や活動へ促したりする様子が多く見られるようになった。 ・今まで、教師に確認してからでないと、安心して行動できなかつた幼児も、<u>友達の声掛けに応じて一緒に行動したり、友達の様子を見て、安心して動いたりすること</u>ができるようになった。 ・「お弁当だから机を準備しよう」「絵本を借りに行くからバックやカードが必要だ」など、<u>遊びや活動のために必要なことを自分なりに考えて、やろうとする幼児の姿</u>があり、<u>友達に刺激を受け、自分から進んで行動しようとする様子</u>が見られるようになった。教師がいなくても、<u>友達と協力したり、分担したりしながら一緒に園生活を進められることも増え、主体的に行動</u>できるようになった。 	<p>☆一日の流れや予定が分かりやすいように表示する。また、時間も一緒に表示する。</p> <p>☆初めてのことや普段と変わることはいち早く示しておく</p> <p>◇幼児が自分で考え行動できるように見守り、できたことを認めたり、褒めたりし、自信をもって行動できるようにする。不安が強い幼児にはこまめに声掛けをし、間違っていないことを知らせたり、「先に○○するととっても良いよ」と提案したりしていく。</p> <p>◇遊びや活動に必要なことを友達と協力したり、分担したりして互いに声を掛け合い、進めていけるようにした。また、積極的に動く幼児に他児への声掛けを促したり、準備や片付けが早くできたことや協力したことを認めたりしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表示を行ったことで、幼児が自分で確認しながら行動することに慣れ、協同性が育ってきたことで、教師ではなく、友達同士で気付け合ったり、友達の姿を真似したりできるようになった。しかし、活動や遊びの様子次第で変更することも多く、急な変更が苦手な幼児に対しては教師の関わりが必要になることもある。幼児や場面に応じて、見守りや援助をしていく必要がある。 ・できたことを一つ一つ細かく認めたり、褒めたりすることで、自分の行動に自信をもつことができるようになり、その姿が他の幼児にも良い影響を与えようと思う。友達同士の関わりや信頼関係が深まったこの時期だからこそ、友達の姿に刺激を受け、行動できるようになっていくと思う。
------------------------------------	--	---	---	--

6. 事例を通して

- ・初めての集団生活をする4歳児は、まずは、一人一人が教師との信頼関係を基盤に、安心して自分のやりたい遊びを十分に楽しむようにすることが大切である。その時、教師は幼児の思いに寄り添い、一緒に遊びを楽しむように環境構成の工夫や遊びに満足できる十分な時間の確保などに配慮したりすることが必要である。そして、自分の好きな遊びを見つけた、安心して園生活を過ごせるようになる、徐々に幼児は、教師を介して同じ場で遊ぶ友達に興味をもち、同じことをする楽しさを感じるようになる。つまり、幼児が友達に関心をもちて遊ぶ姿は、友達と協同して遊ぶ第一歩である。そのため教師は、発達段階に応じた活動の工夫や友達（人間）関係の広がりを感じて遊ぶ楽しさを感じることが重要である。友達に関心をもち始めた時期には、クラスで簡単なゲームやリズム遊び、絵本の読み聞かせなど、触れ合って遊ぶ楽しさを感じたり、みんなで楽しさを共有したりする機会を大切に、教師や友達と活動する楽しさを味わえるようにすることが必要である。その時間を重ねることで、クラスの友達とのつながりが生まれ、数名の友達が集まって遊んでいると「やってみたいな」「仲間に入れて欲しい」という気持ちが生え、友達関係の広がりが見られるようになる。友達との関わりが楽しくなってきた2学期には、ヘビジャンケンや鬼ごっこなどの集団の遊びを取り入れていく。それは、大勢の友達と遊ぶ楽しさを知る機会でもあるが、時には自分の思い通りにならないという葛藤や「嬉しい」「悔しい」など様々な感情体験をすることで自分の感情の出し方、折り合いの付け方などを学んでいくことができる。その際、教師として必要なことは、幼児の心の動きを受け止め、必要な言葉を補いながら友達に自分の気持ちを知ったり、友達の思いを知ったりして、幼児が友達との関わり方を身に付けられるようにしていくことである。これらの経験を積み重ねていく中で、やがて3学期になると、友達と誘い合って遊ぶ姿が見られ、友達の中で思いを出し、関わりを十分に楽しみながら遊ぶようになっていくことが4歳児として、幼児の協同性を育む上で大切なことだと事例を通して分かった。
- ・4歳児は、年間を通して、個の遊びから「友達と遊ぶのが楽しい」「友達といるのが楽しい」という気持ちが生え、その感情が5歳児で友達と関わりを深めて協同して遊ぶ姿へとつながっていく。5歳児につながる姿を見据えて、友達との関わりが段階を追って広がっていくように援助することが大事だと思う。
- ・友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じ始める5歳児には、同じ場で遊ぶ友達とイメージを共有したり、思いを出し合いながら遊びを進めたりする経験が積み重なるように、保育計画や環境を工夫することが重要である。その計画や環境の元、子供たちは遊びの中で、友達同士と一緒に遊びを進めていく楽しさを感じる成功体験もあれば、互いの思いの相違から遊びが停滞してしまう経験もある。停滞した時には教師が子供たちの葛藤に寄り添い乗り越えていけるようにしたり、相手の考えを聞き、仲介し、受け入れて遊ぶ楽しさを感じ取れるように関わったりする。これらを繰り返すことにより、子供たちは徐々に協同性が芽生え、友達と一緒に生活したり遊んだり学び合ったりする姿へとつながっていくのだと思う。
- ・5歳児は、一人一人が自己を発揮し、友達と意見を出し合って目的やルールを共有しながら遊びを進めていくことができるようになるためには、互いの良さに気付いたり、認め合ったりできるようなクラスの雰囲気をつくることが大切である。

7. おわりに

協同性を育むためには、各年齢の発達を理解し、その時期に必要な経験ができるように教師は見通しをもって遊びや活動を計画することがとても大切であると分かった。そして教師は、幼児の協同性の芽生えを見取り、何を育てたいのか焦点を絞り、実態に合わせて適切に援助することで、より友達との関わりを深め、協同して活動する充実感を味わっていくことができるのだと思った。



令和3年度

研究集録

資料 28

研究テーマ 「生活や遊びの中で数量、図形、文字などへの興味・関心、感覚を育むためには」



上尾市立平方幼稚園

(1) はじめに

幼児期は、数量や図形、文字等を知識としてではなく、感覚を磨くことにより、小学校以降の学習への理解につなげることが重要であると考える。幼児の数量、図形、文字などへの関心を深め、役割に気付き、活用する楽しさを感じたり、感覚を磨いたりするためには、様々な場面で触れる経験を通して育むことが大切である。そこで、教師はどのような環境構成、活動、援助が必要かどを研究していきたいと思い、テーマを設定した。

(2) 研究の観点

- ① 幼児の数量や図形、文字や標識などへの興味・関心の把握
- ② 5歳児における数量や図形、文字や標識などに焦点を当てた発達理解
- ③ 小学校入学までを見通した活動計画
- ④ 数量や図形、文字や標識などに親しむための環境の工夫
- ⑤ 豊かな学びにつながる経験や援助の在り方
- ⑥ 生活や遊びの中で見られる幼児の興味・関心の広がりや深まり、変化などを捉える

(3) 研究計画・内容

- ① 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」の内容を理解する
- ② 研究課題の方向性を共通理解する。
- ③ 幼児が「数量、図形、標識、文字」などへの興味・関心をどのような場面で深めているかを細かく見取る。
- ④ 数量や図形、標識や文字などに親しみ、役割に気付き、活用したり、感覚を磨いたりすることができよう活動の計画や環境構成・援助を工夫する。
- ⑤ どのような経験の積み重ねが、小学校の学習につながるかを検証する。

(4) 幼児の実態（年少～）

（数量への興味）

- 数の多い、少ないという感覚は身に付いている。
- 年少入園時から、一対一対応ができる。
- 時計の針を見て、数字を読んだり、時間を意識したりする姿が見られる。
- 遊びや生活の中で「あと何人足りない」等、考えられることができる。
- 数字の大小への関心が強い。
- 長さや高さ、広さへの関心はあまりない
- 何本、何枚、何人等、物に合わせた数え方は身に付いていない。

（図形）

- 四角、三角、丸、長四角等、形の理解ができています。
- 積み木、空き箱で好きなように形を組み合わせて遊んだり、イメージしたものを自分なりに考えてつくったりすることは少ない。特に、つくり方や出来上がりの形が決まっていけないものをつくることは、ほとんどない。また、剣や車等、興味があるものは、友達がつくっている物を真似て、簡単な物は同じものをつくることはできる。しかし、興味がないものは、やってみようとする意欲が低い。
- 家庭でも、レゴやブロック、折り紙遊び等の形をイメージしてつくる遊びをしていない。
- 折り紙遊びは、年少の入園の時に比べ、指先が器用になってきて、角を合わせて丁寧に折ることができるようになってきた。しかし、見本や教師の折り方を見ながら、同じ形になるように折る場面では、理解できずに難しさを感じており、形の特徴を捉えることが苦手な様子がある。
- 雲や水たまりなどの形を見て、「○○みたいな形だね」とイメージしたり、連想したりする姿が見られる。

（文字・標識への興味）

- 文字への興味があり、教室内の表示の文字やホワイトボードに書いてあることを読む様子が見られる。生活の中で、周囲の物を見て、関心をもったことが自分で読めることに便利さを感じている。ひらがなはスムーズに読むことができる。絵本を自分で読むことは、興味が見られない。
- 3学期の年長児へのプレゼントのペン立てづくりでは、年長児の名前を50音の平仮名シールで貼ってプレゼントした。文字を探して、見つけて貼ることを楽しみ、「『ゆう』がつく子が多いね」等、同じ文字が入っていることに興味をもっていた。
- 言葉遊びでは、しりとりや例えば、頭に「あ」がつく物、言葉を集めることを楽しんでいた。語彙は、興味があるものに偏りがあり、食べ物、動物、乗り物の名前等、一般的に知られている名称も「わからない」「知らない」と答えることが多く、興味のないことはあまり記憶していない。
- 年長進級当初になると「平仮名」だけではなく、カタカナや英字を読めるようになってきたと話し、文字を読む楽しさを感じている姿が見られる。
- 自分の名前を一人で書くことができる。年長になり、苗字も大分書けるようになってきている。兄の勉強している姿を見て、影響を受け、家庭では字を練習している様子がある。
- 歩いている時に見つけた看板に興味を示し、読んだり、意味を尋ねたりする様子がある。標識には、あまり関心はない。

（トランプ・かるた遊び）

- かるた遊びやトランプ遊びでは、「僕の方がちよっと多いから勝ちだ。」と枚数を比べることができる。

期			
育ててきた	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で数量や図形、文字などに関心をもつ 		<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で、数を数えたり、数量を意識したりする楽しさを感じる
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 兜づくりを通して、形を比べたり、形を組み合わせたたりすることを楽しむ 		<ul style="list-style-type: none"> マリオのステージのイメージで運動遊びのコースをつくった。コースをゴールするごとにコイン
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> 大中小の三角形の折り紙を貼り合わせてつくる兜 		<ul style="list-style-type: none"> マリオのステージのイメージで運動遊びのコースをつくった。コースをゴールするごとにコイン
環境構成と具体的な手立て	<p>【主な材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大中小いろいろな大きさの柄の三角形の折り紙・台紙・工作紙 <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実物のかぶとを飾り、かぶとに興味を持ったり、形をイメージできるようにする。 材料を大きさや形でわかりやすく分けておき、貼る大きさや形を考えたたり、比べたりしながら選択できるようにしておく。 <p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きさを組み合わせ方を考えて試行錯誤する様子を見守り、じっくり取り組める時間を確保する。 	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 巧技台や段ボールを出し、イメージするマリオのステージ(コース)をつくれるようにする。 集めたコインの数を掲示し、数量への興味につながるようにする。 <p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> コインの数を数えたり、コインの獲得数を足したりすることで数量を意識して楽しめるようにする。 幼児が遊びに応じて、いろいろなアイデアを出したり、より楽しい遊び方を見つけたたりする様子を大切に受け止め、幼児が主体的に遊ぶ姿を大切にしながら関わる。 	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 巧技台や段ボールを出し、イメージするマリオのステージ(コース)をつくれるようにする。 集めたコインの数を掲示し、数量への興味につながるようにする。 <p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> コインの数を数えたり、コインの獲得数を足したりすることで数量を意識して楽しめるようにする。 幼児が遊びに応じて、いろいろなアイデアを出したり、より楽しい遊び方を見つけたたりする様子を大切に受け止め、幼児が主体的に遊ぶ姿を大切にしながら関わる。
活動の様子	<p>ここには、小さい△がちょうどいい</p>  <p>いろいろな大きさの三角形の形を選び、どれが隙間にちょうどいいか、どんな向きだとピッタリだとおさまるか、試しながらつくり進めていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 角を合わせたり、次に合わせる形を想像したりすることで、図形や形に関心をもち、意識して考えることにつながっていた。 時間の経過と共に、「ここにしよう一つ三角が入りそう」等、組み合わせ方を工夫できるようになっていた。 「三角と三角を合わせると四角になる」「向きを変えたら、ダイヤ(ひし形)になる」等、組み合わせさせているうちに気付き、驚いている姿があった。 <p>かっこいいかぶとができて、うれしい！真ん中の銀のダイヤ形のところがお気に入りなんだ。</p> 	<p>今日は、3個ゲットしたよ。前は15個だったから、全部で18個になったね!</p>  <p>初めは教師と一緒にマリオのステージのイメージで巧技台のコースをつくり、運動遊びを楽しんでいた。数日後、本児が、ゴールするとコインをゲットできる遊び方を考え、繰り返し挑戦することを楽しむ姿へと変化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次第にコインを多く集めることに面白さを感じ、10個集めたら金、20個集めたら銀等、数が増えたとお宝をもらえらえるようにと、遊びを変化させ、継続して楽しんでいた。 <p>遊びの中で自然と足し算のように数を加えたり、「あと○個ゲットしたら30個になる」等、数を数えたり、考えたりする姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に遊ぶことで、「1分以内にゴールする」「3回までチャレンジできる」等、アイデアが出てきて、いろいろな数量に触れながら遊ぶことができた。 	<p>今日は、3個ゲットしたよ。前は15個だったから、全部で18個になったね!</p>  <p>遊びの中で自然と足し算のように数を加えたり、「あと○個ゲットしたら30個になる」等、数を数えたり、考えたりする姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に遊ぶことで、「1分以内にゴールする」「3回までチャレンジできる」等、アイデアが出てきて、いろいろな数量に触れながら遊ぶことができた。
気付いたこと・考察	<ul style="list-style-type: none"> つくる中で、向きを考えたり、台紙の隙間を埋めて貼ったりすることで、形を想像するするという思考を繰り返し続けたのではないだろうか。ちぎりが絵よりも、向きが関係するので形への興味・関心にはつながった。 「三角と三角で、何ができるかな(チョウチョ、家、ロケット・・・)」とか、「丸と丸だったら、何ができるかな」等の導入や発展の遊びができれば、より興味が深まり、形の特徴を捉えた遊びになったのではないかな。活動の発展や広がりを考えるようにした方がよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児がテレビゲームが好きであるという実態を大切に、そこから遊びにつなげられたことで、幼児が主体となって遊び方を工夫し、数量に親しむ体験を取り入れながら遊ぶことができた。 遊びの中で、幼児から出てきたアイデアで10個で金、20個で銀等、10個毎にお宝を設定したことで、10の集まりを意識した数量の感覚を豊かにできたのではないかな。これは、小学校の算数につながるのではないかな。 幼児のアイデアの多くは、家庭でのテレビゲームの影響だった。現代の幼児は、普段ゲームをする中で、点数や回数、時間制限等、数に多く触れているのを感じた。そして、そういった数字の目安があることで遊びが面白いことも経験してきたのだろう。教師自身の感覚と異なることも多いので、現代の幼児の実態も探り、 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児がテレビゲームが好きであるという実態を大切に、そこから遊びにつなげられたことで、幼児が主体となって遊び方を工夫し、数量に親しむ体験を取り入れながら遊ぶことができた。 遊びの中で、幼児から出てきたアイデアで10個で金、20個で銀等、10個毎にお宝を設定したことで、10の集まりを意識した数量の感覚を豊かにできたのではないかな。これは、小学校の算数につながるのではないかな。 幼児のアイデアの多くは、家庭でのテレビゲームの影響だった。現代の幼児は、普段ゲームをする中で、点数や回数、時間制限等、数に多く触れているのを感じた。そして、そういった数字の目安があることで遊びが面白いことも経験してきたのだろう。教師自身の感覚と異なることも多いので、現代の幼児の実態も探り、
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、数量への興味は年少の時より、高まってきている様子が感じられた。マリオのステージの遊びをきっかけに教室環境に絵表示以外にも文字で示すことを増やすと、読むことにも楽しさを感じていた。数量は遊びに取り入れたことで、この期にねらっていた以上に興味を深めながら遊ぶ姿につながった。 形については、向きによって形が変わることや、組み合わせること、自分なりにイメージしたものを形で表したり、触れたものが今後もっと必要だと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、数量への興味は年少の時より、高まってきている様子が感じられた。マリオのステージの遊びをきっかけに教室環境に絵表示以外にも文字で示すことを増やすと、読むことにも楽しさを感じていた。数量は遊びに取り入れたことで、この期にねらっていた以上に興味を深めながら遊ぶ姿につながった。 形については、向きによって形が変わることや、組み合わせること、自分なりにイメージしたものを形で表したり、触れたものが今後もっと必要だと思う。

- ・身近な数量や図形などに触れ、親しみ、興味を深めながら遊ぶ
- ・いろいろな標識に関心をもち、よく見たり、意味を知ったりする

- ・時計や時間に興味や関心をもち、時計や時間をよく見たり、意味を知ったりする
- ・自分なりにイメージし、材料を選んだり、考えてつくったりする

- ・遊びの中で、数を数えたり、数量を比べたりする楽しさを感じる
- ・栽培物の大きさや形に関心をもち、比べたり、違いに気付いたりする

- ・ジャガイモ・ミニトマトの栽培

- ・木工遊び(つくりたい物を木材でつくる) ・木

【環境】
 ・いろいろな形や種類の時計を飾り、関心をもてるようにする。
 ・空き箱を使った遊びを通して、イメージに合う形を選び、形を組み合わせる経験になるように、高さや幅等、わかりやすく種類別に置いておくようにする。

【主な材料】
 ・空き箱(大中小) ・発砲球・蓋・厚紙・モール・文字盤・数字・針の型紙・割りピン・テープ類
 ・数字を1～12まで用意し、時計盤の紙に自分で並べながら貼れるようにする。

【手立て】
 ・材料を組み合わせて考える姿を見守りながら、必要に応じて、イメージに合う材料や接着の仕方を一緒に考えるようにする。
 ・出来上がった時計で「寝る時間は?」「8時」等と、時間を合わせて遊んで楽しむようにする。同時に、片付けや片付けの時間を幼児のつくった時計で示すことでより時間への関心も高められるようにする。



1 2のとなりに1があるんだね!
 1の隣は2だよ



振り子時計ができたよ。6
 時は夜ご飯の時間だよ

- ・砂時計やデジタル時計、からくり時計等、いろいろな種類を見比べて、数字の表示や針の形、秒針等、違いを見つけて喜んでいました。
- ・振り子時計が気に入って、「あの大きな時計みたいな時計をつくるんだ」とつくり始めた。実物の時計を見て、つくりたいイメージが膨らみ、四角と長四角の形を選んで接着し始めた。しかし、組み合わせた箱の高さが合わず、よりよい材料を選び直し、いろいろな箱を試して考えたたり比べたりする様子は見られなかった。
- ・時計盤をつくりたい、マスキングテープで装飾したりする時には、「銀の時計にするんだ」と楽しそうな様子が見られた。
- ・出来上がった時計でいろいろな時刻を合わせて喜んで遊んでいた。

【環境】
 ・ミニトマトの収穫数を教室に表示し、継続して関心がもてるようにする。

【手立て】
 ・種類の違うもの(ダンシヤク・キタアカリ) (ミニトマト・トマト) を栽培することで、形や大きさの違いに関心がもてるようにする。
 ・栽培物の大きさや形を一緒に比べてみる中で、幼児が気付いたり、気付いたことを伝えたりする様子を受け止め、発見する面白さに共感する。
 ・収穫の数を数えることで、収穫数が日によって増えたり、減ったりすることの喜びや楽しさを感じられるようにする。



だんだん背が大きくなってたね。僕より大きくなった!



今日は、11個だから今まで一番多いね

- ・ジャガイモやミニトマトの栽培では、生長を喜び、収穫に期待をもって世話をしていた。収穫できると、「ダンシヤクとキタアカリ」の種類で大きさが違うことに気付いて伝えていた。
- ・ミニトマトの収穫数を記録し、表示することで「先生、今日〇個って書いてね」「今日は〇日より多いね」等、収穫数を比べ、いくつ収穫できるか楽しみに待つ姿や母親に収穫数を報告することを楽しみにしていた姿があった。
- ・「このミニトマトは長丸みたいだね」と、形や大きさの違いに気付く、驚いたり、喜んでいたりしていた。

- ・継続的に畑に行き、観察することで「よく見て気付く」ようになった。また、比べることに面白さを感じている様子から、マリオのステージでの「今日は〇個」という経験が重なっていたように感じた。
- ・「7月6日 9個」等、文字で記録することで、関心が深まり、比べる姿につながっていたと感じた。
- ・ミニトマトの栽培では、高さを図って、生長を感じるというところを取り入れてみたら、新たな興味や深まりになったのではないかと、目で見て背が高くなっていくという発見があったので、そんなアプローチャーの仕方ができたよ良かった。また、ジャガイモの収穫時にも重さ比べを取り入れてもよかったのではないかと、数字には重さ、高さ等、いろいろな表し方があることを体験の中で2学期以降取り入れてみたい。

- ・室内にいろいろな時計の種類をたくさん飾ったことで、家庭にある時計にも興味を広げていた。また、数字の並び方や時計の読み方等にも関心をもっていた。生活の中で意識していなかったことも、きっかけをつくと、視野が広がっていき、ことが分かった。今後道路の標識等、話題に取り上げる機会をもちたい。
- ・材料を選んで形を組み合わせた時と、時計盤をつくり、装飾したりする時とでは、取り組みの様子に違いがあった。空き箱の材料を選び、イメージに合うものを選んで選ぶというより「これでいいか」というような雰囲気を感じ取れた。自分なりにイメージし、イメージに合う形を選ぶことは、苦手である。

- ・空き箱を使った遊びや木工遊びを活動として取り入れたが、継続して、どのような環境や遊びが、本児が楽しみながら図形の特徴を捉え、組み合わせる感覚を養っていき、活動の仕方を工夫していき、いろいろな形のマグネットと遊べるような教材を取り入れてみようと考えている。
- ・数量への興味は、Ⅰ期からの経験が残り、「比べること」に面白さを感じ、喜んで気付いたことを伝えていた。大きさ、数を比べることの経験を深めていけるようにしたい。

- ・つくりたい物のイメージをに合わせて材料を選んだり、形を組み合わせたりしてつくることが楽しむ
- ・木材や釘、必要な大きさや形を考えたり、比べたりする

【環境】
 ・すぐに製作するのではなく、いろいろな形や大きさの木材を置いておく、見たり、自由に触れたりできるようにしておく。
 ・乗り物の図鑑を用意し、イメージを広げられるようにする。

【手立て】
 ・いろいろな大きさの木材や端材を積み木のように遊べるようにすることと、組み合わせて形が作れる面白さや偶然に出来上がった形からイメージを広げて楽しさを感じられるようにする。
 ・自分なりにイメージして組み合わせる時間を十分にとり、考えたものを認め、自由に試してみたり、楽しさを味わえるようにする。
 ・材料の幅や長さ、色や釘の長さを自分なりに考えたり試したりして試行錯誤する場面を大切に観守る。



どうやって床と屋根をつけようかな



釘の長さ、中ぐらいの長さの釘で

- ・「つくる」ことにあまり意欲が見られなかったが、木工遊びは、道具に魅力を感じ、「木工さんだ」と言って、積み木のように組み合わせて遊ぶことを楽しんでいました。
- ・「家をつくりたい」と木材を並べながら、「ドアはどれがいいか」「これだと長さがよほど足りないな」といろいろな木材を合わせながら組み立てることを楽しんでいました。
- ・つくの中で、「この長さと同じ木がほしい」「この長さに合わせた」と、長さを合わせる線を書く手法を知った。また、釘の長さの選び方や木材の接着の仕方を覚えると、組み立て方を考えながら、自分一人ですることが嬉しそうだった。
- ・乗り物づくりでは、「パスをつくる」とすぐに決まっていた。材料を選ぶ時には、考えこみ、たぐさんの材料の中から、木材やイメージに合う形を選ぶことが難しい様子だった。「これとこれは大きさが少し違うけど、どっちがいいかな?」と比較し、自分なりに気付く様子が見られた。

- ・空き箱の製作に比べ、興味をもって楽しむ姿が多く見られた。「木工さんになりたいたい」という思いもあるからだろう。継続して木工遊びを取り入れると、苦手とする「形の組み合わせ」や研究テーマの内容も興味を深めていけるかもしれない。
- ・釘を使った接着では、時計づくりでは、気付いていなかった、高さや長さや合わせるというところが必要となり、比べたり合わせたりという意識が芽生えていたように思う。
- ・イメージができていないのではないかと、材料を見て、「屋根になりそうなの、この大きさがいいの木材だね」「この形は窓になりそうだね」等、イメージを具体化して、当てはめてみたり、材料から選び取りたりすることは、考えていた以上に難しいことが分かった。よりイメージや形の特徴が見えやすいように選択肢を与えることで、自分のイメージに合わせて材料提示も工夫したい。

三期(9月～10月下旬)			
<p>育て いた</p>	<p>・大きさ、広さ、重さ、高さなどのいろいろな数量に関心をもち、比べたりする ・形の特徴を捉えて、様々な形を組み合わせて遊ぶことを楽しむ ・いろいろな標識に関心をもち、よく見たり、意味を知ったりする</p>	<p>・自分なりにイメージを膨らませて、形を組み合わせて遊ぶことを楽しむ</p>	<p>・標識に関心をもち、身近な道路でよく見たり、意味を知ったりする</p>
<p>活 動 の 内 容</p>	<p>・絵本でタングラム（シルエットパズル）を楽しむ</p>	<p>・いろいろな形のマグネットシートを組み合わせて遊ぶ</p>	<p>・標識カードで、保育園からの帰り道に標識を探してみる ・標識カードで絵合わせゲームを楽しむ</p>
<p>環境 構成 と 具 体 的 な 手 立 て</p>	<p>【環境】 ・教室に大きなマグネットホワイトボードを貼って遊べるようにする。 【教材】 ・マグネットシート（画角三・二等辺三・丸・四角・長四角等、それぞれ大中小の大きさ） ・ホワイトボード用ペン 【手立て】 ・イメージしたものに合わせて、教師も一緒にイメージを膨らませて遊ばせたり、マグネット遊びをしたりし、幼児がイメージを広げて遊ぶ楽しさを感じられるようにする。</p>	<p>【環境】 ・教室に大きなマグネットホワイトボードを貼って遊べるようにする。 【教材】 ・マグネットシート（画角三・二等辺三・丸・四角・長四角等、それぞれ大中小の大きさ） ・ホワイトボード用ペン 【手立て】 ・イメージしたものに合わせて、教師も一緒にイメージを膨らませて遊ばせたり、マグネット遊びをしたりし、幼児がイメージを広げて遊ぶ楽しさを感じられるようにする。</p>	<p>【教材】 ・標識のマークを印刷して、カードにする 【手立て】 ・カードで保育園からの帰り道に標識探しを楽しむ、「見たことある」「どこで見たのかな」という興味をもつきっかけをつくる ・いろいろな標識探しを楽しむ中で、芽生えた興味からの理解を深める。 ・遊びの中でいろいろな標識に触れ、生活の中でも、よく見たり関心を深めたりできるようにする。</p>
<p>活 動 の 様 子</p>	<p>この三角がちがうのかな こち向きにすればいいんだ！</p> <p>・字がスムーズに読めるようになっていたので、簡単な絵本だったため、自分で読みながらタングラムで遊び始めた。 ・絵本の1ページ目を「レベル1」出来上がると「クリア！」と言いながら、ゲームを攻略するようにタングラムに挑戦することを楽しんでいった。 ・初めは、形を何となく組み合わせていたが、次第にページが進むと、なかなか出来上がらず、嫌になり、自分で向きや組み合わせ方をよく考えることをあきらめて、教師に答えを教えてほしいと言った。 ・2冊目になると、「三角と三角を組み合わせると四角ができる」「三角もよく見ると形の違う2種類がある」など、形の特徴が見えてきた。そのことで、自分なりによく考え、向きや合わせ方を試して、クリアしようと挑戦していた。</p>	<p>これは、ネズミだよ あー細い長い四角ないかな しっぽになるんだっけだよ</p> <p>・初めは赤い大きな●から「太陽！」とイメージし、次に「家」をつくっていた。教師が「猫つらくうかなあ」と話すと、「耳はこれはいいんじやない？」と小さな三角を選んでいった。教師との会話をヒントにつくりたい物が見つかったり、イメージが広がったりして楽しそうな様子になった。「こ楽しかったよ、翌日も「電車をつくろう」とマグネットを選び、「この長四角の半分くらいのがあってピツタリだな」と自分のイメージに必要な形を話す姿が見られるようになった。 ・形を選ぶ時には、向きを試したり、大きさを考えたりしており、よりよい合うものを考えているようだった。 ・ボードにつくったものがいいになると、「ロケットがネズミにぶつかると」などイメージを膨らませて楽しそうに会話していた。</p>	<p>標識発見！30キ 口ってかいてある！</p> <p>標識神経衰弱ゲーム 「とまれ」はどこに隠れてるかな？</p> <p>・「このマーク見たことある？今日の帰り道に見つかるかな？」と宝探しのよう「とまれ」の標識探しを楽しんだ。翌日は、「今日は何？」と楽しみにする様子が見られた。 ・標識の意味を伝え、興味をもってよく聞き、家で車に乗った時に見つけた標識の話や家庭で標識の話題をしていた様子が聞かれた。 ・標識カードで神経衰弱をして遊ぶと、似ている標識の色</p>
<p>気 付 い た こ と ・ 考 察</p>	<p>・形の認識が弱く、苦手意識もあつたため簡単にできるタングラムを用意したことで「できた」「これ簡単にできそう」という気持ちが「やってみよう」という思いになった。教材選びとしては実際に合っていた。 ・だんだん慣れてくると、「これは、この前の船の下の部分と同じ形だ」等と、組み合わせのパターンのようなものが理解できるようになっており、シルエットで「四角と三角の組み合わせだな」と気付いていた。どんな形かイメージして考えてみる事ができるようになってきたと感じた。 ・この経験ができたことで、その後の折り紙製作にも変化が見られたので、形認識が育つ教材だと感じた。 ・じっくり取り組む時間を設け、見守って関わることで、自分の力で試行錯誤する経験になった。問題自体は簡単で、「出来上がり」というゴールもあるため、最後まで自分で考える経験になり、自信にもつながったと思う。</p>	<p>・これまでは、正解のないものに対して、自分で考えたり、イメージを表したりすることは、あまり楽しそうな表情が見られなかった。しかし、この環境に触れた時に、「わからぬ」「できない」「できない」という拒絶の気持ちではなく、「太陽」と自分から関わっていったことは、変化であると感じ、タングラムの絵本の経験や普段している丸の探し等の遊びが広がったと思った。 ・教師と一緒に会話しながら、幼児がつくったものに気づいたり、イメージと一緒に楽しんだりすることで、幼児もイメージを広げて遊ぶ楽しさが味わえたと思う。まだ、一人で形を取り入れて様々なイメージを膨らませて遊ぶ楽しさは、あまりないかもしれないが、相手がいることで自分なりのイメージを広げることができるようになってきた。 ・教材として、もつとあるとよい形もでてきたので、増やして継続して遊べるとよかった。</p>	<p>・保育園の帰り道に、実際の標識に触れて、興味をもつきっかけをつくる事ができ、標識を見て、車が止まったり止まってきたり、横断歩道を見つけたりする体験を伴うことができたことよかったです。 ・標識カードをつくったことで遊びの中でのいろいろな標識を知ることになり、それを使って遊んだことで、楽しく関心を広げられたように思う。 ・園で標識に触れたことで、生活の中で、今まで目に入らなかったものに目を向け、よく見たり、家庭での話題になったりする姿が見られたりし、幼稚園で興味や関心を広げるきっかけをつくることが大切だ。</p>
<p>反 評 価 の 考 察</p>	<p>・1学期の2期の実態や反省を基に教材や活動を考え、実践したことで、形の特徴を捉え、遊びの中で形を組み合わせて折ったり、描画では、自分の描きたいものを形に表したりする姿に変化が見られるようになってきた。 ・数量の中でも、この期は重さにも注目し、主に収穫物を量る機会をつくるなど、意識して触れる機会を設けるようにした。教師が意識するだけで、生活の中で重さや高さに触れられる機会が多くあると感じ、ねらいや意識をもって遊びや生活を進めるようにしていきたいと思う。</p>	<p>・1学期の2期の実態や反省を基に教材や活動を考え、実践したことで、形の特徴を捉え、遊びの中で形を組み合わせて折ったり、描画では、自分の描きたいものを形に表したりする姿に変化が見られるようになってきた。 ・数量の中でも、この期は重さにも注目し、主に収穫物を量る機会をつくるなど、意識して触れる機会を設けるようにした。教師が意識するだけで、生活の中で重さや高さに触れられる機会が多くあると感じ、ねらいや意識をもって遊びや生活を進めるようにしていきたいと思う。</p>	<p>・1学期の2期の実態や反省を基に教材や活動を考え、実践したことで、形の特徴を捉え、遊びの中で形を組み合わせて折ったり、描画では、自分の描きたいものを形に表したりする姿に変化が見られるようになってきた。 ・数量の中でも、この期は重さにも注目し、主に収穫物を量る機会をつくるなど、意識して触れる機会を設けるようにした。教師が意識するだけで、生活の中で重さや高さに触れられる機会が多くあると感じ、ねらいや意識をもって遊びや生活を進めるようにしていきたいと思う。</p>

IV期(11月～12月)

- ・生活や遊びを通して簡単な文字を読んだり、自分の名前を書いたりする
- ・標識がもつ機能を理解して生活したり、活用したりする

- ・自分の描きたいイメージを形にしなが、つくる楽しさを味わう

- ・壁面製作（自分の家をつくってみよう）

- 【環境】**
- ・壁面にいろいろな形の屋根の動物の家を掲示し、いろいろな家の種類が目に見えるようにする。
- 【材料】**
- ・色画用紙（色を選べるようにする）
- 【手立て】**
- ・保育園の帰り道にいろいろな家の屋根や窓の種類に触れられるように話題にし、関心をもってよく見る機会をつくる
 - ・自分なりに大きさを考えたり、形を描いたりする姿を大切に、じっくり取り組める時間を確保する。



僕がいいなと思ってる屋根の形があるんだ！こうかな



- ・保育園の帰り道に「あの屋根の形みたいにした。三角に似てるけど上がまっすぐみたくないや」と台形の屋根をつくりたいと話しており、自分なりに形のイメージがあるようだった。
- ・土台の大きさと合わせながら、自分なりのイメージをすぐに描いてみようとしていた。描きあがるとすぐに形に切るのではなく、合わせて確認し、丁度良い大きさを考えていた。また、切って形ができると、自分の思い描いたものと合っていたことをとても喜んでいました。
- ・「窓は四角で2つにしよう」と工夫してつくろうとしていた。

- ・導入として、土台の組み込みがあり、「今度は屋根をつくらうね」と話したことで、自分のつくりたい屋根を実際の家を見てイメージできたことは、楽しんでつくり出すことにつながったと思う。
- ・「わからない」「難しい」という気持ちからではなく、自分なりのイメージをもつことができるように入は必要で、それが意欲となったり、豊かなイメージになりたがると思う。
- ・この活動でもII期の活動での自信が「やってみよう」という気持ちや「自分でじっくり考えてやり遂げよう」とする気持ちが育ってきているのが感じられた。段階を追って、経験を重ねることで、できることが増えるだけでなく、楽しく取り組むことができるようになっていく。
- ・家づくりだけでなく、自画像を描く時にも、全身を描けるようになっており、描きたいものを形にすることができるようになってきた姿を見ることができた。

- ・文字に触れて、読んだり言葉遊びをしたりして楽しむ

- ・文字マグネットですりとり遊び

- 【環境】**
- ・マグネットボードに文字を書いたマグネットカードを貼っておき、自由に読んだり、並べて言葉をつくったりして遊べるようにしておく。
- 【教材】**
- ・文字マグネットカード（50音、濁音、半濁音）
- 【手立て】**
- ・しりとりや言葉集めの遊びを通して、文字を読んだり探したりする楽しさやいろいろな物の



「えんぴつ」の「つ」の文字

- ・文字がたくさん並んでいるボードを見て、声に出して読んで楽しんでいました。
- ・初めに、教師としりとりをすると、文字を探して言葉をつくることの面白さを感じ、会話の中でしりとりをするよりも、興味をもち、喜んで遊んでいる姿が見られた。
- ・しりとりでは、自分の順番になった時に、文字を見て考えることで、いろいろな言葉を思い付いている様子があった。
- ・「あの言葉もあるな」「いいこと考えた」等、自分なりに考えてアイデアや言葉が出てくるのが楽しいようで「しりとり苦手だったけど、楽しくなってきた」と話していた。
- ・『4文字の食べ物』『2文字の動物』等、いろいろな題材で文字カードを使って遊んだ。

- ・会話の中でしりとりをすることとの違いが考えていた以上に大きくあり、幼児は文字を見ながら考えると、思い付きやすかったり、いろいろな言葉が連想できたりする様子があった。そのことで、すごく喜んで遊ぶことができ、文字に触れて遊ぶことの楽しさを十分に味わうことができた。
- ・大人が考えている以上に頭の中で文字の中で文字をつなげたり、連想したりすることは難しい幼児が多いのかもしれないと感じた。そういった実践の時には、視覚的な教材を利用することは、とても効果的だ。
- ・クラスの友達が多い時には、「○○ちゃんの好きな動物は何でしょう？」と問題にして、答える子が文字を選んで並べたり、みんなで読んだりするよう遊びも楽しんでいた。幼児にとっては、みんななで声を合わせて読むことにも楽しさを感じるように思った。

- ・4期は幼児の数量や文字への関心が深まってきており、どの活動においても、幼児が活動自体を楽しんだり、活動の中で自分なりに考えることの面白さを感じたりしている姿が多く見られたと思う。5歳の半ばを過ぎると、思考力も育まれてきているため、活動一つ一つにおいて、教師は、幼児がじっくり考え、試し、取り組めるように時間の確保や教師の関わり方を配慮することが大事だと感じた。

IV期(11月～12月)

<p>期 育て 姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びを通して簡単な文字を読んだり、自分の名前を書いたりする 標識がもつ機能を理解して生活したり、活用したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 長さ・太さ・重さなどいろいろな数量に触れ、興味をもつ
<p>活 ね ら い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文字を書いたり、手紙を書いて伝えたりする楽しさを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫した大根の大きさを比べてみよう
<p>活 内 容 の</p>	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を書こう (サンタさんへの手紙、友達から来た手紙の返事、保育園の先生への年賀状) 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫した大根の大きさを比べてみよう
<p>環 境 構 成 と 具 体 的 な 手 立 て</p>	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 葉書き・便箋・切手・あいうえお表 <p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節の行事や友達からの手紙など、「手紙を書きたい」というタイミングを逃さず、機会をつくる。 幼児にとって「手紙を書くために、文を考える」という活動の形にならないようにし、相手に伝えたいことを話題にし、それを伝える手段として手紙という方法があることを提案するようにする。 友達への返信や年賀状はポストに投函することができるようにし、郵便のしくみやしごとに関心をもてるようにする。 	<p>【準備したもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> 量り・物差し・ひも・記録用紙 <p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫した大根の大きさの違いに関心をもてるように話題し、どのように比べられるか一緒に考えたり、比べることができている道具を知らせたりする。 比べる時には、すぐに量るのではなく、見た目の違いをよく見て比べたり、重さを感じたり、自分の五感を使って感じる経験も大切し、そこで幼児が気付いたことを丁寧に受け止め共感する。
<p>活 動 の 様 子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>「あ」の文字も書けるようになったんだよ！「ば」ってどうかのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> 「サンタさんに靴をもらいたいな」「平方幼稚園に来てくれるかな？」という会話から、手紙を書いてみよう、喜んで書き始めた。最近、書ける字が増えてきたことで、嬉しそうに字を書いていた。 教師が書き順について知らせると、ひらがな表を見ながら、書き順を気にかけて書いており、文字を正しく書くことに楽しさを感じている様子があった。また、数字や苦手だった文字が書けるようになったことをとても喜んでくれた。 友達(昨年の年長児)から手紙が届いた返事や年賀状を書く時には、自分で書きたいことを考えてきて「○○って書くんだ」と相手に伝えたいことを手紙にすることを楽しみにしていた。 切手を貼って、ポストに投函しに行き、また、郵便屋さんが手紙を回収に来る時間に見に行き、手紙のやりとりや郵便のし 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; border-radius: 10px; width: fit-content;"> <p>ダイコンの太さはこうやると、比べられるのか。何センチかな？</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 9月から育ててきたダイコンを収穫する際、「すごく長くなってしまった」と長さに期待と関心をもって収穫する姿が見られた。また、保育園でもらったダイコンより長い物ができてくることに期待をもち、「どっちが勝つか」比べたいと話していた。 本目収穫し終えると、「こっちの方が短いけど太い」と長さだけでなく、太さにも気付いていた。 「これが一番重い気がする」と手でもって比べた後に、量りで図った。重さの違いが太さに関係があることがわかり、どうやったら太さを比べることが出来るか、考えた。 先生にヒントをもらいながら、紐を使って太さが比べられることを知り、太さ比べをした。重さ、太さ、長さ等、いろいろな方法で数量が比べられることを学んでいた。
<p>気 付 い た こ と ・ 考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回の手紙を書く活動は、伝えたいことを手紙に書くことで、会えない相手にも伝えられることを実感することができ、学習ではなく文字を生活や遊びの中で活用する楽しさや楽しさを感じることができたと思う。友達との手紙のやりとりがあまり活発にできない今年度であったが、幼児が書くことの楽しさを感じ始めている実感とも合い、よいタイミングで活動できたと思う。 手紙を書くということは、文字を書くという経験だけではなく、自分の気持ちを文章にするという点でも幼児にとっては、言葉の面で保育園の育ちが大きい。 2学期に保育園の友達とのお手紙ごっこでは、あまり遊ぶことができないままになってしまったので、手紙を書く楽しさを味わった経験を継続的にできるように考え、簡単な文の手紙でやり取りする遊びを経験できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さを比べるだけではなく、幼児が大きさの違いをいろいろな観点でじっくり比べてみることをできたことで、「こんな方法で比べることができるといいんだ」といろいろな方法を知る経験になった。 幼児期は、まず自分が感じた重みやもった感触の太さ、並べて比べた長さに興味をもつ経験することが大事だと思う。そして、今回のような体験で、生活の中で必要な時に、道具を使って、確かめるといった方法があるということを知ることができた。こういった体験を通して、数量の違いに関心をもったり、違いを確かめることの面白さを感じたりすることが算数という勉強につながると思う。 2学期は収穫したひまわりの種、おひまわりの種、おひまわりのサツマイモ、クッキングの材料等、重さを調べている機会を重ねてきた。そういう小さな経験が、日々取り入れることのできる活動
<p>反 評 の 省 ・</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中で、国語や算数につながる体験になるのでは・・・というように感じることもあった。学習の先取りではなく、生活の中での体験として文字や数量に触れられる活動はたくさんある。少人数だからできた活動も多いが、研究テーマを意識して、活動計画をたてて進める中で、前年までやっていた活動を工夫したことで幼児の体験が豊かになったと思う。 	

・生活や遊びの中で数や図形、文字などに親しんだり、興味・関心を深め活用したりする楽しさを感じる

- ・自分のイメージを言葉や絵で表現しながら紙芝居づくりを楽しむ
- ・遊びの中で書いたり、読んだりして文字を活用する楽しさを感じる

・紙芝居づくり

【準備したもの】

- ・色画用紙・クレヨン・絵の具・あいうえお表
- 【手立て】
- ・自分なりのイメージを膨らませて、物語を考え、言葉にして伝える姿を大切にす。また、幼児が教師に話す中で、話の方向性やイメージがより具体的になるように関わる。
- ・題名を自分で書く、幼児の考えた話を裏面に教師が書いて読むなど、文字に触れる場面を多くつくり、楽しさや必要性を感じられるようにする。
- ・充実感や自信につながるように友達や保護者、教師の前で発表する機会をもつ。



- ・「僕は面白い話にしたいな」と自分で話を考え、楽しんでつくっている姿が見られた。
- ・考えた話を絵で表現することに戸惑っていたが、徐々に「椅子は横からみるとこんな感じかな？」と自分なりに形を想像しながら描く姿が見られた。また、テーブル、横向きに寝ている男の子、骨付き肉など、自分の描きたいものがたくさん出てきて楽しみながら描いていた。
- ・表紙づくりでは、「小さい『つ』がいるのかな？」と文字を正しく書きたいという思いが見て取れた。
- ・紙芝居の裏面の字を読むに当たり、「小学生の音読みみたい」と楽しそうに話していた。また、いろいろな字を自分で読めるようになったことが嬉しそうだった。
- ・話の中で「2日経ちました」「2倍になりました」など、数量を取り入れて話を面白く表現しようとする姿が見られた。

- ・幼児が紙芝居づくりに興味ももてるよう教師は、導入時につくった紙芝居を読んで見せた。ことにより、絵を描くことや言葉で表現することに自信ももてるようになってきたタイミングで紙芝居づくりを取り入れたことが、幼児が意欲的に取り組む姿や喜んでつくくる姿につながっていたと思う。
- ・幼児がこれまで描いたことがないものも多くあったが、自分なりに長さ、大きさ、向きなど、想像を膨らませ、描いている時には、楽しそうな様子が見られたことから、図形に触れてたくさん遊んだ経験が活きていると感じた。
- ・「このページでは、さっきの2倍の2倍だから4倍になるんだよ」と、数量に関する表現が多く取り入れられていた。数量に多く触れ、関心を深めてきたことが、自ら遊びの中で活用する姿になってきているのだと思った。

- ・数を数えたり、合わせて考えたりしながら遊ぶことを楽しむ

・カードゲーム「ハリガリ」をやってみよう

【教材】

- ・カードゲーム「ハリガリ」
- ※ルール：1つ～5つまで描かれた5種類のフルーツのカードがあり、場に出したカードのいずれかのフルーツが合わせて5になったら素早くベルを鳴らすゲーム。速く鳴らした人の勝ち。
- 【手立て】
- ・数を数えたり合わせたりしながら、遊ぶ楽しさを徐々に感じられるように、ルールを簡単にしながら遊び始め、少しずつ難しくしていく。
- ・幼児が素早く反応したり、自分の数え方の間違いに気付いたり、遊びの中で考え気付き姿を大切に認



- ・初めは、「イチゴが出たら鳴らす」などの簡単な遊び方にし、次第に「どのフルーツでも合わせて2になったら鳴らす」など、ルールの難易度を少しずつあげたことで、幼児が楽しく夢中になって遊べるようになった。
- ・指を使って、数えるのではなく、頭の中で数えたり、2つの数を合わせたりしてゲームができていた。
- ・カードをめくると、いろいろな数やフルーツが出てくるのをよく見て、集中してゲームに参加していた。また、ルールを変化させて遊ぶ中でも、ルールを理解している様子があった。
- ・初めは2, 3人で遊んだが、一緒にゲームをする仲間を増やし、5人で遊んだ時にも、ルールを理解し、競うことを楽しんでいた。また、複雑なルールになっても、自分の力で数を数えて合わせて

- ・もともと数量への興味は早い段階からあった。1学期は、数える、比べるということを大切に、2学期は長さ、太さなど、いろいろな数量に関心を広げることができるように関わってきた。3学期は、今までやっていたババ抜き、神経衰弱などのトランプゲームに加えて、数を合わせて考える「ハリガリ」というカードゲームを取り入れてみることにした。数を合わせて考えることが必要になるこのゲームは、難しくなるが、現在の幼児の実態に合った楽しめる教材だったと思う。幼児の実態に合った教材研究をし、取り入れることが大切だ。
- ・この事例では、遊びの中で自然と足し算のような思考を経験しながら、繰り返し楽しみ、遊びの面白さを感じることができた。幼児にとっても、小学校での学びにつながることもよい経験になったと思う。

- ・3学期の幼児の姿から、1, 2学期の経験が土台となっていて、感じ取れることが多くあった。5歳児の終わりに、幼児が単に知識として、文字や数字を知っているのではなく、生活や遊びの中で自ら活用する姿を育てていくためには、幼児が数量、文字、図形に触れる生活や遊びの経験を段階を追って重ねることができると感じられた。

(6) 成果と課題

①成果

- 数量や図形、文字などに、日常生活や遊びの中で幼児が触れる機会がどのくらいあるか改めて着目してみると、想像以上に多くあることに気付いた。そして、教師が意図的な環境づくりや関わりをすることで、より幼児が数量や図形、文字などへの興味・関心、感覚を育むことができるということが分かった。
- 幼児の実態に即して簡単なことから始め、段階を追って、次の経験につなげられるように環境や活動を工夫することが大切である。幼児が「わかった」「できた」と感じることで、さらに興味・関心が高まる姿が見られた。
- 例年、語彙を増やしたり、文字に興味をもったりするきっかけづくりとして、「しりとり」や「言葉集め」等を取り入れてきたが、初めて視覚教材（文字を書いたマグネット）を使い、言葉遊びをした。耳で聞くだけの言葉遊びをした時よりも、視覚教材があることで、幼児がよりイメージを広げながら楽しむ姿や、様々な言葉や文字を知ったり触れたりすることがよく分かった。また、遊び方の工夫次第で、いろいろな言葉遊びにつなげられるよい教材だと感じた。
- 数量では、数を数えるだけでなく、例えば「多い・少ない」「大きい・小さい」「重い・軽い」「長い・短い」など大きさや重さ、長さ等の様々な概念に触れる経験になるよう意識して幼児に関わるようにした。そのことにより、数量に対する感覚が磨かれ、自分なりに知識を活用している様子も見られるようになった。その経験は、具体的体験として小学校算数の基礎となり、学習の理解につながると考える。
- 形を捉えることが苦手な幼児に対して、三角や四角等を組み合わせると、動物や乗り物に変身する簡単な図形パズルをしたり、マグネットを自由に組み合わせイメージしたのを作ったりする遊びから始めた。幼児にとって親しみやすく簡単な教材を用意し、形を組み合わせると新たな形が出来るようにしていくことが大切だと分かった。そして、形が見えるようになってくると、イメージに広がりが見られ、描きたい絵を描けるようになっていたり、折り紙製作でできることが増えたりし、表現の仕方や出来上がる作品、製作時の意欲や取り組み方の姿にも変化が見られた。

②課題

- 在園児が一人のため、幼児の実態に即した活動の工夫ができた。しかし、今回の指導方法や環境、活動の工夫を集団の中で行った場合は、個人差があり、必ずしも幼児一人一人が文字や数量、図形などへの興味・関心を高め、感覚が育まれた姿につながるとは限らない。大人数の場合は、友達からの刺激が活動に広がりを生むという良い点を考慮し、集団活動の利点を生かした環境づくりや活動の工夫をすることを大切にしながら、研究を深めていくことが必要である。
- 今年度の研究は、5歳児のみである。4歳児が文字や数量、図形などに興味・関心をもつためにはどんな環境や活動の工夫が必要なのか考えたり、5歳児の前段階として4歳児にどんな経験をし、つなげていくのかを考えたりすることで、より充実した研究になるだろう。さらに、就学を見据え、小学校1、2年生の学習内容について教師が理解を深め、小学校教育へのつながりや見通しをもち、活動を設定していくことも課題である。